

Fukuoka Institute of Technology

2025年度 [2025年度入学生用]

学生便覧

工学部 / 情報工学部 / 社会環境学部

FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学

この「学生便覧」は入学時に配布し、2年次以降は配布しませんので卒業まで大切に保管・使用して下さい。

なお、変更があった場合は当該部分の資料配布又は掲示等によってお知らせします。

学長メッセージ



新入生の皆さん

ご入学おめでとうございます。皆さんは、今まさに大学生活の第一歩を踏み出そうとして、期待と希望に胸膨らませていると思います。学園も過去四半世紀にわたって、教育棟、研究棟の建て替え・増設、学習環境を一新した図書館全面リフォーム、学内各所に設置したフリーラーニングスペース、データサイエンス時代を先取りするための情報機器・環境等、さまざまなレベルアップを続け、より良い教育環境の基で皆さんを受け入れる準備をしてきました。ぜひ思う存分、これらの環境を活用していただくことを期待しています。

この「学生便覧」には、皆さんが本学で大学生活を有意義に過ごすために見逃すことができない必須の情報が載っています。特に講義履修方法や、進級及び卒業の要件や必要取得単位数等が記載されていることは十分留意してください。これらの条件は入学年度毎に変わる場合も有りますが、今年度入学した皆さんは、この学生便覧の記載内容が卒業まで有効です。大学と皆さんとの契約事項と考えて貰ったらよいと思います。皆さんには大学生活を十分に楽しんでいただきたいと願っていますが、そのためにも卒業することを第一に考えてください。大学の卒業ルールは恐らく高校までと違って、かなり複雑です。言い換えると、卒業ルールを理解することは順調な卒業までの道を築く第一歩になります。

さて大学は、将来皆さんが社会人になるための相応しい教養と、各分野のプロに要求される基礎知識の修得、それに加えて将来の新技术や新知識をも理解できる素養を身に付けてもらうことを目指しています。特に本学は、「学修者本位の教育」を合言葉に教職員が一体となって、ある面ではマンツーマンに近い形で一人一人の個性に合わせて、しっかりと社会に役立つところまで育て上げて送り出すことを使命と考えて活動しています。そのために教員は、自分の研究実績・経験を基にした知識、能力、経験を講義や研究指導の形で皆さんに伝えることを心がけています。職員は所属する部署により異なる皆さんへのサポートを実施しています。例えば、皆さんが学習の本丸を見失わないように支える部署、大学生でしか経験できないプロジェクト（例えば地域の皆さんとの各種活動、海外大学との連携活動、資格取得支援活動等々）を提供する部署、社会に旅立つにあたって、可能な限り皆さんが満足できる企業へ導いてくれる部署等です。

皆さんも、本学を最大限に利用して在学中に自分が目指す将来像を明確に形成し、それを目指して不断の努力を続けていただきたいと願っています。

皆さんが、福岡工業大学に入学したことに誇りを持って、この恵まれた教育環境を積極的に活用しながら自分の将来に向けて、充実した社会への第一歩を踏みだされることを心から希望します。

ゆう おう まん しん
「勇往邁進」

2025年4月

福岡工業大学 学長 村山 理一

目 次

§ 1 大学紹介

§ 1-1	教育理念	2
§ 1-2	大学概要	3
§ 1-3	キャンパスルール	7
§ 1-4	窓口一覧	9
§ 1-5	年間行事予定（2025年度）	14
§ 1-6	myFIT（学修支援システム）	15

§ 2 本学での学び

§ 2-1	教養力育成科目	18
§ 2-2	横断科目	21
§ 2-3	教職課程	22
§ 2-4	数理・データサイエンス・AI教育プログラム	31
§ 2-5	6年一貫教育	33
§ 2-6	学修支援	34
§ 2-7	AL・学習ポートフォリオ	35

§ 3 修 学

§ 3-1	授 業	38
§ 3-2	履修登録	42
§ 3-3	試 験	45
§ 3-4	成 績	47
§ 3-5	進級・卒業	51
§ 3-6	学籍異動	53
§ 3-7	単位互換	55
§ 3-8	資 格	56

§ 4 工学部

§ 4-1	電子情報工学科	60
§ 4-2	生命環境化学科	70
§ 4-3	知能機械工学科	82
§ 4-4	電気工学科	92

§ 5 情報工学部

§ 5-1	情報工学科	104
§ 5-2	情報通信工学科	114
§ 5-3	情報システム工学科	126
§ 5-4	情報マネジメント学科	136

§ 6 社会環境学部

§ 6-1	社会環境学科	146
-------	--------	-----

§ 7 学生生活

§ 7-1	各種証明書	158
§ 7-2	学納金・奨学金制度	159
§ 7-3	課外活動	161
§ 7-4	国際交流	164
§ 7-5	進路	166
§ 7-6	学生生活支援	168
§ 7-7	キャンパス美化	171

§ 8 施設・キャンパス

§ 8-1	施設案内	174
§ 8-2	設備案内	177
§ 8-3	キャンパス案内	178

§ 9 諸規程

§ 9-1	学則	200
§ 9-2	学位規程	226
§ 9-3	履修要項	227
§ 9-4	技術者教育プログラム要領	236
§ 9-5	数理・データサイエンス・AI教育プログラム要領	238
§ 9-6	社会環境学科コース制教育プログラム要領	242
§ 9-7	6年一貫教育「FIT-Techプログラム」要領	243
§ 9-8	その他	244

§ 10	教員名簿	245
------	------	-----

索引	252
----	-----

学 園 歌

あーげん かい にー ひは おち て
し こん に かす むー たち ばな の
か おりー ゆか しき みね のい ろ
が く と の ゆめ をー そそ るか な

一、あゝ玄海に陽は落ちて

紫紺に霞む立花の

馨床しき峯の色

学徒の夢をそそるかな

二、筑紫の野辺の朝ぼらけ

けむる松原白妙の

砂上に映つす学舎に

希望抱きて佇みぬ

三、雲遙かなる北洋や

仰ぐ北斗のまたゝきに

想ひは遠し故郷の

山河新たに胸に泌む

四、海涯てしなき南方の

青く輝く十字星

あゝ雄渾のますらおも

しばし海衣の袖ぬらす

五、さあれ若人永遠に

汝が生命は火と燃えて

行くや世界の真原理

つらぬきとめん福工大

§ 1

大学紹介

§ 1-1	教育理念	2
§ 1-2	大学概要	3
	<ul style="list-style-type: none">❶ 建学の背景と沿革❷ 校舎等の竣工❸ 組織図❹ 歴代学長❺ 大学役職者・組担任	
§ 1-3	キャンパスルール	7
	<ul style="list-style-type: none">❶ 学生証❷ 学籍番号と氏名❸ 学生への通知・連絡❹ 悪天候時の授業実施❺ 通学❻ 遺失物・拾得物の取扱い❼ 全面禁煙❽ キャンパスでのマナー	
§ 1-4	窓口一覧	9
	<ul style="list-style-type: none">❶ こんなときは？❷ 学生対応窓口一覧	
§ 1-5	年間行事予定 (2025年度)	14
§ 1-6	myFIT (学修支援システム)	15

§ 1-1

教育理念

§ 1-2

大学概要

§ 1-3

キャンパスルール

§ 1-4

窓口一覧

§ 1-5

年間行事予定
(2025年度)

§ 1-6

myFIT
学修支援システム

§ 1-1. 教育理念

■建学の綱領

- 一、学徒の品性を陶冶し真の国民としての教養を啓培する
- 一、宇宙の真理を探究しこれを実生活に応用して社会に貢献する
- 一、人類至高の精神、自由平和信愛を基調として世界に雄飛する人材を育成する

■教育理念

- 一、学問（学問の追究・創造・発展）
宇宙の真理を探究し、人類の福祉と環境との調和を指向して、科学技術の創造と発展に貢献する。
- 一、個人（個人としての人間性の涵養）
自由と平和を愛する心と信愛の情を養い、豊かな人間性と主体性・自律性を備えた人間を育成する。
- 一、社会（社会への主体的な対応）
多様な価値観と創造力をもって、グローバル化及び持続型社会の進展に主体的に対応できる実践型人材を育成する。

■育成すべき人材像

自律的に考え、行動し、様々な分野で創造性を発揮できるような実践型人材を育成する。

（工 学 部） 21世紀の「モノづくり」を担う、創造力豊かな技術者を育てる。

（情報工学部） 高度情報化社会を担う、問題解決力に優れた技術者を育てる。

（社会環境学部） 「環境問題」の解決に貢献できる実践型の人材を育成する。

■全学ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

DP1	専門性と幅広い教養を身に付け、社会で活用することができる
DP2	自ら学ぶ意欲を持ち、目標を設定して振り返りながら主体的に学びに向かうことができる
DP3	異なる背景や文化を持つ人々と協働し、グローバル社会の課題に新たな解を生み出すことができる
DP4	情報を的確に整理・分析し、自らの考えを適切に伝えることができる

■共通コンピテンシー（修得する能力・資質）

DP1	A	幅広い教養	リベラルアーツを目指した知識と思考力
	B	専門知識・技能	当該分野において必要とされる知識と技能
DP2	C	ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力
	D	メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力
DP3	E	グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力
	F	未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力
DP4	G	デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力
	H	発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力

■全学カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

【教育課程の編成】

ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を育成するため、教養力育成科目および専門基礎科目ならびに専門教育科目からなる体系的な教育課程を編成する。

【学修方法】

ディプロマ・ポリシーに定める能力・資質を育成するため、以下の学修方法を適切に組み合わせて教育を実施する。

1	知識の修得と能動的な学習態度の涵養のために、それぞれの科目の特色を生かしたアクティブ・ラーニングを取り入れる。
2	目指す将来のキャリアに基づく自己の課題や目標を考え、自己調整学習の習慣化を図るため、学習ポートフォリオを活用した日常的な学習記録の蓄積と、学修成果の振り返りを行う制度を正課内外で運用する。
3	大学での学びと社会とのつながりを知る機会を取り入れるとともに、異なる背景や文化を持つ人々と協働して課題解決を行うプログラムを実施する。
4	学修活動全般において、数理的なものの見方を身に付け、情報を的確に整理・分析する機会や、適切なデジタルツールを用いて自らの考えを発信する機会を確保する。

【学修成果の評価】

1	各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した適切な成績評価を行う。
2	ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、全学的な学生調査や卒業研究、卒業論文等の成果物によって評価する。

§ 1-2. 大学概要

1 建学の背景と沿革

人類初の人工衛星を完成させた時代背景の中、「電波科学」の振興のため、昭和29年、本学の前身となる福岡高等無線電信学校は創設されました。昭和33年に学校法人福岡電波学園を設立し、福岡電波高等学校（現在の福岡工業大学附属城東高等学校）が開設されました。その後、昭和35年に福岡電子工業短期大学（現在の福岡工業大学短期大学部）、昭和38年に福岡電波学園電子工業大学が開学しました。

昭和41年、福岡工業大学に名称変更して以来、1学部6学科の工学系単科大学として発展してきました。平成9年に情報工学部を開設し、電子・情報系の大学としての基盤を整えました。また、平成13年に社会環境学部を開設し、工業系大学の責務である廃棄物処理等の環境問題に人文・社会科学系から取り組むこととなり、3学部9学科として現在に至ります。現在、約4万4千名の卒業生を輩出しています。

昭和29(1954)年4月	福岡高等無線電信学校創設
昭和33(1958)年4月	学校法人福岡電波学園 福岡電波高等学校開設
昭和35(1960)年4月	福岡電子工業短期大学開設
昭和38(1963)年4月	福岡電波学園電子工業大学 開学 工学部（電子工学科、電子材料工学科）開設
昭和40(1965)年4月	電子機械工学科、管理工学科開設
昭和41(1966)年4月	大学の名称を福岡工業大学に変更 電気工学科、通信工学科開設 短大の名称を福岡工業短期大学に変更
昭和48(1973)年9月	法人の名称を学校法人福岡工業大学に変更
昭和50(1975)年4月	高校の名称を福岡工業大学附属高等学校に変更
平成2(1990)年4月	通信工学科を改組し、情報工学科開設
平成5(1993)年4月	大学院工学研究科修士課程（電子工学専攻、電子材料工学専攻、電子機械工学専攻、電気工学専攻）開設
平成6(1994)年4月	大学院工学研究科修士課程に情報工学専攻開設
平成7(1995)年4月	大学院工学研究科修士課程に管理工学専攻開設
平成9(1997)年4月	工学部管理工学科、情報工学科を改組し、情報工学部（情報工学科、情報通信工学科、情報システム工学科、管理情報工学科）開設
平成10(1998)年4月	工学部電子材料工学科を機能材料工学科に名称変更
平成11(1999)年4月	工学部電子機械工学科を知能機械工学科に名称変更 大学院工学研究科博士後期課程（物質生産システム工学専攻、知能情報システム工学専攻）開設

平成13(2001)年4月	社会環境学部（社会環境学科）開設 高校の名称を福岡工業大学附属城東高等学校に変更
平成14(2002)年4月	工学部電子工学科を電子情報工学科に名称変更 大学院工学研究科修士課程電子材料工学専攻を機能材料工学専攻に名称変更 短大の名称を福岡工業大学短期大学部に変更
平成15(2003)年4月	大学院工学研究科修士課程電子機械工学専攻を知能機械工学専攻に名称変更
平成16(2004)年4月	情報工学部管理情報工学科の名称をシステムマネジメント学科に変更 大学院工学研究科修士課程情報通信工学専攻開設
平成17(2005)年4月	工学部機能材料工学科を改組し、生命環境科学科開設
平成18(2006)年4月	大学院工学研究科修士課程電子工学専攻の名称を電子情報工学専攻に変更
平成19(2007)年4月	大学院社会環境学研究科修士課程（社会環境学専攻）開設
平成21(2009)年4月	大学院工学研究科修士課程機能材料工学専攻を改組し、生命環境科学専攻開設
平成28(2016)年4月	大学院工学研究科修士課程管理工学専攻を改組し、情報システム工学専攻及びシステムマネジメント専攻開設
平成30(2018)年4月	工学部生命環境科学科の名称を生命環境化学科に変更
平成31(2019)年4月	大学院工学研究科修士課程生命環境科学専攻の名称を生命環境化学工学研究科修士課程専攻に変更
令和6(2024)年4月	情報工学部システムマネジメント学科を改組し、情報マネジメント学科開設

2 校舎等の竣工

昭和61(1986)年6月	本部棟竣工（法人事務局、附属図書館、情報処理センターなど）
昭和63(1988)年3月	新宮総合グラウンド竣工（野球場、ラグビー・サッカー場）
平成3(1991)年1月	C棟竣工（情報工学部、学生ホールなど）
平成5(1993)年3月	コスモス寮（女子寮）竣工
平成11(1999)年2月	α棟竣工（モノづくりセンター、キャリアサポートセンターなど）
平成12(2000)年10月	FIT アリーナ竣工
平成13(2001)年2月	A棟竣工（工学部、社会環境学部など）
平成15(2003)年10月	坦心寮（学生寮）竣工
平成16(2004)年1月	B棟竣工（情報工学部、短期大学部、情報処理センター、学生サービスセンターなど）
平成16(2004)年7月	D棟竣工（工学部、情報工学部など）
平成22(2010)年12月	FIT ホール竣工
平成24(2012)年3月	塩浜総合グラウンド竣工（FIT スタジアムなど）
平成24(2012)年8月	FIT セミナーハウス竣工
平成27(2015)年10月	FIT アリーナ WEST コート（ハンドボール、フットサル、土俵）完成 FIT Link（附属図書館）改装完了
平成28(2016)年8月	E棟竣工（学生サポートセンター、FD 推進機構、総合研究機構など）
平成29(2017)年8月	F棟（エレクトロニクス研究所）竣工
平成29(2017)年9月	パーベキュー施設完成

§ 1-1	教育理念
§ 1-2	大学概要
§ 1-3	キャンパスルール
§ 1-4	窓口一覧
§ 1-5	年間行事予定 （2025年度）
§ 1-6	MY FIT 学修支援システム

3 組織図



(2025年4月1日現在)

事務局組織図



学校法人福岡工業大学

§ 1-1	教育理念
§ 1-2	大学概要
§ 1-3	キャンパスルール
§ 1-4	窓口一覧
§ 1-5	年間行事予定 (2025年度)
§ 1-6	MYFURT 学修支援システム

(2025年4月1日現在)

4 歴代学長

初代	桑原 玉市	昭和38(1963)年4月～昭和42(1967)年7月
第2代	妻木 徳一	昭和47(1972)年9月～昭和50(1975)年4月
第3代	森 延光	昭和51(1976)年2月～昭和53(1978)年1月
第4代	岡元 敬蔵	昭和53(1978)年1月～昭和55(1980)年2月
第5代	長谷川 太郎	昭和55(1980)年3月～昭和61(1986)年2月
第6代	佐久間 敬三	昭和61(1986)年3月～昭和63(1988)年2月
第7代	高田 茂夫	昭和63(1988)年3月～平成2(1990)年9月
第8代	中島 恪	平成2(1990)年10月～平成6(1994)年9月
第9代	赤崎 正則	平成6(1994)年10月～平成9(1997)年9月
第10代	青木 和男	平成9(1997)年10月～平成16(2004)年9月
第11代	山藤 馨	平成16(2004)年10月～平成22(2010)年9月
第12代	下村 輝夫	平成22(2010)年10月～令和5(2023)年3月
第13代	村山 理一	令和5(2023)年4月～現在

5 大学役職者・組担任

(2025年度)

学 長	村山 理一
副学 長	倪 宝栄
副学 長	前田 洋
工学研究科長	宋 宇
社会環境学研究科長	鄭 雨宗
工学部 長	松尾 敬二
情報工学部 長	藤岡 寛之
社会環境学部 長	尹 諒重
教養力育成センター長	徳永 光展

教務部 長	山澤 一誠
学生部 長	渡邊 智明
就職部 長	渡邊 智明
図書館 長	土屋 麻衣子
総合研究機構 長	倪 宝栄(兼任)
情報基盤センター 長	松木 裕二
教育開発推進機構 長	前田 洋(兼任)
入試広報部 長	近木 祐一郎
学術支援機構 長	倪 宝栄(兼任)

学 科		学 科 長	1 年次担任			
工学部	電子情報工学科	松井 義弘	1組	野瀬 敏洋	2組	松木 裕二
	生命環境化学科	赤木 紀之	1組	久保 裕也	2組	松山 清
	知能機械工学科	田邊 里枝	1組	江頭 竜	2組	川田 昌克
	電気工学科	田島 大輔	1組	池田 風花	2組	李 鍾昊
情報工学部	情報工学科	柏 浩司	1組	中川 正基	2組	宮田 考史
	情報通信工学科	松尾 慶太	1組	杉田 薫	2組	藤崎 清孝
	情報システム工学科	木室 義彦	1組	下戸 健	2組	丸山 勲
	情報マネジメント学科	井口 修一	1組	傅 靖	2組	神辺 圭一
学社会環境部	社会環境学科	松藤 賢二郎				

§ 1-3. キャンパスルール

1 学生証

学生証は、本学学生の身分を証明するもので、在学期間中のみ有効です。在学中は常に携帯し、次の場合に呈示して下さい。

- ・試験を受ける場合
- ・授業に出席する場合
- ・各種証明書等の交付を受ける場合
- ・通学定期券や学割乗車券を購入する場合
- ・図書館等の本学施設を利用する場合
- ・遺失物を受け取る場合
- ・その他、教職員から呈示を求められた場合

■仮学生証

学生証を忘れた場合は、必要に応じて証明書発行機（E棟2階学生サポートセンター内、B棟2階情報基盤センター前）にて仮学生証を発行してください。（当日限り有効、発行手数料：200円）

■再発行

学生証を紛失または破損した場合は、情報基盤センター窓口（B棟2F）で再交付手続きを行ってください。（再発行手数料：500円）

■返還

退学、除籍等により本学の身分を失った場合には、速やかに学生証を学生課へ返還してください。

※学生証に記載のある有効期限が切れたものは使用できません。

2 学籍番号と氏名

■学籍番号

学籍番号は、各自固有のもので、本学における全ての手続きは7桁の学籍番号を基に行われます。

2 5 A 1 0 0 0
① ② ③ ④

①入学年度（西暦下2桁）

②学科コード

(工学部)

F：電子情報工学科 E：知能機械工学科
G：生命環境化学科 5：電気工学科

(情報工学部)

A：情報工学科 C：情報システム工学科
B：情報通信工学科 H：情報マネジメント学科

(社会環境学部)

K：社会環境学科

(その他)

X：科目等履修生
Y：(留学生) 別科

③組 ④固有番号（3桁）

■氏名表記

学籍上の氏名表記は、入学手続き時に本人が届け出たものとしします。なお、漢字はmyFIT（学修支援システム）ではJIS漢字（第二水準）を使用します。また、外国人留学生の氏名についてはカナ表記としします。本学が発行する書類は、これに基づき取り扱います。

→学籍情報の変更については、§7-1. 学籍情報の変更手続き P.158

3 学生への通知・連絡

学生に対する通知・連絡（休講・補講、教室変更、時間割変更、学期末試験日程、呼び出し・各課からの事務連絡等）は、通常myFIT（学修支援システム <https://my.fit.ac.jp/>）にて行います。発信された事項は、学生の皆さんが確認したものとして取り扱いますので、見落とすことのないように毎日確認してください。

→ §1-6. myFIT（学修支援システム） P.15

4 悪天候時の授業実施

JR 鹿児島本線が主要区間の不通により、多くの学生が通学不可能とならない限り、授業および学期末試験は予定通り実施します。悪天候が予想される場合は、交通情報をよく確認の上、いつもより早めの登校を心がけてください。

全学休講・学期末試験延期等の措置を決定した場合は、本学 web サイト・myFIT にて連絡します。

5 通学

通学は徒歩またはバス・電車等の公共交通機関を利用ください。自転車・バイクの利用の際は、学内駐輪場の利用許可を年度ごとに受けてください。

自転車	<p>< 学内駐輪場利用許可の要件 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ①本学所定の Web 申請を行い、許可を得ること ②自転車損害賠償保険に必ず加入すること（福岡県は義務） ③自転車に許可ステッカーを貼ること ④法違反、放置した場合、駐輪場利用の許可が取り消されることに同意していること ⑤専用駐輪場を利用すること ⑥その他利用規約に従うこと <p>< 申請に必要な書類等（全て写し）></p> <ul style="list-style-type: none"> ①防犯登録カードまたは防犯登録ステッカー ②個人賠償責任保険証書
バイク	<p>< 学内駐輪場利用許可の要件 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ①本学所定の Web 申請を行い、許可を得ること ②任意保険に必ず加入すること ③バイクに許可ステッカーを貼ること ④法違反、放置した場合、駐輪場利用の許可が取り消されることに同意していること ⑤専用駐輪場を利用すること ⑥その他利用規約に従うこと <p>< 申請に必要な書類等（全て写し）></p> <ul style="list-style-type: none"> ①運転免許証 ②任意保険証券（対人・対物無制限） ③車検証等 <ul style="list-style-type: none"> ・（原付）標識交付証明書 ・（軽二輪）軽自動車届出済証 ・（中型以上）自動車検査証
自動車	不可

※専用駐輪場 自転車：正門横、A 棟東側駐車場出入口横
バイク：FIT アリーナ裏、E 棟裏

※学内駐輪場利用許可申請 web サイト



6 遺失物・拾得物の取扱い

学内の遺失物について

学内の遺失物については、myFIT の「落とし物・忘れ物」ページに掲載されます。

掲載された遺失物は、保管場所（管理窓口）で学生証を提示の上、お受け取りください。

※保管期間は、原則3カ月とし期間を過ぎたものは処分します。

拾得物について

学内の拾得物については、管理窓口へ速やかに届けてください。

※ PC 室、IT コモンズでの情報記憶媒体（USB、CD 等）の落とし物は、情報基盤センターにて保管します。

管理窓口：学生課（E 棟2F）、情報基盤センター（B 棟2F）、短大事務室（B 棟5F）

7 全面禁煙

本学キャンパスは全面禁煙です。キャンパスでの受動喫煙を防止し、全ての学生・教職員の健康の維持増進に貢献するため、また学生が喫煙習慣を身に付けることを防止するため、学生自身と学友の健康に最大限配慮した環境づくりを進めています。

8 キャンパスでのマナー

キャンパスでは、次のような行為を慎み、気持ちよく生活できるよう心掛けましょう。

- ・授業中の私語・飲食
- ・図書館・ラーニングスペース・学生ラウンジ・食堂等での通話や大声での会話
- ・授業中、事務室窓口や飲食時の帽子の着用
- ・IT コモンズや PC 室での飲食

学内では、学生教職員問わず「挨拶」を心掛け、過ごしやすいキャンパスにしましょう。

§ 1-4. 窓口一覧

1 こんなときは？

■修学に関すること

こんなときは	どうする	窓口
登録科目や出欠状況を確認する	myFITにて確認	教務課 (E棟 2F)
休講・補講を確認する	myFITにて確認	教務課 (E棟 2F)
履修登録や修正をする	履修登録期間内に myFITにて登録 → § 3-2. 履修登録 P.42	教務課 (E棟 2F)
成績・取得単位を確認したい	myFITにて確認 → § 3-4. 成績 P.47	教務課 (E棟 2F)
成績評価について質問したい	受付期間内に担当教員または窓口に申し出 → § 3-4. ①成績発表 P.47	科目担当教員 または教務課
進級条件・卒業要件を確認したい	学業成績確認表や学生便覧にて確認 → § 3-5. 進級・卒業 P.51	教務課 (E棟 2F)
授業科目の内容や評価方法を確認したい	シラバスで確認 § 3-1. ①授業科目 P.38	科目担当教員
カリキュラムや履修について相談したい	窓口やクラス担任に相談	教務課 (E棟 2F)
学習上の質問や相談をしたい	オフィスアワーや FIT-in サポートを活用 → § 2-5. 学修支援 P.34	科目担当教員、 学習支援センター (E棟 3F)
必要な教科書等を確認したい	シラバスにて確認	科目担当教員
資格講座や公務員試験対策講座、検定試験・教養講座について知りたい	掲示板や本学 Web サイトにて確認 → § 3-8. 資格 P.56	社会連携センター (本部棟 1F) 科目担当教員
先生に連絡したい	・研究室を訪ねる → § 10. 教員名簿 P.246 ・シラバスや授業内でメールアドレスを公開している教員については、 メールで連絡できる	
国際学会や留学プログラムで海外渡航をしたい	海外渡航届を提出する	教務課 (E棟 2F)
障がいや疾病のため修学支援を受けたい	窓口で相談	学生課 (E棟 2F) 保健室 (B棟地下 1F) 学生相談室 (B棟地下 1F)

■試験に関すること

こんなときは	どうする	窓口
学期末試験日程を確認したい	学期末試験期間の約 1 週間前に myFIT で発表 → § 3-3. ②学期末試験 P.45	教務課 (E棟 2F)
学生証を忘れた	証明書発行機にて仮学生証を発行の上、 試験を受けなければならない → § 3-3. ③試験上の注意 P.45 ●証明書料	学生課 (E棟 2F) 情報基盤センター前 (B棟 2F)
交通機関が遅延し、試験に間に合わない	試験開始20分まで入室できるが、以後は 試験を受けることができない → § 1-3. ④悪天候時の授業実施 P. 8 ●遅延証明書	教務課 (E棟 2F)
体調不良等で 試験を欠席し、追試験を願い出たい	やむを得ない事由により学期末試験を欠 席した場合に限り、科目担当教員に追試 験を願い出ることができる → § 3-3. ⑤追試験 P.46 ●欠席理由届書 (E棟 2 階学生サポートセンター内に設置) と試験を 受けられない事由を証明するもの	科目担当教員 または教務課

■学籍情報に関すること

こんなときは	どうする	窓口
氏名・住所・電話番号・保護者 (連帯保証人)が変わった ※特に、入学後自宅外通学になった学生は、 アパート等の住所に変更してください。	速やかに変更事項を myFIT「学籍情報 変更申請」から自ら訂正・登録 → §7-1. 学籍情報の変更手続き P.158 ●変更願 (現住所・改氏名)	学生課 (E棟 2F)
休学したい	クラス担任に相談 (面談) の上、窓口に 申し出 → §3-6. 休学 P.53 ●休学願	教務課 (E棟 2F)
復学したい	窓口に申し出 → §3-6. 復学 P.53 ●復学願	教務課 (E棟 2F)
退学したい	クラス担任に相談 (面談) の上、窓口に 申し出 → §3-6. 退学 P.53 ●退学願	教務課 (E棟 2F)
転学部・転学科したい	事前に相談の上、期日までに窓口に提出 → §3-6. 転学部・転学科 P.54 ●転学部及び転学科申請書	教務課 (E棟 2F)

■学生生活に関すること

こんなときは	どうする	窓口
授業を欠席したい・欠席した	科目担当教員にメール連絡後に提出 → §3-1. 出席・欠席 P.40 ●欠席理由届書と授業・試験を受けられない事由を証明するもの※ ※病気・ケガ等の場合は病院の診断書または領収書のコピー 就職活動 (採用試験) の場合は選考確認書 クラブ活動および教育実習の場合は担当窓口の確認印	教務課、学生課、就職課
バイク通学で、学内の駐輪場を 利用したい	運転免許証等を添えて利用許可を得る → §1-3. 通学 P. 8 ●任意保険証券 (写し) 車検証等 (写し)	学生課 (E棟 2F)
自転車通学で、学内の駐輪場を 利用したい	個人賠償責任保険証券を添えて利用許可 を得る → §1-3. 通学 P. 8	学生課 (E棟 2F)
通学定期券を購入したい	通学証明書の発行を申請 ●所定の用紙 (E棟 2階学生サポートセンター内に設置)	学生課 (E棟 2F)
学生証を紛失・破損した	窓口で再交付手続を行う → §1-3. 学生証 P. 7 ●再発行手数料	情報基盤センター情報企画課 (B棟 2F)
各種証明書・学割・健康診断書を 発行してほしい	証明書発行機・窓口にて発行 → §7-1. 証明書発行 P.158 ●学生証、証明書料	学生課・教務課・就職課 (E棟 2F)

PC や学内ネットワーク（無線 LAN 含む）の利用方法について知りたい	窓口またはシステム相談員に問い合わせ → § 1-6. myFIT P.15	情報基盤センター情報企画課 (B棟 2F)
情報基盤センター発行のログインパスワードを忘れた	窓口にお問い合わせ ●学生証	情報基盤センター情報企画課 (B棟 2F)
大学推奨ノート PC について知りたい	窓口にお問い合わせ	PC インフォスクエア (B棟 2F)
学納金の納入について相談したい	納入期限（口座振替日）までに窓口にご相談 → § 7-2. ①学納金 P.159 ●所定の用紙	経理課（本部棟 2F）
奨学金を申し込みたい	myFIT、HP で確認。窓口にお問い合わせ → § 7-2. ②奨学金 P.159	学生課（E棟 2F）
留学・語学研修について知りたい	窓口にお問い合わせ → § 7-4. 国際交流 P.164	国際連携室（α棟 2F）
クラブ・サークルに入部したい	各団体の部室を訪問 → § 7-3. 課外活動 P.161	学生課（E棟 2F）
クラブ・サークルの運営や Web サイトについて相談したい	窓口にお問い合わせ	学生課（E棟 2F）
社会貢献活動について知りたい	窓口にお問い合わせまたは掲示板にて確認 → § 7-3. ③社会貢献・自己啓発活動 P.162	社会連携センター (本部棟 1F)
自己啓発活動について知りたい	窓口にお問い合わせまたは掲示板にて確認 → § 7-3. ③社会貢献・自己啓発活動 P.162	社会連携センター (本部棟 1F)
FIT ポイントについて知りたい	窓口にお問い合わせまたは社会連携センター HP で確認 → § 7-3. ③社会貢献・自己啓発活動 P.162	社会連携センター (本部棟 1F)
FIT 隊（学生広報組織）に参加したい	窓口にお問い合わせ	入試広報課（本部棟 2F）
イベント・集会を実施したい	事前に窓口へ届け出 ●指定の用紙	学生課（E棟 2F）
チラシを配布・ポスターを掲示したい	事前に窓口へ届け出 ●掲示許可願	学生課（E棟 2F）
サークル・ゼミ等で合宿したい	事前に名簿を添えて窓口へ届け出 ●合宿・遠征許可願	学生課（E棟 2F）
旅行したい	窓口にて斡旋	ラド観光（B棟地下 1F）
アルバイト・アパート・下宿を探したい	窓口にて斡旋 → § 7-3. ⑥アルバイト P.163	アドバンス（B棟 1F）
落とし物・忘れ物をした、拾い物をした	窓口にお問い合わせ → § 1-3. ⑥遺失物・拾得物の取扱い P. 8 ●拾得物の引取りの際は、学生証を持参	学生課（E棟 2F）、情報基盤センター（B棟 2F）、短大事務室（B棟 5F）

就職やキャリアについて相談したい	窓口相談 → § 7-5. 1 就職・キャリア P.166	就職課 (E棟 2F)
大学院進学について相談したい	窓口相談 → § 7-5. 2 大学院進学 P.167	大学院事務室 (E棟 2F)
病気・ケガをした	窓口にて応急措置	保健室 (B棟地下 1F)
事故・災害・トラブルに遭った (SNS での被害含む)	窓口で連絡 → § 7-6. 3 各種保険 P.168 ● 所定の用紙	学生課 (E棟 2F)
健康面の相談がある、禁煙したい	窓口相談 → § 7-6. 6 健康管理 P.169	保健室 (B棟地下 1F)
心配や悩み事の相談がある	窓口相談 (092-606-7251) → § 7-6. 6 健康管理 P.169	学生相談室 (B棟地下 1F)
ハラスメントに関して相談したい	窓口相談 → § 7-6. 7 ハラスメント相談 P.170	ハラスメント相談窓口担当者

■施設利用

こんなときは	どうする	窓口
教室・施設を使用したい	事前に窓口にて予約申請 → § 7-3. 4 施設・用具の使用 P.163 ● 所定の用紙	学生課 (E棟 2F)
備品・用具を使用したい	窓口で申し出 → § 7-3. 4 施設・用具の使用 P.163	学生課 (E棟 2F) 管財課 (本部棟 2F)
FIT セミナーハウスを利用したい	事前に窓口にて予約申請 → § 8-1. 施設案内 P.174	アドバンス (B棟 1F)
FIT BBQ を利用したい	事前に窓口にて予約申請 (1 週間前まで) → § 8-1. 施設案内 P.174	管財課 (本部棟 2F)

■その他

こんなときは	どうする	窓口
マスコミ関係から取材を受ける	事前に窓口で連絡	入試広報課 (本部棟 2F)
大学のロゴマークを使用したい	窓口で問い合わせ	入試広報課 (本部棟 2F)
(卒業後) 各種証明書を発行してほしい	窓口または郵送にて発行申請 (本学 Web サイトにて案内) ● 証明書等の交付願 (証明書発行申請書)	教務課 (E棟 2F)
(卒業後) 研究生・科目等履修生 になりたい	窓口で問い合わせ → § 3-6. 8 研究生、科目等履修生 P.54 ● 所定の用紙、納入金	教務課 (E棟 2F)

2 学生対応窓口一覧

事務局	業務時間	休業日	連絡先
	平日 8:50~17:00	土・日曜、祝日、開学記念日、一斉休暇期間等	092-606-3131 (代表)
●本学Webサイト： https://www.fit.ac.jp/			

担当窓口	取扱内容	場所・連絡先
教務課	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、時間割に関すること ・単位、履修、試験、成績に関すること ・学籍異動（休退学など）に関すること ・教職課程に関すること ・卒業生の証明書発行に関すること ・出席および欠席に関すること 	学生サポートセンター（E棟2F） 092-606-0647 kyoumu@fit.ac.jp
学生課	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活に関すること ・学籍情報（連絡先の変更など）に関すること ・各種証明書発行に関すること ・留学生に関すること ・奨学金に関すること ・課外活動（クラブ・サークル、ボランティアなど）に関すること ・施設・用具の利用に関すること ・落し物・盗難に関すること ・授業中、通学中の傷害保険に関すること ・学生寮に関すること 	学生サポートセンター（E棟2F） 092-606-0654 gakusei@fit.ac.jp
就職課	<ul style="list-style-type: none"> ・就職・キャリアに関すること ・就職情報（求人・企業説明会）に関すること ・オープン・カンパニー、インターンシップに関すること 	学生サポートセンター（E棟2F） 092-606-0672 電子情報工学科・電気工学科 syu-1@fit.ac.jp 生命環境化学科・知能機械工学科 syu-2@fit.ac.jp 情報工学科 syu-3@fit.ac.jp 情報通信工学科・情報マネジメント学科 syu-4@fit.ac.jp 情報システム工学科 syu-6@fit.ac.jp 社会環境学科 sessyu@fit.ac.jp 大学院 syu-g@fit.ac.jp
大学院事務室	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院進学に関すること 	学生サポートセンター（E棟2F） 092-606-6996 master@fit.ac.jp
国際連携室	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修・留学に関すること ・国際交流に関すること ・英語ネイティブ職員による英語レッスンに関すること 	グローバル・スチューデント・ラウンジ (α棟2F) 092-606-8070 international@fit.ac.jp
情報基盤センター 情報企画課	<ul style="list-style-type: none"> ・PC、学内ネットワークの利用に関すること ・myFIT（学修支援システム）や授業支援システムに関すること 	情報基盤センター（B棟2F） 092-606-0692 center@fit.ac.jp
	<ul style="list-style-type: none"> ・大学推奨ノートパソコンに関すること ・大学ライセンスソフトウェアに関すること 	PCインフォスクエア（B棟2F） 092-605-0557 pcinfo@fit.ac.jp
入試広報課	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコミからの取材や情報発信に関すること ・オープンキャンパスやキャンパスメールに関すること ・本学公式ホームページ・SNS・大学案内（パンフレット）に関すること 	事務局（本部棟2F） 092-606-0607 nkouhou@fit.ac.jp
経理課	<ul style="list-style-type: none"> ・学納金に関すること ・現金の受け渡しに関すること 	事務局（本部棟2F） 092-606-0619

→ その他窓口の場所・連絡先は、§ 8-1. 施設案内 P.174

※大学窓口への質問や確認などは、原則として電話やメールによる問い合わせではなく、学生本人が直接窓口で行ってください。なお、特別な事情で大学に来ることができない場合は、電話やメールでの問い合わせも可能です。

§ 1-5. 年間行事予定 (2025年度)

<p>4 2025 April</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30</p>	<p>2日 水 入学式 前期履修登録開始</p> <p>3日 木</p> <p>4日 金 新入生オリエンテーション</p> <p>7日 月</p> <p>8日 火 前期授業開始</p> <p>14日 月 前期履修登録終了</p> <p>26日 土 補講日</p>	<p>10 2025 October</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>25日 土 補講日</p>
<p>5 2025 May</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>7日 水 月曜平常授業日</p> <p>8日 木 火曜平常授業日</p> <p>24日 土 補講日</p>	<p>11 2025 November</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23/30 24 25 26 27 28 29</p>	<p>1日 土 立花祭準備日</p> <p>2日 日 立花祭</p> <p>3日 月</p> <p>4日 火 立花祭片付日・全学休講</p> <p>5日 水 開学記念日・全学休校</p> <p>6日 木 月曜平常授業日</p> <p>7日 金 火曜平常授業日</p> <p>29日 土 補講日</p>
<p>6 2025 June</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30</p>	<p>28日 土 補講日</p>	<p>12 2025 December</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>20日 土 補講日</p> <p>24日 水 金曜平常授業日</p> <p>25日 木 1/2日 年末年始一斉休暇</p>
<p>7 2025 July</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>19日 土 補講日</p> <p>25日 金 月曜平常授業日 前期授業終了</p> <p>28日 月 講義予備日</p> <p>30日 水 前期学期末試験開始</p>	<p>1 2026 January</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>4日 日 冬季休業終了</p> <p>10日 土 補講日</p> <p>13日 火 月曜平常授業日</p> <p>16日 金 全学休講</p> <p>27日 火 講義予備日</p> <p>29日 木 後期学期末試験開始</p> <p>31日 土 後期学期末試験調整日</p>
<p>8 2025 August</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24/31 25 26 27 28 29 30</p>	<p>2日 土 前期学期末試験調整日</p> <p>5日 火 前期学期末試験終了</p> <p>6日 水 前期学期末試験予備日</p> <p>9日 土 夏季休業開始</p> <p>12日 火 夏季一斉休暇</p> <p>15日 金</p> <p>21日 木 前期成績発表日 (myFIT成績照会)</p> <p>22日 金 成績確認表公開予定日 ※ 1回目</p>	<p>2 2026 February</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28</p>	<p>4日 水 後期学期末試験終了</p> <p>5日 木 後期学期末試験予備日</p> <p>19日 木 後期成績発表日 (myFIT成績照会)</p> <p>20日 金 成績確認表公開予定日 ※ 1回目</p>
<p>9 2025 September</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30</p>	<p>4日 木 延期分成績発表日 (myFIT成績照会)</p> <p>5日 金 成績確認表公開予定日 ※ 2回目</p> <p>16日 火 後期履修登録開始</p> <p>23日 火 夏期休業終了</p> <p>24日 水 後期授業開始</p> <p>30日 火 後期履修登録終了</p>	<p>3 2026 March</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>2日 月 成績確認表公開予定日 ※ 2回目</p> <p>20日 金 卒業証書・学位記授与式</p>

※予定日が変更される場合は、myFITにて通知します。

§ 1-6. myFIT (学修支援システム)

授業に関する掲示（休講・補講・教室変更）、学部学科や事務局からの各種お知らせなど、学生生活に必要な不可欠な情報を、学内外から WEB 上で確認することができます。

学生に対する連絡・通知は、通常 myFIT（学修支援システム）にて行います。

また、履修登録や成績照会、授業アンケート回答など重要な登録や照会を myFIT 上にて行います。

機能	内容
学籍情報の照会	氏名、学籍番号、学科組織などの基本情報を表示
お知らせの確認	休講・補講情報や大学からの各種お知らせを表示 → § 1-3. ②学生への通知・連絡 P.7
履修登録・変更	→ § 3-2. 履修登録 P.42
学生時間割表の確認	履修中の授業時間割表を表示
授業時間割表の確認	所属学科の授業時間割表を表示
シラバスの確認	授業科目のシラバス照会 § 3-1. シラバスの見方 P.39
成績の確認	成績や取得単位数を表示 → § 3-4. 成績 P.47
進級・卒業の確認	進級・卒業判定通知を表示 → § 3-5. 進級・卒業 P.51
出欠状況の確認	履修中の授業科目の出席状況を表示
学びの振り返りアンケート	アンケートの回答、集計結果照会 → § 2-5. ③学びの振り返りアンケート P.34
就職関連情報	面談予約、就職支援プログラム予約、求人検索、学内単独企業説明会予約、就職活動記録
学習ポートフォリオ (FIT-AIM) の入力	§ 2-6. ②学習ポートフォリオ (FIT-AIM) P.35

※ myFIT の詳しい利用方法については、「情報基盤センター利用者マニュアル」を参照ください。

<https://my.fit.ac.jp/>



§ 2

本学での学び

§ 2-1	教養力育成科目	18
	Liberal Arts	
	1 教養力育成科目について	
	2 コンピテンシーとカリキュラム・ポリシー	
	3 教養力育成科目一覧	
§ 2-2	横断科目	21
	1 横断科目について	
	2 横断科目一覧	
§ 2-3	教職課程	22
	1 教職課程について	
	2 取得できる教員免許状	
	3 教育研究上の目的と教育目標	
	4 履修の流れ	
	5 教職課程に関する授業科目および単位数	
	6 教職課程に必要な費用	
§ 2-4	数理・データサイエンス・AI教育プログラム	31
	1 AI データサイエンス基礎 (教養力育成科目)	
	2 応用基礎教育プログラム科目一覧	
§ 2-5	6年一貫教育	33
	1 6年一貫教育「FIT-Tech プログラム」	
§ 2-6	学修支援	34
	1 クラス担任・ オフィスアワー	2 学びの振り返りアンケート
	2 学習支援センター (FIT-in サポート)	4 学生授業サポート制度
§ 2-7	AL・学習ポートフォリオ	35
	1 アクティブ・ラーニング	3 授業実施方法と受講の心構え
	2 学習ポートフォリオ (FIT-AIM)	

§ 2-1	教養力育成科目
§ 2-2	横断科目
§ 2-3	教職課程
§ 2-4	・数理・データサイエンス ・AI教育プログラム
§ 2-5	6年一貫教育
§ 2-6	学修支援
§ 2-7	AL・学習ポートフォリオ

§ 2-1. 教養力育成科目 / Liberal Arts

1 教養力育成科目について

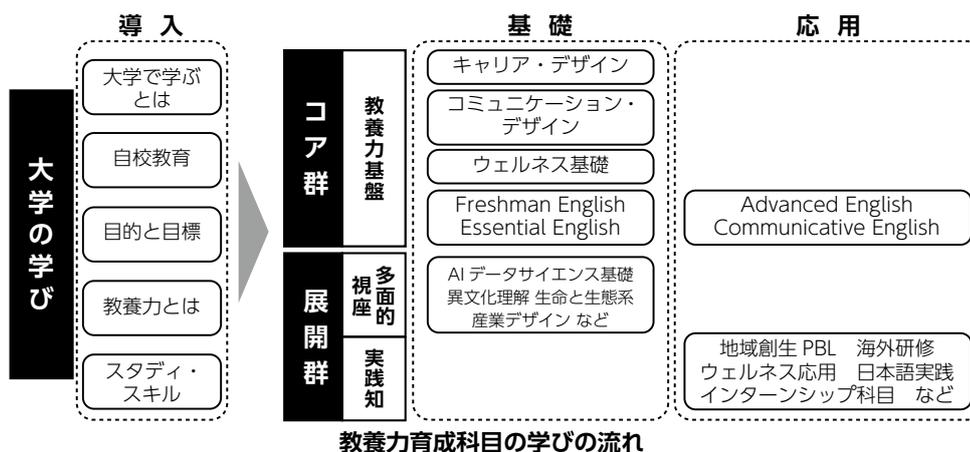
■科目群（学修領域）

- ①コア群（教養力基盤）
- ②展開群（多面的視座、実践知）
- ③教職科目

■カリキュラム編成の基本方針

教養力育成科目は、コア群（必修科目）と展開群で構成される。コア群は、全ての学生がどの学部学科に所属しようとも本学を卒業する時までに身に付けておくべき知識・能力の修得の中核を担う必修科目から成る。コア群では、他者と関わりながら各々の将来・人生をデザインする力と、グローバル社会のあらゆる場面で多様な人とコミュニケーションをとるために、生きる術となる言語力を養成する機会を与える。また、コア群での学びを通して、主体的に取り組むための根幹として必要な「自己決定力」と「自己調整力」の醸成を図る機会を持つ。その一環としてコア群では、自分事として大学で学ぶ意識の向上につながる学生アセスメントの機会を提供する。

展開群では「多面的視座」と「実践知」の獲得を基柱とする。異学科異学年との混成クラスの中で、専門分野を異にする学生間での協働を通して多様な価値観に触れ、文理問わず必要とされるデータサイエンスや様々な学問分野の知識を得ることで多面的に思考できる視座を養う。また、トライアル・アンド・エラーによる学びによって実践知の獲得を図る。さらに、大学生に求められるスタディ・スキルの修得にも継続的に取り組む。



■年次別科目の配当方針

教養力育成科目は、教養力の基盤形成を図るコア群と多面的視座および実践知の獲得を図る展開群を1・2年次に配当する。1年次は「自ら選び、学ぶ」という自律的姿勢に繋がるマインドチェンジを図るため、「導入」として1年次の授業開始前におけるオリエンテーション等での学び、その後、必修（または選択必修）の「キャリア・デザイン」「コミュニケーション・デザイン」「ウェルネス基礎」「Freshman English A, B または Advanced English A, B」を配当する。2年次配当科目や「応用」の科目には、先に履修を推奨する「基礎」の科目や要件があり、その流れを持つことで学びの深化が可能となる。

各科目の配当年次以降は、どの年次でも受講可能であるため、自らの専門分野や興味、学修ペースに合わせて自律的に計画を立てて履修し、自分に合った教養力育成のための学びを作り上げることができると。

■学修成果の評価の在り方

各授業科目の学習内容、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバスにより学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を行う。また、大学 DP のうち学力3要素にあたる「主体性・協働性・多様性理解」に関する態度育成を到達目標とする科目の一部については、アクティブ・ラーニングを取り入れ、グループ活動等では学修到達度の尺度に基づいた評価（ルーブリック評価）を行う。

2 教養力育成科目を通して身に付けるコンピテンシーとカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

共通コンピテンシー（能力・資質）		定義	コンピテンシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（編成方針）
DP1	A 幅広い教養	リベラルアーツを目指した知識と思考力	相異なる解が想定される複雑な問題に対処する知識や多面的視座を得ることができる。	人文・社会、並びに自然科学の各分野における基本的概念や理論を習得できるようになるための科目を配置する。
	B 専門知識・技能	当該分野において必要とされる知識と技能	（該当せず）	（該当せず）
DP2	C ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	社会の変化に合わせて自らのウェルネスを築くと共に、人生をデザインし、自己実現に向けて絶え間ない努力を重ねられる。	生涯にわたる健康を十分に維持できるようになると共に、学生生活やその後の人生についても洞察を深められるようになるための科目を配置する。
	D メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	自己理解を深め、適性も見極めながら目標を設定し、実行とその振り返りを繰り返しつつ、実現に向けた取り組みができる。	自己の適性がどの分野に合致するかを見極めると共に、実社会における活動の導入になるための科目を配置する。
DP3	E グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	多様な価値観やバックグラウンドを持つ他者を尊重しながら問題解決に向けて協働できる。	世界の諸地域における文化や言葉に関する実用的な知識を獲得すると共に、異なるバックグラウンドを持つ人々と円滑な関係を築けるようになるための科目を配置する。
	F 未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	人類社会が経験しなかった新たな問いに実践知に基づき立ち向かいながら、その解決に向けて歩める。	現代社会の課題に対応できる力や人間としての望ましい生き方を考え、よりよい社会を構築する視点を養うための科目を配置する。
DP4	G デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	数理やAI、データサイエンス、ICTの知識に基づいて、データを的確に分析し、状況を把握できる。	情報の処理能力や読解力、さらには発信力に関わる技能に習熟できるようになるための科目を配置する。
	H 発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力	日本語及び基礎的な英語で自らの考えを分かりやすく論理的に構築でき、またそれに基づいて背景や意見を異にする相手ともコミュニケーションが取れる。	言語能力を獲得するための科目と非言語も含めた幅広いコミュニケーションを実践できるようになるための科目を配置する。

■カリキュラム・ポリシー（実施方針）

【学修方法】

1	知識の習得は主に展開群の諸科目で、能動的な学習態度の涵養は特にコア群の科目を通して、いずれも学生が主体となって活動する形の学修方法を取りながら達成させる。
2	進路に資する課題は、キャリア・デザインやウェルネス、自己成長と学び等の授業で扱うと共に、各授業科目で学習ポートフォリオを活用した活動の振り返りによる自己調整や自己発見を習慣化させることで身に付けさせる。
3	英語や異文化理解、海外研修、地域創生、インターンシップ等の科目を通して、異なる背景や文化を持つ人々と協働して課題解決が図れる能力の涵養に努めさせる。
4	ITリテラシーやAIデータ・サイエンス等の科目を通して、数理的なものの見方を身に付け、情報を的確に整理・分析し、適切なデジタルツールを用いた発信もできる姿勢を育てさせる。

【学修成果の評価】

1	各授業科目の学修内容、習得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した適切な成績評価を行う。
2	ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、全学的な学生調査等によって評価する。

3 教養力育成科目一覧

コア群

	段階	科目名	必修・選択	単位数	年次
教養力基盤 *1	基礎	キャリア・デザイン	必修	2	1
	基礎	コミュニケーション・デザイン	必修	2	1
	基礎	ウェルネス基礎	必修	2	1
	基礎	Freshman English A	① 選択必修	2	1
	応用	Advanced English A		2	1
	基礎	Freshman English B	② 選択必修	2	1
	応用	Advanced English B		2	1
	基礎	Essential English A	③ 選択必修	2	2
	応用	Communicative English A		2	2
	基礎	Essential English B	④ 選択必修	2	2
	応用	Communicative English B		2	2

展開群

	段階	科目名	必修・選択	単位数	年次
多面的視座 *2 *3 *4	基礎	自己成長と学び	選択	2	2
	基礎	IT リテラシー (工学部・社会環境学部)	選択 / 必修	2	1
	基礎	AI データサイエンス基礎	選択	2	1
	基礎	生命と生態系	選択	2	1
	基礎	化学と生活	選択	2	1
	基礎	科学史	選択	2	1
	基礎	産業デザイン	選択	2	2
	基礎	地域創生論	選択	2	1
	基礎	市民生活と法	選択	2	1
	基礎	日本国憲法	選択	2	1
	基礎	心理学	選択	2	1
	基礎	文学	選択	2	1
	基礎	現代倫理	選択	2	1
	基礎	経済学	選択	2	1
	基礎	社会学	選択	2	1
	基礎	九州学	選択	2	1
	基礎	異文化理解	選択	2	1
	基礎	中国の文化と言葉	選択	2	2
	基礎	韓国の文化と言葉	選択	2	2
	基礎	歴史学概論 (社会環境学部)	選択	2	1
基礎	地理学概論 (社会環境学部)	選択	2	1	
実践知	応用	ウェルネス応用	選択	2	2
	応用	地域創生 PBL	選択	2	1
	応用	日本語実践	選択	2	2
	応用	仕事理解型実習	選択	2	2
	応用	課題解決型インターンシップ	選択	2	3
	応用	海外研修	選択	2	1

*1. コア群の英語科目について、習熟度に基づき1年次は①、②からそれぞれ1科目を履修、2年次は③、④からそれぞれ1科目を履修し、卒業要件の8単位を取得する。

*2. IT リテラシーは、工学部と社会環境学部が開講。なお、生命環境化学科、電気工学科は必修、電子情報工学科、知能機械工学科、社会環境学部では選択である。

*3. 生命と生態系、化学と生活、科学史は生命環境化学科では進級条件および卒業要件の単位に含めない。

*4. 展開群において、歴史学概論、地理学概論を社会環境学部が開講する。

工学部 ・ 社会環境学部	上記、合計26単位以上
情報工学部	上記、合計24単位以上

§ 2-3. 教職課程

1 教職課程について

教職課程とは、教員免許状を取得するために教育職員免許法に定められた科目を履修する課程のことです。教員免許状を取得するためには、所属学科の進級条件・卒業要件を満たす他に、教職課程に関する科目の単位を取得しなければなりません。多くの単位取得や教育実習等が必要となりますので、しっかりとした自覚と覚悟が求められます。

なお、教職課程の履修登録は2年次4月に行いますが、履修希望者は1年次に次のことが必要となります。履修を迷っている場合は、1年次後期に開講される「教師論」を受講してください。以下が2年次からの受講に必要な事項です。

- 1年次に開講される教職課程に関する授業科目の履修
- 「教師論」（1年次後期）の単位取得
- 1年次の単位取得数40単位以上（「教師論」2単位を除く）

（学則別表3、履修要項第35条、第36条（工・情）、第33条（社）、および教職別表）

2 取得できる教員免許状

■高等学校教諭一種免許状

	工学部				情報工学部			社会環境学部	
	電子情報工学科	生命環境化学科	知能機械工学科	電気工学科	情報工学科	情報通信工学科	情報システム工学科	情報マネジメント学科	社会環境学科
工業	○	○	○	○					
理科		○							
数学					○	○	○		
情報					○	○	○	○	
公民									○

■中学校教諭一種免許状

	工学部				情報工学部			社会環境学部	
	電子情報工学科	生命環境化学科	知能機械工学科	電気工学科	情報工学科	情報通信工学科	情報システム工学科	情報マネジメント学科	社会環境学科
数学					○	○	○		
社会									○
理科		○							

※必要な単位を満たすことで、複数の免許状取得が可能です。（例：中学と高校の理科、高校の数学と情報、中学の社会と高校の公民）

（学則第39条）

3 教育研究上の目的と教育目標

■教育研究上の目的

教職の意義、教育の原理及び人間の発達を理解し、将来の教育者としての専門的知識、方法技術さらには実践的能力を高めるとともに、使命感及び倫理観と教育的愛情を育む人材の養成を目的とする。

教職課程

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

共通コンピテンシー（能力・資質）		定義	ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（編成方針）
DP1	A	幅広い教養	教職に必要な知識・技能を理解し、人間としての在り方や生き方の探究を基盤としながら、教育者としての使命感・責任感及び倫理観と教育的愛情の必要性を理解できる。	教師としての在り方や生き方の探究を基盤としながら、教職に必要な基本的知識・技能を習得するための科目を配置する。
	B	専門知識・技能	当該分野において必要とされる知識と技能	—

DP2	C	ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	生涯に渡る人間の発達や個々の多様性について理解し、教育界の動向も意識しながらキャリア指導ができる。	生涯に渡る人間発達の理解とキャリア指導力を育成する科目を設置する。
	D	メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	自己理解を深めながら目標を達成できる柔軟な精神と問題解決能力を養い、生涯にわたり自主的・継続的に学習する能力を身につけることができる。	自己理解を深め、柔軟な精神に裏づけられた問題解決能力と生涯学習能力を育成する科目を配置する。
DP3	E	グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	多様な文化や背景を持つ他者を共感的に理解し、他者の持つ良さや価値を尊重し、道徳性を高めながら、生徒指導や進路指導に活かせる。	多様な文化や背景を持つ他者を共感的に理解し、他者の持つ良さや価値を尊重できるようにするための科目を配置する。
	F	未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	時代の変化と共に生じる教育の諸問題に教職及び教科の専門性を活かし、新たな視点で立ち向かえる。	時代の変化と共に生じる教育の諸問題に対応できる科目を配置する。
DP4	G	デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	数理の基礎知識を基にデータサイエンスやICTを活用して、教育に関する諸問題を整理・分析できる。	データサイエンスやICTを活用して、教育に関する諸問題を整理・分析する力を育成する科目を配置する。
	H	発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力	教育に関わるステークホルダーの立場や考え方を読み取り、効果的な手法を選択し伝えられる。	授業を構成し運営できる力や学校関係者との相互理解を深め、コミュニケーション能力を育成する科目を配置する。

§ 2-1

教養力育成科目

§ 2-2

横断科目

§ 2-3

教職課程

§ 2-4

・数
・AI
・教育
・データサイエンス
・プログラム

§ 2-5

6年一貫教育

§ 2-6

学
支
援

§ 2-7

学
習
ポ
ー
ト
フ
ォ
リ
オ

4 履修の流れ

時 期		内 容
1 年 次	前期	・1年次に開講される教職課程に関する授業科目の履修
	後期 2月	・「教師論」履修 ・1年次40単位以上取得 ・教職課程ガイダンス
2 年 次	前期 4月	・「教職課程履修登録簿」提出 ・教職課程ガイダンス
	後期 2月	・介護等体験説明会 (中学校免許取得希望者対象) ・教育実習内諾手続き説明会
3 年 次	前期 4月 6月～ 7～9月	・教職課程ガイダンス ・介護等体験 ・教育実習校へ内諾依頼
	後期 2月	・教職課程ガイダンス
4 年 次	前期 4月 6月～	・教職課程ガイダンス ・教育実習
	後期 10月 3月	・教員免許状一括申請に関する説明会 ・卒業式当日、教員免許状交付

・教職課程の科目の履修登録は、年次毎に履修登録期間に行ってください。

■教育実習

- ・2年次2月に教育実習内諾手続き説明会を行います。
- ・4年次6月頃に、中学校免許取得希望者は3週間、高校免許取得希望者は2週間の教育実習が実施されます。教育実習校は主に出身校になります。
- ・教育実習に参加するには、3年次までに次の科目の単位を全て取得していなければなりません。

教育原理	2単位
教育心理学	2単位
教育行政学	2単位
日本国憲法	2単位
各教科教育法	2単位

■教職課程の履修登録

- ・「教師論」(1年次後期)は、1年次後期の履修登録期間までに履修登録してください。
- ・1年次2月に「教師論」の単位取得者を対象にした教職課程ガイダンスを行います。ガイダンスで配布される「教職課程履修登録簿」に教職課程履修料の証紙を添付の上、指定された期日までに教務課に提出してください。

■介護等体験

- ・中学校免許取得希望者は、社会福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間、計7日間の介護等の体験が必要です。
- ・2年次2月に介護等体験説明会を行います。

5 教職課程に関する授業科目および単位数

1. 教育の基礎的理解に関する科目等

■高等学校教諭一種免許状

教師論	2単位（1年次後期）
教育原理	2単位（2年次前期）
教育の方法とICT活用	2単位（2年次前期）
教育心理学	2単位（2年次前期）
教育行政学	2単位（2年次後期）
教育相談の基礎	2単位（2年次後期）
道徳教育論	2単位（2年次前期） ※選択科目
特別支援教育論	2単位（3年次前期）
生徒・進路指導論	2単位（3年次後期）
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2単位（3年次後期）
教職実践演習（中・高）	2単位（4年次後期）
教育実習Ⅰ	3単位（4年次通年）

■中学校教諭一種免許状

教師論	2単位（1年次後期）
教育原理	2単位（2年次前期）
教育の方法とICT活用	2単位（2年次前期）
教育心理学	2単位（2年次前期）
教育行政学	2単位（2年次後期）
教育相談の基礎	2単位（2年次後期）
道徳教育論	2単位（2年次前期）
特別支援教育論	2単位（3年次前期）
生徒・進路指導論	2単位（3年次後期）
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2単位（3年次後期）
教職実践演習（中・高）	2単位（4年次後期）
教育実習Ⅱ	5単位（4年次通年）

2. 教科及び教科の指導法に関する科目

■高等学校教諭一種免許状

(工業)	職業指導	2単位（3年次前期）
	工業科教育法Ⅰ	2単位（3年次前期）
	工業科教育法Ⅱ	2単位（3年次後期）
	専門教育科目	30単位（工学部履修要項教職別表1参照）
(理科)	理科教育法Ⅰ	2単位（3年次前期）
	理科教育法Ⅱ	2単位（3年次前期）
	専門教育科目	32単位（工学部履修要項教職別表2参照）
(数学)	数学科教育法Ⅰ	2単位（3年次前期）
	数学科教育法Ⅱ	2単位（3年次前期）
	専門教育科目	32単位（情報工学部履修要項教職別表1参照）
(情報)	情報科教育法Ⅰ	2単位（3年次前期）
	情報科教育法Ⅱ	2単位（3年次前期）
	情報職業論	2単位（3年次前期）
	専門教育科目	30単位（情報工学部履修要項教職別表2参照）
(公民)	社会科・公民科教育法Ⅰ	2単位（3年次前期）
	社会科・公民科教育法Ⅱ	2単位（3年次後期）
	専門教育科目	32単位（社会環境学部履修要項教職別表参照）

※教職課程必修科目を含むこと。

■中学校教諭一種免許状

(理科)	理科教育法Ⅰ	2単位 (3年次前期)
	理科教育法Ⅱ	2単位 (3年次前期)
	理科教育法Ⅲ	2単位 (3年次後期)
	理科教育法Ⅳ	2単位 (3年次後期)
	専門教育科目	24単位 (工学部履修要項教職別表2参照)
(数学)	数学科教育法Ⅰ	2単位 (3年次前期)
	数学科教育法Ⅱ	2単位 (3年次前期)
	数学科教育法Ⅲ	2単位 (3年次後期)
	数学科教育法Ⅳ	2単位 (3年次後期)
	専門教育科目	24単位 (情報工学部履修要項教職別表1参照)
(社会)	社会科教育法Ⅰ	2単位 (3年次前期)
	社会科教育法Ⅱ	2単位 (3年次後期)
	社会科・公民科教育法Ⅰ	2単位 (3年次前期)
	社会科・公民科教育法Ⅱ	2単位 (3年次後期)
	専門教育科目	24単位 (社会環境学部履修要項教職別表参照)

※教職課程必修科目を含むこと。

3. その他の科目

教育職員免許法 施行規則 第66条の6に定める科目		対応する本学での授業科目
日本国憲法	2単位	日本国憲法
体育	2単位	ウェルネス基礎
外国語コミュニケーション	2単位	コア群の英語科目からいずれか1科目
情報機器の操作	2単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ITリテラシー (工) (社) ・コンピュータリテラシー (情:情報工学科) ・コンピュータソフトウェア実験 (情:情報通信工学科) ・情報リテラシー (情:情報システム工学科、情報マネジメント学科)

6 教職課程に必要な費用

教職課程履修料	30,000円
教育実習費用	12,000円～20,000円 (自治体や期間で異なる)
介護等体験費用	10,000円
介護等体験保険料	420円
申請費用	3,300円/件
申請用証明書代金	500円/件

§ 2-1

教養力育成科目

§ 2-2

横断科目

§ 2-3

教職課程

§ 2-4

・数
・AI
・教育
・データサイエンス
・プログラム

§ 2-5

6年一貫教育

§ 2-6

学修支援

§ 2-7

学習ポートフォリオ

教職別表 1

【工学部】 教員免許（工業）に関する履修科目一覧

【高等学校教諭一種免許状（工業）】

(教職必修科目…○印の科目と学科の必修科目)

分野	電子情報工学科		生命環境化学科		知能機械工学科		電気工学科	
	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択
工業 の 関 係 科 目	電子情報工学入門	2	コンピュータ言語	2	ものづくり基礎実習	4	電気工学フレッシュマン演習	2
	電気回路Ⅰ	2	環境科学Ⅰ	2	熱力学Ⅰ	2	電磁気学Ⅰ	2
	電気回路Ⅱ	2	環境科学Ⅱ	2	熱力学Ⅱ	2	電磁気学Ⅱ	2
	電気回路Ⅲ	2	環境分析化学	2	流体力学Ⅰ	2	電磁気学Ⅲ	2
	電磁気学Ⅰ	2	高分子化学	2	流体力学Ⅱ	2	電気回路Ⅰ	2
	電磁気学Ⅱ	2	香粧品科学	2	工業技術史	2	電気回路Ⅱ	2
	電子物性	2	資源循環工学	2	知能機械制御言語及び演習	2	電気回路Ⅲ	2
	電子デバイスⅠ	2	環境浄化工学	2	電気基礎学	2	電気回路Ⅳ	2
	電子デバイスⅡ	2	微生物学	2	知能機械制御工学	2	電気計測	2
	電子回路Ⅰ	2	遺伝子工学	2	ロボット工学	2	電気基礎学実験	2
	電子回路Ⅱ	2	応用微生物学	2	知能機械基礎実験Ⅰ	2	基礎物質工学	2
	電子回路応用	2	食品微生物発酵学	2	知能機械基礎実験Ⅱ	2	半導体工学	2
	電気電子回路実習	2	食品化学	2	基礎製図Ⅰ	2	電気機器Ⅰ	2
	電子計測	2	栄養化学	2	基礎製図Ⅱ	2	電気機器Ⅱ	2
	制御工学	2	食品分析学	2	材料力学Ⅰ	2	電気機器Ⅲ	2
	電子情報実験Ⅰ	2	環境物質工学実験	2	材料力学Ⅱ	2	電子回路Ⅰ	2
	電子情報実験Ⅱ	2	生命科学実験	2	知能機械設計Ⅰ	4	電子回路Ⅱ	2
	電子情報実験Ⅲ	2	食品分析学実験	2	知能機械設計Ⅱ	4	システム制御工学Ⅰ	2
	無線技術資格	2	ナノマテリアル化学	2	機械材料	2	システム制御工学Ⅱ	2
	コンピュータシステムⅠ	2	化学工学Ⅰ	2	機械工作法Ⅰ	2	電気エネルギーシステム工学Ⅰ	2
	プログラミング基礎	4	化学工学Ⅱ	2	機械工作法Ⅱ	2	電気エネルギーシステム工学Ⅱ	2
	応用プログラミング	2	固体物質工学	2	計測工学	2	電気エネルギーシステム工学Ⅲ	2
	デジタル信号処理	2	電気化学	2	技術者倫理	2	電気エネルギーシステム工学Ⅳ	2
	コンピュータシステムⅡ	2			CADシステム	2	電気機器設計・製図	2
	創成実験	2			デジタルエンジニアリング	2	電気応用	2
	電子工学基礎	2			機械力学Ⅰ	2	技術者倫理	2
	論理回路	2			機械力学Ⅱ	2	プログラミング言語	2
	制御基礎	2			知能機械創成実験	2	電気工学実験Ⅰ	2
	先端デバイス工学	2					電気工学実験Ⅱ	2
	プログラミング演習	2					エンジニアリングデザインⅠ	2
	応用デジタル信号処理	2					エンジニアリングデザインⅡ	4
	技術者倫理	2					メカトロニクスⅠ	2
	光エレクトロニクス	2					メカトロニクスⅡ	2
人工知能基礎と演習	2					現代制御	2	
物理・電子情報基礎実験	2					デジタル回路	2	
IoT基礎と演習	2					パワーエレクトロニクス	2	
情報ネットワーク基礎と演習	2							
電子情報工学総合	2							
○工学概論	2	○工学概論	2	○工学概論	2	○工学概論	2	
上記の科目から、教職課程必修科目を含み、合計30単位以上を修得すること。								
指 導 業	○職業指導	2	○職業指導	2	○職業指導	2	○職業指導	2

教職別表 2

〔工学部〕 教員免許（理科）に関する履修科目一覧

【高等学校教諭一種免許状（理科）】

(教職必修科目…○印の科目と学科の必修科目)

分野	学科	生命環境化学科		
		授業科目	単位数	
			必修	選択
物理学	物理学		2	
	基礎物理学	2		
化学	化学	2		
	化学と生活		2	
	無機化学Ⅰ	2		
	無機化学Ⅱ		2	
	物理化学Ⅰ	2		
	物理化学Ⅰ 演習	1		
	物理化学Ⅱ	2		
	物理化学Ⅱ 演習	1		
	物理化学Ⅲ		2	
	有機化学Ⅰ	2		
有機化学Ⅱ	2			
生物学	生物学	2		
	分子生物学		2	
	細胞生物学		2	
	生物化学Ⅰ	2		
	生物化学Ⅱ		2	
	生命と生態系		2	
地学	○地球科学		2	
[物理学実験、 化学実験、 生物学実験、 地学実験]	物理学実験		2	
	化学実験	2		
	生物化学実験	2		
	地球科学実験		2	
	機器分析化学実験		2	

上記の各分野の科目から、1単位以上、教職課程必修科目の全部を含め、合計32単位以上を修得すること。

【中学校教諭一種免許状（理科）】

(教職必修科目…○印の科目と学科の必修科目)

分野	学科	生命環境化学科		
		授業科目	単位数	
			必修	選択
物理学	物理学		2	
	基礎物理学	2		
化学	化学	2		
	化学と生活		2	
	無機化学Ⅰ	2		
	無機化学Ⅱ		2	
	物理化学Ⅰ	2		
	物理化学Ⅰ 演習	1		
	物理化学Ⅱ	2		
	物理化学Ⅱ 演習	1		
	物理化学Ⅲ		2	
	有機化学Ⅰ	2		
有機化学Ⅱ	2			
生物学	生物学	2		
	分子生物学		2	
	細胞生物学		2	
	生物化学Ⅰ	2		
	生物化学Ⅱ		2	
	生命と生態系		2	
地学	○地球科学		2	
物理学実験・ 化学実験・ 生物学実験・ 地学実験	○物理学実験		2	
	化学実験	2		
	生物化学実験	2		
	○地球科学実験		2	
	機器分析化学実験		2	

上記の各分野の科目から、1単位以上、教職課程必修科目の全部を含め、合計24単位以上を修得すること。

§ 2-1

教養力育成科目

§ 2-2

横断科目

§ 2-3

教職課程

§ 2-4

・AI教育
・AI教育プログラム
・AI教育プログラム

§ 2-5

6年一貫教育

§ 2-6

学修支援

§ 2-7

学習ポートフォリオ

教職別表 1

〔情報工学部〕 教員免許（数学）に関する履修科目一覧

【高等学校教諭一種免許状（数学）及び中学校教諭一種免許状（数学）】

(教職必修科目…○印の教職課程必修科目と学科の必修科目)

分野	学科	情報工学科		情報通信工学科		情報システム工学科	
		授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択
代数学		線形代数 I	2	線形代数 I	2	線形代数 I	2
		○線形代数 II	2	線形代数 II	2	線形代数 II	2
		離散数学	2	○代数学と暗号	2	○代数学と暗号	2
		○線形代数 III	2	代数学と符号化	2	数学演習	2
		○代数学と暗号	2			代数学と符号化	2
		代数学と符号化	2				
幾何学		○幾何学とマルチメディア	2	○幾何学とマルチメディア	2	○幾何学とマルチメディア	2
		応用幾何学	2	応用幾何学	2	応用幾何学	2
		○幾何学的情報数学	2				
解析学		解析 I	2	微分方程式とベクトル解析	2	解析 I	2
		○解析 II	2	複素関数論	2	解析 II	2
		○微分方程式	2	微分積分 I	2	○解析 III	2
		○複素関数論	2	微分積分 II	2	微分方程式	2
		○解析 III	2	情報伝送工学	2	情報解析学	2
						複素関数論	2
						システム制御工学 I	2
					システム制御工学 II	2	
統計学		確率統計論	2	○確率・統計	2	確率統計	2
				情報理論	2		
コンピュータ		○数値計算	2	プログラミング基礎 I	2	情報リテラシー	2
		オートマトンと形式言語	2	プログラミング基礎 II	2	応用プログラミング I	2
		Cプログラミング I	2	デジタル回路 I	2	応用プログラミング II	2
		デジタル信号処理	2	デジタル回路 II	2	計算機工学 I	2
		○情報理論	2	Webデータベース	2		
				デジタル信号処理 I	2		
			デジタル信号処理 II	2			

高等学校教諭一種免許状（数学）：上記の各分野の科目から、教職課程必修科目を含め、1単位以上合計32単位以上を修得すること。
 中学校教諭一種免許状（数学）：上記の各分野の科目から、教職課程必修科目を含め、1単位以上合計24単位以上を修得すること。

教職別表 2

【情報工学部】教員免許（情報）に関する履修科目一覧

【高等学校教諭一種免許状（情報）】

(教職必修科目…○印の教職課程必修科目と学科の必修科目)

分野	情報工学科		情報通信工学科		情報システム工学科		情報マネジメント学科	
	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択	授業科目	単位数 必修 選択
情報社会 ・職業に関する 内容を 含む。	市民生活と法	2	市民生活と法	2	市民生活と法	2	市民生活と法	2
	情報技術者倫理	2	○技術者倫理	2	○情報技術者倫理	2	知的所有権と法	2
	○情報職業論	2	○情報職業論	2	○情報職業論	2	○情報倫理	2
			通信法規	2			○情報職業論	2
							経営システム論	2
							e-ビジネス論	2
							社会調査のためのデータサイエンス	2
							科学分析のためのデータサイエンス	2
コンピュータ・ 情報処理	データ構造とアルゴリズム	2	計測工学 I	2	電子工学基礎	2	プログラミング入門	2
	Cプログラミング II	2	計測工学 II	2	論理回路	2	プログラミング I	2
	情報工学実験 I	2	情報通信基礎実験	4	センサ情報処理	2	情報リテラシー	2
	情報工学実験 II	2	Webデザイン	2	Cプログラミング I	2		
	ソフトウェア工学 I	2	コンピュータソフトウェア実験	2	Cプログラミング II	2		
	ソフトウェア工学 II	2	○データ構造とアルゴリズム	2	○データ構造とアルゴリズム	2		
	オペレーティングシステム	2	オブジェクト指向プログラミング I	2	基礎ロボット工学	2		
	システムLSI	2	オブジェクト指向プログラミング II	2	○知能ロボット工学	2		
	JAVAプログラミング I	2	スクリプト言語プログラミング II	2				
	JAVAプログラミング II	2						
HCIプログラミング	2							
情報システム	人工知能基礎	2	コンピュータ工学	2	人工知能	2	データ構造とアルゴリズム	2
	情報工学実験 III	2	情報通信応用実験	4	○システム開発応用	2	情報数理入門	2
	情報工学実験 IV	2	情報セキュリティ I	2			○ソフトウェア開発	2
	○データベース	2	情報セキュリティ II	2				
	人工知能応用	2	情報交換システム	2				
	ロボティクス	2	電子回路 I	2				
			電子回路 II	2				
情報通信ネットワーク	情報ネットワーク	2	モバイルコミュニケーション工学	2	○情報ネットワークシステム	2	データベース	2
	ネットワークプログラミング	2	ネットワークプログラミング	2			情報マネジメント実践演習	4
	○情報セキュリティ	2	情報通信工学 I	2				
	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	情報通信工学 II	2				
			アンテナ工学	2				
			電磁波伝搬	2				
			情報ネットワーク I	2				
			情報ネットワーク II	2				
			ネットワークシステム I	2				
マルチメディア表現・ マルチメディア技術	○マルチメディア工学	2	○スクリプト言語プログラミング I	2	○画像処理工学	2	○メディア科学 I	2
	コンピュータグラフィックス	2	パッチャルデザイン	2	○マルチメディアWeb技術	2	メディア科学 II	2
	○画像情報処理	2	Webプログラミング	2	情報システム工学概論	2	WEBデザイン	2
	パターン認識	2			コンピュータグラフィックス	2		
	自然言語処理	2						
	音情報処理	2						

上記の各分野の科目から、教職課程必修科目を含め、1単位以上合計32単位以上を修得すること。

§ 2-1 教養力育成科目
§ 2-2 横断科目
§ 2-3 教職課程
§ 2-4 数値・データサイエンス
・AI教育プログラム
§ 2-5 6年一貫教育
§ 2-6 学修支援
§ 2-7 学習ポートフォリオ

教職別表

〔社会環境学部〕 教員免許に関する履修科目一覧

【高等学校教諭一種免許状（公民）及び中学校教諭一種免許状（社会）】 （教職必修科目…○印の教職課程必修科目と学科必修科目）

分野	授業科目	単位数	
		必修	選択
1 日本史・外国史	九州学		2
	○歴史学概論		2
	国際関係史		2
2 地理学 (地誌を含む。)	○地理学概論		2
	空間情報学Ⅰ		2
	環境地理学		2
3 「法律学 (国際法を含む。)、 政治学 (国際政治を含む。)」	人権論		2
	情報法		2
	○民法Ⅰ		2
	民法Ⅲ		2
	国際法Ⅰ		2
	○国際法Ⅱ		2
	環境政策Ⅰ		2
	環境政策Ⅱ		2
	政治学Ⅰ		2
政治学Ⅱ		2	
4 「社会学、経済学 (国際経済を含む。)」	○ミクロ経済学		2
	経営学概論	2	
	○環境経済学		2
	アジア経済論		2
	国際貿易論		2
	企業論		2
	マーケティング論Ⅰ		2
	環境社会学		2
5-1 「哲学、倫理学、宗教学」	○現代倫理		2
	環境民俗学		2
	人間存在と環境		2
5-2 「心理学」	心理学		2

高等学校教諭一種免許状(公民)のみ取得希望者は、上記の3から5までの各分野から、1単位以上、教職課程必修科目の全部を含め、合計32単位以上を修得すること。中学校教諭一種免許状(社会)も取得希望者は、上記の1から5-1までの各分野から、1単位以上、教職課程必修科目の全部を含め、合計24単位以上を修得すること。

§ 2-4. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

1 AI データサイエンス基礎 (教養力育成科目)

近年、AI データサイエンスの知識を基盤とし、データ解析とエビデンスに基づく意思決定が個人に求められるようになってきています。教養力育成科目の「AI データサイエンス基礎」は、デジタル社会の基礎知識となるリテラシーレベルの素養を身につける科目として全学共通で開講しています。

〔教養力育成センター〕

レベル区分	教養力育成センター			
	科目名	学年	学期	必修・選択
リテラシー	AI データサイエンス基礎	1	前期または後期、または両方	選択

2 応用基礎教育プログラム科目一覧

本学では、数理的な考え方にに基づき、様々なデータを適切に収集・分析・可視化するスキルを学修し、実践の体験を通して、数理・データサイエンス・AI 活用の一連のプロセスと実践力を身に付けることができる教育プログラムを各学部で設けています。詳細は、学生便覧の「数理・データサイエンス・AI 応用基礎教育プログラム要領」を参照してください。

→ § 9-5. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム要領 P.238

〔工学部〕

学修項目		教育プログラムを構成する授業科目			
		電子情報工学科	生命環境化学科	知能機械工学科	電気工学科
Ⅰ. データ表現とアルゴリズム	1-6 数学基礎	初等統計学 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 電子情報基礎数学 電子情報数学	応用数学 統計解析 線形代数 解析Ⅰ 解析Ⅱ	計測工学 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 数学基礎演習 解析Ⅰ及び演習 解析Ⅱ	線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 電気基礎数学 解析Ⅰ 解析Ⅱ
	1-7 アルゴリズム	プログラミング演習	※他学科履修	知能機械制御言語及び演習 数値解析	※他学科履修
	2-2 データ表現	デジタル信号処理 応用デジタル信号処理	※他学科履修	知能機械制御言語及び演習	※他学科履修
	2-7 プログラミング基礎	応用プログラミング	コンピューター言語	知能機械制御言語及び演習 数値解析	プログラミング言語
Ⅱ. AI データサイエンス基礎	1-1 データ駆動型社会とデータサイエンス		※他学科履修	知能機械制御言語及び演習	※他学科履修
	1-2 分析設計	初等統計学	統計解析	確率と統計★ 知能機械基礎実験Ⅰ★ 知能機械基礎実験Ⅱ★	
	2-1 ビッグデータとデータエンジニアリング	IoT 基礎と演習		知能機械制御言語及び演習	
	3-1 AI の歴史と応用分野	人工知能基礎と演習 応用デジタル信号処理	※他学科履修	人工知能概論 知能機械制御言語及び演習	
	3-2 AI と社会				
	3-3 機械学習の基礎と展望				
	3-4 深層学習の基礎と展望				
3-9 AI の構築と運用					
Ⅲ. AI データサイエンス実践	AI データサイエンスに関する演習	AI データサイエンス実践	AI データサイエンス実践	AI データサイエンス実践	AI データサイエンス実践

★他学科履修不可科目

※他学科科目の履修は、工学部履修要項第19条 参照

〔情報工学部〕

学修項目		教育プログラムを構成する授業科目				
		情報工学科	情報通信工学科	情報システム工学科	情報マネジメント学科	
Ⅰ. データ表現とアルゴリズム	1-6 数学基礎	確率統計論 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 線形代数Ⅲ 解析Ⅰ 解析Ⅱ 解析Ⅲ	確率・統計 線形代数Ⅰ 微積分Ⅰ	確率統計 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 解析Ⅰ 解析Ⅱ	離散数学Ⅰ 社会調査のためのデータサイエンス 線形代数 基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ 解析学	
	1-7 アルゴリズム	データ構造とアルゴリズム	データ構造とアルゴリズム	データ構造とアルゴリズム	データ構造とアルゴリズム	
	2-2 データ表現	データエンジニアリング	Webプログラミング	確率統計 情報技術史 画像処理工学	メディア科学Ⅰ 離散数学Ⅰ 離散数学Ⅱ	
	2-7 プログラミング基礎	CプログラミングⅠ CプログラミングⅡ	プログラミング基礎Ⅰ プログラミング基礎Ⅱ	CプログラミングⅠ CプログラミングⅡ	プログラミング入門 プログラミングⅠ	
Ⅱ. AIデータサイエンス基礎	1-1 データ駆動型社会とデータサイエンス	データエンジニアリング	※他学科履修	確率統計	オペレーションズ・リサーチⅠ 統計学への誘い	
	1-2 分析設計			確率統計 情報技術史	統計学への誘い	
	2-1 ビッグデータとデータエンジニアリング	人工知能基礎	※他学科履修	人工知能	人工知能	
	3-1 AIの歴史と応用分野					※他学科履修
	3-2 AIと社会					※他学科履修
	3-3 機械学習の基礎と展望			スクリプト言語プログラミングⅡ		
	3-4 深層学習の基礎と展望			※他学科履修		人工知能 画像処理工学
3-9 AIの構築と運用	※他学科履修	人工知能				
Ⅲ. AIデータサイエンス実践	AIデータサイエンス実践	AIデータサイエンス実践	AIデータサイエンス実践	AIデータサイエンス実践		

※他学科科目の履修は、情報工学部履修要項第19条 参照

〔社会環境学部〕

学科・センター	授業科目	年次
社会環境学科	社会統計学	1
	社会調査法	2
教養力育成センター	AIデータサイエンス基礎	1

§ 2-5. 6年一貫教育

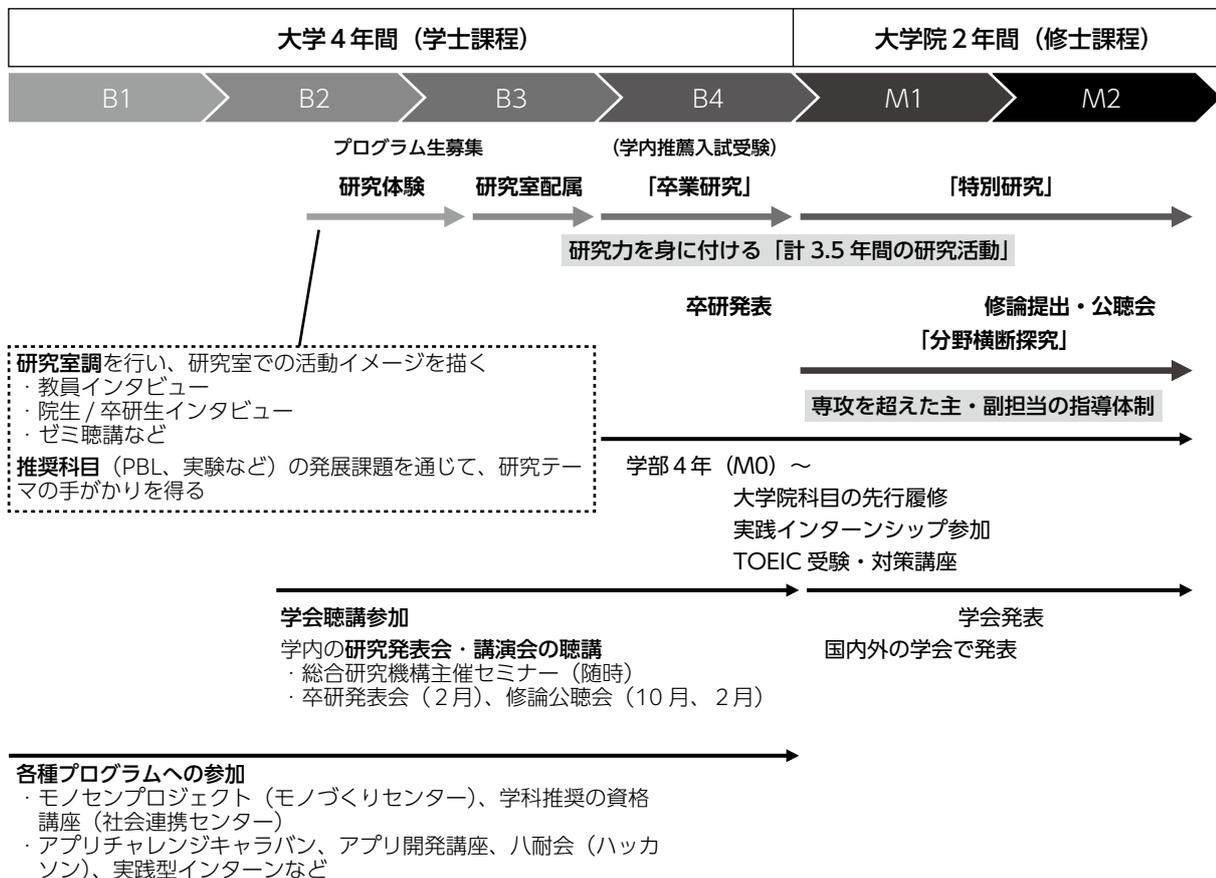
1 FIT-Tech プログラム

本学では、より高度な技術者を育成するため、大学4年間と大学院2年間を連結した6年一貫教育「FIT-Tech (Top Engineer Challenge) プログラム」を実施しています。本プログラムでは、学部の早い時期から研究活動に触れる機会を設けることで、自分の研究意欲や適性を確認しつつ関心ある研究分野やテーマを明らかにしていきます。その上で、遅くとも3年次後期から研究室での活動を開始し、大学・大学院で「計3.5年間」のシームレスな活動により、高い成果が期待できる深い研究への取組みが可能になります。さらに、大学院では学科・専攻を超えた指導教員による分野横断的な教育研究により、“T字型人材”^{*}として新たな研究テーマを創出するなど、国立大学を凌ぐ研究力をもつ高度な技術者を目指します。

長期的展望を踏まえた学修・研究計画を立てることができるため、学部4年次には卒業研究に取り組みつつ、大学院科目の先行履修やインターンシップへの参加、語学力の強化など、幅広い分野へのチャレンジができます。また、本プログラムに参加することで、大学院進学時の授業料が免除される学業特待生の選考においても有利になるため、進学を目指す方にとって大きなメリットがあります。

本プログラムには、学部2年次以上の学生のうち、学業成績または学科の推薦により応募できます。まずは2年次後期からの「研究体験」活動に参加ください。

※T字型人材は、専門分野については縦に深く素養を備えつつ、横に広く色々な知識をもっている人材のことを指します。



※研究室配属の時期など、プログラム内容は学科により異なります。

§ 2-1 教養力育成科目
§ 2-2 横断科目
§ 2-3 教職課程
§ 2-4 数・AI教育プログラム
§ 2-5 6年一貫教育
§ 2-6 学修支援
§ 2-7 AL学習ポートフォリオ

§ 2-6. 学修支援

1 クラス担任・オフィスアワー

各学科、学年クラス・ゼミナール毎に担当教員が定められており、皆さんの学修上の助言や指導を担います。

また、各授業科目の担当教員があらかじめ定めた時間に研究室で待機して、授業内容の疑問や関連する質問に応じるためにオフィスアワーを設けています。各教員のオフィスアワーの時間は、myFIT や授業科目のシラバスに記載されていますので、自ら研究室を訪ね、大いに活用してください。なお、非常勤講師の場合は、授業の前後に直接相談してください。

また、教務課においても、修学の相談や履修アドバイスをを行っていますので気軽に申し出てください。

2 学習支援センター (FIT-in^{フィットイン} サポート)

学習支援センター (E 棟3F Cultivation サイト) では、主に数学やレポート作成、英語、物理などの専門基礎について、スタッフや先輩学生 (ラーニングアシスタント) による学習相談窓口 (FIT-in サポート) を設けています。ひとりでも、友人とでも気軽に利用できます。詳しくは myFIT などの案内を確認ください。

→ § 8-1. 施設案内 P.174

3 学びの振り返りアンケート

本学では、学生のみなさんが授業の振り返りを行い、自身の成長に活用してもらうために毎に学びの振り返りアンケートを行っています。また、回答結果を教育点検活動の指標として次年度のカリキュラム改善に役立っているなど、大学の授業改善に活用しています。学生のみなさんは、履修している全ての科目について、今

期の学習姿勢と何を学んだかを振り返り、アンケートに回答してください。

4 学生授業サポート制度

本学では、大学院生および学部学生が先輩学生として授業をサポートする活動に取り組んでおり、実験・実習科目および演習科目においては、大学院生が TA (ティーチング・アシスタント)、学部学生が SA (スチューデント・アシスタント) として、教員と共に受講生に助言を行うなどして教育効果の向上を図っています。また、アクティブ・ラーニングを実施する演習科目および講義科目においては、学部学生が CS (クラス・サポーター) として、グループ学習やピアラーニングのファシリテートおよび助言などを行い、受講生同士が互いに協力しながら学び合う取組を行うことで、知識の定着および能動的な学習態度の涵養を図っています。また、こうした活動は TA・SA・CS 自身の学習深化に繋がるとともに、活動を通じて得られた学びや気付きは、大学生活や将来に向けてのキャリアデザインや、就職活動を行う中で、役立てることが出来ます。

§ 2-7. AL・学習ポートフォリオ

1 アクティブ・ラーニング

本学では、実践型人材の育成を目指して、全学的にアクティブ・ラーニング（AL）を推進しています。本学におけるALは、学生の意見表明および振り返りを基本的な要素とする授業・学習形態のことであり、具体的には、グループ学習、グループディスカッション、体験学習、課題解決学習などを取り入れた授業を行います。

講義形式の授業だけでなく、教員と学生の双方向性が確保された授業の中で、自分の意見を積極的に述べたり、学生同士で積極的にコミュニケーションを行ったりすることにより、授業理解が深まるとともに、実践型人材に欠かせない汎用的スキル（社会で役立つ力）を身に付けることができます。

2 学習ポートフォリオ フィットエイム (FIT-AIM)

学習ポートフォリオは、大学生活の中で履修した授業での学習目標の達成具合や課外活動の成果などを自ら記録し振り返ることによって、自分の成長を感じ取ったり、新たな課題を発見したりしながら、最終的には4年間の学習成果として、どのようなことを学び、どのようなことができるようになったかを確認できるシステムです。

学習ポートフォリオの活用を通じて、自分の目標を定め、それに対する学期ごとの目標設定および振り返りを行うことで、学習への自己調整力を高めることができます。

3 授業実施方法と受講の心構え

・対面授業

通常の授業は、講義室での対面授業で実施し

ます。高校とは違って、大講義室での大人数の授業や少人数ゼミなどいろいろな形式があります。基本は出席して授業を聞くことですが、予復習など、授業外の学習も授業理解に必要な取組です。科目によっては授業動画やスライド音声を予復習に活用できるようになっています。分からないところは何度も見返すことができるため自分のペースで授業理解を深めることができます。

・遠隔授業（オンライン授業）

PCやスマホなどでインターネット環境を活用した授業を遠隔授業（オンライン授業）といいます。本学では、対面授業を基本としておりますが、必要に応じて一部を遠隔授業で実施する場合があります。遠隔授業で実施される科目は、シラバスの授業計画欄に遠隔授業について記載があります。

遠隔授業（オンライン授業）であっても、教員が一方向的に講義を行い、受講生はただ動画を視聴して完了するわけではありません。授業の中で、演習問題を解いたり、感想や意見を言ったりすることで教員と受講生との双方向性を確保します。また、学生同士がグループで議論したり教え合ったりする代わりに、my FIT クラスプロファイルの掲示機能を用いたやり取りを行います。

従来の教室での授業では、物理的に近くの席の受講生との接点が多くなりますが、遠隔授業（オンライン授業）では受講生全員と等しく関わることができます。一方で、遠隔授業では隣に直接話ができる人がいない分、自ら進んで関わろうとしないと、理解を深めたり能力を修得したりすることは難しいでしょう。どうか学生同士での学び合いの機会を大切にしてください。

§ 3

修学

§ 3-1	授 業	38
	1 授業科目 2 授業時間 3 単位 4 休講・補講	5 出席・欠席 6 再履修 7 コース 8 注意が必要な科目
§ 3-2	履修登録	42
	1 履修登録の流れ 2 履修登録期間 3 教務課窓口で申請が必要な科目	4 CAP 制（履修登録上限） 5 習熟度別クラス 6 注意事項
§ 3-3	試 験	45
	1 単位の取得について 2 学期末試験 3 試験上の注意	4 不正行為 5 追試験
§ 3-4	成 績	47
	1 成績発表 2 成績評価・評価基準 3 GPA	4 記載内容について 5 単位認定 6 成績の取り扱い
§ 3-5	進級・卒業	51
	1 進級条件 2 卒業要件	3 留年 4 進級・卒業判定通知
§ 3-6	学籍異動	53
	1 修業年限と在学年限 2 休学 3 復学 4 退学	5 除籍 6 再入学 7 転学部・転学科 8 研究生、科目等履修生
§ 3-7	単位互換	55
	1 放送大学との単位互換について 2 協定校との国際交流	
§ 3-8	資 格	56
	1 認定校として認可を得ている資格 2 取得を支援している資格	

§ 3-1	授 業
§ 3-2	履修登録
§ 3-3	試 験
§ 3-4	成 績
§ 3-5	進級・卒業
§ 3-6	学籍異動
§ 3-7	単位互換
§ 3-8	資 格

§ 3-1. 授 業

1 授業科目

■授業科目の区分

- ・教養力育成科目
- ・専門基礎科目（工・情）
- ・専門教育科目

■授業科目の種類

- ・必修科目…卒業までに必ず修得しなければならない科目
- ・選択科目…希望により選択履修する科目
- ・コア科目…必修科目のうち、指定された年次進級までに修得すべき科目
- ・認定科目…成績評価を行わず、単位の認定のみ行う科目

→ § 3-4. 5 単位認定 P.50

■開講科目

- ・通年科目（通年講義）…前期・後期の1年を通じて開講される科目
- ・前期科目（前期完結講義）
- ・後期科目（後期完結講義）
- ・集中講義…前期、後期または夏休み中に短期間集中して開講される科目
- ・特別講義（臨時講義）

■授業形態

講義、演習、講義・演習、実験、実習、実験・演習、実技、ゼミナール、研究、遠隔授業

■カリキュラム

学生は、自分の所属学科の入学年度のカリキュラムに従って履修します。原則として、入学年度以降の年度のカリキュラムが適用されることはありません。

■授業の開講

各科目は、履修要項別表「年次別授業科目表」の通りに開講します。ただし、その年度によって開講時期を変更する場合があります。大学のホームページに掲載されている授業時間割を確認してください。なお、授業時間割は、原則として指定されたクラスの授業科目を受講します。

※在学年次より上位年次に開講される科目の履修はできません。

※履修登録人数が10名未満の科目は閉講となる場合があります。

※所属学科のカリキュラムにない科目を12単位を上限として履修することができます。

→ § 3-2. 3 教務課窓口で申請が必要な科目 P.43

（学則第28条、第31条、履修要項第2条、第12条～第15条（工・情）、第11条～第14条（社））

■シラバス（授業計画）

シラバスとは、各授業科目の教育目標や授業内容、開講時間、参考図書や成績評価の基準・方法や履修上のアドバイスなどを記載したものです。修学計画や履修登録の際に参考にしてください。シラバスは、myFIT で確認できます。

【シラバスの見方】

科目名	機械〇〇システム論				
学科	情報〇〇工学科	開講学年	3年	開講学期	2025年度前期
科目区分	選択	単位数	2単位	授業形態	講義 (AL)
担当教員 (カナ)	福岡 工大 (フクオカ コウダイ)	研究室	B棟7階	教職課程	
E-mail	〇〇〇〇@fit.ac.jp	実務経験			
キーワード	機械工学, 材料力学, 機械力学, 流体力学	関連リンク			
授業概要・目的	<p>工学では、要求されるニーズに適合するシステム、製品あるいはプロセスを上げるのが重要である。このシステムとは、身の回りの家電製品、ロボット、生体システム、輸送機械 (自動車・ロケット・航空機など)、動力機械 (発電プラント、エンジン、モーターなど)、製造設備 (化学プラント、製鉄プラントなど) の広い範囲の装置や設備を意味する。本授業では、情報システム工学の立場からの「ものづくり (システム作り)」を対象とし、設計・生産技術に關係する機械工学の基礎 (材料力学, トラス, 機械力学の基礎) を学習する。</p>				
DP	共通コンピテンシー	関与度 (%)	達成目標		
DP1	A 幅広い教養				
DP1	B 専門知識・技能	60	機械システム設計における、材料力学、構造力学、機械力学の基礎を理解できる。		
DP2	C ライフデザイン力				
DP2	D メタ認知・実現力				
DP3	E グローバルマインド	10	グループALで協力して授業演習を行うことができる。		
DP3	F 未来構想力	5	本授業の知見が、将来社会での情報システムと機械システムの融合 (IoT) の発展に、どのように寄与するか考えることができる。		
DP4	G デジタル力	25	機械システム設計における具体的な問題に対して、数理法則を用いて正しい数値計算結果を導出できる。		
DP4	H 発信力				
			授業内容 (*はAL実施)		
			授業外の学修内容		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 導入 (機械システム, ものづくりと機械工学) 工業材料基礎 (機械材料の種類, 特性など) 材料の強さ基礎 (引張, 圧縮) * 材料の強さ基礎 (剪断) * 材料の強さ基礎 (曲げ) * 材料の強さ基礎 (ねじり) * 総合演習 (前半) 理解度確認テストと解説 (前半) 骨組み構造 (トラスの基本) * 骨組み構造 (トラスの解析) * 機械力学基礎 (振動の基本 & 減衰のない振動) 等価ばねと運動方程式 機械力学基礎 (減衰のある振動) 総合演習 (後半) 理解度確認テストと解説 (後半) <p>*原則対面の形で授業を実施します。状況によっては遠隔授業に変更する場合があります。</p>				
ICTの活用	反転授業 (myFITでの事前学習資料および動画の視聴)				
BYOD (学生所持ノートパソコン)の活用	授業では、毎回ノートPCを持参し、myFITにアップロードした授業資料を各自のノートPCで閲覧しながら受講してください (資料の紙面配付は行いません)。				
教科書	自作PDF				
参考書	宮本・山本監修, 坪倉他7名著, 「学生のための初めて学ぶ機械工学」, 日刊工業新聞社, ISBN:978-4526050695				
履修に必要な知識・能力	<ul style="list-style-type: none"> 物理 (力学) 数学 (微分, 積分) ロボット設計の知識 (1年次) 				
関連科目	ロボット設計				

[科目区分]
必修、選択、コース必修の
区分で記載。

[授業形態]
講義、演習、実技、実験、実
習の区分で記載。
AL (アクティブラーニン
グ)の学修内容を含む授業
にはALと記載。
ALについては§2-6参照

[教職課程]
取得教員免許の種類。
教職課程については
§2-2参照

[実務経験]
担当教員に実務経験があ
る場合、「実務関連科目」
と表記され、詳細は「授業
概要・目的」に記載。

[達成目標]
この授業が各学科のディ
プロマポリシーとどう関
連しているか、また項目
ごとの達成目標について
記載。
DPについては各学科参
照

[授業計画]
授業の進度に即した
15(30)回の講義内容及
び予習・復習を含めた学
修について記載。
ALの学修を含む回に
は、*の表記で記載。

[ICTの活用]
当該科目におけるICTの
活用内容

[BYODの活用]
各自所持しているPCの
活用方法について記載。

[教科書]
授業を受講する上で必要
となる書籍等

[参考書]
参考書として示されてい
るものは図書館で閲覧
(一部除く)することが可
能。

[成績評価方法]
授業の成績をどのような
観点から、何によって、
どのような割合で評価す
るかを記載。

[オフィスアワー]
予約なしで担当教員に授
業内容などの質問ができ
る時間。§2-5参照

[学びの振り返りアンケート]
昨年度のこの授業の学生
アンケート結果を掲載。
履修のアドバイスを活用
できる。

§ 3-1 授業
§ 3-2 履修登録
§ 3-3 試験
§ 3-4 成績
§ 3-5 進級・卒業
§ 3-6 学籍異動
§ 3-7 単位互換
§ 3-8 資格

2 授業時間

1年は前期と後期の2期に分かれ、授業はそれぞれ15週にわたり行われます。

■授業時間（1時限90分）

1限	9:00～10:30
2限	10:40～12:10
3限	13:00～14:30
4限	14:40～16:10
5限	16:20～17:50

→ §3-3. 2 学期末試験 P.45

3 単位

授業科目を所定の時間履修し、試験に合格することによって、それぞれの授業科目に付与されている単位が認定されます。

授業科目の単位数の計算は、原則として各期毎週1時限×15週の授業をもって2単位とし、毎週1時限（2時間）の授業（講義・演習）に対して、授業外において4時間の学修（予習、復習、課題等）を行うものとし、実験・実習については、毎週2時限（4時間）の授業と2時間の授業外での学修をもって2単位とします。つまり、2単位の授業科目を履修するためには、授業内外で90時間の学修が求められています。

※単位数の計算では、1時限を2時間に換算します。

→ §3-3. 1 単位の取得について P.45

（学則第29条、第32条、履修要項第5条（工・情）、第5条（社））

4 休講・補講

■休講

科目担当教員が都合により授業を実施できない場合は休講となり、myFITにて連絡されます。また、緊急の場合は職員が教室にて直接連

絡します。

なお、授業時間の開始30分を経過しても科目担当教員が入室しない場合は、教務課に連絡し指示を受けてください。

→悪天候時の授業実施については、
§1-3. 4 悪天候時の授業実施 P.8

■補講

授業が休講となった場合には、必ず代替りの授業が行われます。これを補講といいます。この場合は事前にmyFITにて連絡されます。なお、毎月1回土曜日を補講日に設定しています。

→今年度の補講日については、§1-5. 年間行事予定 P.14

5 出席・欠席

試験の受験資格の一つとして、授業への出席が講義回数の2/3以上であることを原則としています。

本学では、大半の講義室にIC出欠管理システムを導入しており、入室時に学生証をICカードリーダーにかざすと出席登録されます（各時限開始10分前から受付開始）。必ず学生証持参の上、カードリーダーにかざしてください。学生証を忘れると出席登録ができません。やむをえず学生証を持参できなかった場合は、「出席登録依頼書」（E棟学生サポートセンターに用意）に必要事項を記入し、仮学生証提示の上、各科目担当教員に提出してください。（最終的な出席登録は各担当教員の判断によります）

→仮学生証については、§1-3. 1 学生証 P.7

なお、遅刻の判定時間や欠席の取扱い方については、授業によって判断基準が異なりますので、各教員の指示に従ってください。

また、本学では、病気、忌引き、課外活動、就職活動等による欠席を公的なものとして扱う公欠制度はありません。やむを得ず授業欠席の場合は、各科目担当教員にシラバスに掲載されているE-mailへ連絡してください。次回の授

§ 3-1	授業
§ 3-2	履修登録
§ 3-3	試験
§ 3-4	成績
§ 3-5	進級・卒業
§ 3-6	学籍異動
§ 3-7	単位互換
§ 3-8	資格

業受講時に「欠席理由届書」(E棟2階の学生サポートセンターで配布。就職活動による欠席理由届書は就職課で配布。)と欠席事由を証明するものを提出し、当日行われた授業内容を確認し、配布資料や提出物等について指示を受けてください。

また、インフルエンザなどの学校感染症と診断され、出席停止期間が指示された場合は、学生課へ電話連絡してください。

6 再履修

成績の合否に関わらず、当年度履修した履修済みの科目を次年度以降に再度履修することができます。これを再履修といいます。再履修の受講者を対象とした「再履修クラス」が開講される場合は、指定されたクラスで受講してください。

→再履修科目登録時の注意事項については、以下を確認してください。
§ 3-2. 3 教務課窓口で申請が必要な科目 P.43

(履修要項第31条(工・情)、第29条(社))

7 コース

技術者教育を目的とする教育プログラムを行うため、学科においてコースを設定しています。(情)情報通信工学科)また、指定コース制の履修目標とする教育プログラムとして、社会環境学科においてコースを設定しています。各コースの内容やコース選択の時期や条件は、学科毎の教育プログラム要領に定めています。

→ § 5-2. § 6. 5 履修上の注意 II. コース

8 注意が必要な科目

■習熟度別クラス

英語科目と専門基礎科目の一部において、学生の習熟度別に授業を行う場合があります。

→ § 3-2. 5 習熟度別クラス P.44

■卒業研究(工学部、情報工学部)

4年次では「卒業研究」が必修科目になっており、卒業に向けた専門的な研究を行います。卒業研究の目的は、選定した研究テーマについて個々にあるいはグループで自主的に研究を進め、問題を解決していき、得られた成果を発表し論文としてまとめることで、将来技術者として自立するための素養を養うことにあります。

4年次生の授業時間割表では、特に卒業研究の時間を特定してはいませんが、講義が入っていない時間は、原則として卒業研究に当てることになります。また、卒業研究では5限目以降や、夏季及び冬季休業中にも研究を行う必要がある場合があります。また、自主的な研究活動に加え、各研究室単位でゼミが開講される場合があります。

なお、協定校(日本語センター)からの留学生は、日本語能力試験(N2)に合格しなければ、卒業研究を履修することができません。

■ゼミ(社会環境学部)

ゼミ(ゼミナール)は、自らが課題を発見し、継続的に学修する環境を整えるために、1年次から3年次までコア科目として配置され、4年次では必修科目として配置され、卒業に向けて専門的な研究を行います。ゼミの目的は、自己の関心領域に基づき、各年次で修得した教養や専門の知識を総合化し、環境問題の解決に向けて、修得した知識を活用できるようにすることにあります。

また、少人数というゼミの特色を活かして、担当教員と研究上だけでなく、生活上の悩みなど諸問題の議論を通じて、豊かな教養と人間的素養を身に付けるよう努めてください。

§ 3-2. 履修登録

1 履修登録の流れ

授業科目を履修し、その単位を修得するためには、履修登録が必要です。

履修登録は、次の1～6の手続きを所定の期間内に完了させて下さい。所定の期間外の申請は原則として受け付けられません。

(履修要項第16条～第18条 (工・情)、第15条～第17条 (社))

1. 履修計画を立てる

履修要項別表「年次別授業科目表」、授業時間割およびシラバスで開講科目や授業内容を確認し、履修科目を選択してください。年間で登録できる科目数には上限 (CAP 制) がありますので、前期履修登録期間に1年間の履修計画をしっかりと立てるようにしてください。

計画の立て方については、オリエンテーション時の各学科や教務課からのガイダンスを確認してください。

実際に授業を受けて授業の目的や内容把握を行い、履修登録期間内に履修する授業科目を確定してください。

【留意点】

- ・ 進級条件・卒業要件

→ § 3-5. 進級・卒業 P.51

- ・ CAP 制

→ § 3-2. 4 CAP 制 (履修登録上限) P.43

- ・ GPA

→ § 3-4. 3 GPA P.47

※カリキュラム改訂等に伴い、翌年度以降に一部の授業科目が開講されない場合があります。その際は「代替科目表」にて対応する科目を確認してください。

2. myFITにて履修登録を行う (授業1週目まで)

前期の履修登録期間では、前期科目・通年科目の授業科目が登録でき、後期の履修登録期間では、後期科目のみ授業科目が登録できます。前期履修登録期間中に登録した通年科目の履修登録を後期期間中に削除することはできません。

ん。

※履修登録内容の変更 (追加・削除) は、履修登録期間内では何度でも行うことができます。

※履修登録の操作説明については、myFIT ログインページの「ドキュメント」からPDF資料や動画をご参照ください。

※教養力育成科目の選択科目は、履修者多数等の場合、抽選を行う可能性があります。

3. 「学生時間割表」を表示・印刷し、履修登録結果を確認する (授業1週目まで)

特に授業コードを確認してください。同じ科目名でも開講時限や担当教員が違えば授業コードも異なり、システム上、別の授業科目として登録されますので注意してください。

4. 教務課窓口で申請が必要な科目について手続きを行う (授業1週目まで)

→ § 3-2. 3 教務課窓口で申請が必要な科目 P.43

5. 必要に応じて、履修登録の修正を行う (授業2週目)

履修登録期間 (授業1週目) に登録した内容に不備がある場合、教務課に申請を行うことで履修登録の追加・削除を行うことができます。

申請の方法については、別途教務課からの案内を確認してください。

6. 必要に応じて、教務課で履修中止申請を行う (授業3～5週目)

指定された選択科目に限り、履修登録の中止申請ができます。履修中止した科目は成績評価の対象から外れ、GPAの算出対象外となります。

ただし、履修中止した科目の単位数は年間の履修登録上限数 (CAP 制) の上限には含まれますので、ご注意ください。

※履修中止の対象科目は、別途配信される案内を確認してください。

2 履修登録期間

■2025年度

履修登録期間	前期	4月2日(水) 7:00~ 4月14日(月) 23:00
	後期	9月16日(火) 7:00~ 9月30日(火) 23:00
講義開始日	前期	4月8日(火) ~
	後期	9月24日(水) ~

※システムのメンテナンスのため、深夜23:00~7:00は登録できません。23:00以前にログインし、23:00を過ぎて登録処理を実行した場合、登録内容は保証されません。翌日以降に再度登録内容を確認してください。

※履修登録期間の最終日は混雑が予想されます。早目の履修登録と確認を行ってください。

3 教務課窓口で申請が必要な科目

次の科目は、myFIT から履修登録または登録の完了ができません。履修登録期間内に別途、教務課窓口にて手続きを行ってください。

■他クラス科目

指定されたクラスの授業時間割ではない開講科目の受講を希望する場合は、「他クラス・他学科受講許可願」に科目担当教員の許可を受けて、教務課にて手続きが必要です。

(履修要項第19条(工・情)、第18条(社))

■他学科カリキュラム科目

所属学科のカリキュラムにない科目を受講する場合は、「他クラス・他学科受講許可願」に科目担当教員の許可を受けて、教務課にて手続きが必要です。

■集中講義

履修登録期間中は myFIT で登録できませんが、登録期間を過ぎても開講日までに「履修届」を提出することで追加・修正等行うことができます。

なお、「仕事理解型実習」(2年次)、「課題解決型インターンシップ」(3年次)については、募集説明会にて履修登録等の説明があります。

4 CAP 制 (履修登録上限)

本学では、履修する科目について、予習・復習を含む授業外の十分な学修時間を確保し、達成目標へ到達するために、1年間に履修登録できる単位数の上限を定めています。これをCAP 制といい、工学部及び情報工学部では49単位、社会環境学部では44単位を上限としますので、履修計画を立てる際に注意が必要です。

ただし、次の科目はCAP 制の除外科目となります。

- ・卒業単位に含まない科目
(教職課程に関する科目、所属学科のカリキュラムに設定されていない科目など)
- ・認定科目
※電子情報工学科及び情報システム工学科の除外対象は認定を受けた場合のみ

→ § 3-4. **S**単位認定 ■認定科目 P.50

なお、成績優秀者への取扱い等、教育的配慮から例外を認める場合があります。

5 習熟度別クラス

次の科目を履修する場合、原則として習熟度別に指定されたクラスを登録しなければなりません。

■教養力育成科目

1年次、2年次の英語科目は必修となっています。プレースメントおよびアチーブメントテストの結果によって、履修する科目が決まります。また、1年次の科目を再履修する場合は、前年度の履修科目に関わらず、Freshman English A または B を履修します。2年次の科目を再履修する場合は、前年度の履修科目に関わらず、2年次配当の科目から各自で履修するクラスを選択します。

1年次

前期：Freshman English A
Advanced English A
後期：Freshman English B
Advanced English B

2年次

前期：Essential English A
Communicative English A
後期：Essential English B
Communicative English B

■専門科目

学科の専門基礎及び専門教育科目のうち習熟度別にクラス分けして授業を行う場合があります。

→ §4~6. 各学科 履修上の注意 習熟度別クラス分け

6 注意事項

1. 定められた期間を過ぎての登録修正（追加・削除）の申し出には原則として応じられません。やむを得ない理由により履修登

録期間内に履修登録を行えない場合は、履修登録期間終了前に教務課に相談し指示を受けてください。

2. 毎年4月のオリエンテーションでの説明において詳細を確認してください。
3. 履修登録期間には、時間割や教室に関する変更や連絡が多数生じますので、myFITをよく確認してください。
4. 教養力育成科目の履修登録において、履修者多数の場合は抽選になる場合があります。詳しくは、教務課からの案内に従ってください。
5. 原則として、同一時限内の授業科目の重複登録は認められません。
6. 履修登録においてエラーが表示された場合は、授業時間割表やカリキュラム、代替科目表をよく確認してください。エラーが解除できない場合は、教務課に問い合わせてください。
7. 履修登録の誤り等により教務課から修正するよう指示された場合は、その指示に従ってください。

§ 3-3. 試 験

1 単位の取得について

履修科目の単位は、シラバスに記載された評価方法（筆記試験、レポート、成果発表など）の基準を達成することによって取得できます。評価は、各学期の授業内か学期末試験期間に行います。各々の授業科目の成績評価方法についてはシラバスで確認してください。

なお、次の事項に該当する者は、試験を受けることはできません。

1. 休学中の者や停学処分中の者
2. 当該授業科目の履修登録を行っていない者
3. 出席不足やその他の理由により当該科目の担当教員が受験資格を認めていない者
4. 授業料等の学納金を完納していない者
5. 学生証を携帯していない者
6. 試験開始後20分以上遅刻した者

（学則第32条、履修要項第20条～第22条（工・情）、第19条～第21条（社））

2 学期末試験

■学期末試験期間

学期末試験は、15週の講義終了後の第16週目に実施されます。myFIT で確認してください。

3 試験上の注意

学期末試験は、指定された教室で受けなければなりません。

着席したら学生証を机の上に提示してください。学生証を提示しない者は、受験を認めません。ただし、学生証を忘れた場合は、試験開始前までに証明書発行機で仮学生証を発行した上で、受験することができます。

→ § 1-3. ■学生証 P. 7

試験を受ける時は、次の各項の注意事項をよく読んで、正しい態度で臨んでください。

なお、試験上の注意事項は、学期中の全ての試験に適用されます。

■試験上の注意

- ① 試験は、すべて監督者の指示に従ってください。
- ② 座席指定がある教室においては、名簿の指定番号を確認のうえ、指定番号の机に着席してください。
- ③ 学生証は、机の上に提示してください。学生証の提示なく試験を受けることはできません。学生証を不携帯の者は、B棟2階情報基盤センター前あるいはE棟2階学生サポートセンター内に設置してある証明書発行機で仮学生証を発行してください。
- ④ 筆記用具（鉛筆・シャープペンシル・消しゴム）及び持ち込みを許可された物以外は、すべてカバンに収納し、椅子の下に置いてください。その際、携帯電話（スマートフォン）等の電子機器類は、電源を切り、必ずカバンに入れてください。
- ⑤ 試験時間は、各教室において、監督者が指示した時刻から60分間です。（科目により90分試験あり。）
- ⑥ 試験開始から20分以上遅刻すると、受験できません。
- ⑦ 試験開始後の途中退室はできません。
- ⑧ 問題用紙の持ち帰りは、許可がない限り禁止します。
- ⑨ 答案用紙の回収が終わり、監督者が指示するまでは入退室できません。
- ⑩ 不正行為または不正行為と疑われる行

§ 3-1

授業

§ 3-2

履修登録

§ 3-3

試験

§ 3-4

成績

§ 3-5

進級・卒業

§ 3-6

学籍異動

§ 3-7

単位互換

§ 3-8

資格

為を行ってはいけません。

- ⑪ 不正行為または不正行為と疑われる行為を行った場合、試験監督から「警告書」「不正行為通知書」によって指示が出される場合があるので、その指示に従ってください。

【警告書】

気を付けてください！

- 他の受験者の迷惑になる行為
 監督者の指示に従わない行為
 不正行為に見えるような行為
※そのままの状態では監督者の指示に従ってください
 その他()

《改善されない場合は、不正行為となります！》

【学生に提示後、試験監督者記載】
 (日時) _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 時 (学籍番号) _____
 (理由)

※該当事項を☑して学生に提示して下さい。

【不正行為通知書】

あなたの行為は不正行為です！

あなたは、不正行為をしましたので、試験を続けることができません。
 試験終了まで、この場で待機して下さい。
 試験終了後、教務課に同行してもらいます。

【学生に提示後、試験監督者記載】
 (日時) _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 時 (学籍番号) _____
 (理由)

4 不正行為

シラバスに記載された成績評価にかかわる試験等において、不正行為が行われたと認定された場合は、原則として当該学期に評価される全履修科目の評点が0点になります。

なお、不正行為とは、次に掲げる行為等です。

- (1) 他の学生の答案を見る行為並びに他の学生に答案を見せる行為

- (2) 答案用紙のすり替え行為
 (3) 本人に代わって受験、又は受験させる行為
 (4) 他者の文章・データ・調査結果等を盗み取り、適切な引用処理を行わず自分の物として提出・発表するといった盗用・剽窃行為
 (5) 使用が許可されていない、紙片・図書・ノート・ファイル・複写物・印刷物・用具・スマートフォン・計算機等の使用や身の回りに所持する行為
 (6) 試験監督者の指示・注意等に従わない行為並びに試験監督の業務を妨害する行為
 (7) 答案を持ち帰る行為
 (退室後の答案用紙の提出は、いかなる理由であっても一切認められません。)
 (8) 指定された場所以外で受験する行為
 (9) その他、前各号に準ずる行為

5 追試験

病気その他やむを得ない事由により試験を受けることができない学生に対して、本人の願い出により追試験を行うことがあります。ただし、願い出た者が必ず許可されるとは限りません。「欠席理由届書」と試験を受けられない事由を証明するもの(病院の診断書・領収書のコピー、交通機関の遅延証明書等)を科目担当教員または教務課に提出し、その後の指示に従ってください。

(履修要項第27条～第30条(工・情)、第25条～第28条(社))

§ 3-4. 成績

1 成績発表

各学期の履修科目の成績は、成績発表日に myFIT にて発表します。「成績照会」画面で最新の成績が確認できます。

なお、「学業成績確認表」は適時更新され、myFIT にて閲覧することができます。学科・学年毎の成績順位もその中で確認できます。

※成績評価について質問がある場合は、科目担当教員に直接申し出てください。(非常勤講師など直接申し出ることができない場合は、「成績確認申請書」を教務課へ提出ください。)ただし、成績変更の要求は受け付けません。なお、問い合わせの受付期間は原則として成績発表日から1週間以内とします。

2 成績評価・評価基準

履修した科目の成績評価は次のとおりです。なお、合否に関わらず再履修科目の成績評価は最新のものに上書きされます。

	合格				認定	不合格
評点	100~90	89~80	79~70	69~60	—	59~0
評価	秀	優	良	可	認定	不可
表示	秀	優	良	可	認	不

また、評価基準は次の通りです。

評価	評価基準
秀	達成目標を理想的なレベルで達成し、きわめて優秀な成果をおさめている
優	達成目標を理想的なレベルで達成している
良	達成目標を標準的なレベルで達成している
可	達成目標を最低限達成している
不可	達成目標を達成できていない

なお、合格または認定した科目については、その科目の単位が授与されます。

(学則第36条、履修要項第24条、第25条(工・情)、第22条、第23条(社))

3 GPA

GPA (Grade Point Average) とは、個々の科目の成績評価に基づき、履修した全科目に

おける1単位当たりの成績評価の平均値を表すものです。これにより、個々の学生の学修到達度を表す指標として、各学期および在学期間中の成績状況や学修プロセスを確認できます。

$$GPA = \frac{(\text{科目の単位数}) \times (\text{科目で得た最新のGP}) \text{の総和}}{\text{履修総単位数}}$$

※履修総単位数について、同一科目は重複して計算しない。

■ GP の換算

評価	秀	優	良	可	認定	不可
評点	100~90	89~80	79~70	69~60	—	59~0
GP	4	3	2	1	—	0

なお、次の科目は GPA の算定対象の除外科目となります。

- ・卒業単位に含まない科目
(教職課程に関する科目、所属学科のカリキュラムでない科目など)
- ・認定科目
※電子情報工学科・情報通信工学科及び情報システム工学科の除外対象は認定を受けた場合のみ

履修計画の際には、不用意な履修登録により授業外を含む学修時間の確保の妨げにならないよう、十分な検討が必要です。また、履修登録した科目は確実に履修し、単位取得に努めることが求められます。

また、合否に関わらず再履修科目の成績評価は最新のものに上書きされることから、不合格科目を再履修し合格することで学修到達度が向上したと見なされ、GPA の向上に繋がります。ただし、単位取得済み科目を再履修した際に前回よりも低い GP を修得した場合は、GPA の低下に繋がります。単位取得済み科目を再履修する際は、学修到達度を高める必要がある科目なのかどうかを熟慮した上で教務課への申請を行ってください。

4 記載内容について

「学業成績確認表」は、所属学科・コース（社会環境学科）のカリキュラムに設定されている全ての学科目が表記されています。そのうち現在までの履修科目についての評価や取得単位数などが表示されます。

なお、「学業成績証明書」には合格科目についての評価と取得単位数が記載されます。

→発行については、§7-1. ■証明書発行 P.158

※ myFIT「成績照会」では、履修科目や取得単位数は確認できますが、進級・卒業に必要な単位数、及び不足単位数は表示されません。

進級・卒業のための成績確認は「学業成績確認表」で行ってください。併せて、進級・卒業には学科独自の条件があるため、必ず入学年度の学生便覧を確認してください。

5 単位認定

■転入学・編入学

本学への転入学・編入学生が他の大学や短期大学、高等専門学校において修得した単位については、審査の上、本学の卒業要件となる授業科目および単位として認定されます。

■認定科目

指定された資格試験に合格、または所定の研修を修了することによって単位認定される授業科目があります。

各学科共通 教養力育成科目	「仕事理解型実習」 「課題解決型インターンシップ」 「海外研修」
工学部共通 (生命環境化学科を除く)	「国際工学実習」
(工) 電子情報工学科	「無線技術資格」 「情報技術資格」
(工) 電気工学科 専門教育科目	「電験理論」「電験電力」 「電験機械」「電験法規」
(情) 情報通信工学科 専門教育科目	「コンピュータ工学」 「情報技術資格」
(情) 情報システム工学科 専門教育科目	「情報技術資格Ⅰ」 「情報技術資格Ⅱ」
(情) 情報マネジメント学科 専門教育科目	「情報技術演習Ⅰ」 「情報技術演習Ⅱ」
全学部共通 横断科目	「Future Vision 講座」 「Future Vision 実践」

■単位互換

- ・協定校への留学にて履修した科目の単位を取得した場合、審査の上、30単位を上限として単位の振替が認められます。
- ・放送大学の特別聴講生として指定された科目の単位を取得した場合、審査の上、30単位を上限として単位の加算が認められます。

→ §3-7. 単位互換 P.55

(学則第33条～第35条)

6 成績の取り扱い

学業特別奨学生などの選考などの際に、成績の基準として GPA や平均点、取得単位数などが考慮されます。

※成績の基準に英語科目の成果を用いる場合、履修したクラスに重みをかけて換算を行う場合があります。ただし、重み付けの数値は学科で必要に応じて判断します。

§ 3-5. 進級・卒業

1 進級条件

【工学部】

1 → 2 年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年以上在学していること ・ 各学科の進級条件単位を修得していること 電子情報工学科：32単位以上 生命環境化学科：32単位以上 知能機械工学科：32単位以上 電気工学科：30単位以上 ・ 2年次の進級条件に指定されたコア科目の全単位を含む※
2 → 3 年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年以上在学していること ・ 各学科の進級条件単位を修得していること 電子情報工学科：72単位以上 生命環境化学科：70単位以上 知能機械工学科：68単位以上 電気工学科：64単位以上 ・ 3年次の進級条件に指定されたコア科目の全単位を含む※
3 → 4 年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年以上在学していること ・ 各学科の進級条件単位を修得していること 電子情報工学科：114単位以上 生命環境化学科：112単位以上 知能機械工学科：114単位以上 電気工学科：104単位以上 ・ 上記単位のうち専門基礎科目と専門教育科目62単位以上を含むこと（電子情報工学科は86単位以上（うち必修科目74単位以上）） ・ コア科目の全単位を含む※

※電子情報工学科、生命環境化学科、知能機械工学科において、コア科目が設定されています。

→ § 4. 各学科 履修上の注意 IV. その他

【情報工学部】

1 → 2 年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年以上在学していること
2 → 3 年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年以上在学していること ・ 64単位以上修得していること
3 → 4 年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年以上在学していること ・ 104単位以上修得していること、うち専門基礎科目と専門教育科目62単位以上を含む

※協定校（日本語センター）からの留学生は、日本語能力試験（N2）に合格しなければ、4年次の卒業研究を履修することができません。

（履修要項別表（工・情））

【社会環境学部】

1 → 2 年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年以上在学していること ・ 30単位※以上修得していること ・ 単年度の GPA1.2以上
2 → 3 年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年以上在学していること ・ 62単位※以上修得していること ・ 単年度の GPA1.2以上
3 → 4 年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年以上在学していること ・ 94単位※以上修得していること ・ 単年度の GPA1.2以上

※コア科目含む。

※コースにより進級条件が異なる場合があります。

→ § 6. 履修上の注意 II. コース

※教職科目は進級単位に含みません。

※他学部他学科科目は進級単位に含みません。ただし、特定の教育プログラムに対応する科目においては、この限りではありません。

2 卒業要件

卒業するためには、次の要件を全て満たしていただければなりません。

- ・ 4年以上在学していること（転入学生・編入学生を除く）
- ・ 卒業に必要な単位数（すべての必修科目を含む）を修得していること

（学則第37条、履修要項第3条、履修要項第4条（工・情））

その他、次の事項を満たさない場合は卒業が保留されます。

- ・ 授業料等の学納金を完納していること
- ・ 帯出した図書館資料等の返却を完了していること

§ 3-1

授業

§ 3-2

履修登録

§ 3-3

試験

§ 3-4

成績

§ 3-5

進級・卒業

§ 3-6

学籍異動

§ 3-7

単位互換

§ 3-8

資格

■卒業に必要な単位数

【工学部】

区 分	単位数	内 訳	
1. 教養力 育成科目	26 単位以上	コア群	14 単位
		展開群	12 単位以上
2. 専門基礎 科目 専門教育 科目	92 単位以上	—	—
1. 2. およ び横断科目の いずれかの科 目から	14 単位以上	—	—
合 計	132 単位以上		

【情報工学部】

区 分	単位数	内 訳	
1. 教養力 育成科目	24 単位以上	コア群	14 単位
		展開群	10 単位以上
2. 専門基礎 科目 専門教育 科目	84 単位以上	—	—
1. 2. およ び横断科目の いずれかの科 目から	16 単位以上	—	—
合 計	124 単位以上		

【社会環境学部】

区 分	単位数	内 訳	
1. 教養力 育成科目	26 単位以上	コア群	14 単位
		展開群	12 単位以上
2. 専門教育 科目	80 単位以上	基礎科目	12 単位
		基幹科目	6 単位以上
		基幹（上記 6 単位を除 く）又は展 開	46 単位以上
		ゼミナール	16 単位
1. 2. およ び横断科目の いずれかの科 目から	18 単位以上	—	—
合 計	124 単位以上		

※コース毎の卒業要件は別途定められています。

→ §6. 5 履修上の注意 II. コース

※教職科目、他学部他学科科目は卒業単位に含みませ
ん。

3 留 年

進級・卒業判定において、進級条件・卒業要件を満たさない場合は留年となり、もう一度同じ年次で修学することになります。

4 進級・卒業判定通知

進級・卒業等に関する判定がなされた結果は、3月上旬に myFIT で通知を確認することができます。

§ 3-6. 学籍異動

1 修業年限と在学年限

修業年限は4年です。また、在学期間は8年を超えることはできません。(休学期間を除く。また、転入学生・編入学生、再入学者を除く。)

(学則第12条、13条、21条)

2 休学

摘要	4か月以上授業に出席できない場合
休学期間	1年以内 年度を超えることはできない
手続期間	休学願を提出した翌月からの適用となる ・次年度の前期休学申請は当年度の3月中まで ・当年度の休学申請の最終受付は11月中まで ※担任(ゼミ)教員との面談、願書の提出締切日があるため、余裕をもって早めに教務課に申し出ること
必要手続	①担任(ゼミ)教員との面談 ②教務課にて休学願の受取り ③保証人連署の上、教務課に願書提出
備考	・休学中に海外渡航予定がある場合は、海外渡航届を記入し、国際連携室へ提出 ・休学期間中の学納金の納入は不要であるが、願出の日までの学納金は完納していなければならない ・休学期間は在学期間(8年間)に算入しない ・休学期間は通算して2年を超えることができない ・帯出した図書館資料は返却していなければならない

(学則第21条)

3 復学

摘要	休学者が復学を希望する場合
復学日	10月1日または4月1日(卒業要件充足者は3月20日)
手続期間	休学者へ個別に通知
必要事項	復学願(所定の用紙)を指定期日までに教務課へ提出
備考	進級条件(卒業要件)を充足した場合は進級(卒業)となるが、充足していない場合は原級の学年に復学となる

(学則第22条)

4 退学

摘要	退学を希望する場合(懲戒による退学を除く)
手続期間	その都度 ※担任(ゼミ)教員との面談、願書の提出締切日があるため、余裕をもって早めに教務課に申し出ること
必要事項	①担任(ゼミ)教員との面談 ②教務課にて退学願の受取り ③保証人連署の上、教務課に願書提出 ④学生証の返却
備考	・学納金は願出の日までに完納していなければならない ・帯出した図書館資料は返却していなければならない

(学則第25条)

5 除籍

次に該当する場合は学期末をもって除籍されます。(学生証返却のこと)

- ・授業料等の学納金を完納していない場合
- ・在学年限を超えた場合
- ・休学期間を超えて、なお修学できない場合
- ・死亡または長期にわたり行方不明の場合

(学則第26条)

§ 3-1

授業

§ 3-2

履修登録

§ 3-3

試験

§ 3-4

成績

§ 3-5

進級・卒業

§ 3-6

学籍異動

§ 3-7

単位互換

§ 3-8

資格

6 再入学

退学者または学納金の未納による除籍者が1年以内に再入学を願い出た場合、審議の上、4月1日付で許可することがあります。在学時に修得した単位は継承されます。ただし、処分を受けて退学になった者は再入学できません。

※再入学料30,000円および学納金の未納分が必要です。

(学則第27条)

7 転学部・転学科

摘要	転学部および転学科を希望する場合
出願期間	1月15日～1月末日
必要事項	転学部及び転学科申請書、志望理由書、検定料(30,000円)
選考	書類審査合格者に筆記試験および面接を実施
出願資格	<ol style="list-style-type: none"> 次の単位を取得見込の者 <ul style="list-style-type: none"> 2年次への転学部・転学科： <ul style="list-style-type: none"> 1年次終了時点で32単位以上取得 (志望学科が32単位を超える2年次進級条件を定めている場合は、志望学科の進級条件を満たすこと) 3年次への転学部・転学科： <ul style="list-style-type: none"> 2年次終了時点で64単位以上取得 (志望学科が64単位を超える3年次進級条件を定めている場合は、志望学科の進級条件を満たすこと) 総合型選抜入試(スペシャルスキル選抜、専願制総合型選抜(後期))及び学校推薦型選抜入試(専願制)により入学した学生でないこと 当該年度の学納金を完納していること

(学則第23条の2)

※転学部、転学科を希望する場合は、教務課および所属学科のクラス担任や志望学科の教員とよく相談してください。修学の継続性や意欲が問われることになります。

※転学先の単位認定については、転入学、編入学取扱規程細則に準ずる。

8 研究生、科目等履修生

卒業後に研究を続けたり、授業科目を履修したりすることができる制度があります。詳しくは教務課に問い合わせてください。

■研究生

摘要	特定の専門事項について研究を行う
入学資格	大学を卒業した者または同等以上の学力を有する者
在学期間	1年
出願期間	前期から：2月末、後期から：8月末
納入金	入学検定料7,500円、入学金50,000円、授業料310,000円(工・情)、240,000円(社)
備考	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員および科目担当教員の許可の下、講義、実験、演習等に出席できるが、単位認定は行わない 外国人留学生研究生の手続きは別途定める

(学則第44条)

■科目等履修生

摘要	授業科目を履修する
入学資格	学則第15条の入学資格を有する者および他の大学・短期大学・高等学校との協議に基づき許可された者
在学期間	履修を許可された科目の授業が修了する学期末まで
出願期間	前期科目、通年科目：2月10日～2月28日 後期科目：8月20日～8月30日
納入金	本学卒業生は検定料・入学金免除、授業料1単位につき15,500円(工・情)、12,000円(社)

(学則第43条)

§ 3-7. 単位互換

1 放送大学との単位互換について

本学では、放送大学との単位互換協定を結んでいます。本学が定める放送大学の授業科目を履修して単位を取得すると、30単位を上限として本学の卒業単位として認められます。

※放送大学はテレビとラジオ、オンラインで授業を行う教養学部のある大学です。本学の学生は、「特別聴講学生」として指定科目を履修できます。

本学科目分類	放送大学科目名	単位数
教養力育成科目 展開群	基盤科目 (外国語・保健体育を除く)	1科目2単位 (オンライン授業1単位科目あり) *履修要項第3条(1)の展開群の単位として加算できる。

(学則第33条、履修要項第37条(工・情)、第34条(社))

■履修の方法

放送大学の授業は、放送教材を視聴することと印刷教材(テキスト)による学習をあわせて進めます。

原則、週1回(1回45分)、BSテレビ・ラジオで放送されます。(オンライン授業もあります。)学期の途中に出題される通信指導に合格することによって単位認定試験の受験資格を得て、試験の結果、単位の認定を受けます。

	開講時期	出願時期
第1学期	4月1日～	1月中旬～2月上旬
第2学期	10月1日～	7月中旬～8月上旬

入学料	不要		
授業料 (単位:円)	放送授業	2単位	12,000
	オンライン授業	1単位	6,000
		2単位	12,000
募集定員	若干名/科目		

■出願手続き

受講希望者は、教務課で単位互換の仕組み、募集要項、受講の方法などの説明を受けた上で、上記の期間内に、出願手続きを行ってください。

2 協定校との国際交流

協定校間における長期留学プログラムにおいて、所定の要件を満たした場合は、協定校にて履修し修得した単位が本学の卒業単位として認められることがあります。詳しくは、国際連携室にお問い合わせください。

→ § 7-4. 国際交流 P.164

(学則第24条、第33条)

§ 3-8 資格

1 認定校として認可を得ている資格

本学には、所管する官公庁や関連する諸団体の認定を受け、以下に示す国家資格について、所定の科目・単位を取得し卒業することで取得可能な資格、または卒業後に実務経験を経ることによって受験資格が得られる資格などがあります。

■教員免許

→ § 2-2. 教職課程 P.22

■食品衛生管理者、食品衛生監視員

(工) 生命環境化学科

厚生労働省の登録を受けた養成施設において、指定された科目を修得した者は任用資格が得られます。

→ § 4-2. 履修上の注意 IV. 資格取得 P.80

■毒物劇物取扱責任者

(工) 生命環境化学科

厚生労働省令に定められた「化学に関する授業科目の単位数が必修科目の単位中28単位以上ある応用化学に関する学課」に相当するので、卒業後、毒物劇物取扱責任者に選任される資格が得られます。

→ § 4-2. 履修上の注意 IV. 資格取得 P.80

■電気主任技術者

(工) 電気工学科

経済産業省の認定校であり、在学中に指定科目を修得し、卒業後、所定の実務経験を経た者は、第1種～第3種の電気主任技術者の免許交付申請を行うことができます。

→ § 4-4. 履修上の注意 III. 資格取得 P.100

■電気通信主任技術者

(伝送交換主任技術者、線路主任技術者)

(情) 情報通信工学科

電気通信主任技術者の国家試験科目の一部免

除の認定校であり、認定に必要な科目を全て修得することにより、試験科目の一部が免除されます。

→ § 5-2. 履修上の注意 IV. 資格取得 P.123

■工事担任者（ネットワーク接続技術者）

(情) 情報通信工学科

工事担任者の国家試験科目の一部免除の認定校であり、認定に必要な科目を全て修得することにより、試験科目の一部が免除されます。

→ § 5-2. 履修上の注意 IV. 資格取得 P.123

■無線従事者（第一級陸上特殊無線技士、第二級海上特殊無線技士、第三級海上特殊無線技士、第一級陸上無線技術士）

(情) 情報通信工学科

無線従事者の長期型養成課程認定校であり、認定に必要な科目を修得した者は、申請することによって第一級陸上特殊無線技士、第二級海上特殊無線技士および第三級海上特殊無線技士の資格が与えられます。また、第一級陸上無線技術士の認定に必要な科目を修得することにより、卒業後、試験科目の一部が免除されます。

→ § 5-2. 履修上の注意 IV. 資格取得 P.123

2 取得を支援している資格

本学では、以下に示す資格について、各学科で資格取得支援科目や資格取得支援講座を開講しています。

→ § 4~6. 各学科 履修上の注意 IV. 資格取得

国：国家資格 公：公的資格 民：民間資格

(表の見方)		工学部				情報工学部				社会環境学部	資格の種別	備考
		電子情報工学科	生命環境化学科	知能機械工学科	電気工学科	情報工学科	情報通信工学科	情報システム工学科	情報マネジメント工学科	社会環境工学科		
機械・電気・通信	機械保全技能士			●							国	
	CAD利用技術者			●							民	
	機械加工技能士（普通旋盤作業）			○							国	
	機械設計技術者			○							民	
	電気工事士				●						国	
	電気主任技術者				○						国	
	第一級陸上無線技術士	○●				○●					国	
	第一級陸上特殊無線技士	○●				○					国	
	第二級海上特殊無線技士					○					国	
	第三級海上特殊無線技士					○					国	
	電気通信主任技術者					○●					国	
工事担任者（ネットワーク接続技術者）					○●					国		
情報・ネットワーク	ITパスポート（IP）				○		○	○			国	情報処理技術者
	情報セキュリティマネジメント（SG）										国	
	基本情報技術者（FE）	○●				○●	●	○●	○●		国	
	MOS (Microsoft Office Specialist)	○						○		○●	民	
	LinuC(Linux Professional Institute Certification / Linux技術者)				●	●	●	●			民	
	CCNA (Routing and Switching)				●	●	●	●			民	
	統計検定								○		民	
	G検定								○		民	
	データサイエンティスト検定リテラシーレベル								○		民	
品質管理（QC）検定								○		民		
環境・バイオ・食品・毒物	公害防止管理者		○								国	
	危険物取扱者		●								国	
	環境計量士		○								国	甲種・乙種
	環境測定分析士		○								公	
	バイオ技術者		●								民	
	食品衛生管理者		○								国	中級・上級
	食品衛生監視員		○								国	
	毒物劇物取扱責任者		○								国	
NR・サプリメントアドバイザー										民		
その他	GIS学術士									○	公	
	TOEIC										民	
	日商簿記検定									○●	公	

その他、社会連携センターでは、ITパスポートや、基本情報技術者、TOEIC L&R テスト対策などの資格取得支援講座や公務員試験対策講座などを開講しています。支援講座や受付する検定試験の種類は、社会連携センターホームページで最新情報を確認してください。

(社会連携センター資格サイト <https://shikaku.fit.ac.jp>)

§ 4

工学部

Faculty of Engineering

§ 4-1	電子情報工学科	60
Dept. of Information Electronics		
❶ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）		
❷ 年次別授業科目表		
❸ 関与度一覧表		
❹ カリキュラムフロー		
❺ 数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）カリキュラム		
❻ 履修上の注意		
§ 4-2	生命環境化学科	70
Dept. of Life, Environment, and Applied Chemistry		
❶ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）		
❷ 年次別授業科目表		
❸ 関与度一覧表		
❹ カリキュラムフロー		
❺ 履修上の注意		
§ 4-3	知能機械工学科	82
Dept. of Intelligent Mechanical Engineering		
❶ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）		
❷ 年次別授業科目表		
❸ 関与度一覧表		
❹ カリキュラムフロー		
❺ 履修上の注意		
§ 4-4	電気工学科	92
Dept. of Electrical Engineering		
❶ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）		
❷ 年次別授業科目表		
❸ 関与度一覧表		
❹ カリキュラムフロー		
❺ 履修上の注意		

§ 4-1

電子情報工学科

§ 4-2

生命環境化学科

§ 4-3

知能機械工学科

§ 4-4

電気工学科

■工学部ディプロマ・ポリシー （卒業認定・学位授与の方針）

工学部では、学則および学部履修要項等に則して必要な単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、工学分野に関する専門的知識を身につけ、大学の定めるディプロマ・ポリシーに対応する力を修得したと判断した場合に、学士の学位を授与します。なお、この方針に基づく「各学科において修得すべき能力」は、各学科で別に定めます。

■工学部カリキュラム・ポリシー （教育課程編成・実施の方針）

工学部は、福岡工業大学全学（学士課程）カリキュラム・ポリシーをもとに、工学部のディプロマ・ポリシーを踏まえて教育課程を編成し、実施します。

§ 4-1. 電子情報工学科 / Dept.of Information Electronics

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

■教育研究上の目的

現代社会において、科学技術者は、科学技術への貢献はもとより、社会人として自立し、広い視野に立ち柔軟な発想を行えることが求められている。本学科は、電子技術と情報技術が融合した技術分野において、このような要請に応えることができる実践型の人材の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

共通コンピテンシー (能力・資質)		定義	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー (編成方針)
DP1	A	幅広い教養	リベラルアーツを目指した知識と思考力	幅広い教養を身につけ、常識的な正解にとらわれない自由な発想に基づいて思考することにより、自主的に判断することができる能力を修得するための科目を配置する。
	B	専門知識・技能	当該分野において必要とされる知識と技能	電子情報技術者として必要な電子情報工学の専門技術である電気回路・電子回路、計測制御・情報処理、半導体デバイスに関する知識を身につけ、適切に応用することができる。
DP2	C	ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	現在の自身の価値観と志向に基づいて将来のキャリアプランを提示することで自分の将来を設計・構想して独自の目標を設定し、その目標実現に必要なスキルを獲得する努力を行うことで成長を目指すことができる。
	D	メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	自ら認知している事柄を客観的に把握して不足している知識・能力を補完することにより、現実の制約条件のもとで実行可能な計画を立て、期限までに課題解決を図ることができる。
DP3	E	グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	多様性を理解して地球的視点から多面的に物事を考え、偏見の無い相互理解の下に積極的に他者と関わることによってチームでプロジェクトを進めることができる能力を修得するための科目を配置する。
	F	未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	未来の世に残していきたい社会を想像し、そこに至る課題解決に必要な種々の学問・技術を学修することにより、解決を要求される課題に対して必要な技術・要件を把握して解決に至るまでのプロセスを提案することができる。また、創造的な応用能力を発揮してそれを実践することにより、身につけた電子情報技術を発展させることができる。
DP4	G	デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	1. 自然科学、特に数学・物理学の基礎を修得・理解し、物事を本質から理解する姿勢を持つことができる。 2. 本質の理解を基に、論理的な判断を下す根拠として必要な情報を収集し、取得した情報の真偽を見極め、的確に整理・分析することができる。
	H	発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力	国際的コミュニケーションの基礎能力である語学力を身につけ、外国人と意思疎通することができる。また、論理的な記述力を身につけて論理的かつ明瞭な文章を記述できるとともに、コミュニケーション能力を高めて効果的なプレゼンテーションおよび討論を行うことができる。

■カリキュラム・ポリシー（実施方針）

【学修方法】

1	主体的に学ぶ姿勢と学修内容の理解の涵養を目指し、科目の特性を考慮した最適な形態を検討して積極的にアクティブラーニングを導入する。
2	学習ポートフォリオの活用によって日常の学修成果を記録・分析する視点を身につけさせ、将来目指すキャリアとそれを実現するための課題を明確化できるようにする。
3	インターンシップ・就職活動やグローバルプログラムを通して大学での学びと社会との関わりを理解させるとともに、異なる背景や文化を持つ人と協働できるようにする。
4	学修活動全般とりわけ研究活動を通じて数理的なものの見方や情報を的確に分析する能力を修得させ、適切なデジタルツールを活用して情報発信する能力を身につけさせる。

【学修成果の評価】

1	各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した適切な成績評価を行う。
2	ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については各授業科目の成績と学生自身の振り返りで評価し、最終的な達成度を卒業要件に基づく卒業判定によって評価する。

■学修領域（教育分野）

- ①電気回路・電子回路などの回路分野
- ②計測制御・情報処理などの情報分野
- ③半導体デバイスなどの物性材料分野

2 年次別授業科目表

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

(工学部) 各学科共通 | 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

年次 区分			1年次				2年次				3年次			
			前期		後期		前期		後期		前期		後期	
コア群	教養力基盤	基礎	キャリア・デザイン ②	コミュニケーション・デザイン ②										
			ウェルネス基礎 ②											
			Freshman English A 2	Freshman English B 2	Essential English A 2	Essential English B 2								
		応用	Advanced English A 2	Advanced English B 2	Communicative English A 2	Communicative English B 2								

年次 区分			1年次		2年次		3年次	
			前期または後期、または両方 [注4]		前期または後期、または両方 [注4]		前期または後期、または両方 [注4]	
展開群	多面的視座	基礎	IT リテラシー	2	自己成長と学び [注5]	2		
			AI データサイエンス基礎	2	産業デザイン	2		
			生命と生態系	2	中国の文化と言葉	2		
			化学と生活	2	韓国の文化と言葉	2		
			科学史	2				
			地域創生論	2				
			市民生活と法	2				
			日本国憲法	2				
			心理学	2				
			文学	2				
			現代倫理	2				
			経済学	2				
			社会学	2				
			九州学	2				
			異文化理解	2				
	実践知	応用	地域創生 PBL	2	ウェルネス応用	2		
海外研修			2	日本語実践	2			
				仕事理解型実習	2			
						課題解決型インターンシップ	2	

[注1] コア群から14単位、展開群から12単位以上、合計26単位以上を取得しなければならない。なお、展開群のうち「生命と生態系」、「化学と生活」、「科学史」は生命環境化学科では進級条件および卒業要件の単位に含めない。

[注2] 「Freshman English A, B」、「Advanced English A, B」、「Essential English A, B」、「Communicative English A, B」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を受講するものとする。

[注3] 「Essential English A, B」および「Communicative English A, B」は、該当する英語の資格を取得したものについても、届け出により成績評価を行う。

[注4] 展開群の各科目は、前期のみ、後期のみ、または前期および後期に開講する。各年度の開講学期は授業時間割で示す。両学期で開講される科目については、年度内での履修はどちらかの学期のみとし、再履修は翌年度以降とする。

[注5] 「自己成長と学び」は通年開講とする

[注6] 「IT リテラシー」は生命環境化学科・電気工学科では必修、電子情報工学科・知能機械工学科では選択である。

[注7] 「AI データサイエンス基礎」は主に遠隔授業を実施する。

(工学部) 各学科共通 | 横断科目表

年次 区分		1年次		2年次		3年次	
		科目	Future Vision 講座	1			AI データサイエンス実践
横断		Future Vision 実践	1				

[注1] 横断科目は、集中講義(前期、後期または夏休み中に短期間集中して開講)または、前期および後期に開講する。各年度の開講時期は授業時間割で示す。

[注2] 「Future Vision 講座」および「Future Vision 実践」の各科目においては、原則として科目名に()書きで主題を付し、個別の科目として開講し、複数履修することができる。

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔工学部〕電子情報工学科 専門基礎及び専門教育科目表

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目、◎印はコア科目)

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎科目	電子情報基礎数学 ④	電子情報数学 ④	線形代数Ⅰ ②	線形代数Ⅱ 2				
			微分方程式 ②	初等統計学 2				
	物理概論 ②	物理学Ⅰ ②	物理学Ⅱ ②					

[注1] 「電子情報基礎数学」及び「電子情報数学」は習熟度別にクラス分けして講義を行う。

■専門教育科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
電子情報基礎科目	電子工学基礎 ②							
	論理回路 ②	電磁気学Ⅰ ②	電磁気学Ⅱ ②	電子計測 ②	制御基礎 ②	制御工学 2		
デバイス系科目				電子物性 ②	電子デバイスⅠ ②	電子デバイスⅡ ②		
					光エレクトロニクス 2	先端デバイス工学 2		
回路系科目		電気回路Ⅰ ②	電気回路Ⅱ ②	電気回路Ⅲ ②				
			電子回路Ⅰ ②	電子回路Ⅱ ②	電子回路応用 ②	電気電子回路実習 2		
情報処理系科目	プログラミング基礎 ④		プログラミング演習 ②	応用プログラミング ②	情報ネットワーク基礎と演習 2			
					人工知能基礎と演習 ②			
共通科目				技術者倫理 2	プレゼンテーション 2	技術英語 2		
			情報技術資格 2	無線技術資格 2				
	コンピュータシステムⅠ ②		コンピュータシステムⅡ ②			IoT基礎と演習 2		
						電子情報工学総合 ②		
	電子情報工学入門 ②	物理・電子情報基礎実験 ②	電子情報実験Ⅰ ②	電子情報実験Ⅱ ②	電子情報実験Ⅲ ②	創成実験 ②	卒業研究 ⑥	
			工学概論 2		国際工学実習 2			

[注2] 「無線技術資格」と「情報技術資格」は、該当する国家資格を大学入学以降に取得したのものについても、届け出により単位を認定する。

[注3] 「工学概論」は、進級条件および卒業要件の単位に含めない。

3 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4	
						A	B	C	D	E	F	G	H
					コンピテンシー	幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
						相異なる解が想定される複雑な問題に対処する知識や多面的視座を得ることができる。	【教養力育成科目には該当せず】	社会の変化に合わせて自らのウェルネスを築くと共に、人生をデザインし、自己実現に向けて絶え間ない努力を重ねられる。	自己理解を深め、適性も見極めながら目標を設定し、実行とその振り返りを繰り返しつつ、実現へ向けた取り組みができる。	多様な価値観やバックグラウンドを持つ他者を尊重しながら問題解決に向けて協働できる。	人類社会が経験しなかった新たな問いに実践知に基づき立ち向かいながら、その解決に向けて歩める。	数理やAI、データサイエンス、ICTの知識に基づいて、データを的確に分析し、状況を把握できる。	日本語及び基礎的な英語で自らの考えを分かりやすく論理的に構築でき、またそれに基づいて背景や意見を異にする相手ともコミュニケーションが取れる。
コア群	キャリア・デザイン	必修	1	前		10		60	10		10		10
	コミュニケーション・デザイン	必修	1	後		10			10	10	10		60
	ウェルネス基礎	必修	1	前		20		60	20				
	Freshman English A	選択	1	前		10			20	10			60
	Advanced English A	選択	1	前		10			20	10			60
	Freshman English B	選択	1	後		10			20	10			60
	Advanced English B	選択	1	後		10			20	10			60
	Essential English A	選択	2	前		10			20	10			60
	Communicative English A	選択	2	前		10			20	10			60
	Essential English B	選択	2	後		10			20	10			60
Communicative English B	選択	2	後		10			20	10			60	
展開群	自己成長と学び	選択	2	通年				20	60				20
	ITリテラシー	選択/必修	1	前後		40						60	
	AIデータサイエンス基礎	選択	1	前後		20					20	60	
	生命と生態系	選択	1	前後		60					20	20	
	化学と生活	選択	1	前後		60		20				20	
	科学史	選択	1	前後		60			20			20	
	産業デザイン	選択	2	前後		20					60	20	
	地域創生論	選択	1	前後		30				10	60		
	市民生活と法	選択	1	前後		60		10		10	20		
	日本国憲法	選択	1	前後		60				20	20		
	心理学	選択	1	前後		60			20				20
	文学	選択	1	前後		60		20			20		
	現代倫理	選択	1	前後		20		20			60		
	経済学	選択	1	前後		60		10			20	10	
	社会学	選択	1	前後		70		10			20		
	九州学	選択	1	前後		80					20		
	異文化理解	選択	1	前後		20					60		20
	中国の文化と言葉	選択	2	前後		20					60		20
	韓国の文化と言葉	選択	2	前後		20					60		20
	実践知	ウェルネス応用	選択	2	前後		20		60	20			
地域創生PBL		選択	1	前後		20					70		10
日本語実践		選択	2	前後		10		10			20		60
仕事理解型実習		選択	2	集中				20	60	20			
課題解決型インターンシップ		選択	3	集中					60	20	20		
海外研修	選択	1	集中		20				60			20	

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

■横断科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4		
					A	B	C	D	E	F	G	H	
					コンピテンシー	幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
						リベラルアーツを旨とした知識と思考力	当該分野において必要とされる知識と技能	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	自らの考えを適切に伝えることができる力
AIデータサイエンス実践	選択	3	集中			20					20	60	
Future Vision 講座	選択	1	集中			10	10				20	60	
Future Vision 実践	選択	1	集中							20	60		20

■電子情報工学科の専門基礎及び専門教育科目の関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4	
						A	B	C	D	E	F	G	H
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
専門基礎科目	電子情報基礎数学	必修	1	前	講義・演習				10		10	80	
	電子情報数学	必修	1	後	講義・演習				10		10	80	
	線形代数Ⅰ	必修	2	前	講義				20		20	60	
	線形代数Ⅱ	選択	2	後	講義				20		20	60	
	微分方程式	必修	2	前	講義				20		20	60	
	初等統計学	選択	2	後	講義				10		10	60	20
	物理概論	必修	1	前	講義							100	
	物理学Ⅰ	必修	1	後	講義	10						90	
	物理学Ⅱ	必修	2	前	講義	10						90	
	電子情報基礎科目	電子工学基礎	必修	1	前	講義		90				10	
論理回路		必修	1	前	講義		80					20	
電磁気学Ⅰ		必修	1	後	講義		60		10			20	10
電磁気学Ⅱ		必修	2	前	講義		60		10			20	10
電子計測		必修	2	後	講義		80				10	10	
制御基礎		必修	3	前	講義		70					30	
制御工学		選択	3	後	講義		70					30	
電子物性		必修	2	後	講義		60		10			20	10
電子デバイスⅠ		必修	3	前	講義		70	10				20	
電子デバイスⅡ		必修	3	後	講義		70	10				20	
デバイス系科目	光エレクトロニクス	選択	3	前	講義		60		10			20	10
	先端デバイス工学	選択	3	後	講義		70	20				10	
	電気回路Ⅰ	必修	1	後	講義		80					20	
	電気回路Ⅱ	必修	2	前	講義		70				10	20	
	電気回路Ⅲ	必修	2	後	講義		80					20	
	電子回路Ⅰ	必修	2	前	講義		80					20	
	電子回路Ⅱ	必修	2	後	講義		80					20	
	電子回路応用	必修	3	前	講義		80					20	
	電気電子回路実習	選択	3	後	講義・演習		60		10		10	20	
	プログラミング基礎	必修	1	通年	講義		80					20	
回路系科目	プログラミング演習	必修	2	前	講義・演習		60	10		30		20	
	応用プログラミング	必修	2	後	講義・演習		60	20				20	
	デジタル信号処理	必修	3	前	講義・演習		60		10		10	10	10
	人工知能基礎と演習	必修	3	前	講義・演習		60	20	20				
	情報ネットワーク基礎と演習	選択	3	前	講義・演習		70		10			10	10
	応用デジタル信号処理	必修	3	後	講義		60		10		10	10	10
	技術者倫理	選択	2	後	講義	30		10	10	20	20		10
	技術英語	選択	3	後	講義	10	20			10			60
	プレゼンテーション	選択	3	前	講義・演習		15	15	10				60
	情報技術資格	選択	2	前	講義		60		20			10	
共通科目	無線技術資格	選択	2	後	講義・演習		80			5		15	
	電子情報工学入門	必修	1	前	実験・演習		5	5	60	15	5		10
	物理・電子情報基礎実験	必修	1	後	実験・演習		25		20	10		35	10
	電子情報実験Ⅰ	必修	2	前	実験		60		5	5	15	5	10
	電子情報実験Ⅱ	必修	2	後	実験		60		5	5	15	5	10
	電子情報実験Ⅲ	必修	3	前	実験		60		5		5	15	15
	創成実験	必修	3	後	実験・演習		20	10	10		20	15	15
	コンピュータシステムⅠ	必修	1	後	講義		80					20	
	コンピュータシステムⅡ	必修	2	前	講義		60	20	20				
	IoT基礎と演習	選択	3	後	講義・演習		60		10		10	10	10
電子情報工学総合	必修	3	後	講義		70		5		5	10	10	
卒業研究	必修	4	通年	研究		10	15	10	15	10		15	
工学概論	選択	2	前	講義		10	70	10			10	10	
国際工学実習	選択	3	前	実習		10			20	40	10	20	

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

4 カリキュラムフロー

本フローは、コンピテンシーに対する科目のつながり（主に主関与）を示す。

※ は必修科目、 は副関与

 で囲まれた科目については、前期のみ、後期のみ、または前期および後期に開講する。各年度の開講学期は授業時間割で示す。
 で囲まれた横断科目については、原則、集中講義として開講する。

DP	1年		2年		3年		4年					
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
コンピテンシー	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">化学と生活</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生命と生態系</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">科学史</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日本国憲法</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">市民生活と法</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">経済学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">心理学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">社会学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">九州学</div> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">技術者論理</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期または後期、または両方</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期または後期、または両方</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期または後期、または両方</div>			
A												
DP1	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電子工学基礎</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電磁気学Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">論理回路</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電気回路Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">物理・電子情報基礎実験</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コンピュータシステムⅠ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">プログラミング基礎</div> </div>		<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電磁気学Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電子回路Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電気回路Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電子情報実験Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報技術資格</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コンピュータシステムⅡ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">プログラミング演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">工学概論</div> </div>		<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電子計測</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電子物性</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電子回路Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電気回路Ⅲ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電子情報実験Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">無線技術資格</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">応用プログラミング</div> </div>		<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">制御基礎</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">光エレクトロニクス</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電子デバイスⅠ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電子回路応用</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電子情報実験Ⅲ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報ネットワーク基礎と演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">人工知能基礎と演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">デジタル信号処理</div> </div>		<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">制御工学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">先端デバイス工学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電子デバイスⅡ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電気電子回路実習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">創成実験</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電子情報工学総合</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">IoT基礎と演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">応用デジタル信号処理</div> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">卒業研究</div>	
B												

DP 2	C	ウェルネス基礎 キャリア・デザイン	ウェルネス応用 応用プログラミング	人工知能基礎と演習	
	D	電子情報工学入門	自己成長と学び 仕事理解型実習 コンピュータシステムII	課題解決型インターンシップ 国際工学実習 人工知能基礎と演習	卒業研究
DP 3	E	異文化理解 海外研修	中国の文化と言葉 韓国の文化と言葉 技術者論理 プログラミング演習	国際工学実習	
	F	地域創生論 地域創生PBL 現代論理 Future Vision実践	産業デザイン 技術者論理 電子情報実験 I 電子情報実験 II	創成実験	卒業研究
DP 4	G	ITリテラシー AIデータサイエンス基礎 Future Vision講座 電子情報基礎数学 物理概論	線形代数 I 微分方程式 物理学 II 線形代数 II 初等統計学	AIデータサイエンス実践	
	H	Freshman English A Advanced English A Freshman English B Advanced English B コミュニケーション・デザイン	日本語実践 Essential English A Communicative English A Essential English B Communicative English B	プレゼンテーション 国際工学実習 技術英語	卒業研究

5-4-1	電子情報工学科
5-4-2	生命環境化学科
5-4-3	知能機械工学科
5-4-4	電気工学科

5 数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）追加カリキュラム

電子情報工学科では「§9-5数理・データサイエンス・AI 応用基礎教育プログラム要領（別表1）」に加えて下記学修項目を対応する科目で学修できる。

学修項目		科目名
データエンジニアリング基礎	2-4. データベース	IoT 基礎と演習
	2-6. IT セキュリティ	情報ネットワーク基礎と演習
		IoT 基礎と演習
AI 基礎	3-5. 認識	応用デジタル信号処理
	3-8. 身体・運動	応用デジタル信号処理

6 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

1 → 2 年次	32 単位以上
2 → 3 年次	72 単位以上。1 年次の全てのコア科目を含む。
3 → 4 年次	114 単位以上、専門基礎と専門教育科目は 86 単位以上、かつ専門基礎と専門教育科目の必修科目を 74 単位以上含む。全てのコア科目を含む。
卒業単位	132 単位以上

→ § 3-5. 進級・卒業 P.51

II. 習熟度別クラス分け

■数学

入学直後に行う学科独自の数学テストの結果に応じて「電子情報基礎数学」のクラス分けを行う。

「電子情報数学」は「電子情報基礎数学」の成績を考慮し、クラス分けを行う。

■英語

→ § 3-2. 習熟度別クラス P.44

III. 資格取得

(1)認定校として認可を得ている資格

- ・教員免許：
高等学校教諭一種免許状（工業）

→ § 2-3. 教職課程 P.22

(2)資格取得を支援している資格

■資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・第一級陸上無線技術士…「無線技術資格」
- ・第一級陸上特殊無線技士…「無線技術資格」
- ・基本情報技術者…「情報技術資格」
- ・MOS (Microsoft Office Specialist) / Word・Excel…「IT リテラシー」

「無線技術資格」及び「情報技術資格」は、授業による成績評価に加え、該当する国家資格

を大学入学以降に取得したものについても、科目担当教員へ届け出ることにより単位を認定する。ただし、当該科目の単位を取得済みの場合は認定を行わない。なお、単位認定は当該科目の開講年次以降に行う。

■資格取得支援講座（課外）がある資格

- ・第一級陸上無線技術士
- ・第一級陸上特殊無線技士
- ・基本情報技術者

※その他の資格取得支援講座は、社会連携センターに問い合わせ

IV. その他

■コア科目

必修科目のうち「電子回路Ⅰ」、「電子回路Ⅱ」、「プログラミング基礎」、「コンピュータシステムⅠ」、「電子情報工学総合」、「電子情報工学入門」、「物理・電子情報基礎実験」、「電子情報実験Ⅰ」、「電子情報実験Ⅱ」をコア科目に指定する。2年次から3年次へ進級するためには、1年次の全てのコア科目の単位を取得しなければならない。また、3年次から4年次へ進級するためには、開設されているコア科目の全単位を取得しなければならない。「電子回路Ⅰ」と「電子回路Ⅱ」は回路系、「プログラミング基礎」は情報処理系のソフトウェア、「コンピュータシステムⅠ」は共通科目における情報処理系のハードウェアの中心科目である。

→ § 3-1. 授業科目 P.38

■テスト後特別補講制度

電子情報工学科では各科目における具体的な到達目標を設定している。試験を含む成績で60点以上をとれば、この目標は達成されたと判断する。前期のみ、成績が60点に達しなかった学生を対象に「テスト後特別補講」を夏休み期間中に実施し、目標達成の手助けを行う場合がある。（「テスト後特別補講」は全ての科目が対象になるわけではない。）

§ 4-2. 生命環境化学科 / Dept. of Life, Environment, and Applied Chemistry

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

■教育研究上の目的

地球の様々な環境問題が深刻化する今日、環境の管理、保全、改善と修復の基本理念を理解し、物理・化学的、及び生物的アプローチ等の多様な先端技術を用いて、問題を解決する能力を持つ自立した技術者の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

共通コンピテンシー (能力・資質)		定義	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー (編成方針)
DP1	A	幅広い教養	リベラルアーツを旨とした知識と思考力	自然科学的な手法を用いて、化学や生命科学に関する様々な問題に対して多角的視点から理解できる。
	B	専門知識・技能	当該分野において必要とされる知識と技能	物質化学、環境・エネルギー、生命・食品化学に関する専門知識および実験技術の習得と、それらを問題解決に応用できる能力を身につけている。
DP2	C	ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	技術者としての将来のキャリアを展望し、構想した目標に向かって成長する能力を身につけている。
	D	メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	客観的な自己理解のもとでの確かな計画を立案・実行し、その進捗や成果を自己評価し、必要に応じて計画を修正しながら、成果をまとめる能力を身につけている。
DP3	E	グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	様々な背景や考え方を持つ人々と積極的に関わり、他者と協力しながらチームで仕事を遂行する能力を身につけている。
	F	未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	実験・研究などを通して問題点を発見し、幅広い知識と情報を統合・応用して問題解決に導き、新しい解決策を構想する能力を身につけている。
DP4	G	デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	自然科学に関する基礎知識とコンピュータ利用技術を用いて情報を整理・分析し、問題解決に応用できる能力を身につけている。
	H	発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力	日本語で理論的記述や口頭発表ができ、自らの考えを適切に伝えながら他者と意見交換ができる能力、および英語での基本的なコミュニケーション能力を身につけている。

■カリキュラム・ポリシー（実施方針）

【学修方法】

1	実験科目を軸にアクティブ・ラーニングを実践し、主体的に学ぶ力を向上させる。
2	将来のキャリアに基づく自己の課題や目標を考え、自立した技術者を育成するための教育を展開する。
3	化学および生命科学の基礎知識と応用力を持ち、社会や環境の課題に貢献できる人材を育成するためのプログラムを実施する。
4	学修活動全般を通じて、数理的なものの見方を身に付け、実験データを的確に整理・分析し、適切なデジタルツールを用いて研究成果を発信する能力を養成する。

【学修成果の評価】

1	各授業科目の学修内容、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバスより学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を行う。
2	卒業判定は、卒業要件として必要とされる単位数の取得に加え、卒業研究発表会での発表ならびに卒業論文の作成を含め、ディプロマ・ポリシーに基づき総合的に評価して行う。

■学修領域（教育分野）

- ①物質化学分野
- ②環境・エネルギー分野
- ③生命科学分野
- ④食品分野

■コース説明

2年次後期より「生命環境化学コース」もしくは「食品コース」のいずれかのコースに分かれる。「生命環境化学コース」では、基盤化学科目を基礎とし、主に物質化学、環境・エネルギー、生命科学の各分野に関わる科目を履修する。「食品コース」では、基盤化学科目を基礎としつつ、主に食品分野に関わる科目を履修する。

2 年次別授業科目表

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

(工学部) 各学科共通 | 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

年次 区分			1年次				2年次				3年次			
			前期		後期		前期		後期		前期		後期	
コア群	教養力基盤	基礎	キャリア・デザイン ②	コミュニケーション・デザイン ②										
			ウェルネス基礎 ②											
			Freshman English A 2	Freshman English B 2	Essential English A 2	Essential English B 2								
		応用	Advanced English A 2	Advanced English B 2	Communicative English A 2	Communicative English B 2								

年次 区分			1年次		2年次		3年次	
			前期または後期、または両方 [注4]		前期または後期、または両方 [注4]		前期または後期、または両方 [注4]	
展開群	多面的視座	基礎	ITリテラシー	2	自己成長と学び [注5]	2		
			AIデータサイエンス基礎	2	産業デザイン	2		
			生命と生態系	2	中国の文化と言葉	2		
			化学と生活	2	韓国の文化と言葉	2		
			科学史	2				
			地域創生論	2				
			市民生活と法	2				
			日本国憲法	2				
			心理学	2				
			文学	2				
			現代倫理	2				
			経済学	2				
			社会学	2				
			九州学	2				
			異文化理解	2				
	実践知	応用	地域創生PBL	2	ウェルネス応用	2		
海外研修			2	日本語実践	2			
				仕事理解型実習	2			
						課題解決型インターンシップ	2	

[注1] コア群から14単位、展開群から12単位以上、合計26単位以上を取得しなければならない。なお、展開群のうち「生命と生態系」、「化学と生活」、「科学史」は生命環境化学科では進級条件および卒業要件の単位に含めない。

[注2] 「Freshman English A, B」、「Advanced English A, B」、「Essential English A, B」、「Communicative English A, B」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を受講するものとする。

[注3] 「Essential English A, B」および「Communicative English A, B」は、該当する英語の資格を取得したものについても、届け出により成績評価を行う。

[注4] 展開群の各科目は、前期のみ、後期のみ、または前期および後期に開講する。各年度の開講学期は授業時間割で示す。両学期で開講される科目については、年度内での履修はどちらかの学期のみとし、再履修は翌年度以降とする。

[注5] 「自己成長と学び」は通年開講とする

[注6] 「ITリテラシー」は生命環境化学科・電気工学科では必修、電子情報工学科・知能機械工学科では選択である。

[注7] 「AIデータサイエンス基礎」は主に遠隔授業を実施する。

(工学部) 各学科共通 | 横断科目表

年次 区分		1年次		2年次		3年次	
		科目	Future Vision 講座	1			AIデータサイエンス実践
横断		Future Vision 実践	1				

[注1] 横断科目は、集中講義（前期、後期または夏休み中に短期間集中して開講）または、前期および後期に開講する。各年度の開講時期は授業時間割で示す。

[注2] 「Future Vision 講座」および「Future Vision 実践」の各科目においては、原則として科目名に（ ）書きで主題を付し、個別の科目として開講し、複数履修することができる。

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

(工学部) 生命環境化学科 専門基礎及び専門教育科目表【生命環境化学コース】

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は生命環境化学コース必修科目、◎印は生命環境化学コースコア科目)

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
自然科学科目	基礎数学	2						
	解析 I	②	解析 II	②	応用数学	②	統計解析	2
	線形代数	②						
	基礎物理学	②		物理学	2		物理学実験	2
	化学	②						
	生物学	②						
				コンピューター言語	②			

■専門教育科目

	1年次		2年次		3年次		4年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎化学科目	生命環境化学概論	①			生命環境化学ゼミナール I	①	生命環境化学ゼミナール II	①	
		物理化学 I	②	物理化学 II	②	物理化学 III	②		
		物理化学 I 演習	①	物理化学 II 演習	①				
		有機化学 I	②*	有機化学 II	②*	無機化学 I	②*	無機化学 II	2
	化学実験	②*	分析化学	②*	環境分析化学	②(○)			
				機器分析化学	②*				
				機器分析化学実験	②(○)				
生命環境化学コース	物質化学分野					化学工学 I	2	化学工学 II	2
						固体物質工学	2	電気化学	2
						高分子化学	2(○)	ナノマテリアル化学	2
						環境物質工学実験	2		
環境・エネルギー分野		環境科学総論	②	環境科学 I	2	環境科学 II	2	資源循環工学	2
				地球科学	2			環境浄化工学	2
生命科学分野	生命科学基礎	②	生物化学 I	②*	生物化学 II	2*	微生物学	2*	
			生物化学実験	②*	分子生物学	2	応用微生物学	2(○)	
食品分野			食品学ゼミナール	1			遺伝子工学	2(○)	
			食品化学	2*	食品物性学実験	2(○)	食品分析学	2*	
					栄養化学	2(○)	食品分析学実験	2(○)	
					食品微生物発酵学	2*	食品衛生学	2*	
							生体成分分析実験	2	
							食品衛生学	2*	
卒業研究							健康食品概論	2	
卒業研究							卒業研究	⑥	
共通科目			工学概論	2					

[注1] 2年次後期から「生命環境化学コース」と「食品コース」に分かれる。「生命環境化学コース」に所属する場合、上記に記載されたコース必修科目、コースコア科目をすべて取得すること。

[注2] 「環境物質工学実験」と「生命科学実験」のいずれか1つは取得すること。

[注3] 「物質化学分野」と「環境・エネルギー分野」に記載された選択科目から合計4単位以上取得すること。ただし「環境物質工学実験」は除く。

[注4] 「生命科学分野」と「食品分野」に記載された選択科目から合計4単位以上取得すること。ただし「生命科学実験」を除く。

[注5] 「生命環境化学コース」の専門教育科目の選択科目から、24単位以上取得すること。なお、この24単位には「環境物質工学実験」と「生命科学実験」も含める。

[注6] コースコア科目のうち、「化学実験」の2単位を取得しなければ3年次に進級できない。

[注7] コースコア科目のうち、「生物化学実験」および「機器分析化学実験」の4単位を取得しなければ4年次に進級できない。

[注8] *印および(○)印の科目は、食品資格(食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程)に関わる必修科目および選択科目である。

[注9] 「工学概論」は進級条件および卒業要件の単位に含めない。

別表 年次別授業科目表

〔工学部〕生命環境化学科 専門基礎及び専門教育科目表【食品コース】

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は食品コース必修科目、◎印は食品コースコア科目)

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
自然科学科目	基礎数学	2						
	解析 I	②	解析 II	②	応用数学	②	統計解析	②
	線形代数	②						
	基礎物理学	②		物理学	2		物理学実験	2
	化学	②						
	生物学	②						
					コンピューター言語	2		

■専門教育科目

	1年次		2年次		3年次		4年次			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎化学科目	生命環境化学概論	①								
		物理化学 I	②	物理化学 II	②	物理化学 III	2			
		物理化学 I 演習	①	物理化学 II 演習	①					
		有機化学 I	②*	有機化学 II	②*	無機化学 I	②*	無機化学 II	2	
	化学実験	◎*	分析化学	②*	環境分析化学	2(+) ②*				
				機器分析化学	②*					
				機器分析化学実験	2(+) ②*					
物質化学分野					化学工学 I	2	化学工学 II	2		
					固体物質工学	2	電気化学	2		
					高分子化学	2(+) ②*	ナノマテリアル化学	2		
					環境物質工学実験	2				
環境・エネルギー分野		環境科学総論	②	環境科学 I	2	環境科学 II	2	資源循環工学	2	
				地球科学	2			地球科学実験	2	
生命科学分野	生命科学基礎	②	生物化学 I	②*	生物化学 II	2*	微生物学	2*		
				生物化学実験	◎*	分子生物学	2	応用微生物学	2(+) ②*	
食品分野				食品学ゼミナール	①					
				食品化学	②*	食品物性学実験	◎(+) ②*	化粧品科学	②(+) ②*	
					栄養化学	②(+) ②*	食品分析学	②*	食品環境衛生学	②(+) ②*
							食品分析学実験	②(+) ②*	栄養生理学	②(+) ②*
					食品微生物発酵学	②*	食品衛生学	②*	生体成分分析実験	②
							食品衛生学	②*	毒性学	②*
卒業研究						健康食品概論	2			
共通科目			工学概論	2				卒業研究	⑥	

[注1] 2年次後期から「生命環境化学コース」と「食品コース」に分かれる。「食品コース」に所属する場合、上記に記載されたコース必修科目、コースコア科目をすべて取得すること。

[注2] 「食品コース」の専門教育科目の選択科目から、8単位以上取得すること。

[注3] コースコア科目のうち、「化学実験」の2単位を取得しなければ3年次に進級できない。

[注4] コースコア科目のうち、「生物化学実験」および「食品物性学実験」の4単位を取得しなければ4年次に進級できない。

[注5] *印および(+)印の科目は、食品資格(食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程)に関わる必修科目および選択科目である。

[注6] 「工学概論」は進級条件および卒業要件の単位に含めない。

3 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

					コンピテンシー	DP1		DP2		DP3		DP4	
						A	B	C	D	E	F	G	H
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	相異なる解が想定される複雑な問題に対処する知識や多面的視座を得ることができる。	【教養力育成科目には該当せず】	社会の変化に合わせて自らのウェルネスを築くと共に、人生をデザインし、自己実現に向けて絶え間ない努力を重ねられる。	自己理解を深め、適性も見極めながら目標を設定し、実行とそりの振り返りを繰り返しつつ、実現へ向けた取り組みができる。	多様な価値観やバックグラウンドを持つ他者を尊重しながら問題解決に向けて協働できる。	人類社会が経験しなかった新たな問いに実践に基づき立ち向かいながら、その解決に向けて歩める。	数理やAI、データサイエンス、ICTの知識に基づいて、データを的確に分析し、状況を把握できる。	日本語及び基礎的な英語で自らの考えを分かりやすく論理的に構築でき、またそれに基づいて背景や意見を異にする相手ともコミュニケーションが取れる。
コア群	教養力基盤	キャリア・デザイン	必修	1	前		10		60	10		10	10
		コミュニケーション・デザイン	必修	1	後		10			10	10		60
		ウェルネス基礎	必修	1	前		20		60	20			
		Freshman English A	選択	1	前		10			20	10		60
		Advanced English A	選択	1	前		10			20	10		60
		Freshman English B	選択	1	後		10			20	10		60
		Advanced English B	選択	1	後		10			20	10		60
		Essential English A	選択	2	前		10			20	10		60
		Communicative English A	選択	2	前		10			20	10		60
		Essential English B	選択	2	後		10			20	10		60
Communicative English B	選択	2	後		10			20	10		60		
展開群	多面的視座	自己成長と学び	選択	2	通年				20	60			20
		ITリテラシー	選択/必修	1	前後		40					60	
		AIデータサイエンス基礎	選択	1	前後		20				20	60	
		生命と生態系	選択	1	前後		60				20	20	
		化学と生活	選択	1	前後		60		20			20	
		科学史	選択	1	前後		60			20		20	
		産業デザイン	選択	2	前後		20				60	20	
		地域創生論	選択	1	前後		30				10	60	
		市民生活と法	選択	1	前後		60		10		10	20	
		日本国憲法	選択	1	前後		60				20	20	
		心理学	選択	1	前後		60			20			20
		文学	選択	1	前後		60				20		
		現代倫理	選択	1	前後		20		20		60		
		経済学	選択	1	前後		60		10		20	10	
		社会学	選択	1	前後		70		10		20		
		九州学	選択	1	前後		80				20		
		異文化理解	選択	1	前後		20				60		20
		中国の文化と言葉	選択	2	前後		20				60		20
		韓国の文化と言葉	選択	2	前後		20				60		20
		実践知	実践知	ウェルネス応用	選択	2	前後		20		60	20	
地域創生 PBL	選択			1	前後		20				70		10
日本語実践	選択			2	前後		10		10		20		60
仕事理解型実習	選択			2	集中				20	60	20		
課題解決型インターンシップ	選択			3	集中					60	20	20	
海外研修	選択	1	集中		20				60		20		

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

■横断科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

					コンピテンシー	DP1		DP2		DP3		DP4	
						A	B	C	D	E	F	G	H
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	リベラルアーツを目指した知識と思考力	当該分野において必要とされる知識と技能	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	自らの考えを適切に伝えることができる力
	AIデータサイエンス実践	選択	3	集中			20				20	60	
	Future Vision 講座	選択	1	集中			10				20	60	
	Future Vision 実践	選択	1	集中						20	60	20	

■生命環境化学科の専門基礎及び専門教育科目の関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4	
						A	B	C	D	E	F	G	H
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実視力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
						自然科学的な手法を用いて、化学や生命科学に関する様々な問題に対して多角的視点から理解できる。	物質化学、環境・エネルギー、生命・食品化学に関する専門知識および実験技術の習得と、それらを問題解決に応用できる能力を身につけている。	技術者としての将来のキャリアを展望し、構想した目標に向かって成長する能力を身につけている。	客観的な自己理解のもとでの確かな計画を立案・実行し、その進捗や成果を自己評価し、必要に応じて計画を修正しながら、成果をまとめる能力を身につけている。	様々な背景や考え方を持つ人々と積極的にに関わり、他者と協力しながらチームで仕事を遂行する能力を身につけている。	実験、研究などを通して問題点を発見し、幅広い知識と情報を統合・応用して問題解決に導き、新しい解決策を構想する能力を身につけている。	自然科学に関する基礎知識とコンピュータ利用技術を得得し、それらを用いて情報を整理・分析し、問題解決に応用できる能力を身につけている。	日本語で理論的記述や口頭発表ができ、自らの考えを適切に伝えながら他者と意見交換ができる能力。および英語での基本的なコミュニケーション能力を身につけている。
専門基礎科目	線形代数	必修	1	前	講義	70						30	
	基礎数学	選択	1	前	講義	70						30	
	解析Ⅰ	必修	1	前	講義	70						30	
	解析Ⅱ	必修	1	後	講義	70						30	
	応用数学	必修	2	前	講義	70						30	
	統計解析	選択	2	後	講義	40						60	
	基礎物理学	必修	1	前	講義	70						30	
	物理学	選択	2	前	講義	70						30	
	物理学実験	選択	3	後	実験	60				15	5		20
	化学	必修	1	前	講義		70					30	
	生物学	必修	1	前	講義		70					30	
	コンピューター言語	選択	2	後	講義・演習						20	80	
	生命環境化学概論	必修	1	前	講義	20		40	40				
	生命環境化学ゼミナールⅠ	選択	3	前	講義		60	20	20				
	生命環境化学ゼミナールⅡ	選択	3	後	講義・演習		60	20	20				
化学実験	必修	1	後	実験	40				20	20		20	
物理化学Ⅰ	必修	1	後	講義	100								
物理化学Ⅱ	必修	2	前	講義	100								
物理化学Ⅲ	選択	3	前	講義	100								
物理化学Ⅰ 演習	必修	1	後	演習	100								
物理化学Ⅱ 演習	必修	2	前	演習	100								
分析化学	必修	2	前	講義	100								
機器分析化学	必修	2	後	講義	100								
環境分析化学	選択	2	後	講義	100								
機器分析化学実験	選択	2	後	実験	60				15	5		20	
有機化学Ⅰ	必修	1	後	講義	100								
有機化学Ⅱ	必修	2	前	講義	100								
無機化学Ⅰ	必修	2	後	講義	100								
無機化学Ⅱ	選択	3	後	講義	100								
固体物質工学	選択	3	前	講義・演習	100								
化学工学Ⅰ	選択	3	前	講義	100								
化学工学Ⅱ	選択	3	後	講義	100								
電気化学	選択	3	後	講義	100								
ナノマテリアル化学	選択	3	後	講義	100								
高分子化学	選択	3	前	講義	100								
環境物質工学実験	選択	3	前	実験	60				5	15		20	
環境科学総論	必修	1	後	講義	20	60					20		
環境科学Ⅰ	選択	2	前	講義	40	60							
環境科学Ⅱ	選択	2	後	講義	40	60							
資源循環工学	選択	3	前	講義	30	70							
環境浄化工学	選択	3	後	講義	100								
地球科学	選択	2	前	講義	100								
地球科学実験	選択	3	後	実験	60				15	5		20	
生命科学基礎	必修	1	前	講義	35	65							
生物化学Ⅰ	必修	1	後	講義	30	70							
生物化学Ⅱ	選択	2	前	講義	30	70							
生物化学実験	必修	2	前	実験	70					20		10	
微生物学	選択	2	後	講義	30	70							
応用微生物学	選択	3	前	講義	40	60							
分子生物学	選択	2	後	講義	30	70							
遺伝子工学	選択	3	後	講義	30	70							
細胞生物学	選択	3	後	講義	30	70							
生命科学実験	選択	3	前	実験	70					20		10	
食品学ゼミナール	選択	2	前	講義・演習	10	60	20	10					
食品化学	選択	2	前	講義	20	80							
食品物性学実験	選択	2	後	実験	60				15	5		20	
香粧品科学	選択	3	前	講義	10	90							
栄養化学	選択	2	後	講義	10	90							
栄養生理学	選択	3	後	講義	10	90							
生体成分分析実験	選択	3	後	実験	60				5	15		20	
食品微生物発酵学	選択	2	後	講義	10	60			20			10	
食品分析学	選択	3	前	講義	10	90							
食品分析学実験	選択	3	前	実験	60				15	5		20	
食品衛生学	選択	3	前	講義	100								
毒性学	選択	3	後	講義	100								
食品環境衛生学	選択	3	後	講義・演習	10	60	10	10	10				
健康食品概論	選択	3	前	講義	10	60	10	20					
卒業研究	必修	4	通年	研究		20	20	20	20			20	
工学概論	選択	2	前	講義	10	70	10					10	

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50~15が副関与科目、10~5が補関与科目を示す。

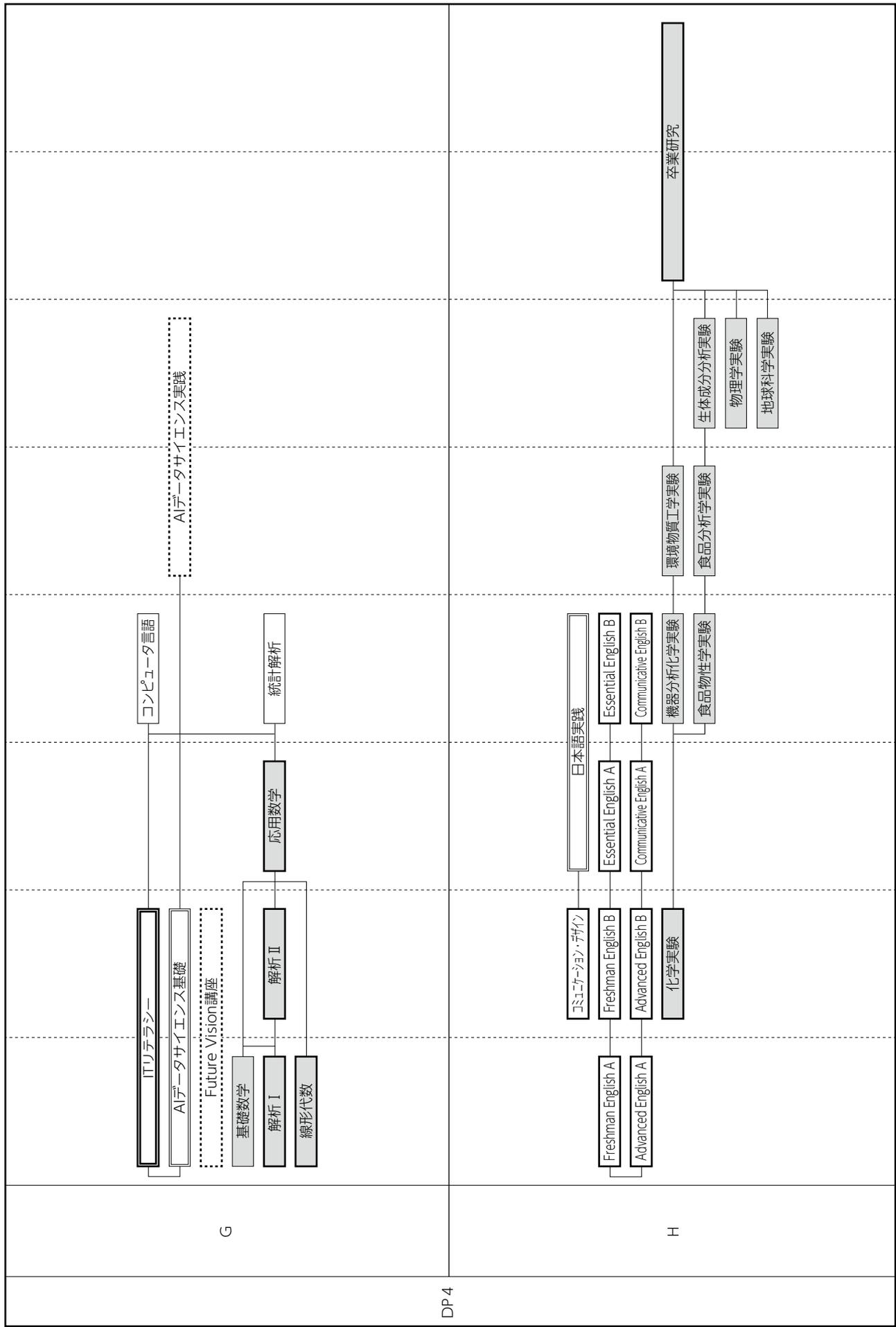
4 カリキュラムフロー

本フローは、コンピテンシーに対する科目のつながり（主に主関与）を示す。□で囲まれた科目については、前期のみ、後期のみ、または前期および後期に開講する。各年度の開講学期は授業時間割で示す。
 ※□は必修科目、■は副関与

DP	授 業 科 目 名			
	1年	2年	3年	4年
コンピ テンシー	前期 後期	前期 後期	前期 後期	前期 後期
	前期または後期、または両方	前期または後期、または両方	前期または後期、または両方	前期または後期、または両方
A	日本国憲法 市民生活と法 経済学 心理学 文学 社会学 九州学 基礎数学 解析Ⅰ 線形代数 基礎物理学	解析Ⅱ 応用数学 物理学		
	物理化学Ⅰ 物理化学Ⅰ 演習 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 分析化学 環境分析化学 機器分析化学 機器分析化学実験 無機化学Ⅰ 環境科学Ⅱ 地球科学 生物化学Ⅱ 生物化学実験 環境科学総論 生物化学Ⅰ 生物化学基礎 生命科学基礎	物理化学Ⅱ 物理化学Ⅱ 演習 無機化学Ⅱ 環境分析化学 有機化学Ⅱ 分析化学 環境科学Ⅰ 地球科学 生物化学Ⅰ 生物化学実験 環境科学Ⅱ 地球科学 生物化学Ⅱ 生物化学 分子生物学 生物化学実験 食品ゼミナール 食品化学 工学概論	物理化学Ⅲ 化学工学Ⅰ 無機化学Ⅱ ナノメテリアル化学 固体物質工学 高分子化学 環境物質工学実験 資源循環工学 応用微生物学 生命科学実験 生命課題化学ゼミナールⅠ 食品分析学 食品衛生学 化粧品科学 健康食品概論 食品物性学実験 食品物性学実験 食品分析学実験 食品分析学実験 生体成分分析実験	化学工学Ⅱ 電気化学 無機化学Ⅱ ナノメテリアル化学 物理化学実験 環境浄化学工学 地球科学実験 細胞生物学 遺伝子工学 生命課題化学ゼミナールⅡ 栄養生理学 食品環境衛生学 毒性学 生体成分分析実験
DP1	化学 生物学 生命科学基礎	物理学 物理化学Ⅱ 物理化学Ⅱ 演習 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 分析化学 環境分析化学 機器分析化学 機器分析化学実験 無機化学Ⅰ 環境科学Ⅱ 地球科学 生物化学Ⅱ 生物化学 分子生物学 生物化学実験 食品ゼミナール 食品化学 工学概論	物理化学Ⅲ 化学工学Ⅰ 無機化学Ⅱ ナノメテリアル化学 固体物質工学 高分子化学 環境物質工学実験 資源循環工学 応用微生物学 生命科学実験 生命課題化学ゼミナールⅠ 食品分析学 食品衛生学 化粧品科学 健康食品概論 食品物性学実験 食品物性学実験 食品分析学実験 食品分析学実験 生体成分分析実験	化学工学Ⅱ 電気化学 無機化学Ⅱ ナノメテリアル化学 物理化学実験 環境浄化学工学 地球科学実験 細胞生物学 遺伝子工学 生命課題化学ゼミナールⅡ 栄養生理学 食品環境衛生学 毒性学 生体成分分析実験

(生命環境化学科)

DP	授 業 業 科 目 名			
	1年	2年	3年	4年
コンピテンシー	前期	後期	前期	後期
	前期または後期、または両方	前期または後期、または両方	前期または後期、または両方	前期または後期、または両方
C	<ul style="list-style-type: none"> ウェルネス基礎 キャリア・デザイン 生命環境化学概論 	<ul style="list-style-type: none"> ウェルネス応用 食品学ゼミナール 	<ul style="list-style-type: none"> 生命環境化学ゼミナールI 生命環境化学ゼミナールII 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究
DP2		<ul style="list-style-type: none"> 自己成長と学び 仕事理解型実習 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決型インターンシップ 無機化学 I 健康食品概論 生命環境化学ゼミナールII 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究
E	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解 海外研修 化学実験 	<ul style="list-style-type: none"> 中国の文化と言葉 韓国の文化と言葉 機器分析化学実験 食品物性学実験 	<ul style="list-style-type: none"> 食品分析学実験 物理学実験 地球科学実験 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究
DP3	<ul style="list-style-type: none"> 地域創生論 地域創生PBL 現代倫理 Future Vision実践 化学実験 	<ul style="list-style-type: none"> 産業デザイン 生物化学実験 	<ul style="list-style-type: none"> 環境物質工学実験 生命科学実験 生体成分分析実験 コンピュータ言語 	
F				



DP4

5 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

1 → 2 年次	32 単位以上
2 → 3 年次	70 単位以上。指定されたコア科目を含む。
3 → 4 年次	112 単位以上。専門基礎科目と専門教育科目 62 単位以上を含む。全てのコア科目を含む。
卒業単位	132 単位以上

※教養力育成科目の展開群のうち、「生命と生態系」、「化学と生活」、「科学史」は進級条件及び卒業要件の単位には含まない。(P.68 [注 1] 参照)

→ § 3-5. 進級・卒業 P.51

II. コース

	生命環境化学コース	食品コース
要卒業要件	132 単位以上 各コースの必修科目の全ての単位を取得していること。	
コース共通要件	1. 教養力育成科目について、コア群から 14 単位、展開群から 12 単位以上、合計 26 単位以上を取得しなければならない。なお、展開群のうち「生命と生態系」、「化学と生活」、「科学史」は進級条件及び卒業要件の単位に含めない。 2. 教養力育成科目の展開群のうち、「IT リテラシー」の 2 単位を取得しなければいけない。 3. コア科目のうち、「化学実験」の 2 単位を取得しなければ 3 年次に進級できない。 4. 専門基礎科目及び専門教育科目から 92 単位以上を取得しなければならない。	
コース別要件	1. 「生命環境化学コース」で指定されたコース必修科目をすべて取得すること。 2. 「環境物質工学実験」、「生命科学実験」のいずれか 2 単位を取得すること。 3. 「物質化学分野」と「環境・エネルギー分野」に記載された選択科目から合計 4 単位以上取得すること。ただし「環境物質工学実験」は除く。 4. 「生命科学分野」と「食品分野」に記載された選択科目から合計 4 単位以上取得すること。ただし「生命科学実験」を除く。 5. 「生命環境化学コース」の専門教育科目の選択科目から、24 単位以上取得すること。なお、この 24 単位には「環境物質工学実験」と「生命科学実験」も含める。 6. コースコア科目のうち、「生物化学実験」および「機器分析化学実験」の 4 単位を取得しなければ 4 年次に進級できない。	1. 「食品コース」で指定されたコース必修科目をすべて取得すること。 2. 「食品コース」の専門教育科目の選択科目から、8 単位以上取得すること。 3. コースコア科目のうち、「生物化学実験」および「食品物性学実験」の 4 単位を取得しなければ 4 年次に進級できない。
分コース	2 年次後期から各コースに分かれる。「食品コース」の希望者が多数の場合は、成績や熱意、意欲等を総合的に判断して決定する。コースの変更は原則として認めない。	

III. 習熟度別クラス分け

■英語

→ § 3-2. ■習熟度別クラス P.44

IV. 資格取得

(1) 認定校として認可を得ている資格

- ・ 教員免許
高等学校教諭一種免許状（工業、理科）
中学校教諭一種免許状（理科）

→ § 2-2. 教職課程 P.20

- ・ 食品衛生管理者・食品衛生監視員資格
食品衛生法に定める食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格取得を希望する学生は、「食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程要領」に従い、指定されたすべての科目を履修すること（それらは卒業単位に含まれる）。

→ § 3-8. 資格 P.56~57
§ 9-7. ■生命環境化学科 食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程要領 P.244

- ・ 毒物劇物取扱責任者
生命環境化学科の卒業に伴い、毒物劇物取扱責任者に選任される資格を得ることができる。

→ § 3-8. 資格 P.56~57

(2) 資格取得を支援している資格

■資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・ 公害防止管理者…「環境科学Ⅰ」、「環境科学Ⅱ」
- ・ 環境測定分析士・環境計量士…「分析化学」、「機器分析化学」、「環境分析化学」「環境科学Ⅰ」、「環境科学Ⅱ」
- ・ NR・サプリメントアドバイザー…「健康食品概論」

■資格取得支援講座（課外）がある資格

- ・危険物取扱者
- ・バイオ技術者
- ・NR・サプリメントアドバイザー

※その他の資格取得支援講座については、社会連携センターに問い合わせること

択科目から、24単位以上取得すること。なお、この24単位には「環境物質工学実験」と「生命科学実験」も含める。

【食品コース】

「食品コース」の専門教育科目の選択科目から、8単位以上取得すること。

V. その他

■コア科目

【生命環境化学コース】

「化学実験」、「生物化学実験」、「機器分析化学実験」をコースコア科目に設定する。このうち、「化学実験」2単位の取得を2年次から3年次への進級条件とし、「生物化学実験」、「機器分析化学実験」4単位の取得を3年次から4年次への進級条件とする。

【食品コース】

「化学実験」、「生物化学実験」、「食品物性学実験」をコースコア科目に設定する。このうち、「化学実験」2単位の取得を2年次から3年次への進級条件とし、「生物化学実験」、「食品物性学実験」4単位の取得を3年次から4年次への進級条件とする。

→ § 3-1. ■授業科目 P.38

■専門教育科目の選択科目について

【生命環境化学コース】

「環境物質工学実験」、「生命科学実験」のいずれか1つの実験科目2単位を取得すること。また、「物質化学分野」と「環境・エネルギー分野」に記載された選択科目から合計4単位以上取得すること。ただし「環境物質工学実験」は除く。さらに、「生命科学分野」と「食品分野」に記載された選択科目から合計4単位以上取得すること。ただし「生命科学実験」を除く。

「生命環境化学コース」の専門教育科目の選

§ 4-3. 知能機械工学科 / Dept. of Intelligent Mechanical Engineering

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

■教育研究上の目的

情報技術と生産技術を融合した知能機械が主流となった機械分野において、基礎及び専門技術に関する知識と応用力を身につけるとともに、それらを駆使したデザイン能力とコミュニケーション能力を有し、技術者倫理をもってグローバルな活躍ができる人材の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

共通コンピテンシー (能力・資質)		定義	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー (編成方針)
DP1	A	幅広い教養	リベラルアーツを旨とした知識と思考力	科学技術に広く関わる知識を身につけさせるために物理関連の専門基礎科目を配置するとともに、多面的視点から考えさせる科目を配置する。
	B	専門知識・技能	当該分野において必要とされる知識と技能	知能機械に関する様々な課題に対応できるように、機械4力学の科目および設計、生産、計測と制御に関する専門教育科目を配置する。
DP2	C	ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	科学技術が社会にどのように貢献できるかについて、その歴史や背景をもとに考え、自分の将来を構想させる科目を配置する。
	D	メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	与えられた課題に対して計画を立て、自らの作業を客観的にとらえながら目標を実現することができる。
DP3	E	グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	多様な価値観の構成員グループにおいて、自身および他者の役割を理解し、構成員と協調して与えられた課題を解決できる。
	F	未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	人々の生活が豊かになる未来を構想し、その実現のために種々の科目で得た専門知識と技術を融合して新しい提案をすることができる。
DP4	G	デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	数理の基礎知識を理解し、知能機械の設計、生産、計測と制御に関わる情報の整理・分析的に的確に役立てることができる。
	H	発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力	論理的かつ明晰な文章を記述し、読み手の知識を想定した分かりやすい資料の作成や効果的な口頭発表および的確な討論ができる。

■カリキュラム・ポリシー（実施方針）

【学修方法】

1	多面的な視点から物事を考えさせたり、知識や技能の理解度・習熟度を確認するために、アクティブ・ラーニングを取り入れる。
2	各科目を通して機械工学とその知能化技術が社会でどのように活かされるかを意識して自分を将来を展望し、その実現のために何をすべきか学習ポートフォリオを通して客観的に分析する習慣を付けさせる。
3	グループワークを伴う科目において、各個人が異なる背景や考え方を持っていることを認識し、協働して課題解決に向けた新しい提案ができるようなコンテンツを提供する。
4	機械工学分野の課題解決において、数理の基礎知識を使ってデータを整理・分析し、論理的な文章や効果的な口頭発表により他者に的確に伝えることができるような機会を確保する。

【学修成果の評価】

1	各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した適切な成績評価を行う。
2	ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、全学的な学生調査や卒業研究、卒業論文等の成果物によって評価する。

■学修領域（教育分野）

- ①知能機械設計学
- ②知能生産工学
- ③知能計測制御工学

2 年次別授業科目表

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

(工学部) 各学科共通 | 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分			1年次		2年次		3年次		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	
コア群	教養力基盤	基礎	キャリア・デザイン ②	コミュニケーション・デザイン ②					
		ウェルネス基礎 ②							
	応用	Freshman English A	2	Freshman English B	2	Essential English A	2	Essential English B	2
		Advanced English A	2	Advanced English B	2	Communicative English A	2	Communicative English B	2

区分			1年次		2年次		3年次	
			前期または後期、または両方 [注4]		前期または後期、または両方 [注4]		前期または後期、または両方 [注4]	
展開群	多面的視座	基礎	IT リテラシー	2	自己成長と学び [注5]	2		
			AI データサイエンス基礎	2	産業デザイン	2		
			生命と生態系	2	中国の文化と言葉	2		
			化学と生活	2	韓国の文化と言葉	2		
			科学史	2				
			地域創生論	2				
			市民生活と法	2				
			日本国憲法	2				
			心理学	2				
			文学	2				
			現代倫理	2				
			経済学	2				
			社会学	2				
			九州学	2				
			異文化理解	2				
	実践知	応用	地域創生 PBL	2	ウェルネス応用	2		
海外研修			2	日本語実践	2			
				仕事理解型実習	2			
						課題解決型インターンシップ	2	

[注1] コア群から14単位、展開群から12単位以上、合計26単位以上を取得しなければならない。なお、展開群のうち「生命と生態系」、「化学と生活」、「科学史」は生命環境化学科では進級条件および卒業要件の単位に含めない。

[注2] 「Freshman English A, B」、「Advanced English A, B」、「Essential English A, B」、「Communicative English A, B」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を受講するものとする。

[注3] 「Essential English A, B」および「Communicative English A, B」は、該当する英語の資格を取得したものについても、届け出により成績評価を行う。

[注4] 展開群の各科目は、前期のみ、後期のみ、または前期および後期に開講する。各年度の開講学期は授業時間割で示す。両学期で開講される科目については、年度内での履修はどちらかの学期のみとし、再履修は翌年度以降とする。

[注5] 「自己成長と学び」は通年開講とする

[注6] 「IT リテラシー」は生命環境化学科・電気工学科では必修、電子情報工学科・知能機械工学科では選択である。

[注7] 「AI データサイエンス基礎」は主に遠隔授業を実施する。

(工学部) 各学科共通 | 横断科目表

区分		1年次		2年次		3年次	
科目横断		Future Vision 講座	1			AI データサイエンス実践	1
		Future Vision 実践	1				

[注1] 横断科目は、集中講義(前期、後期または夏休み中に短期間集中して開講)または、前期および後期に開講する。各年度の開講時期は授業時間割で示す。

[注2] 「Future Vision 講座」および「Future Vision 実践」の各科目においては、原則として科目名に()書きで主題を付し、個別の科目として開講し、複数履修することができる。

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

(工学部) 知能機械工学科 専門基礎及び専門教育科目表

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目、◎印はコア科目)

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎科目		解析Ⅰ及び演習 ④	解析Ⅱ ②		解析Ⅲ	2		
	線形代数Ⅰ ◎	線形代数Ⅱ ②	微分方程式 ②					
	数学基礎演習 ②			確率と統計 2				
		物理学Ⅰ及び演習 ④	物理学Ⅱ ②					
	物理基礎演習 ②							
		機械物理学実験 ②						

[注1] 「数学基礎演習」、「物理基礎演習」及び英語科目は習熟度別にクラス分けして行う。

■専門教育科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
機械基礎学	ものづくり基礎実習* ④		流体力学Ⅰ ②	機械力学Ⅰ ②	機械力学Ⅱ ②	流体力学Ⅱ ②		
			材料力学Ⅰ ②	熱力学Ⅰ ②	熱力学Ⅱ ②	材料力学Ⅱ ②	伝熱工学 2	エネルギー・環境工学 2
知能機械設計学	基礎製図Ⅰ ◎	基礎製図Ⅱ ②	知能機械設計Ⅰ* ④		知能機械設計Ⅱ* ④			
			CADシステム* ②		トライボロジー 2			
知能生産工学			機械材料 ②	機械工作法Ⅰ ②	機械工作法Ⅱ* 2			
				デジタルエンジニアリング* 2				
知能計測制御工学				電気基礎学 ②	計測工学 2			
					知能機械制御工学 ②	ロボット工学 2		
共通科目		工業技術史 ②	知能機械基礎実験Ⅰ ②	知能機械基礎実験Ⅱ ②	先端知能機械工学概論及び実習 2	知能機械創成実験 ②		
			知能機械制御言語及び演習* 2		国際工学実習 2	数値解析 2		
			技術者倫理 ②					
			工学概論 2					
卒業研究							卒業研究 ⑥	

[注1] コア科目のうち、専門基礎科目の「数学基礎演習」及び「物理基礎演習」4単位を取得しなければ2年次の科目を履修することはできない。また、専門基礎科目の「解析Ⅰ及び演習」、「線形代数Ⅰ」、「物理学Ⅰ及び演習」及び「解析Ⅱ」12単位を取得しなければ3年次の科目を履修することはできない。

[注2] *印の科目および教養力育成科目の「ITリテラシー」は授業にノートPCを使用する。

[注3] 「工学概論」は進級条件および卒業要件の単位に含めない。

[注4] 「先端知能機械工学概論及び実習」は指定科目として「流体力学Ⅰ」、「材料力学Ⅰ」、「機械力学Ⅰ」、「熱力学Ⅰ」の単位を取得しなければ履修することはできない。

3 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4	
						A	B	C	D	E	F	G	H
					コンピテンシー	幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
						相異なる解が想定される複雑な問題に対処する知識や多面的視座を得ることができる。	【教養力育成科目には該当せず】	社会の変化に合わせて自らのウェルネスを築くと共に、人生をデザインし、自己実現に向けて絶え間ない努力を重ねられる。	自己理解を深め、適性も見極めながら目標を設定し、実行とその振り返りを繰り返しつつ、実現へ向けた取り組みができる。	多様な価値観やバックグラウンドを持つ他者を尊重しながら問題解決に向けて協働できる。	人類社会が経験しなかった新たな問いに実践に基づき立ち向かいながら、その解決に向けて歩める。	数理やAI、データサイエンス、ICTの知識に基づいて、データを的確に分析し、状況を把握できる。	日本語及び基礎的な英語で自らの考えを分かりやすく論理的に構築でき、またそれに基づいて背景や意見を異にする相手ともコミュニケーションが取れる。
コア群	キャリア・デザイン	必修	1	前		10		60	10		10		10
	コミュニケーション・デザイン	必修	1	後		10			10	10	10		60
	ウェルネス基礎	必修	1	前		20		60	20				
	Freshman English A	選択	1	前		10			20	10			60
	Advanced English A	選択	1	前		10			20	10			60
	Freshman English B	選択	1	後		10			20	10			60
	Advanced English B	選択	1	後		10			20	10			60
	Essential English A	選択	2	前		10			20	10			60
	Communicative English A	選択	2	前		10			20	10			60
	Essential English B	選択	2	後		10			20	10			60
Communicative English B	選択	2	後		10			20	10			60	
展開群	自己成長と学び	選択	2	通年				20	60				20
	ITリテラシー	選択/必修	1	前後		40						60	
	AIデータサイエンス基礎	選択	1	前後		20				20	60		
	生命と生態系	選択	1	前後		60				20	20		
	化学と生活	選択	1	前後		60		20			20		
	科学史	選択	1	前後		60			20			20	
	産業デザイン	選択	2	前後		20					60	20	
	地域創生論	選択	1	前後		30				10	60		
	市民生活と法	選択	1	前後		60		10		10	20		
	日本国憲法	選択	1	前後		60				20	20		
	心理学	選択	1	前後		60			20				20
	文学	選択	1	前後		60		20			20		
	現代倫理	選択	1	前後		20		20			60		
	経済学	選択	1	前後		60		10			20	10	
	社会学	選択	1	前後		70		10			20		
	九州学	選択	1	前後		80					20		
	異文化理解	選択	1	前後		20					60		20
	中国の文化と言葉	選択	2	前後		20					60		20
	韓国の文化と言葉	選択	2	前後		20					60		20
	実践知	ウェルネス応用	選択	2	前後		20		60	20			
地域創生PBL		選択	1	前後		20				70		10	
日本語実践		選択	2	前後		10		10			20		60
仕事理解型実習		選択	2	集中				20	60	20			
課題解決型インターンシップ		選択	3	集中					60	20	20		
海外研修	選択	1	集中		20				60			20	

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

■横断科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4		
					A	B	C	D	E	F	G	H	
					コンピテンシー	幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
						リベラルアーツを旨とした知識と思考力	当該分野において必要とされる知識と技能	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	自らの考えを適切に伝えることができる力
AIデータサイエンス実践	選択	3	集中			20				20	60		
Future Vision 講座	選択	1	集中			10	10			20	60		
Future Vision 実践	選択	1	集中							20	60	20	

■知能機械工学科の専門基礎及び専門教育科目の関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4		
						コンピテンシー	A	B	C	D	E	F	G	H
							幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
						科学技術に広く関わる知識を身につけ、多面的視点から現象や物事を柔軟に考えることができる。	機械4力学を基礎として、高度な知能機械の設計、生産、計測と制御に必要な知識と技能を身につけ、問題解決に応用できる。	科学技術が社会にどのように貢献できるかを考えて自分の将来を設計・構想し、自分自身を成長させることができる。	与えられた課題に対して計画を立て、自らの作業を客観的にとらえながら目標を実現することができる。	多様な価値観の構成員グループにおいて、自身および他者の役割を理解し、構成員と協調して与えられた課題を解決できる。	人々の生活が豊かになる未来を構想し、その実現のために種々の科目で得た専門知識と技術を融合して新しい提案を立てることができる。	数理の基礎知識を理解し、知能機械の設計、生産、計測と制御に関する情報の整理・分析に的確に役立てることができる。	論理的かつ明晰な文章を記述し、読み手の知識を想定した分かりやすい資料の作成や効果的な口頭発表および的確な討論ができる。	
専門基礎科目	数学基礎演習	必修	1	通年	演習				20			80		
	線形代数Ⅰ	必修	1	前	講義				20			80		
	解析Ⅰ及び演習	必修	1	後	講義				20			80		
	線形代数Ⅱ	必修	1	後	講義				20			80		
	解析Ⅱ	必修	2	通年	講義				20			80		
	微分方程式	必修	2	前	講義				20			80		
	解析Ⅲ	選択	3	前	講義				20			80		
	確率と統計	選択	2	後	講義				20			80		
	物理基礎演習	必修	1	通年	演習	80			20					
	物理学Ⅰ及び演習	必修	1	後	講義	60	20		20					
機械物理学実験	必修	1	後	実験				10	60		20	10		
物理学Ⅱ	必修	2	前	講義	60	20		20						
ものづくり基礎実習	必修	1	通年	実習		60		10	20			10		
機械基礎科目	熱力学Ⅰ	必修	2	後	講義		60		20			20		
	熱力学Ⅱ	必修	3	前	講義		60		20			20		
	伝熱工学	選択	3	後	講義		60		20			20		
	流体力学Ⅰ	必修	2	前	講義		60		20			20		
	流体力学Ⅱ	必修	3	後	講義		60		20			20		
	機械力学Ⅰ	必修	2	後	講義		60		20			20		
	機械力学Ⅱ	必修	3	前	講義		60		20			20		
	材料力学Ⅰ	必修	2	前	講義		60		20			20		
	材料力学Ⅱ	必修	3	後	講義		60		20			20		
	エネルギー・環境工学	選択	3	後	講義	60	20				20			
知能機械設計科目	基礎製図Ⅰ	必修	1	前	講義		60		20			20		
	基礎製図Ⅱ	必修	1	後	講義		60		20			20		
	知能機械設計Ⅰ	必修	2	通年	講義		60		20			20		
	知能機械設計Ⅱ	必修	3	通年	講義		60		20			20		
	CAD システム	必修	2	前	講義		60		20			20		
	トライボロジー	選択	3	前	講義		60		20			20		
	機械材料	必修	2	前	講義		60		20			20		
	機械工作法Ⅰ	必修	2	後	講義		60		20			20		
	機械工作法Ⅱ	選択	3	前	講義		60		20			20		
	デジタルエンジニアリング	選択	2	後	講義		60		20			20		
知能生産工学	電気基礎学	必修	2	後	講義		60		20			20		
	知能機械制御工学	必修	3	前	講義		60		20			20		
	ロボット工学	選択	3	後	講義		60		20			20		
	計測工学	選択	3	前	講義		60		20			20		
	人工知能概論	選択	3	後	講義		60		20			20		
	知能機械基礎実験Ⅰ	必修	2	前	実験				60				40	
	知能機械基礎実験Ⅱ	必修	2	後	実験				60				40	
	工業技術史	必修	1	後	講義	20	20	60						
	技術者倫理	必修	2	前	講義	60	30	10						
	知能機械制御言語及び演習	選択	2	前	講義		60		20			20		
共通科目	先端知能機械工学概論及び実習	選択	3	前	実習		20	60			20			
	数値解析	選択	3	後	講義		20		20			60		
	知能機械創成実験	必修	3	後	実験・演習		20		20		60			
	工学概論	選択	2	前	講義	10	70	10				10		
	国際工学実習	選択	3	前	実習				20	60			20	
	卒業研究	卒業研究	必修	4	通年	研究	10	20		20	10	10	10	20

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

4 カリキュラムフロー

本フローは、コンピテンシーに対する科目のつながり（主に主関与）を示す。

※ は必修科目、 は副関与

DP	授 業 科 目 名			
	1年	2年	3年	4年
コンピ テンシー	前期 前期または後期、または両方	前期 前期または後期、または両方	前期 前期または後期、または両方	後期 前期または後期、または両方
A	化学と生活			
	生命と生態系			
	科学史			
	工業技術史	技術者倫理		エネルギー・環境工学
	日本国憲法			
	市民生活と法			
	経済学			
	心理学			
	文学			
	社会学			
九州学				
物理基礎演習				
B	物理学Ⅰ及び演習	物理学Ⅱ		
	物理学Ⅰ及び演習	物理学Ⅱ	電気基礎学	知能機械制御工学 計測工学
		知能機械制御言語及び演習	機械力学Ⅰ	機械力学Ⅱ
	材料力学Ⅰ	材料力学Ⅰ	材料力学Ⅱ	材料力学Ⅱ
	流体力学Ⅰ	流体力学Ⅰ	流体力学Ⅱ	流体力学Ⅱ
			熱力学Ⅰ	熱力学Ⅱ
	基礎製図Ⅱ	基礎製図Ⅰ	知能機械設計Ⅰ	知能機械設計Ⅱ
	ものづくり基礎実習	CADシステム	デジタルエンジニアリング	
	工業技術史	機械材料	機械工作法Ⅰ	機械工作法Ⅱ トライボロジー
		工学概論		
卒業研究				

DP 2	C	ウェルネス基礎 キャリア・デザイン	工業技術史	ウェルネス応用	先端機械工学講義の学習		
	D		自己成長と学び 仕事理解型実習	課題解決型インターンシップ	知能機械基礎実験Ⅱ	知能機械創成実験	卒業研究
DP 3	E	ものづくり基礎実習	機械物理学実験	国際工学実習			
	F	異文化理解 海外研修	中国の文化と言葉 韓国の文化と言葉	産業デザイン		知能機械創成実験	
DP 4	G	ITリテラシー AIデータサイエンス基礎 数学基礎演習	解析Ⅰ及び演習	確率と統計	AIデータサイエンス実践		
	H	線形代数Ⅰ Future Vision講座	線形代数Ⅱ Future Vision講座	解析Ⅱ 微分方程式	解析Ⅲ 数値解析		
		Freshman English A Advanced English A	コミュニケーション・デザイン	日本語実践	知能機械基礎実験Ⅰ Essential English A Communicative English A	知能機械基礎実験Ⅱ Essential English B Communicative English B	卒業研究

5 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

1 → 2 年次	32 単位以上。指定されたコア科目を含む。
2 → 3 年次	68 単位以上。指定されたコア科目を含む。
3 → 4 年次	114 単位以上。専門基礎科目と専門教育科目 62 単位以上を含む。全てのコア科目を含む。
卒業単位	132 単位以上

→ § 3-5. 進級・卒業 P.51

II. 習熟度別クラス分け

■数学・物理学

2 年次以降に開講する専門教育科目を深く理解するためには、数学や物理学に関する基礎知識を修得しておく必要がある。そこで、「数学基礎演習」や「物理基礎演習」では、1 年次を通して反復学習を行い、自立、継続して学問でできる能力を修得する。

■英語

→ § 3-2. 習熟度別クラス P.44

III. 資格取得

(1)認定校として認可を得ている資格

- ・教員免許：
高等学校教諭一種免許状（工業）

→ § 2-3. 教職課程 P.22

(2)資格取得を支援している資格

■資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・機械加工技能士（普通旋盤作業）…「ものづくり基礎実習」、「基礎製図Ⅰ」、「基礎製図Ⅱ」、「機械材料」、「機械工作法Ⅰ」、「機械工作法Ⅱ」、「電気基礎学」、「計測工学」、「知能機械創成実験」
- ・機械設計技術者…「基礎製図Ⅰ」、「基礎製図Ⅱ」、「知能機械設計Ⅰ」、「知能機械設計Ⅱ」、「CAD システム」、「デジタルエンジニアリング」

■資格取得支援講座（課外）がある資格

- ・CAD 利用技術者
 - ・機械保全技能士
- ※その他の資格取得支援講座は、社会連携センターに問い合わせ

IV. その他

■コア科目

必修科目のうち16単位をコア科目に設定する。

なお、コア科目のうち専門基礎科目の「数学基礎演習」、「物理基礎演習」4単位の取得を、1年次から2年次への進級条件とする。「数学基礎演習」、「物理基礎演習」は機械工学の専門知識を学ぶ上で大切な土台となる。

また、専門基礎科目の「解析Ⅰ及び演習」、「線形代数Ⅰ」、「物理学Ⅰ及び演習」、「解析Ⅱ」12単位の取得を、2年次から3年次への進級条件とする。

→ § 3-1. 1 授業科目 P.38

■実験・演習科目受講時の安全に対する基本的注意

- (1)知能機械工学科の実験実習科目及び卒業研究では、旋盤やボール盤等の大型機械を使用することが多く、一瞬の油断が命にかかわる重大事故につながる。各自、安全に対する意識を高め、各部署、各機械で定められた安全規定は必ず守ってほしい。
- (2)大型機械を用いない場合でも、例えば紙1枚でも、ちょっとした油断からけがをすることがある。常に安全に対する意識を持つように心がけてほしい。
- (3)どの授業でも同じであるが、実験実習科目及び卒業研究では、不真面目な態度での受講は、事故に直結する。常に真剣に受講することに心がけてほしい。

§ 4-4. 電気工学科 / Dept. of Electrical Engineering

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

■教育研究上の目的

日々進歩する電気・電子・情報工学の技術を理解し、習得するための素養と専門知識及び技術を身に付け、国際感覚と倫理観を有するとともに、地域産業のニーズも理解し、地域的また国際的連携の両方を意識して活躍できるグローバルな技術人材の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

共通コンピテンシー (能力・資質)		定義	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー (編成方針)
DP1	A	幅広い教養	リベラルアーツを目指した知識と思考力	人文・社会・自然科学に関する幅広い知識を得るための科目を配置する。
	B	専門知識・技能	当該分野において必要とされる知識と技能	電気工学分野における基盤技術・ハードウェア・ソフトウェアに関する科目を配置する。
DP2	C	ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	将来目指すキャリアに向けた目標の設定およびその目標の実現・達成に取り組むための科目を配置する。
	D	メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	種々の科学技術及び情報を用いて目的を達成するための知識・能力を身につけている。
DP3	E	グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	国際的視点と倫理観を身につけるための科目を配置する。
	F	未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	未来に向けた課題設定、問題解決能力を身につけるための科目を配置する。
DP4	G	デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	科学、技術および数理的知識に基づき情報を的確に整理・分析するための科目を配置する。
	H	発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力を磨き、向上させるための科目を配置する。

■カリキュラム・ポリシー（実施方針）

【学修方法】

1	効率的な知識の定着のために、アクティブ・ラーニングおよび反転講義を取り入れる。
2	講義により得た知識を応用する力を伸ばすために、各科目と有機的に連携した実験・実習を行う。
3	教養力育成科目、関連科目を通して、広い分野で活躍できる力を身につける。
4	総合科目・演習を通して、電気工学分野の知識・技術を応用し、問題を解決できる実践的能力を身に付ける。

【学修成果の評価】

1	各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した適切な成績評価を行う。
2	講義科目の学修成果は主にアセスメントテストで、演習・実験科目については主に作品・レポートで評価する。3年次後期の「電気工学総合」において、電気工学分野の知識を総合的に習得しているか確認試験を行う。4年次終了時に卒業研究発表において卒業論文内容の口頭試問を行う。

■学修領域（教育分野）

- ①電気基礎学
- ②電気エネルギーシステム工学
- ③情報制御工学
- ④電気機器・パワーエレクトロニクス工学

2 年次別授業科目表

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

(工学部) 各学科共通 | 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分			年次					
			1年次		2年次		3年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
コア群	教養力基盤	基礎	キャリア・デザイン ②	コミュニケーション・デザイン ②				
			ウェルネス基礎 ②					
			Freshman English A 2	Freshman English B 2	Essential English A 2	Essential English B 2		
		応用	Advanced English A 2	Advanced English B 2	Communicative English A 2	Communicative English B 2		

区分			年次					
			1年次		2年次		3年次	
			前期または後期、または両方 [注4]		前期または後期、または両方 [注4]		前期または後期、または両方 [注4]	
展開群	多面的視座	基礎	IT リテラシー 2	自己成長と学び [注5] 2				
			AI データサイエンス基礎 2	産業デザイン 2				
			生命と生態系 2	中国の文化と言葉 2				
			化学と生活 2	韓国の文化と言葉 2				
			科学史 2					
			地域創生論 2					
			市民生活と法 2					
			日本国憲法 2					
			心理学 2					
			文学 2					
			現代倫理 2					
			経済学 2					
			社会学 2					
			九州学 2					
			異文化理解 2					
		実践知	応用	地域創生 PBL 2	ウェルネス応用 2			
			海外研修 2	日本語実践 2				
				仕事理解型実習 2				
					課題解決型インターンシップ 2			

[注1] コア群から14単位、展開群から12単位以上、合計26単位以上を取得しなければならない。なお、展開群のうち「生命と生態系」、「化学と生活」、「科学史」は生命環境化学科では進級条件および卒業要件の単位に含めない。

[注2] 「Freshman English A, B」、「Advanced English A, B」、「Essential English A, B」、「Communicative English A, B」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を受講するものとする。

[注3] 「Essential English A, B」および「Communicative English A, B」は、該当する英語の資格を取得したものについても、届け出により成績評価を行う。

[注4] 展開群の各科目は、前期のみ、後期のみ、または前期および後期に開講する。各年度の開講学期は授業時間割で示す。両学期で開講される科目については、年度内での履修はどちらかの学期のみとし、再履修は翌年度以降とする。

[注5] 「自己成長と学び」は通年開講とする

[注6] 「IT リテラシー」は生命環境化学科・電気工学科では必修、電子情報工学科・知能機械工学科では選択である。

[注7] 「AI データサイエンス基礎」は主に遠隔授業を実施する。

(工学部) 各学科共通 | 横断科目表

区分		年次		
		1年次	2年次	3年次
科目横断		Future Vision 講座 1		AI データサイエンス実践 1
		Future Vision 実践 1		

[注1] 横断科目は、集中講義(前期、後期または夏休み中に短期間集中して開講)または、前期および後期に開講する。各年度の開講時期は授業時間割で示す。

[注2] 「Future Vision 講座」および「Future Vision 実践」の各科目においては、原則として科目名に()書きで主題を付し、個別の科目として開講し、複数履修することができる。

福岡工業大学工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

(工学部) 電気工学科 | 専門基礎及び専門教育科目表

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次				2年次				3年次				4年次	
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期	後期
専門基礎科目		解析 I	②	解析 II	②	解析 III	②	解析 IV	②						
		電気基礎 数学	②	線形代数 I	②	線形代数 II	②								
		電気基礎 物理学	②	力学 I	②	力学 II	②	熱力学	②						

■専門教育科目

区分	年次	1年次				2年次				3年次				4年次		
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期	後期	
電気基礎学		電気回路 I	②	電気回路 II	②	電気回路 III	②	電気回路 IV	②							
		電磁気学 I	②	電磁気学 II	②	電磁気学 III	②	電気計測	②							
		基礎物質 工学	②			半導体工学	②									
電気エネルギー システム工学						電気エネルギー システム工学 I	②	電気エネルギー システム工学 II	②	電気エネルギー システム工学 III	②	電気エネルギー システム工学 IV	②			
						交流電力 伝送の基礎	②	電気応用	②	高電圧工学	②	電気法規及 び施設管理	②			
情報制御工学		論理表現	②	電気工学フレッ シユマン演習	②	プログラ ミング言語	②	システム制御 工学 I	②	システム制御 工学 II	②	現代制御	②			
								メカトロ ニクス I	②	メカトロ ニクス II	②	デジタル 制御	②			
								技術者倫理		②			ロボット 工学	②		
電気機器・ パワーエレク トロニクス 工学		電気工学 概論	②	電気機器 I	②	電気機器 II	②	電気機器 III	②	パワーエレ クトロニクス	②	電気機器 設計・製図	②			
				電子回路 I	②	電子回路 II	②					デジタル 回路	②			
						エンジニアリング デザイン I	②					エンジニアリングデザイン II	④			
実験・実習 科目									電気基礎学 実験	②	電気工学 実験 I	②	電気工学 実験 II	②	卒業研究	⑥
実験・総合科目			電験理論	②	電験電力	②	電験法規	②	電験機械	②	電気工学 総合	②				
関連科目					工学概論	②					機械工学 概論	②	通信工学 概論	②		
									国際工学実習	②						

[注1] 電験理論、電験電力、電験機械、電験法規の4科目の単位は、受講後該当する国家試験に在学中に合格したのものについて、届け出により認定する。

[注2] 「工学概論」は進級条件および卒業要件の単位に含めない。

3 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4	
						A	B	C	D	E	F	G	H
					コンピテンシー	幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
						相異なる解が想定される複雑な問題に対処する知識や多面的視座を得ることができる。	【教養力育成科目には該当せず】	社会の変化に合わせて自らのウェルネスを築くと共に、人生をデザインし、自己実現に向けて絶え間ない努力を重ねられる。	自己理解を深め、適性も見極めながら目標を設定し、実行とその振り返りを繰り返しつつ、実現へ向けた取り組みができる。	多様な価値観やバックグラウンドを持つ他者を尊重しながら問題解決に向けて協働できる。	人類社会が経験しなかった新たな問いに実践知に基づき立ち向かいながら、その解決に向けて歩める。	数理やAI、データサイエンス、ICTの知識に基づいて、データを的確に分析し、状況を把握できる。	日本語及び基礎的な英語で自らの考えを分かりやすく論理的に構築でき、またそれに基づいて背景や意見を異にする相手ともコミュニケーションが取れる。
コア群	キャリア・デザイン	必修	1	前				10	60	10			10
	コミュニケーション・デザイン	必修	1	後				10		10	10		60
	ウェルネス基礎	必修	1	前				20	60	20			
	Freshman English A	選択	1	前				10		20	10		60
	Advanced English A	選択	1	前				10		20	10		60
	Freshman English B	選択	1	後				10		20	10		60
	Advanced English B	選択	1	後				10		20	10		60
	Essential English A	選択	2	前				10		20	10		60
	Communicative English A	選択	2	前				10		20	10		60
	Essential English B	選択	2	後				10		20	10		60
Communicative English B	選択	2	後				10		20	10		60	
展開群	自己成長と学び	選択	2	通年					20	60			20
	ITリテラシー	選択/必修	1	前後			40					60	
	AIデータサイエンス基礎	選択	1	前後			20				20	60	
	生命と生態系	選択	1	前後			60				20	20	
	化学と生活	選択	1	前後			60	20				20	
	科学史	選択	1	前後			60		20			20	
	産業デザイン	選択	2	前後			20				60	20	
	地域創生論	選択	1	前後			30			10	60		
	市民生活と法	選択	1	前後			60	10		10	20		
	日本国憲法	選択	1	前後			60			20	20		
	心理学	選択	1	前後			60		20				20
	文学	選択	1	前後			60	20			20		
	現代倫理	選択	1	前後			20	20			60		
	経済学	選択	1	前後			60	10			20	10	
	社会学	選択	1	前後			70	10			20		
	九州学	選択	1	前後			80				20		
	異文化理解	選択	1	前後			20				60		20
	中国の文化と言葉	選択	2	前後			20				60		20
	韓国の文化と言葉	選択	2	前後			20				60		20
	実践知	ウェルネス応用	選択	2	前後			20	60	20			
地域創生PBL		選択	1	前後			20				70		10
日本語実践		選択	2	前後			10	10			20		60
仕事理解型実習		選択	2	集中				20	60	20			
課題解決型インターンシップ		選択	3	集中					60	20	20		
海外研修	選択	1	集中			20				60		20	

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

■横断科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4	
						A	B	C	D	E	F	G	H
					コンピテンシー	幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
						リベラルアーツを旨とした知識と思考力	当該分野において必要とされる知識と技能	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	自らの考えを適切に伝えることができる力
	AIデータサイエンス実践	選択	3	集中			20				20	60	
	Future Vision 講座	選択	1	集中			10	10			20	60	
	Future Vision 実践	選択	1	集中						20	60		20

■電気工学科の専門基礎及び専門教育科目の関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4		
						コンピテンシー	A	B	C	D	E	F	G	H
							幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
専門基礎科目	電気基礎数学	必修	1	前	講義	25	55					20		
	解析Ⅰ	必修	1	前	講義	20	60					20		
	解析Ⅱ	必修	1	後	講義	20	60					20		
	線形代数Ⅰ	必修	1	後	講義	20	60					20		
	線形代数Ⅱ	選択	2	前	講義	20	60					20		
	解析Ⅲ	必修	2	前	講義	10	70					20		
	解析Ⅳ	選択	2	後	講義	10	70					20		
	電気基礎物理学	必修	1	前	講義	30	60					10		
	力学Ⅰ	必修	1	後	講義	20	70					10		
	力学Ⅱ	必修	2	前	講義	20	70					10		
	熱力学	選択	2	後	講義	10	90							
	電磁気学Ⅰ	必修	1	前	講義	5	70		5			15	5	
	電磁気学Ⅱ	必修	1	後	講義	5	70		5			15	5	
	電磁気学Ⅲ	必修	2	前	講義	5	70		5			15	5	
	電気回路Ⅰ	必修	1	前	講義	10	65		5			15	5	
電気回路Ⅱ	必修	1	後	講義	10	65		5			15	5		
電気回路Ⅲ	必修	2	前	講義	10	65		5			15	5		
電気回路Ⅳ	必修	2	後	講義	10	65		5			15	5		
電気計測	必修	2	後	講義	20	70					10			
基礎物質工学	必修	1	前	講義	25	55					20			
半導体工学	必修	2	前	講義	10	70					20			
電気基礎学概論	選択	3	後	講義	20	55	5	5		5	5	5		
電気エネルギーシステム工学Ⅰ	必修	2	前	講義	10	60	10		10		10			
電気エネルギーシステム工学Ⅱ	必修	2	後	講義	10	60	10				10			
電気エネルギーシステム工学Ⅲ	選択	3	前	講義	10	60	10	10			10			
電気エネルギーシステム工学Ⅳ	選択	3	後	講義	10	60	10	10			10			
電気法規及び施設管理	選択	3	後	講義	5	50	10	5	15	15				
交流電力伝送の基礎	必修	2	前	講義	10	60	20				10			
高電圧工学	選択	3	前	講義	10	60	10				10			
電気応用	必修	2	後	講義	20	55					25			
論理表現	必修	1	前	講義	10			20				10	60	
電気工学フレッシュマン演習	必修	1	後	演習		55	15	10				10	10	
プログラミング言語	必修	2	前	演習		55		10				25	10	
システム制御工学Ⅰ	必修	2	後	講義	10	60		10				10	10	
システム制御工学Ⅱ	選択	3	前	講義	10	60		10				10	10	
現代制御	選択	3	後	講義	10	60		10				10	10	
メカトロニクスⅠ	必修	2	後	演習		70		10				10	10	
メカトロニクスⅡ	選択	3	前	演習		70		10				10	10	
デジタル制御	選択	3	後	講義	10	60		10				10	10	
ロボット工学	選択	3	後	講義	10	60		10				10	10	
技術者倫理	必修	2	後	講義	20	10	10	10	20	20			10	
電気工学概論	必修	1	前	講義・演習	10	55	15	10			5		5	
電気機器Ⅰ	必修	1	後	講義	10	80	5				5			
電気機器Ⅱ	必修	2	前	講義	10	80	5				5			
電気機器Ⅲ	必修	2	後	講義	10	80	5				5			
パワーエレクトロニクス	必修	3	前	講義	10	70	10				10			
電気機器設計・製図	選択	3	後	講義・演習	20	60	10				10			
電子回路Ⅰ	必修	1	後	講義		90	5	5						
電子回路Ⅱ	選択	2	前	講義		85	5	5				5		
デジタル回路	選択	3	前	講義		80	5	5				10		
エンジニアリングデザインⅠ	必修	2	前	講義・演習		75	15	10						
エンジニアリングデザインⅡ	選択	3	通年	講義・演習		75	15	10						
電気基礎学実験	必修	2	後	実験	15	55		15					15	
電気工学実験Ⅰ	必修	3	前	実験		55	5	15	5				20	
電気工学実験Ⅱ	必修	3	後	実験		55	5	15	5				20	
卒業研究	必修	4	通年	研究		55		15			15		15	
電験理論	選択	1	後	講義	10	55	10	10			15			
電験電力	選択	2	前	講義・演習	5	55	10	10			15	5		
電験法規	選択	2	後	講義・演習	5	55	5	5	15	15				
電験機械	選択	3	前	講義	10	55	10	5			15	5		
電気工学総合	必修	3	後	講義・演習		55		15			15		15	
機械工学概論	選択	3	前	講義	20	50	10		10	10				
通信工学概論	選択	3	後	講義	20	50	10		10	10				
工学概論	選択	2	前	講義	10	70	10					10		
国際工学実習	選択	3	前	実習	10	10	10	10		20	10	10	20	

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

C	ウェルネス基礎 キャリア・デザイン 電気工学概論	ウェルネス応用 エンジニアリングデザイン エンジニアリングデザインII	
	電気工学プロジェクト 電気工学概論	エンジニアリングデザインII	
DP 2		自己成長と学び 仕事理解型実習	課題解決型インターンシップ
D	論理表現	電気基礎学実験	電気工学実験I 電気工学総合 電気工学実験II
E	異文化理解 海外研修	中国の文化と言葉 韓国の文化と言葉	電気工学実験I 国際工学実習
DP 3	地域創生論 地域創生PBL 現代倫理 Future Vision実践	産業界デザイン 電気応用 技術者倫理	電気法規および施設管理 電気法規
F	電験理論	電験電力 電験法規	電験機械 電験法規および施設管理
G	ITリテラシー AIデータサイエンス基礎 Future Vision講座	プログラミング言語 解析I 解析II 線形代数I	AIデータサイエンス実践
DP 4	解析I 電気基礎数学	解析III 線形代数II	
H	Freshman English A Advanced English A 論理表現	日本語実践 Essential English A Communicative English A	電気工学総合 卒業研究
	Freshman English B Advanced English B 論理表現	日本語実践 Essential English B Communicative English B	

5 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

1 → 2 年次	30 単位以上
2 → 3 年次	64 単位以上
3 → 4 年次	104 単位以上。専門基礎科目と専門教育科目 62 単位以上を含む。
卒業単位	132 単位以上

→ § 3-5. 進級・卒業 P.51

II. 習熟度別クラス分け

■英語

→ § 3-2. 習熟度別クラス P.44

III. 資格取得

(1) 認定校として認可を得ている資格

・教員免許：

高等学校教諭一種免許状（工業）

→ § 2-3. 教職課程 P.22

・電気主任技術者

指定学科目の単位を取得して卒業し、一定の実務経験があれば免状の交付を受けることができる。

なお、指定学科目の単位取得者には、第二種電気工事士の筆記試験が免除される。また、第一種電気工事士試験合格者に対して実務経験年数 5 年が 3 年に短縮される。

[認定基準表]

電気主任技術者の資格等に関する省令第 1 条第 1 項の規定による認定基準		大学の授業科目名及び履修単位数			
科目区分	単位数				
1. もの 電気工学又は電子工学等の基礎に関する	19	第一欄	電磁気学Ⅰ 2 電磁気学Ⅱ 2 電磁気学Ⅲ 2 電気回路Ⅰ 2 電気回路Ⅱ 2 電気回路Ⅲ 2 電気回路Ⅳ 2 電気計測 2		
			小計 16		
		第二欄	電子回路Ⅰ 2 電子回路Ⅱ 2 基礎物質工学 2		
			小計 6		
			計 22		
		2. 材料並びに電気法規に関するもの 発電、変電、送電、配電及び電気	10	第一欄	交流電力伝送の基礎 2 電気エネルギーシステム工学Ⅰ 2 電気エネルギーシステム工学Ⅱ 2 電気エネルギーシステム工学Ⅲ 2 電気エネルギーシステム工学Ⅳ 2 電気法規及び施設管理 2
					小計 12
	第二欄			高電圧工学 2 機械工学概論 2 技術者倫理 2	
			小計 6		
			計 18		
3. 電気及び電子機器、自動制御、電気エネルギー利用並びに情報伝送及び処理に関するもの	12	第一欄	電気機器Ⅰ 2 電気機器Ⅱ 2 パワーエレクトロニクス 2 システム制御工学Ⅰ 2 システム制御工学Ⅱ 2		
			小計 10		
	12	第二欄	電気応用 2 メカトロニクスⅠ 2 メカトロニクスⅡ 2 プログラミング言語 2		
			小計 8		
		計 18			

4. 電気工学若しくは電子工学 実験又は電気工学若しくは 電子工学実習に関するもの	6	第一欄	電気基礎学実験	2
			電気工学実験 I	2
			電気工学実験 II	2
小計			6	
5. 電気及び電子機器設計 又は電気及び電子機器 製図に関するもの	2	第二欄	電気機器設計・製図	2
		小計		
49		総 合 計		66

※第一欄は必修、第二欄は科目区分ごとの単位数を補うもので一定の単位取得が必要。

→ § 3-8. 資格 P.56

(2) 資格取得を支援している資格

■資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・電気主任技術者（1～3種）

「電験理論」、「電験電力」、「電験機械」、「電験法規」（認定科目）

[認定科目の単位認定方法]：

履修後に該当する国家資格を取得したものについては、該当科目の開講学期の学期末試験期間までに科目担当教員へ届け出ることにより単位を認定する。また、履修前に取得しているものについては、該当科目の開講学期の履修登録期間までに履修登録し、科目担当教員へ届け出ることにより単位を認定する。

なお、単位認定は該当科目の開講年次以降に行う。

→ § 3-4. 5 単位認定 P.50

■資格取得支援講座（課外）がある資格

- ・電気工事士

※その他の資格取得支援講座は、社会連携センターに問い合わせ

IV. その他

■コア科目

設定なし

§ 5

情報工学部

Faculty of Information Engineering

§ 5-1	情報工学科	104
-------	-------	-----

Dept. of Computer Science and Engineering

- 1 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
- 2 年次別授業科目表
- 3 関与度一覧表
- 4 カリキュラムフロー
- 5 履修上の注意

§ 5-2	情報通信工学科	114
-------	---------	-----

Dept. of Information and Communication Engineering

- 1 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
- 2 年次別授業科目表
- 3 関与度一覧表
- 4 カリキュラムフロー
- 5 履修上の注意

§ 5-3	情報システム工学科	126
-------	-----------	-----

Dept. of Information and Systems Engineering

- 1 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
- 2 年次別授業科目表
- 3 関与度一覧表
- 4 カリキュラムフロー
- 5 履修上の注意

§ 5-4	情報マネジメント学科	136
-------	------------	-----

Dept. of Information Management

- 1 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
- 2 年次別授業科目表
- 3 関与度一覧表
- 4 カリキュラムフロー
- 5 履修上の注意

■情報工学部ディプロマ・ポリシー （卒業認定・学位授与の方針）

情報工学部では、学則および学部履修要項等に則して必要な単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、情報工学分野に関する専門的知識を身につけ、大学の定めるディプロマ・ポリシーに対応する力を修得したと判断した場合に、学士の学位を授与します。なお、この方針に基づく「各学科において修得すべき能力」は、各学科で別に定めます。

■情報工学部カリキュラム・ポリシー （教育課程編成・実施の方針）

情報工学部は、福岡工業大学全学（学士課程）カリキュラム・ポリシーをもとに、情報工学部のディプロマ・ポリシーを踏まえて教育課程を編成し、実施します。

§ 5-1

情報工学科

§ 5-2

情報通信工学科

§ 5-3

情報システム工学科

§ 5-4

情報マネジメント学科

§ 5-1. 情報工学科 / Dept. of Computer Science and Engineering

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

■教育研究上の目的

コンピュータのソフトウェア・ハードウェアの基礎及び応用を教授研究し、プログラミングに習熟させるとともに、インターネットや人工知能、知能ロボット、自然言語処理、画像処理、データベース、マルチメディア、CG、システム LSI などの最先端のコンピュータ技術・応用技術を持つ専門的職業人及び教育研究者の人材の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

共通コンピテンシー (能力・資質)		定義	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー (編成方針)
DP1	A	幅広い教養	リベラルアーツを目指した知識と思考力	情報工学に関する技術と現代社会との関係を理解・認識できるようになるため科目を配置する。
	B	専門知識・技能	当該分野において必要とされる知識と技能	情報工学に関する各分野における基礎的な概念・理論を修得するための科目を配置する。
DP2	C	ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	情報学分野において、自ら継続的な学習し、意志決定を行えるようになるための科目を配置する。
	D	メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	変化し続ける社会の状況に対応しつつ、自身の課題に向き合い解決する能力を習得できるようになるための科目を配置する。
DP3	E	グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	多様な背景や価値観をもつ人々とコミュニケーションをとりながら共同作業する能力やを修得できるようになるための科目を配置する
	F	未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	課題に対して総合的な能力から問題を解決できるようになるための科目を配置する。
DP4	G	デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	数理の基礎知識を基盤として、大量なデータに対する分析・処理を行う能力を修得できるようになるための科目を配置する。
	H	発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力	自身の考えを論理的にまとめ、プレゼンテーションや討論を行う能力を修得できるようになるための科目を配置する。

■カリキュラム・ポリシー（実施方針）

【学修方法】

1	PBL に参画することによって、種々の問題に対する理解を深め、解決能力を養えるようにする。
2	学習ポートフォリオの活用などによって、日常的な学習を記録を行い、学修成果や目標達成度の振り返りを定期的に行う制度を運用する。
3	インターンシップやグローバルプログラムなどによって、異なる背景をもつ人々との協働の経験を積むことで、社会とのつながりを深める。
4	データベースの知識を学ぶとともに、大量のデータに対する分析・処理を行うための実践的な学修を行う。

【学修成果の評価】

1	各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した適切な成績評価を行う。
2	プロジェクト型演習や卒業研究における研究の進め方、新規性、目標の達成度などによって総合的に評価する。

■学修領域（教育分野）

- ①情報科学
- ②プログラミング
- ③人工知能
- ④コンピュータ技術

2 年次別授業科目表

福岡工業大学情報工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学部〕各学科共通 | 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分			1年次				2年次				3年次			
			前期		後期		前期		後期		前期		後期	
コア群	教養力基盤	基礎	キャリア・デザイン ②	コミュニケーション・デザイン ②										
				ウェルネス基礎 ②										
			Freshman English A 2	Freshman English B 2	Essential English A 2	Essential English B 2								
		応用	Advanced English A 2	Advanced English B 2	Communicative English A 2	Communicative English B 2								

区分			1年次				2年次				3年次			
			前期または後期、または両方 [注4]				前期または後期、または両方 [注4]				前期または後期、または両方 [注4]			
展開群	多面的視座	基礎	AI データサイエンス基礎 2	自己成長と学び [注5] 2										
			生命と生態系 2	産業デザイン 2										
			化学と生活 2	中国の文化と言葉 2										
			科学史 2	韓国の文化と言葉 2										
			地域創生論 2											
			市民生活と法 2											
			日本国憲法 2											
			心理学 2											
			文学 2											
			現代倫理 2											
			経済学 2											
			社会学 2											
			九州学 2											
			異文化理解 2											
		実践知	応用	地域創生 PBL 2	ウェルネス応用 2									
			海外研修 2	日本語実践 2										
				仕事理解型実習 2										
												課題解決型インターンシップ 2		

[注1] コア群から14単位、展開群から10単位以上、合計24単位以上を取得しなければならない。

[注2] 「Freshman English A, B」、「Advanced English A, B」、「Essential English A, B」、「Communicative English A, B」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を受講するものとする。

[注3] 「Essential English A, B」および「Communicative English A, B」は、該当する英語の資格を取得したものについても、届け出により成績評価を行う。

[注4] 展開群の各科目は、前期のみ、後期のみ、または前期および後期に開講する。各年度の開講学期は授業時間割で示す。両学期で開講される科目については、年度内での履修はどちらかの学期のみとし、再履修は翌年度以降とする。

[注5] 「自己成長と学び」は通年開講とする。

[注6] 「AI データサイエンス基礎」は主に遠隔授業を実施する。

〔情報工学部〕各学科共通 | 横断科目表

区分		1年次		2年次		3年次	
		科目横断	Future Vision 講座 1	Future Vision 実践 1	アプリ開発実践 2	AI データサイエンス実践 1	

[注1] 横断科目は、集中講義（前期、後期または夏休み中に短期間集中して開講）または、前期および後期に開講する。各年度の開講時期は授業時間割で示す。

[注2] 「Future Vision 講座」および「Future Vision 実践」の各科目においては、原則として科目名に（ ）書きで主題を付し、個別の科目として開講し、複数履修することができる。

福岡工業大学情報工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学部〕 情報工学科 専門基礎及び専門教育科目表

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎科目		基礎物理学 2	物理学Ⅰ ②	物理学Ⅱ 2	基礎電磁気学 2		情報物理学 2		
		線形代数Ⅰ ②	線形代数Ⅱ 2	線形代数Ⅲ 2	幾何学的情報数学 2	幾何学とマルチメディア 2	代数学と暗号 2	応用幾何学 2	
		解析Ⅰ ②	解析Ⅱ 2	解析Ⅲ 2	微分方程式 2	複素関数論 2		代数学と符号化 2	

■専門教育科目

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
情報基礎学		情報基礎ゼミナール ②				情報工学特別講義 ②	情報技術者倫理 ②		
		確率統計論 ②	離散数学 ②		数値計算 2				
		コンピュータ科学 ②		オートマトンと形式言語 ②		情報理論 2			
		コンピュータリテラシー ②				プログラミング言語論 2			
コンピュータソフトウェア工学				人工知能プログラミング 2		ネットワークプログラミング 2			
		CプログラミングⅠ ②	CプログラミングⅡ ②	JAVAプログラミングⅠ ②	JAVAプログラミングⅡ 2		HCIプログラミング 2		
				データエンジニアリング 2	データ構造とアルゴリズム ②				
				オペレーティングシステム ②		ソフトウェア工学Ⅰ 2	ソフトウェア工学Ⅱ 2		
コンピュータハードウェア工学		電気電子回路Ⅰ ②	電気電子回路Ⅱ 2	論理回路 ②	論理設計 2	デジタルシステム設計 2	システムLSI 2		
			コンピュータアーキテクチャⅠ ②	コンピュータアーキテクチャⅡ 2	情報ネットワーク ②				
				情報工学実験Ⅰ ②	情報工学実験Ⅱ ②	システム工学とプロジェクト管理 2			
知能情報メディア工学			人工知能基礎 2	人工知能応用 2	自然言語処理 2	ヒューマンコンピュータインタラクション ②	情報セキュリティ 2		
			マルチメディア工学 2				デジタル信号処理 2		
				データベース 2	コンピュータグラフィックス 2	パターン認識 2	音情報処理 2		
						画像情報処理 2	ロボティクス 2		
共通					プロジェクト型演習Ⅰ 2		プロジェクト型演習Ⅱ 2		
					情報技術資格Ⅰ 2	情報技術資格Ⅱ 2		卒業研究 ⑥	

3 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4		
						A	B	C	D	E	F	G	H	
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力	
						相異なる解が想定される複雑な問題に対処する知識や多面的視座を得ることができる。	【教養力育成科目には該当せず】	社会の変化に合わせて自らウェルネスを築くと共に、人生をデザインし、自己実現に向けて絶え間ない努力を重ねられる。	自己理解を深め、適性も見極めながら目標を設定し、実行とその振り返りを繰り返しつつ、実現へ向けた取り組みができる。	多様な価値観やバックグラウンドを持つ他者を尊重しながら問題解決に向けて協働できる。	人類社会が経験しなかった新たな問いに基づき立ち向かいながら、その解決に向けて歩める。	数理やAI、データサイエンス、ICTの知識に基づいて、データを的確に分析し、状況を把握できる。	日本語及び基礎的な英語で自らの考えを分かりやすく論理的に構築でき、またそれを基に背景や意見を異にする相手ともコミュニケーションが取れる。	
コア群 教養力基盤	キャリア・デザイン	必修	1	前		10		60	10		10		10	
	コミュニケーション・デザイン	必修	1	後		10			10	10	10		60	
	ウェルネス基礎	必修	1	前		20		60	20					
	Freshman English A	選択	1	前		10			20	10			60	
	Advanced English A	選択	1	前		10			20	10			60	
	Freshman English B	選択	1	後		10			20	10			60	
	Advanced English B	選択	1	後		10			20	10			60	
	Essential English A	選択	2	前		10			20	10			60	
	Communicative English A	選択	2	前		10			20	10			60	
	Essential English B	選択	2	後		10			20	10			60	
Communicative English B	選択	2	後		10			20	10			60		
展開群 多面的視座	自己成長と学び	選択	2	通年				20	60				20	
	AI データサイエンス基礎	選択	1	前後		20					20	60		
	生命と生態系	選択	1	前後		60					20	20		
	化学と生活	選択	1	前後		60		20				20		
	科学史	選択	1	前後		60			20			20		
	産業デザイン	選択	2	前後		20					60	20		
	地域創生論	選択	1	前後		30				10	60			
	市民生活と法	選択	1	前後		60		10		10	20			
	日本国憲法	選択	1	前後		60				20	20			
	心理学	選択	1	前後		60			20				20	
	文学	選択	1	前後		60		20			20			
	現代倫理	選択	1	前後		20		20			60			
	経済学	選択	1	前後		60		10			20	10		
	社会学	選択	1	前後		70		10			20			
	九州学	選択	1	前後		80					20			
	異文化理解	選択	1	前後		20					60		20	
	中国の文化と言葉	選択	2	前後		20					60		20	
	韓国の文化と言葉	選択	2	前後		20					60		20	
	実践知	ウェルネス応用	選択	2	前後		20		60	20				
		地域創生 PBL	選択	1	前後		20					70		10
日本語実践		選択	2	前後		10		10			20		60	
仕事理解型実習		選択	2	集中				20	60	20				
課題解決型インターンシップ		選択	3	集中					60	20	20			
海外研修		選択	1	集中		20					60		20	

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

■横断科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4	
						A	B	C	D	E	F	G	H
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
						リベラルアーツを旨とした知識と思考力	当該分野において必要とされる知識と技能	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	自らの考えを適切に伝えることができる力
	AI データサイエンス実践	選択	3	集中			20				20	60	
	アプリ開発実践	選択	2	集中		10	20	10	10	10	10	20	10
	Future Vision 講座	選択	1	集中			10	10			20	60	
	Future Vision 実践	選択	1	集中						20	60		20

■情報工学科の専門基礎及び専門教育科目の関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	コンピテンシー		DP1		DP2		DP3		DP4			
						A	B	C	D	E	F	G	H				
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実視力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力				
専門基礎科目	線形代数Ⅰ	必修	1	前	講義												
	線形代数Ⅱ	選択	1	後	講義				40				60				
	線形代数Ⅲ	選択	2	前	講義				40				60				
	解析Ⅰ	必修	1	前	講義				40				60				
	解析Ⅱ	選択	1	後	講義				40				60				
	基礎物理学	選択	1	前	講義								100				
	物理学Ⅰ	必修	1	後	講義								100				
	物理学Ⅱ	選択	2	前	講義								100				
	幾何学とマルチメディア	選択	3	前	講義				40				60				
	解析Ⅲ	選択	2	前	講義				40				60				
	基礎電磁気学	選択	2	後	講義								100				
	幾何学的情報数学	選択	2	後	講義				40				60				
	微分方程式	選択	2	後	講義				40				60				
	代数学と暗号	選択	3	後	講義				40				60				
	複素関数論	選択	3	前	講義				40				60				
	情報物理学	選択	3	後	講義								100				
	応用幾何学	選択	4	前	講義				40				60				
	代数学と符号化	選択	4	前	講義				40				60				
	情報基礎科目	情報基礎ゼミナール	必修	1	前	講義	20					40	10			30	
		コンピュータリテラシー	必修	1	前	講義		60							20	20	
コンピュータ科学		必修	1	前	講義		70							30			
離散数学		必修	1	後	講義		60			20				20			
確率統計論		必修	1	前	講義		60			10				30			
オートマトンと形式言語		必修	2	前	講義		60			20				20			
情報工学特別講義		必修	3	前	講義	5	20	15	20	10	20	10	20	10	20		
情報理論		選択	3	前	講義		55	5	10	10	20	10	20	10	20		
数値計算		選択	2	後	講義		55	5	10	10	20	10	20	10	20		
情報技術者倫理		必修	3	後	講義	70				10							
プログラミング言語論		選択	3	前	講義		50							50			
CプログラミングⅠ		必修	1	前	講義・演習		60			20				20			
CプログラミングⅡ		必修	1	後	講義・演習		60			20				20			
オペレーティングシステム		必修	2	前	講義		80			10				10			
データ構造とアルゴリズム		必修	2	後	講義		80							20			
データエンジニアリング		選択	2	前	講義		80							20			
人工知能プログラミング		選択	2	前	演習		55			15		15		15			
ソフトウェア工学Ⅰ		選択	3	前	講義	10	30	40	10	10				10			
ソフトウェア工学Ⅱ		選択	3	後	講義	10	30	40	10	10				10			
JAVAプログラミングⅠ		必修	2	前	講義・演習	20	55			15				10			
情報工学実験Ⅲ	必修	3	前	実験	10	20	10	20	10	10	10	10	10	10			
ネットワークプログラミング	選択	3	前	講義	20	55			5				20				
JAVAプログラミングⅡ	選択	2	後	講義・演習	20	55			15				10				
HCIプログラミング	選択	3	後	講義・演習	20	40			10				30				
情報工学実験Ⅳ	必修	3	後	実験	10	20	10	20	10	10	10	10	10	10			
コンピュータハードウェア工学	電気電子回路Ⅰ	必修	1	前	講義		20		80								
	電気電子回路Ⅱ	選択	1	後	講義		20		80								
	コンピュータアーキテクチャⅠ	必修	1	後	講義				80						20		
	論理回路	必修	2	前	講義	10	70								20		
	コンピュータアーキテクチャⅡ	選択	2	前	講義		80								20		
	情報工学実験Ⅰ	必修	2	前	実験		30			20	20				10	20	
	論理設計	選択	2	後	講義		80								20		
	情報工学実験Ⅱ	必修	2	後	実験		30	10	20	10	10	10	10	20	20		
	情報ネットワーク	必修	2	後	講義		80								20		
	デジタルシステム設計	選択	3	前	講義		80								20		
知能情報メディア工学関連科目	システムLSI	選択	3	後	講義		80							20			
	システム工学とプロジェクト管理	選択	3	前	講義	30		40	30								
	マルチメディア工学	選択	1	後	講義		40							60			
	データベース	選択	2	前	講義・演習		40							60			
	人工知能基礎	選択	1	後	講義	20	60							20			
	自然言語処理	選択	2	後	講義		40							60			
	コンピュータグラフィックス	選択	2	後	講義		60							40			
	人工知能応用	選択	2	前	講義		30							70			
	デジタル信号処理	選択	3	後	講義		20							80			
	ロボティクス	選択	3	後	講義		20							80			
共通	ヒューマンコンピュータ・インタラクション	必修	3	前	講義	55	20	5						20			
	情報セキュリティ	選択	3	後	講義		60							40			
	音情報処理	選択	3	後	講義	10	20							70			
	画像情報処理	選択	3	前	講義	15	60							25			
	パターン認識	選択	3	前	講義	10	20							70			
	プロジェクト型演習Ⅰ	選択	2	後	演習	5	20	5	15	15	15	15	5	5	20		
	プロジェクト型演習Ⅱ	選択	3	後	演習	5	20	5	20	15	15	15	5	15			
	情報技術資格Ⅰ	選択	2	後	講義	40	40							20			
	情報技術資格Ⅱ	選択	3	前	講義	40	40							20			
	卒業研究	必修	4	通年	研究	10	10	10	20	10	10	10	10	20			

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

4 カリキュラムフロー

本フローは、コンピテンシーに対する科目のつながり（主に主関与）を示す。

※ は必修科目、 は副関与

DP	授 業 科 目 名				
	1年	2年	3年	4年	
コンピ テンシー	前期 前期または後期、または両方	後期 後期	前期 前期または後期、または両方	後期 後期	
	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">化学と生活</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生命と生態系</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">科学史</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日本国憲法</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">市民生活と法</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">経済学</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">心理学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">社会学</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">九州学</div> </div>				
DP1	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報基礎ゼミナール</div> </div>		<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報技術資格 I</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報技術資格 II</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報セキュリティ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報技術者倫理</div> </div>	
	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コンピュータリテラシー</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Cプログラミング I</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コンピュータ科学</div> </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">アプリ開発実践</div> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">オペレーティングシステム</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">JAVAプログラミング I</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">オートマトンと形式言語</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">人工知能プログラミング</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">データエンジニアリング</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">データ構造とアルゴリズム</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">JAVAプログラミング II</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報ネットワーク</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コンピュータグラフィックス</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">プログラミング言語論</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ネットワークプログラミング</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">画像情報処理</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">HCIプログラミング</div> </div>
	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">確率統計論</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電気電子回路 I</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">離散数学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コンピュータキーチャ I</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電気電子回路 II</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">数値計算</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コンピュータキーチャ II</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報理論</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">システム L S I</div> </div>	
	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">論理回路</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報工学実験 I</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">論理設計</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報工学実験 II</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">デザインシステム設計</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報工学実験 III</div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報工学実験 IV</div> </div>	

C	キャリア・デザイン	ウェルネス基礎	ウェルネス応用	ソフトウェア工学Ⅰ システム工学とプロジェクト管理	ソフトウェア工学Ⅱ
DP 2			自己成長と学び	課題解決型インターンシップ	
	D	線形代数Ⅰ 解析Ⅰ	線形代数Ⅱ 解析Ⅱ	幾何学とマルチメディア 複素関数論	応用幾何学 代数学と符号化
E		異文化理解 海外研修	中国の文化と言葉 韓国の文化と言葉		
		情報基礎ゼミナール	情報工学実験Ⅰ	情報工学特別講義	情報技術者倫理
DP 3		地域創生論 地域創生PBL 現代倫理 Future Vision実践	産業デザイン		
	F	AIデータサイエンス基礎 Future Vision講座	人工知能プログラミング	情報工学特別講義	プロジェクト型演習Ⅱ
G		線形代数Ⅰ 解析Ⅰ 基礎物理学	線形代数Ⅲ 解析Ⅲ 物理学Ⅱ	幾何学とマルチメディア 複素関数論	応用幾何学 代数学と符号化
		基礎物理学	マルチメディア工学 物理学Ⅰ	幾何学とマルチメディア 複素関数論	代数学と暗号 情報物理学
DP 4		Freshman English A Advanced English A 情報基礎ゼミナール コンピュータリテラシー	日本語実践 Essential English A Communicative English A	画像情報処理 パターン認識 AIデータサイエンス実践	
	H	Freshman English B Advanced English B 情報基礎ゼミナール コンピュータリテラシー	日本語実践 Essential English B Communicative English B	ロボティクス デジタル信号処理 音情報処理 情報セキュリティ	卒業研究

5 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

2→3年次	64単位以上
3→4年次	104単位以上。専門基礎科目と専門教育科目62単位以上を含む。
卒業単位	124単位以上

→ § 3-5. 進級・卒業 P.51

II. 習熟度別クラス分け

■英語

→ § 3-2. 習熟度別クラス P.44

III. 資格取得

(1) 認定校として認可を得ている資格

- ・教諭免許：
高等学校教諭一種免許状（数学、情報）
中学校教諭一種免許状（数学）

→ § 2-3. 教職課程 P.22

(2) 資格取得を支援している資格

■資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・ITパスポート…「情報技術資格Ⅰ」
- ・基本情報技術者…「情報技術資格Ⅱ」

■資格取得支援講座（課外）がある資格 [情報工学部対象]

- ・CCNA (Routing and Switching)
- ・LinuC (Linux Professional Institute Certification)
- ・基本情報技術者

※その他の資格取得支援講座は、社会連携センターに問い合わせ

§ 5-1

情報工学科

§ 5-2

情報通信工学科

§ 5-3

情報システム工学科

§ 5-4

情報マネジメント学科

§ 5-2. 情報通信工学科 / Dept. of Information and Communication Engineering

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

■教育研究上の目的

今日の情報通信関連技術は、あらゆる産業分野における基幹技術としての影響力を持つようになり、社会生活の中に深く関係している。このように情報通信工学の裾野が限りなく広がり、技術的な可能性が満ち溢れる世界で、独創性を発揮し、多様化する先端技術を開拓できる技術者及び情報通信関連分野の研究能力を有する人材の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

共通コンピテンシー (能力・資質)		定義	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー (編成方針)
DP1	A	幅広い教養	リベラルアーツの基礎を理解し、多面的に考える能力を示すことができる。 2. 技術が社会に与える影響や効果、および技術者としての責任について深く考える能力を示すことができる。	基本概念や理論、技術の社会的影響や技術者の責任を考える能力を身につける科目を配置する。
	B	専門知識・技能	1. 情報工学、通信工学、およびコンピュータやネットワークの基礎知識を示すことができる。 2. 学習した知識を実際の技術と関連づけて理解することができる。	情報通信工学に関する深い専門性と多面的な思考力を身につける科目を配置する。
DP2	C	ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力 自身の将来を設計し、問題解決に有用な方法を調べ、それを基に考えることができる。	与えられた制約条件の下で問題を設定し、解決するための技術を身につける科目を配置する。
	D	メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力 自己理解を深め、問題を解決する方法を計画し実行することができる。	自己の適性がどの分野に合致するかを見極めると共に、問題解決のための計画と実行能力を身につける科目を配置する。
DP3	E	グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力 チームで仕事をする際、他者と協働しながら自己の行動を的確に判断し、実行することができる。	人々と協調しながら自己を伸ばすことを自発的に行う能力を身につける科目を配置する。
	F	未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力 1. 問題解決に有用な方法を調査し、手順を計画し、実行できる。 2. 得られた結果を解析し、評価することができる。さらに、改善策を提示することができる。	世の中の変化を見据えながら、問題解決に必要な最新の技術や方法の調査から改善策を提示する構想力を身につける科目を配置する。
DP4	G	デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力 1. 数学および物理学の基礎知識を基に自然現象などを数理現象としてとらえることができる。 2. 情報源となるデータを目的に合わせて収集し、分析し、活用することができる。	情報・通信工学の基礎となる数学や物理学を取り扱う科目を配置する。
	H	発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力 1. 日本語や英語の文章を読んで内容を正しく理解することができる。 2. 自分の考えを適切に文書や口頭で説明でき、そのために有用なプレゼンテーション能力を身につけることができる。	専門的内容に関する説明や討論を円滑に進めるための論理的コミュニケーション能力を身につけるために、実験科目や卒業研究などの科目を配置する。

■カリキュラム・ポリシー（実施方針）

【学修方法】

1	知識の修得と能動的な学習態度の涵養のために、理解度確認のための演習や課題レポート等を取り入れる。また、アクティブ・ラーニング型の科目では、討論・発表・ふり返り等を取り入れる。
2	目指す将来のキャリアに基づく自己の課題や目標を考え、自己調整学習の習慣化を図るため、学習ポートフォリオを活用した日常的な学習記録の蓄積と、学修成果の振り返りを行う制度を正課内外で運用する。
3	大学での学びと社会とのつながりを知る機会を取り入れるとともに、多様な価値観を持つ人々と協働して課題解決を行うグループワークを実施する。
4	学修活動全般において、数理的なものを見方を身に付け、情報・通信工学の専門知識を修得し、情報を的確に整理・分析する機会や、適切なデジタルツールを用いて自らの考えを発信する機会を確保する。

【学修成果の評価】

1	各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した適切な成績評価を行う。
2	ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、全学的な学生調査や卒業研究、卒業論文等の成果物によって評価する。

■学修領域（教育分野）

- ①通信技術
- ②情報・ネットワーク技術

2 年次別授業科目表

福岡工業大学情報工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学部〕各学科共通 | 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分		年次		1年次		2年次		3年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
コア群	教養力基盤	キャリア・デザイン	②	コミュニケーション・デザイン	②				
				ウェルネス基礎	②				
		Freshman English A	2	Freshman English B	2	Essential English A	2	Essential English B	2
	応用	Advanced English A	2	Advanced English B	2	Communicative English A	2	Communicative English B	2

区分		年次		1年次		2年次		3年次	
		前期または後期、または両方 [注4]	後期または前期、または両方 [注4]	前期または後期、または両方 [注4]	後期または前期、または両方 [注4]				
展開群	多面的視座	基礎	AI データサイエンス基礎	2	自己成長と学び [注5]	2			
			生命と生態系	2	産業デザイン	2			
			化学と生活	2	中国の文化と言葉	2			
			科学史	2	韓国の文化と言葉	2			
			地域創生論	2					
			市民生活と法	2					
			日本国憲法	2					
			心理学	2					
			文学	2					
			現代倫理	2					
			経済学	2					
			社会学	2					
			九州学	2					
			異文化理解	2					
	実践知	応用	地域創生 PBL	2	ウェルネス応用	2			
		海外研修	2	日本語実践	2				
				仕事理解型実習	2				
						課題解決型インターンシップ	2		

[注1] コア群から14単位、展開群から10単位以上、合計24単位以上を取得しなければならない。

[注2] 「Freshman English A, B」、「Advanced English A, B」、「Essential English A, B」、「Communicative English A, B」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を受講するものとする。

[注3] 「Essential English A, B」および「Communicative English A, B」は、該当する英語の資格を取得したものについても、届け出により成績評価を行う。

[注4] 展開群の各科目は、前期のみ、後期のみ、または前期および後期に開講する。各年度の開講学期は授業時間割で示す。両学期で開講される科目については、年度内での履修はどちらかの学期のみとし、再履修は翌年度以降とする。

[注5] 「自己成長と学び」は通年開講とする。

[注6] 「AI データサイエンス基礎」は主に遠隔授業を実施する。

〔情報工学部〕各学科共通 | 横断科目表

区分		年次		1年次		2年次		3年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
科目横断		Future Vision 講座	1	アプリ開発実践	2	AI データサイエンス実践	1		
		Future Vision 実践	1						

[注1] 横断科目は、集中講義（前期、後期または夏休み中に短期間集中して開講）または、前期および後期に開講する。各年度の開講時期は授業時間割で示す。

[注2] 「Future Vision 講座」および「Future Vision 実践」の各科目においては、原則として科目名に（ ）書きで主題を付し、個別の科目として開講し、複数履修することができる。

福岡工業大学情報工学科履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学科〕 情報通信工学科 | 専門基礎及び専門教育科目表

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
数学・物理学	微分積分Ⅰ ②	微分積分Ⅱ ②	微分方程式とベクトル解析 2	確率・統計 2	幾何学とマルチメディア 2		応用幾何学 2	
	線形代数Ⅰ ②	線形代数Ⅱ ②						
	基礎物理学 ②	物理学Ⅰ 2	物理学Ⅱ 2		現代物理学入門 2	光と物質 2		

■専門教育科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
情報工学	コンピュータ工学 ②		データ構造とアルゴリズム 2		情報セキュリティⅠ 2	情報セキュリティⅡ 2		
			情報理論 ②		デジタル信号処理Ⅰ 2	デジタル信号処理Ⅱ 2		
プログラミング	プログラミング基礎Ⅰ ②	プログラミング基礎Ⅱ ②	オブジェクト指向プログラミングⅠ ②	オブジェクト指向プログラミングⅡ 2	スクリプト言語プログラミングⅠ 2	スクリプト言語プログラミングⅡ 2		
		Webデザイン ②		バーチャルデザイン 2	Webデータベース 2	Webプログラミング 2		
情報ネットワーク工学		情報ネットワークⅠ ②	情報ネットワークⅡ ②	情報ネットワークⅢ 2				
			ネットワークシステムⅠ ②	ネットワークシステムⅡ 2	ネットワークシミュレーション 2	ネットワークプログラミング 2		
通信基礎	電気回路Ⅰ ②	電気回路Ⅱ ②	電気回路Ⅲ 2	計測工学Ⅰ 2	計測工学Ⅱ 2			
		電子回路Ⅰ ②	電子回路Ⅱ 2					
			デジタル回路Ⅰ 2	デジタル回路Ⅱ 2				
無線工学		電磁気学Ⅰ 2	電磁気学Ⅱ 2	電磁波伝搬 2	アンテナ工学 2	電磁波応用技術 2	モバイルコミュニケーション工学 2	
情報伝送工学			情報通信工学Ⅰ ②	情報通信工学Ⅱ ②	情報伝送工学 2	情報交換システム 2		
実験・研究	コンピュータソフトウェア実験 ②	計測・回路実験 ②	情報通信基礎実験 ④		情報通信応用実験 ④		卒業研究 ⑥	
資格取得関連科目			情報技術資格 2		通信法規 2			
共通科目				技術者倫理 2				

[注1] 情報通信工学科では、技術者教育を目的とする教育プログラムを設けている。この表に示されている必修科目の他に、各プログラムで単位を取得しなければならない科目が設定されているので、注意すること。

[注2] 無線従事者の第1級陸上特殊無線技士、第2級海上特殊無線技士、第3級海上特殊無線技士の資格を取得するため、また、第1級陸上無線技術士、電気通信主任技術者および工事担任者（ネットワーク接続者）の資格を卒業後受験する時に試験の一部免除を受けるためには認定基準表に基づいた科目を履修しておくこと。

[注3] 「コンピュータ工学」は、該当する資格を取得しているものについて、届け出のみで単位を認定する。

[注4] 「情報技術資格」は、該当する資格を取得したものについてのみ、届け出により単位を認定する。

3 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4		
						A	B	C	D	E	F	G	H	
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力	
						相異なる解が想定される複雑な問題に対処する知識や多面的視座を得ることができる。	【教養力育成科目には該当せず】	社会の変化に合わせて自らウェルネスを築くと共に、人生をデザインし、自己実現に向けて絶え間ない努力を重ねられる。	自己理解を深め、適性も見極めながら目標を設定し、実行とその振り返りを繰り返しつつ、実現へ向けた取り組みができる。	多様な価値観やバックグラウンドを持つ他者を尊重しながら問題解決に向けて協働できる。	人類社会が経験しなかった新たな問いに基づき立ち向かいながら、その解決に向けて歩める。	数理やAI、データサイエンス、ICTの知識に基づいて、データを的確に分析し、状況を把握できる。	日本語及び基礎的な英語で自らの考えを分かりやすく論理的に構築でき、またそれに基づいて背景や意見を異にする相手ともコミュニケーションが取れる。	
コア群 教養力基盤	キャリア・デザイン	必修	1	前		10		60	10		10		10	
	コミュニケーション・デザイン	必修	1	後		10			10	10	10		60	
	ウェルネス基礎	必修	1	前		20		60	20					
	Freshman English A	選択	1	前		10			20	10			60	
	Advanced English A	選択	1	前		10			20	10			60	
	Freshman English B	選択	1	後		10			20	10			60	
	Advanced English B	選択	1	後		10			20	10			60	
	Essential English A	選択	2	前		10			20	10			60	
	Communicative English A	選択	2	前		10			20	10			60	
	Essential English B	選択	2	後		10			20	10			60	
Communicative English B	選択	2	後		10			20	10			60		
展開群 多面的視座	自己成長と学び	選択	2	通年				20	60				20	
	AI データサイエンス基礎	選択	1	前後		20					20	60		
	生命と生態系	選択	1	前後		60					20	20		
	化学と生活	選択	1	前後		60		20				20		
	科学史	選択	1	前後		60			20			20		
	産業デザイン	選択	2	前後		20					60	20		
	地域創生論	選択	1	前後		30				10	60			
	市民生活と法	選択	1	前後		60		10		10	20			
	日本国憲法	選択	1	前後		60				20	20			
	心理学	選択	1	前後		60			20				20	
	文学	選択	1	前後		60		20			20			
	現代倫理	選択	1	前後		20		20			60			
	経済学	選択	1	前後		60		10			20	10		
	社会学	選択	1	前後		70		10			20			
	九州学	選択	1	前後		80				20				
	異文化理解	選択	1	前後		20				60			20	
	中国の文化と言葉	選択	2	前後		20				60			20	
	韓国の文化と言葉	選択	2	前後		20				60			20	
	実践知	ウェルネス応用	選択	2	前後		20		60	20				
		地域創生 PBL	選択	1	前後		20					70		10
日本語実践		選択	2	前後		10		10			20		60	
仕事理解型実習		選択	2	集中				20	60	20				
課題解決型インターンシップ		選択	3	集中					60	20	20			
海外研修		選択	1	集中		20				60			20	

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

■横断科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4	
					A	B	C	D	E	F	G	H
					幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
					リベラルアーツを旨とした知識と思考力	当該分野において必要とされる知識と技能	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	自らの考えを適切に伝えることができる力
AI データサイエンス実践	選択	3	集中			20				20	60	
アプリ開発実践	選択	2	集中		10	20	10	10	10	10	20	10
Future Vision 講座	選択	1	集中			10	10			20	60	
Future Vision 実践	選択	1	集中						20	60		20

■情報通信工学科の専門基礎及び専門教育科目の関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4		
						A	B	C	D	E	F	G	H	
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力	
専門基礎科目	微分積分Ⅰ	必修	1	前	講義・演習	30						70		
	微分積分Ⅱ	必修	1	後	講義・演習	30						70		
	微分方程式とベクトル解析	選択	2	前	講義	30						70		
	幾何学とマルチメディア	選択	3	前	講義	30	10					60		
	応用幾何学	選択	4	前	講義	30	10					60		
	線形代数Ⅰ	必修	1	前	講義・演習	30						70		
	線形代数Ⅱ	必修	1	後	講義・演習	30						70		
	確率・統計	選択	2	後	講義	30						70		
	複素関数論	選択	3	前	講義	30						70		
	代数学と符号	選択	3	後	講義	30	10					60		
	代数学と符号化	選択	4	前	講義	30	10					60		
	基礎物理学	必修	1	前	講義	30	10					60		
	物理学Ⅰ	選択	1	後	講義	30	10					60		
	物理学Ⅱ	選択	2	前	講義	30	10					60		
	現代物理学入門	選択	3	前	講義	70	10					20		
	光と物質	選択	3	後	講義	70	10					20		
	コンピュータ工学	必修	1	前	講義		60						40	
	データ構造とアルゴリズム	選択	2	前	講義	10	70				10		10	
	情報セキュリティⅠ	選択	3	前	講義・演習	20	70				10			
	情報セキュリティⅡ	選択	3	後	講義・演習	20	70				10			
情報理論	必修	2	前	講義		70				30				
デジタル信号処理Ⅰ	選択	3	前	講義		70				10		20		
デジタル信号処理Ⅱ	選択	3	後	講義		70				10		20		
プログラミング基礎Ⅰ	必修	1	前	講義・演習		70				30				
プログラミング基礎Ⅱ	必修	1	後	講義・演習		70				30				
オブジェクト指向プログラミングⅠ	必修	2	前	講義・演習		60				40				
オブジェクト指向プログラミングⅡ	選択	2	後	講義・演習		60				40				
スクリプト言語プログラミングⅠ	選択	3	前	講義・演習		60				40				
スクリプト言語プログラミングⅡ	選択	3	後	講義・演習		60				40				
Web デザイン	必修	1	後	講義・演習		70	10			20				
バーチャルデザイン	選択	2	後	講義・演習		70	10			20				
Web データベース	選択	3	前	講義・演習		70				20		10		
Web プログラミング	選択	3	後	講義・演習		70	10			20				
情報ネットワークⅠ	必修	1	後	講義	10	70				20				
情報ネットワークⅡ	必修	2	前	講義	10	70				20				
情報ネットワークⅢ	選択	2	後	講義	10	60	10			20				
ネットワークシステムⅠ	必修	2	前	講義・演習	10	70				20				
ネットワークシステムⅡ	選択	2	後	講義・演習	10	70				20				
ネットワークシミュレーション	選択	3	前	講義・演習	10	60				10		20		
ネットワークプログラミング	選択	3	後	講義・演習	10	60				10		20		
電気回路Ⅰ	必修	1	前	講義・演習	10	70				20				
電気回路Ⅱ	必修	1	後	講義・演習		70				30				
電気回路Ⅲ	選択	2	前	講義・演習		70				30				
計測工学Ⅰ	選択	2	後	講義	10	60				20		10		
計測工学Ⅱ	選択	3	前	講義	10	60				20		10		
電子回路Ⅰ	必修	1	後	講義・演習		70				30				
電子回路Ⅱ	選択	2	前	講義・演習		70				30				
デジタル回路Ⅰ	選択	2	前	講義		70				20		10		
デジタル回路Ⅱ	選択	2	後	講義		70				20		10		
電磁気学Ⅰ	選択	1	後	講義・演習	10	70				20				
電磁気学Ⅱ	選択	2	前	講義・演習	10	70				20				
電磁波伝搬	選択	2	後	講義	10	60				20		10		
アンテナ工学	選択	3	前	講義	10	60				20		10		
電磁波応用技術	選択	3	後	講義	10	60				30				
モバイルコミュニケーション工学	選択	4	前	講義・演習	10	60	10			10			10	
情報通信工学Ⅰ	必修	2	前	講義		80				10		10		
情報通信工学Ⅱ	必修	2	後	講義		80				10		10		
情報伝送工学	選択	3	前	講義	10	70				10		10		
情報交換システム	選択	3	後	講義	10	70				10		10		
コンピュータソフトウェア実験	必修	1	前	実験・演習		30		10		30		10	20	
計測・回路実験	必修	1	後	実験		10		10		20		60		
情報通信基礎実験	必修	2	通年	実験		40		20		20		20		
情報通信応用実験	必修	3	通年	実験		10	20	20	20	10		20		
卒業研究	必修	4	通年	研究		15	15	15	15	15		10	15	
情報技術資格	選択	2	前	演習		60						20	20	
通信法規	選択	3	前	講義		10	60	10					20	
技術者倫理	選択	2	後	講義		40				10	60			

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

4 カリキュラムフロー

本フローは、コンピテンシーに対する科目のつながり（主に主関与）を示す。

※ は必修科目、 は副関与

DP	授 業 科 目 名				
	1年	2年	3年	4年	
コンピ テンシー	前期 前期または後期、または両方	前期 前期または後期、または両方	後期 後期	前期 前期または後期、または両方	
A	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">化学と生活</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">生命と生態系</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">科学史</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">日本国憲法</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">市民生活と法</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">経済学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">心理学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">文学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">社会学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">九州学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">微分積分Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">微分積分Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">線形代数Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">線形代数Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">基礎物理学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">物理学Ⅰ</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">技術者倫理</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">現代物理学入門</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">光と物質</div>			
DP1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">情報理論</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">データ構造とアルゴリズム</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">オブジェクト指向プログラミングⅠ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">プログラミング基礎Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">Webデザイン</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">情報ネットワークⅠ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">電気回路Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">電子回路Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">電磁気学Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">コンピュータ工学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">プログラミング基礎Ⅰ</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">アプリケーション実践</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">情報ネットワークⅡ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ネットワークシステムⅠ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">電気回路Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">電子回路Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">デジタル回路Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">電磁気学Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">情報通信工学Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">情報技術資格</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">オブジェクト指向プログラミングⅡ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">バーチャルデザイン</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">情報ネットワークⅢ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ネットワークシステムⅡ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">計測工学Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">デジタル回路Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">電磁波伝搬</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">情報通信工学Ⅱ</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">デジタル信号処理Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">情報セキュリティ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">スクリプト言語プログラミングⅠ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">Webデータベース</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ネットワークコミュニケーション</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">計測工学Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">アンテナ工学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">情報伝送工学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">通信法規</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">デジタル信号処理Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">情報セキュリティⅡ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">スクリプト言語プログラミングⅡ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">Webプログラミング</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ネットワークプログラミング</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">卒業研究</div>
B	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">電気回路Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">電子回路Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">電磁気学Ⅰ</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">デジタル回路Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">電磁気学Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">情報通信工学Ⅱ</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ネットワークプログラミング</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">モバイルコミュニケーション</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">電磁波応用技術</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">情報交換システム</div>	

C	DP2	キャリア・デザイン	ウェルネス基礎	ウェルネス応用	情報通信応用実験	卒業研究
				自己成長と学び 仕事理解型実習 情報通信基礎実験	課題解決型インターンシップ 情報通信応用実験	卒業研究
E	DP3	異文化理解 海外研修	中国の文化と言葉 韓国の文化と言葉		情報通信応用実験	卒業研究
		地域創生論 地域創生PBL 現代倫理 Future Vision実践	産業デザイン	情報通信基礎実験 技術者倫理		卒業研究
G	DP4	AIデータサイエンス基礎	Future Vision講座 微分積分 I 線形代数 I 基礎物理学	AIデータサイエンス実践 アプリ開発実践 微分方程式とベクトル解析 確率・統計 物理学 II	幾何学とマルチメディア 代数学と暗号 複素関数論	応用幾何学 代数学と符号化
		Freshman English A Advanced English A コンピュータグラフィクス	Freshman English B Advanced English B 計測・回路実験	日本語実践 Essential English A Communicative English A 情報通信基礎実験		卒業研究

5 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

2 → 3 年次	64 単位以上
3 → 4 年次	104 単位以上。専門基礎科目と専門教育科目 62 単位以上を含む。
卒業単位	124 単位以上

→ § 3-5. 進級・卒業 P.51

※コース毎の卒業要件は、II. コースにて確認のこと。

II. コース

情報通信工学科では、専門的知識を体系的に修得して実践的な情報通信工学分野の技術者を育成するために、「無線通信技術者教育プログラム」、「電気通信技術者教育プログラム」、「ネットワークエンジニア教育プログラム」、「システムエンジニア教育プログラム」、「情報通信基盤技術者教育プログラム」という5つの技術者教育プログラムを設けています。情報通信工学科の学生は、§ 2-5の卒業要件で示されている要件に加えて、技術者教育プログラムで定められたプログラム必修科目を履修し、1つ以上の技術者教育プログラムを修了しなければなりません。各技術者教育プログラムのプログラム必修科目は次のとおりです。

	無線通信技術者教育プログラム	電気通信技術者教育プログラム	ネットワークエンジニア教育プログラム	システムエンジニア教育プログラム	情報通信基盤技術者教育プログラム
電磁気学 I	○	○			
電磁気学 II	○	○			
電磁波伝搬	○	○			
アンテナ工学	○	○			
通信法規	○	○			
情報伝送工学	○	○			
電磁波応用技術	○	○			
計測工学 I	○	○			
計測工学 II	○	○			
電子回路 II		○			△
デジタル回路 I		○			○
デジタル回路 II		○			○
情報交換システム		○			○
微分方程式とベクトル解析	○	○			
確率・統計		○	○	○	
複素関数論		△			
幾何学とマルチメディア		△			
代数学と暗号		△			
応用幾何学		△			
代数学と符号化		△			
物理学 I		□			
物理学 II		□			
現代物理学入門		□			
光と物質		□			
情報ネットワーク III			○		
ネットワークシステム II			△	△	
情報セキュリティ I			○	△	○
情報セキュリティ II			○	△	○
ネットワークシミュレーション			△		
ネットワークプログラミング			△		
データ構造とアルゴリズム			○	○	
オブジェクト指向プログラミング II				□	
スクリプト言語プログラミング I				□	
スクリプト言語プログラミング II				□	
バーチャルデザイン				□	
Web データベース				□	
Web プログラミング				□	
デジタル信号処理 I					○
デジタル信号処理 II					○
電気回路 III					△
モバイルコミュニケーション工学					△

○：単位取得が必要な科目
 △：この印がついている科目の中から2科目以上の単位取得が必要
 □：この印がついている科目の中から3科目以上の単位取得が必要

→ § 9-4. 技術者教育プログラム要領 P.236

Ⅲ. 習熟度別クラス分け

■英語

→ § 3-2. 習熟度別クラス P.44

Ⅳ. 資格取得

(1)認定校として認可を得ている資格

・教諭免許：

高等学校教諭一種免許状（数学、情報）

中学校教諭一種免許状（数学）

→ § 2-3. 教職課程 P.22

・無線従事者：第一級陸上特殊無線技士

下記の科目について全ての単位を取得し、3か月以内に申請すれば資格を取得できる。情報通信工学科では、認定に必要な科目を3年次後期で修了するので、4年次の6月までに申請し在学中に資格を取得できる。

また、第二級海上特殊無線技士及び第三級海上特殊無線技士の資格取得に必要な科目は、第一級陸上特殊無線技士に必要な科目に全て含まれており、同時にこの資格を取得することができる。

[認定基準表]

省令に規定する 科目名	情報通信工学科カリキュラム (計10科目)	
	情報通信工学科の科目	授業時間
無線機器学 その他 無線機器に関する 科目	情報通信工学Ⅰ	30
	情報通信工学Ⅱ	30
	情報伝送工学	30
	電磁波応用技術	30
	電子回路Ⅰ	30
電磁波工学 その他 空中線および電波 伝搬に関する科目	電磁波伝搬 アンテナ工学	30 30
電子計測 その他 無線測定に関する 科目	計測工学Ⅰ	30
	計測工学Ⅱ	30
電波法規 その他 電波法令に関する 科目	通信法規	30

・無線従事者：第二級海上特殊無線技士

下記の科目について全ての単位を取得し、3か月以内に申請すれば資格を取得できる。

[認定基準表]

省令に規定する 科目名	情報通信工学科カリキュラム (計8科目)	
	情報通信工学科の科目	授業時間
無線機器学 その他 無線機器に関する 科目	情報通信工学Ⅰ	30
	情報通信工学Ⅱ	30
	電磁波応用技術	30
	電子回路Ⅰ	30
電磁波工学 その他 空中線および電波 伝搬に関する科目	電磁波伝搬 アンテナ工学	30 30
電子計測 その他 無線測定に関する 科目	計測工学Ⅰ	30
電波法規 その他 電波法令に関する 科目	通信法規	30

・無線従事者：第三級海上特殊無線技士

下記の科目について全ての単位を取得し、3か月以内に申請すれば資格を取得できる。

[認定基準表]

省令に規定する 科目名	情報通信工学科カリキュラム (計6科目)	
	情報通信工学科の科目	授業時間
無線機器学 その他 無線機器に関する 科目	情報通信工学Ⅰ	30
	情報通信工学Ⅱ	30
	電子回路Ⅰ	30
電磁波工学 その他 空中線および電波 伝搬に関する科目	電磁波伝搬 アンテナ工学	30 30
電波法規 その他 電波法令に関する 科目	通信法規	30

・無線従事者：第一級陸上無線技術士

下記の認定基準表に定められた時間数以上の科目の単位を取得すれば、卒業後に試験科目「無線工学の基礎」が3年間免除される。

[認定基準表]

設定基準に規定する科目及び時間		情報通信工学科の科目	時間	単位	備考
基礎専門教育科目	時間数				
数 学	210	微分積分Ⅰ	30	(2)	左の科目のうちから210時間以上履修し、単位取得すること。
		微分積分Ⅱ	30	(2)	
		線形代数Ⅰ	30	(2)	
		線形代数Ⅱ	30	(2)	
		微分方程式とベクトル解析	30	(2)	
		複素関数論	30	(2)	
		幾何学とマルチメディア	30	(2)	
		確率・統計	30	(2)	
		代数学と暗号	30	(2)	
		応用幾何学	30	(2)	
		代数学と符号化	30	(2)	
	計11科目	330	(22)		
物 理	105	基礎物理学	30	(2)	左の科目のうちから105時間以上履修し、単位取得すること。
		物理学Ⅰ	30	(2)	
		物理学Ⅱ	30	(2)	
		現代物理学入門	30	(2)	
		光と物質	30	(2)	
	計5科目	150	(10)		
電磁気学	120	電磁気学Ⅰ	30	(2)	左の科目のうちから120時間以上履修し、単位取得すること。
		電磁気学Ⅱ	30	(2)	
		電磁波伝搬	30	(2)	
		アンテナ工学	30	(2)	
		情報伝送工学	30	(2)	
		電磁波応用技術	30	(2)	
	計6科目	180	(12)		
半導体及び電子管並びに電子回路の基礎	90	電子回路Ⅰ	30	(2)	左の科目のうちから90時間以上履修し、単位取得すること。
		電子回路Ⅱ	30	(2)	
		デジタル回路Ⅰ	30	(2)	
		デジタル回路Ⅱ	30	(2)	
	計4科目	120	(8)		
電気回路	120	電気回路Ⅰ	30	(2)	左の科目のうちから120時間以上履修し、単位取得すること。
		電気回路Ⅱ	30	(2)	
		電気回路Ⅲ	30	(2)	
		情報通信工学Ⅰ	30	(2)	
		情報通信工学Ⅱ	30	(2)	
	計5科目	150	(10)		
電気磁気測定	180	計測工学Ⅰ	30	(2)	左の科目のうちから180時間以上履修すること。
		計測工学Ⅱ	30	(2)	
		情報通信基礎実験	60	(4)	
		情報通信応用実験	60	(4)	
	計4科目	180	(12)		
合 計	825	合計 35 科目	1110	(74)	

・電気通信主任技術者

下記の科目について全ての単位を取得すれば、在学中から試験科目「電気通信システム」が免除される。

[認定基準表]

認定基準	情報通信工学科カリキュラム (計38単位)	
科 目	情報通信工学科の科目	単位数
数 学	線形代数Ⅰ	2
	線形代数Ⅱ	2
	微分積分Ⅰ	2
	微分積分Ⅱ	2
物理学	物理学Ⅰ	2
	物理学Ⅱ	2
電磁気学	電磁気学Ⅰ	2
	電磁気学Ⅱ	2
電気回路	電気回路Ⅰ	2
	電気回路Ⅱ	2
電子回路	電子回路Ⅰ	2
	電子回路Ⅱ	2
デジタル回路	デジタル回路Ⅰ	2
情報工学	情報理論	2
電気計測	計測工学Ⅰ	2
	計測工学Ⅱ	2
伝送線路工学	情報伝送工学	2
交換工学	情報交換システム	2
電気通信システム	情報通信工学Ⅰ	2

- ・工事担任者（ネットワーク接続技術者）

下記の科目について全ての単位を取得すれば、在学中から試験科目「電気通信技術の基礎」が免除される。

[認定基準表]

認定基準	情報通信工学科カリキュラム (計36単位)	
科 目	情報通信工学科の科目	単位数
電気回路	電気回路Ⅰ	2
	電気回路Ⅱ	2
	電気回路Ⅲ	2
電子回路	電子回路Ⅰ	2
	電子回路Ⅱ	2
	計測工学Ⅰ	2
デジタル回路	デジタル回路Ⅰ	2
	デジタル回路Ⅱ	2
有線電気通信工学	情報伝送工学	2
	電磁波応用技術	2
データ通信工学	情報通信工学Ⅰ	2
	情報通信工学Ⅱ	2
数 学	線形代数Ⅰ	2
	線形代数Ⅱ	2
	微分積分Ⅰ	2
	微分積分Ⅱ	2
物 理	物理学Ⅰ	2
	物理学Ⅱ	2

(2)資格取得を支援している資格

■資格取得支援講座（課外）がある資格

- ・無線従事者
- ・電気通信主任技術者
- ・工事担任者（ネットワーク接続技術者）

[情報工学部対象]

- ・基本情報技術者
- ・CCNA
- ・LinuC (Linux Professional Institute Certification)

※その他の資格取得支援講座は、社会連携センターに問い合わせ

§ 5-3. 情報システム工学科 / Dept. of Information and Systems Engineering

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

■教育研究上の目的

今日まで発展を遂げてきた情報技術が社会的基盤となり、人々の暮らしを支える情報システムのサービス形態は、変化・適用・深化を繰り返しながらこれからも発展し続けていくことが予想される。本学科では、情報技術、ロボット制御、生体システムを柱とする実践的教育を展開し、技術者倫理、コミュニケーション能力、エンジニアリングデザイン能力を身につけることで、社会の持続的発展に不可欠な情報システムの設計・開発・運用に携わる技術者の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

共通コンピテンシー (能力・資質)		定義	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー (編成方針)
DP1	A 幅広い教養	リベラルアーツを目指した知識と思考力	リベラルアーツの基礎知識を理解し、多面的視点から物事を柔軟に考えることができる。	多面的視点から思考する力を身につけるために、リベラルアーツの各分野の科目、技術者の倫理と歴史に関する科目を配置する。
	B 専門知識・技能	当該分野において必要とされる知識と技能	情報システム技術者として、応用情報、計測制御、生体情報分野に必要な知識と技能を身につけ、問題解決に応用できる。	情報システム工学における、応用情報、計測制御、生体情報分野に必要な知識と技能を身につけるための科目を配置する。
DP2	C ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	自身が目指す将来のキャリアを考え、自分の人生を構想し、目標をもって成長することができる。	進路や職業について理解し、自身の将来を設計・構想する力を身につけるための科目を配置する。
	D メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	自分の特徴を最大限生かすために、客観的な自己理解ができ、目標を計画的かつ合理的に実現できる。	自身の適性を理解し、計画的に目標に取り組み実現する力を身につけるための科目を配置する。
DP3	E グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	多様な価値観の構成員グループにおいて、自身および他者の役割を理解し、構成員と協働して与えられた課題に取り組むことができる。	自身および他者の役割を理解し、多様な価値観の構成員と協働する力を身につけるための科目を配置する。
	F 未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	自身が目指す未来を構想し、種々の学問と技術の総合応用能力を駆使し、問題を新しい発想で解決できる。	自身が目指す未来を構想し、新しい発想で問題を解決する力を身につけるための科目を配置する。
DP4	G デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	数理法則の基礎、データサイエンス、機械学習の基礎知識を理解し、情報システムエンジニアとしての確に情報を整理・分析できる。	情報を的確に整理・分析する力を身につけるために、数理法則の基礎、データサイエンス、機械学習の基礎知識に関する科目を配置する。
	H 発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力	論理的かつ明晰な文章を記述し、読み手の知識を想定した分かりやすい資料を作成し、効果的な口頭発表と的確な討論ができる。	自らの考えを適切に伝える力を身につけるために、コミュニケーション能力、技術文書作成、プレゼンテーションに関する科目を配置する。

■カリキュラム・ポリシー（実施方針）

【学修方法】

1	情報システム工学における知識の修得と能動的な学習態度の涵養のために、情報技術、ロボット制御、生体システムの各分野の科目の特色を生かしたアクティブ・ラーニングを取り入れる。
2	情報システム工学における正課内外での学習記録の蓄積と、学修成果の振り返りを通して、目指す将来のキャリアに基づく自己の課題や目標を考え、主体的な学習の習慣化を図る。
3	情報システム工学における学びと社会とのつながりを知る機会を取り入れるとともに、多様な価値観の構成員と協働して課題解決を行うプログラムを実施する。
4	情報システム工学における学修活動全般において、数理的なものの方見方を身に付け、情報を的確に整理・分析する機会や、適切なデジタルツールを用いて自らの考えを発信する機会を確保する。

【学修成果の評価】

1	各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した適切な成績評価を行う。
2	ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、全学的な学生調査や卒業研究、卒業論文等の成果物によって評価する。

■学修領域（教育分野）

- ①情報技術
- ②ロボット制御
- ③生体システム

2 年次別授業科目表

福岡工業大学情報工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学部〕各学科共通 | 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分			年次				1年次				2年次				3年次			
			前期		後期		前期		後期		前期		後期					
コア群	教養力基盤	基礎	キャリア・デザイン ②	コミュニケーション・デザイン ②														
				ウェルネス基礎 ②														
			Freshman English A 2	Freshman English B 2	Essential English A 2	Essential English B 2												
		応用	Advanced English A 2	Advanced English B 2	Communicative English A 2	Communicative English B 2												

区分			年次				1年次				2年次				3年次			
			前期または後期、または両方 [注4]				前期または後期、または両方 [注4]				前期または後期、または両方 [注4]							
展開群	多面的視座	基礎	AI データサイエンス基礎		2	自己成長と学び [注5]		2										
			生命と生態系		2	産業デザイン		2										
			化学と生活		2	中国の文化と言葉		2										
			科学史		2	韓国の文化と言葉		2										
			地域創生論		2													
			市民生活と法		2													
			日本国憲法		2													
			心理学		2													
			文学		2													
			現代倫理		2													
			経済学		2													
			社会学		2													
			九州学		2													
			異文化理解		2													
	実践知	応用	地域創生 PBL		2	ウェルネス応用		2										
海外研修			2	日本語実践		2												
				仕事理解型実習		2												
										課題解決型インターンシップ		2						

[注1] コア群から14単位、展開群から10単位以上、合計24単位以上を取得しなければならない。

[注2] 「Freshman English A, B」、「Advanced English A, B」、「Essential English A, B」、「Communicative English A, B」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を受講するものとする。

[注3] 「Essential English A, B」および「Communicative English A, B」は、該当する英語の資格を取得したものについても、届け出により成績評価を行う。

[注4] 展開群の各科目は、前期のみ、後期のみ、または前期および後期に開講する。各年度の開講学期は授業時間割で示す。両学期で開講される科目については、年度内での履修はどちらかの学期のみとし、再履修は翌年度以降とする。

[注5] 「自己成長と学び」は通年開講とする。

[注6] 「AI データサイエンス基礎」は主に遠隔授業を実施する。

〔情報工学部〕各学科共通 | 横断科目表

区分		年次				1年次				2年次				3年次			
		Future Vision 講座		1	アプリ開発実践		2	AI データサイエンス実践		1							
科目横断		Future Vision 実践		1													

[注1] 横断科目は、集中講義（前期、後期または夏休み中に短期間集中して開講）または、前期および後期に開講する。各年度の開講時期は授業時間割で示す。

[注2] 「Future Vision 講座」および「Future Vision 実践」の各科目においては、原則として科目名に（ ）書きで主題を付し、個別の科目として開講し、複数履修することができる。

福岡工業大学情報工学科履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学科〕 情報システム工学科 | 専門基礎及び専門教育科目表

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎科目		線形代数Ⅰ ②	線形代数Ⅱ ②			幾何学とマルチメディア 2	代数学と暗号 2	応用幾何学 2	
		解析Ⅰ ②	解析Ⅱ ②	解析Ⅲ 2	微分方程式 2	複素関数論 2		代数学と符号化 2	
		物理学Ⅰ ②	物理学Ⅱ 2						
		数学演習 ②	情報物理実験 ②						

■専門教育科目

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
情報基礎工学		技術基礎数学 ②	電気工学基礎 ②	情報解析学 ②	確率統計 ②	テクニカルライティング ②	アカデミックプレゼンテーション ②		
			電子工学基礎 ②	論理回路 ②	情報技術史 2				
情報工学		CプログラミングⅠ ②	CプログラミングⅡ ②	データ構造とアルゴリズム 2	応用プログラミングⅠ 2	応用プログラミングⅡ 2	人工知能 2		
			計算機工学Ⅰ ②	計算機工学Ⅱ 2	情報ネットワークシステム 2	マルチメディアWeb技術 2	画像処理工学 2	コンピュータグラフィックス 2	
システム工学			ロボット設計 ②	生体情報計測学 ②	基礎ロボット工学 ②	知能ロボット工学 2	システム開発応用 2		
					センサ情報処理 2	生体システム論 2	デジタル制御工学 2		
					システム制御工学Ⅰ ②	システム制御工学Ⅱ 2	メカトロアクチュエータ 2		
						組込みシステム 2	ロボットシミュレーション 2		
共通		情報リテラシー ②			情報技術資格Ⅰ 2	情報技術資格Ⅱ 2			
		フレッシュマンプログラム ②			情報システム工学概論 ②				
				情報システム工学実験Ⅰ ②	情報システム工学実験Ⅱ ②	情報システム工学実験Ⅲ ②	情報システム工学実験Ⅳ ②	卒業研究 ⑥	

[注1] 「情報技術資格Ⅰ」及び「情報技術資格Ⅱ」は、該当する資格を取得したのものについても、届け出により単位を認定する。

3 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4		
						A	B	C	D	E	F	G	H	
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力	
						相異なる解が想定される複雑な問題に対処する知識や多面的視座を得ることができる。	【教養力育成科目には該当せず】	社会の変化に合わせて自らウェルネスを築くと共に、人生をデザインし、自己実現に向けて絶え間ない努力を重ねられる。	自己理解を深め、適性も見極めながら目標を設定し、実行とその振り返りを繰り返しつつ、実現へ向けた取り組みができる。	多様な価値観やバックグラウンドを持つ他者を尊重しながら問題解決に向けて協働できる。	人類社会が経験しなかった新たな問いに基づき立ち向かいながら、その解決に向けて歩める。	数理やAI、データサイエンス、ICTの知識に基づいて、データを的確に分析し、状況を把握できる。	日本語及び基礎的な英語で自らの考えを分かりやすく論理的に構築でき、またそれに基づいて背景や意見を異にする相手ともコミュニケーションが取れる。	
コア群 教養力基盤	キャリア・デザイン	必修	1	前		10		60	10		10		10	
	コミュニケーション・デザイン	必修	1	後		10			10	10	10		60	
	ウェルネス基礎	必修	1	前		20		60	20					
	Freshman English A	選択	1	前		10			20	10			60	
	Advanced English A	選択	1	前		10			20	10			60	
	Freshman English B	選択	1	後		10			20	10			60	
	Advanced English B	選択	1	後		10			20	10			60	
	Essential English A	選択	2	前		10			20	10			60	
	Communicative English A	選択	2	前		10			20	10			60	
	Essential English B	選択	2	後		10			20	10			60	
Communicative English B	選択	2	後		10			20	10			60		
展開群 多面的視座	自己成長と学び	選択	2	通年				20	60				20	
	AI データサイエンス基礎	選択	1	前後		20					20	60		
	生命と生態系	選択	1	前後		60					20	20		
	化学と生活	選択	1	前後		60		20				20		
	科学史	選択	1	前後		60			20			20		
	産業デザイン	選択	2	前後		20					60	20		
	地域創生論	選択	1	前後		30				10	60			
	市民生活と法	選択	1	前後		60		10		10	20			
	日本国憲法	選択	1	前後		60				20	20			
	心理学	選択	1	前後		60			20				20	
	文学	選択	1	前後		60		20			20			
	現代倫理	選択	1	前後		20		20			60			
	経済学	選択	1	前後		60		10			20	10		
	社会学	選択	1	前後		70		10			20			
	九州学	選択	1	前後		80				20				
	異文化理解	選択	1	前後		20				60			20	
	中国の文化と言葉	選択	2	前後		20				60			20	
	韓国の文化と言葉	選択	2	前後		20				60			20	
	実践知	ウェルネス応用	選択	2	前後		20		60	20				
		地域創生 PBL	選択	1	前後		20					70		10
日本語実践		選択	2	前後		10		10			20		60	
仕事理解型実習		選択	2	集中				20	60	20				
課題解決型インターンシップ		選択	3	集中					60	20	20			
海外研修		選択	1	集中		20				60			20	

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

■横断科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4	
						A	B	C	D	E	F	G	H
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
						リベラルアーツを旨とした知識と思考力	当該分野において必要とされる知識と技能	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	自らの考えを適切に伝えることができる力
	AI データサイエンス実践	選択	3	集中			20				20	60	
	アプリ開発実践	選択	2	集中		10	20	10	10	10	10	20	10
	Future Vision 講座	選択	1	集中			10	10			20	60	
	Future Vision 実践	選択	1	集中						20	60		20

■情報システム工学科の専門基礎及び専門教育科目の関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4		
						A	B	C	D	E	F	G	H	
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力	
専門基礎科目	線形代数Ⅰ	必修	1	前	講義							100		
	線形代数Ⅱ	必修	1	後	講義							100		
	数学演習	必修	1	前	講義							100		
	解析Ⅰ	必修	1	前	講義							100		
	解析Ⅱ	必修	1	後	講義							100		
	解析Ⅲ	選択	2	前	講義							100		
	微分方程式	選択	2	後	講義							100		
	幾何学とマルチメディア	選択	3	前	講義							100		
	代数学と暗号	選択	3	後	講義							100		
	応用幾何学	選択	4	前	講義							100		
	代数学と符号化	選択	4	前	講義							100		
	物理学Ⅰ	必修	1	前	講義	20	55					25		
	物理学Ⅱ	選択	1	後	講義	20	55					25		
	情報物理実験	必修	1	後	講義		60	10	10			20		
	複素関数論	選択	3	前	講義							100		
	情報基礎工学	技術基礎数学	必修	1	前	講義		60					40	
		情報技術史	選択	2	後	講義	60					40		
		電気工学基礎	必修	1	後	講義		100						
論理回路		必修	2	前	講義		100							
電子工学基礎		必修	1	後	講義		100							
確率統計		必修	2	後	講義							100		
情報解析学		必修	2	前	講義		60				40			
情報技術者倫理		選択	2	前	講義	60					40			
テクニカルライティング		必修	3	前	講義								100	
アカデミックプレゼンテーション		必修	3	後	講義								100	
フューチャープランニング		必修	2	前	講義			80	20					
情報工学		CプログラミングⅠ	必修	1	前	講義		100						
	CプログラミングⅡ	必修	1	後	講義		100							
	データ構造とアルゴリズム	選択	2	前	講義		100							
	計算機工学Ⅰ	必修	1	後	講義		100							
	計算機工学Ⅱ	選択	2	前	講義		100							
	応用プログラミングⅠ	選択	2	後	講義		100							
	マルチメディア Web 技術	選択	3	前	講義		100							
	応用プログラミングⅡ	選択	3	前	講義		100							
	情報ネットワークシステム	選択	2	後	講義		95			5				
	コンピュータグラフィックス	選択	3	後	講義		100							
	画像処理工学	選択	3	後	講義		100							
	人工知能	選択	3	後	講義		100							
	ロボット設計	必修	1	後	講義		90			10				
	生体情報計測学	必修	2	前	講義		100							
	センサ情報処理	選択	2	後	講義		100							
	生体システム論	選択	3	前	講義		100							
	機械システム論	選択	3	前	講義		90			10				
	システム工学	システム制御工学Ⅰ	必修	2	後	講義		100						
システム制御工学Ⅱ		選択	3	前	講義		100							
デジタル制御工学		選択	3	後	講義		100							
基礎ロボット工学		必修	2	後	講義		100							
知能ロボット工学		選択	3	前	講義		100							
メカトロアクチュエータ		選択	3	後	講義		100							
ロボットシミュレーション		選択	3	後	講義		100							
組込みシステム		選択	3	前	講義		100							
システム開発応用		選択	3	後	講義					40	60			
情報リテラシー		必修	1	前	講義							100		
情報技術資格Ⅰ		選択	2	後	講義							100		
情報技術資格Ⅱ		選択	3	前	講義							100		
共通	フレッシュマンプログラム	必修	1	前	講義	10	60				10	20		
	情報システム工学実験Ⅰ	必修	2	前・後	実験		40	20	20	20	20			
	情報システム工学実験Ⅱ	必修	2	前・後	実験		40	20	20	20	20			
	情報システム工学概論	必修	2	後	講義	10	60				30			
	情報システム工学実験Ⅲ	必修	3	前	実験		20	20	20	20	20	20		
	情報システム工学実験Ⅳ	必修	3	後	実験		20	20	20	20	20	20		
	卒業研究	必修	4	通年	研究		20	15	15	15	20		15	

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

4 カリキュラムフロー

本フローは、コンピテンシーに対する科目のつながり（主に主関与）を示す。

※ は必修科目、 は副関与

 で囲まれた科目については、前期のみ、後期のみ、または前期および後期に開講する。各年度の開講学期は授業時間割で示す。
 で囲まれた横断科目については、原則、集中講義として開講する。

DP	授 業 科 目 名			
	1年	2年	3年	4年
コンピテンシー	前期	後期	前期	後期
A	物理学 I 化学と生活 生命と生態系 科学史 日本国憲法 市民生活と法 経済学 心理学 文学 社会学 九州学	情報技術者倫理 情報技術史	前期または後期、または両方	前期または後期、または両方
	物理学 II			
DP 1	Cプログラミング I 物理学 I フロッピープログラム 技術基礎数学	データ構造とアルゴリズム 計算機工学 II 情報システム工学概論 情報システム工学実験 I 生体情報計測学 論理回路 情報解析学	応用プログラミング I 情報ネットワークシステム 情報システム工学概論 情報システム工学実験 II センサ情報処理 システム制御工学 I 基礎ロボット工学	Cプログラミング II 計算機工学 I 物理学 II 情報物理実験 電気工学基礎 電子工学基礎 ロボット設計
		アプリケーション開発実践	応用プログラミング II マルチメディアWeb技術 組込みシステム 情報システム工学実験 III 生体システム論 システム制御工学 II 機械システム論 知能ロボット工学	人工知能 画像処理工学 コンピュータグラフィックス 情報システム工学実験 IV デジタル制御工学 メカトロアクチュエータ ロボットシミュレーション
				卒業研究

C	キャリア・デザイン	ウエルネス基礎	ウエルネス応用 フューチャープランニング	情報システム工学実験Ⅱ	情報システム工学実験Ⅰ	卒業研究
			自己成長と学び 仕事理解型実習 フューチャープランニング	課題解決型インターンシップ	情報システム工学実験Ⅰ	卒業研究
D			異文化理解 海外研修	中国の文化と言葉 韓国の文化と言葉	情報システム工学実験Ⅱ	卒業研究
	DP 2		地域創生論 地域創生PBL 現代倫理 Future Vision実践	産業デザイン	情報システム工学概論 情報システム工学実験Ⅱ	卒業研究
E			AIデータサイエンス基礎	AIデータサイエンス実践		
	DP 3		Future Vision講座 物理学Ⅰ 線形代数Ⅰ 解析Ⅰ 数学演習 情報リテラシー	物理学Ⅱ 線形代数Ⅱ 解析Ⅱ	数学とマルチメディア 複素関数論 情報技術資格Ⅱ	代数学と暗号 代数学と符号化
F			Freshman English A Advanced English A	Essential English A Communicative English A	情報システム工学実験Ⅱ	卒業研究
	DP 4		Freshman English B Advanced English B コミュニケーション・デザイン	Essential English B Communicative English B 日本語実践	情報システム工学実験Ⅰ システム開発応用 システム開発応用 情報システム工学実験Ⅰ	卒業研究
G			物理学Ⅰ 線形代数Ⅰ 解析Ⅰ 数学演習 情報リテラシー	物理学Ⅱ 線形代数Ⅱ 解析Ⅱ	数学とマルチメディア 複素関数論 情報技術資格Ⅱ	代数学と暗号 代数学と符号化
	DP 4		Freshman English A Advanced English A	Essential English A Communicative English A	情報システム工学実験Ⅱ	卒業研究
H			異文化理解 海外研修	中国の文化と言葉 韓国の文化と言葉	情報システム工学実験Ⅱ	卒業研究
	DP 2		キャリア・デザイン	ウエルネス基礎	ウエルネス応用 フューチャープランニング	卒業研究

5 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

2→3年次	64 単位以上
3→4年次	104 単位以上。専門基礎科目と専門教育科目 62 単位以上を含む。
卒業単位	124 単位以上

→ § 3-5. 進級・卒業 P.51

II. 習熟度別クラス分け

■英語

→ § 3-2. 習熟度別クラス P.44

III. 資格取得

(1) 認定校として認可を得ている資格

- ・教諭免許：
高等学校教諭一種免許状（数学、情報）
中学校教諭一種免許状（数学）

→ § 2-3. 教職課程 P.22

(2) 資格取得を支援している資格

■資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・ MOS（Microsoft Office Specialist） /
Word・Excel…「情報リテラシー」
- ・ IT パスポート…「情報技術資格 I」（認定科目）
- ・ 基本情報技術者…「情報技術資格 II」（認定科目）

[認定科目の単位認定方法]：

「情報技術資格 I」及び「情報技術資格 II」は、授業における成績評価に加え、該当する国家資格を取得したものについても、科目担当教員へ届け出ることにより単位を認定する。ただし、当該科目の単位を取得済みの場合は認定を行わ

ない。

→ § 3-4. 5 単位認定 P.50

■資格取得支援講座（課外）がある資格 [情報工学部対象]

- ・ 基本情報技術者
- ・ CCNA (Cisco Certified Network Associate)
- ・ LinuC (Linux Professional Institute Certification)

※その他の資格取得支援講座は、社会連携センターに問い合わせ

§ 5-1

情報工学科

§ 5-2

情報通信工学科

§ 5-3

情報システム工学科

§ 5-4

情報マネジメント学科

§ 5-4. 情報マネジメント学科 / Dept. of Information Management

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

■教育研究上の目的

ITスキルやデータサイエンスに関する知識と技術及び経営工学に関する知識の修得とともに、情報の活用による組織の価値を高めるためのマネジメント手法を修得させる教育を行い、情報処理と情報分析に関する理論や手法を組織活動の場面に適用することができる行動力をもって、組織の知力の向上や組織の価値の創造に貢献できる人材の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

共通コンピテンシー (能力・資質)		定義	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー (編成方針)
DP1	A 幅広い教養	リベラルアーツを旨とした知識と思考力	経営および情報に関する技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、社会全体の利益を追求する姿勢を修得することができる。	経営および情報に関する技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、社会全体の利益を追求する姿勢を修得することができるようになるための科目を配置する。
	B 専門知識・技能	当該分野において必要とされる知識と技能	高度情報化とグローバル化に対応し、最適化手法、統計学、情報技術などを活用し、複雑な経営システムに関する諸問題を発見・分析・解決することができる。	高度情報化とグローバル化に対応し、最適化手法、統計学、情報技術などを活用し、複雑な経営システムに関する諸問題を発見・分析・解決することができるようになるための科目を配置する。
DP2	C ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	経営工学及びデータサイエンスについて、能動的かつ継続的に学習し、それを自らが興味をもつ経営における意思決定問題に活用して解決することができる。	経営工学及びデータサイエンスについて、能動的かつ継続的に学習し、それを自らが興味をもつ経営における意思決定問題に活用して解決することができるようになるための科目を配置する。
	D メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	社会の要求を解決するために経営工学及びデータサイエンスに関する情報を積極的に入手し、既修得の知識・技能と統合して活用することで、自らが立てた課題にそれらを適用して、その課題を解決する能力を修得することができる。	社会の要求を解決するために経営工学及びデータサイエンスに関する情報を積極的に入手し、既修得の知識・技能と統合して活用することで、自らが立てた課題にそれらを適用して、その課題を解決する能力を修得することができるようになるための科目を配置する。
DP3	E グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	異なる背景や文化を持つ人々と英語でコミュニケーションしながら協働作業する能力、グローバルリーダーシップ力を修得することができる。	異なる背景や文化を持つ人々と英語でコミュニケーションしながら協働作業する能力、グローバルリーダーシップ力を修得することができるようになるための科目を配置する。
	F 未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	取り組む課題や仕事に対して、技術面での解決にのみ拘るのではなく、コスト、品質、時間などを総合的に考慮し、持続可能なソリューションを提供することができる。	取り組む課題や仕事に対して、技術面での解決にのみ拘るのではなく、コスト、品質、時間などを総合的に考慮し、持続可能なソリューションを提供することができるようになるための科目を配置する。
DP4	G デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	数理の基礎知識を基に、デジタル社会で多量に取得できるデータをコンピュータを用いて処理・分析し、社会活動に応用する能力を修得することができる。	数理の基礎知識を基に、デジタル社会で多量に取得できるデータをコンピュータを用いて処理・分析し、社会活動に応用する能力を修得することができるようになるための科目を配置する。
	H 発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力	自分の意見を論理的に記述し、プレゼンテーションを行う能力を修得することができる。	自分の意見を論理的に記述し、プレゼンテーションを行う能力を修得することができるようになるための科目を配置する。

■カリキュラム・ポリシー（実施方針）

【学修方法】

1	PBL（課題解決型学習）に参画し、企業や行政が直面している問題を解決することを通じて実践的なスキルを養う。
2	学習ポートフォリオで日常的な学習を記録し、定期的に学修成果や目標達成度の振り返りを行う制度を運用する。
3	グローバルプログラムやインターンシップで異文化協働の経験を積み、社会とのつながりを深める。
4	経営工学及びデータサイエンスに関する知識を学び、AWSやPythonなどを用いてビッグデータを分析する実践的な学修を行う。

【学修成果の評価】

1	各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した適切な成績評価を行う。
2	プロジェクトや卒業研究の創造性や新規性、研究方法の適切性、データ分析の妥当性、目標の達成度、結果の実用性などによって総合的に評価する。

■学修領域（教育分野）

- ①経営工学
- ②データサイエンス

2 年次別授業科目表

福岡工業大学情報工学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学部〕各学科共通 | 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

年次 区分			1年次				2年次				3年次			
			前期		後期		前期		後期		前期		後期	
コア群	教養力基盤	基礎	キャリア・デザイン ②	コミュニケーション・デザイン ②										
				ウェルネス基礎 ②										
			Freshman English A 2	Freshman English B 2	Essential English A 2	Essential English B 2								
		応用	Advanced English A 2	Advanced English B 2	Communicative English A 2	Communicative English B 2								

年次 区分			1年次				2年次				3年次			
			前期または後期、または両方 [注4]				前期または後期、または両方 [注4]				前期または後期、または両方 [注4]			
展開群	多面的視座	基礎	AI データサイエンス基礎	2	自己成長と学び [注5]	2								
			生命と生態系	2	産業デザイン	2								
			化学と生活	2	中国の文化と言葉	2								
			科学史	2	韓国の文化と言葉	2								
			地域創生論	2										
			市民生活と法	2										
			日本国憲法	2										
			心理学	2										
			文学	2										
			現代倫理	2										
			経済学	2										
			社会学	2										
			九州学	2										
			異文化理解	2										
			実践知	応用	地域創生 PBL	2	ウェルネス応用	2						
			海外研修		2	日本語実践	2							
			仕事理解型実習		2									
													課題解決型インターンシップ	2

[注1] コア群から14単位、展開群から10単位以上、合計24単位以上を取得しなければならない。

[注2] 「Freshman English A, B」、「Advanced English A, B」、「Essential English A, B」、「Communicative English A, B」については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を受講するものとする。

[注3] 「Essential English A, B」および「Communicative English A, B」は、該当する英語の資格を取得したものについても、届け出により成績評価を行う。

[注4] 展開群の各科目は、前期のみ、後期のみ、または前期および後期に開講する。各年度の開講学期は授業時間割で示す。両学期で開講される科目については、年度内での履修はどちらかの学期のみとし、再履修は翌年度以降とする。

[注5] 「自己成長と学び」は通年開講とする。

[注6] 「AI データサイエンス基礎」は主に遠隔授業を実施する。

〔情報工学部〕各学科共通 | 横断科目表

年次 区分		1年次		2年次		3年次	
		科目横断	Future Vision 講座	1	アプリ開発実践	2	AI データサイエンス実践
		Future Vision 実践	1				

[注1] 横断科目は、集中講義（前期、後期または夏休み中に短期間集中して開講）または、前期および後期に開講する。各年度の開講時期は授業時間割で示す。

[注2] 「Future Vision 講座」および「Future Vision 実践」の各科目においては、原則として科目名に（ ）書きで主題を付し、個別の科目として開講し、複数履修することができる。

福岡工業大学情報工学科履修要項

別表 年次別授業科目表

〔情報工学科〕 情報マネジメント学科 | 専門基礎及び専門教育科目表

■専門基礎科目

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎科目		基礎数学Ⅰ ③	基礎数学Ⅱ ③	線形代数 2	離散数学Ⅰ 2	離散数学Ⅱ 2			
		物理学Ⅰ 2	物理学Ⅱ 2	微分方程式 2	情報数理入門 2				
			統計学への誘い ②						
			解析学 2						

■専門教育科目

区分	年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
経営工学		経営システム論 ②	インダストリアルエンジニアリング ②	オペレーションズ・リサーチⅠ ②	オペレーションズ・リサーチⅡ ②	オペレーションズ・リサーチⅢ 2	品質管理論 2		
				経営管理論 ②	生産管理論 ②	ゲーム理論 2	e-ビジネス論 2		
				工業心理学 2	人間工学 2	サプライチェーン・マネジメント 2	ベンチャービジネス論 2		
				経営計算論 2		信頼性工学 2			
データサイエンス		コンピュータ基礎学 2	プログラミング入門 ②	プログラミングⅠ ②	プログラミングⅡ 2	ソフトウェア開発 2	応用データサイエンス 2		
		WEBデザイン 2	データベース ②	社会調査のためのデータサイエンス ②	科学分析のためのデータサイエンス 2	データビジュアライゼーション 2	経営シミュレーション 2		
					数理モデリング ②	人工知能 2	金融工学 2		
					メディア科学Ⅰ 2	メディア科学Ⅱ 2			
					感性工学 2	ソフトコンピューティング 2			
共通		情報マネジメント基礎演習Ⅰ ②	情報マネジメント基礎演習Ⅱ ②	情報マネジメント実践演習 ④		知的所有権と法 2			
		情報リテラシー ②		情報マネジメント海外事情 2					
		情報技術演習Ⅰ 2		データ構造とアルゴリズム ②		情報技術演習Ⅱ 2			
				グローバルデジタル概論 ②					
卒研ゼミ				情報倫理 2					
				情報マネジメントゼミナール ④		情報マネジメントプロジェクト演習 ④		卒業研究 ⑥	

3 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4		
						A	B	C	D	E	F	G	H	
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力	
						相異なる解が想定される複雑な問題に対処する知識や多面的視座を得ることができる。	【教養力育成科目には該当せず】	社会の変化に合わせて自らウェルネスを築くと共に、人生をデザインし、自己実現に向けて絶え間ない努力を重ねられる。	自己理解を深め、適性も見極めながら目標を設定し、実行とその振り返りを繰り返しつつ、実現へ向けた取り組みができる。	多様な価値観やバックグラウンドを持つ他者を尊重しながら問題解決に向けて協働できる。	人類社会が経験しなかった新たな問いに基づき立ち向かいながら、その解決に向けて歩める。	数理やAI、データサイエンス、ICTの知識に基づいて、データを的確に分析し、状況を把握できる。	日本語及び基礎的な英語で自らの考えを分かりやすく論理的に構築でき、またそれに基いて背景や意見を異にする相手ともコミュニケーションが取れる。	
コア群 教養力基盤	キャリア・デザイン	必修	1	前		10		60	10		10		10	
	コミュニケーション・デザイン	必修	1	後		10			10	10	10		60	
	ウェルネス基礎	必修	1	前		20		60	20					
	Freshman English A	選択	1	前		10			20	10			60	
	Advanced English A	選択	1	前		10			20	10			60	
	Freshman English B	選択	1	後		10			20	10			60	
	Advanced English B	選択	1	後		10			20	10			60	
	Essential English A	選択	2	前		10			20	10			60	
	Communicative English A	選択	2	前		10			20	10			60	
	Essential English B	選択	2	後		10			20	10			60	
Communicative English B	選択	2	後		10			20	10			60		
展開群 多面的視座	自己成長と学び	選択	2	通年				20	60				20	
	AI データサイエンス基礎	選択	1	前後		20					20	60		
	生命と生態系	選択	1	前後		60					20	20		
	化学と生活	選択	1	前後		60		20				20		
	科学史	選択	1	前後		60			20			20		
	産業デザイン	選択	2	前後		20					60	20		
	地域創生論	選択	1	前後		30				10	60			
	市民生活と法	選択	1	前後		60		10		10	20			
	日本国憲法	選択	1	前後		60				20	20			
	心理学	選択	1	前後		60			20				20	
	文学	選択	1	前後		60		20			20			
	現代倫理	選択	1	前後		20		20			60			
	経済学	選択	1	前後		60		10			20	10		
	社会学	選択	1	前後		70		10			20			
	九州学	選択	1	前後		80					20			
	異文化理解	選択	1	前後		20					60		20	
	中国の文化と言葉	選択	2	前後		20					60		20	
	韓国の文化と言葉	選択	2	前後		20					60		20	
	実践知	ウェルネス応用	選択	2	前後		20		60	20				
		地域創生 PBL	選択	1	前後		20					70		10
日本語実践		選択	2	前後		10		10			20		60	
仕事理解型実習		選択	2	集中				20	60	20				
課題解決型インターンシップ		選択	3	集中					60	20	20			
海外研修		選択	1	集中		20					60		20	

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

■横断科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4	
					A	B	C	D	E	F	G	H
					幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
					リベラルアーツを旨とした知識と思考力	当該分野において必要とされる知識と技能	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	自らの考えを適切に伝えることができる力
AI データサイエンス実践	選択	3	集中			20				20	60	
アプリ開発実践	選択	2	集中		10	20	10	10	10	10	20	10
Future Vision 講座	選択	1	集中			10	10			20	60	
Future Vision 実践	選択	1	集中							20	60	20

■情報マネジメント学科の専門基礎及び専門教育科目の関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	DP1		DP2		DP3		DP4	
						A	B	C	D	E	F	G	H
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
専門基礎科目	基礎数学Ⅰ	必修	1	前	講義								
	基礎数学Ⅱ	必修	1	後	講義				40			60	
	物理学Ⅰ	選択	1	前	講義							100	
	物理学Ⅱ	選択	1	後	講義							100	
	統計学への誘い	必修	1	後	講義				40			60	
	解析学	選択	1	後	講義				40			60	
	線形代数	選択	2	前	講義				40			60	
	微分方程式	選択	2	前	講義				40			60	
	情報数理入門	選択	2	後	講義				40			60	
	離散数学Ⅰ	選択	2	後	講義				40			60	
	離散数学Ⅱ	選択	3	前	講義				40			60	
	経営システム論	必修	1	前	講義	100							
	インダストリアル・エンジニアリング	必修	1	後	講義		40				60		
	オペレーションズ・リサーチⅠ	必修	2	前	講義		60		40				
	オペレーションズ・リサーチⅡ	必修	2	後	講義		60		40				
経営管理論	必修	2	前	講義	40			60					
工業心理学	選択	2	前	講義				60	20	20			
経営計算論	選択	2	前	講義		60					40		
生産管理論	必修	2	後	講義	15	55		10	10	10			
人間工学	選択	2	後	講義	40	60							
オペレーションズ・リサーチⅢ	選択	3	前	講義		60		40					
ゲーム理論	選択	3	前	講義		60		40					
サプライチェーン・マネジメント	選択	3	前	講義	10	10		55	10	5	10		
信頼性工学	選択	3	前	講義				40			60		
マーケティング論	選択	3	前	講義						100			
品質管理論	選択	3	後	講義	10	55		15	10		10		
e-ビジネス論	選択	3	後	講義				100					
ベンチャービジネス論	選択	3	後	講義	10		5		5	55	10	15	
コンピュータ基礎学	選択	1	前	講義		70						30	
WEBデザイン	選択	1	前	講義		80		20					
プログラミング入門	必修	1	後	演習	15	55		15			15		
データベース	必修	1	後	演習	10	50		20		10	10		
プログラミングⅠ	必修	2	前	演習	15	55		15			15		
プログラミングⅡ	選択	2	後	演習	20	70		10					
社会調査のためのデータサイエンス	必修	2	前	講義		20		10			70		
科学分析のためのデータサイエンス	選択	2	後	講義		40					60		
数理モデリング	必修	2	後	講義		60		40					
メディア科学Ⅰ	選択	2	後	講義	20	60					20		
感性工学	選択	2	後	講義		70					30		
確率システム入門	選択	2	後	講義		55		5			40		
ソフトウェア開発	選択	3	前	講義			10			60	30		
データビジュアライゼーション	選択	3	前	講義		20					60	20	
人工知能	選択	3	前	講義	25	50					25		
メディア科学Ⅱ	選択	3	前	講義	20	60					20		
ソフトコンピューティング	選択	3	前	講義		40	60						
応用データサイエンス	選択	3	後	講義	55	15	10			10		10	
経営シミュレーション	選択	3	後	講義	40	60							
金融工学	選択	3	後	講義		60					40		
情報リテラシー	必修	1	前	講義	40	60							
情報マネジメント基礎演習Ⅰ	必修	1	前	演習	40		20		20			20	
情報マネジメント基礎演習Ⅱ	必修	1	後	演習	40		20		20			20	
データ構造とアルゴリズム	必修	2	前	講義	10	20		10			60		
グローバルデジタル概論	必修	2	前	講義	40		60						
情報倫理	選択	2	前	講義	100								
情報マネジメント実践演習	必修	2	通年	演習	10	20	10	20		20	10	10	
情報マネジメント海外事情	選択	2,3	通年	演習					60			40	
知的所有権と法	選択	3	前	講義	60	20					20		
情報技術演習Ⅰ	選択	1	通年	演習		60					40		
情報技術演習Ⅱ	選択	3	通年	演習		60					40		
情報マネジメントゼミナール	必修	2	通年	演習	10	20	10	20	10	10	10	10	
情報マネジメントプロジェクト演習	必修	3	通年	演習	10	20	10	20	10	10	10	10	
卒業研究	必修	4	通年	研究	10	20	10	20	10	10	10	10	

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

4 カリキュラムフロー

本フローは、コンピテンシーに対する科目のつながり（主に主関与）を示す。

※ は必修科目、 は副関与

で囲まれた科目については、前期のみ、後期のみ、または前期および後期に開講する。各年度の開講学期は授業時間割で示す。
 ……で囲まれた横断科目については、原則、集中講義として開講する。

DP	授 業 科 目 名				
	1年	2年	3年	4年	
コンピテンシー	前期	後期	前期	後期	
A	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">経営システム論</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報マネジメント基礎演習Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">化学と生活</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生命と生態系</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">科学史</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日本国憲法</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">市民生活と法</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">経済学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">心理学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">社会学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">九州学</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報倫理</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">知的所有権と法</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期または後期、または両方</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期または後期、または両方</div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報マネジメント基礎演習Ⅱ</div>				
B	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コンピュータ基礎学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">WEBデザイン</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">プログラミング入門</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">データベース</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報技術演習Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報リテラシー</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期または後期、または両方</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期または後期、または両方</div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報マネジメント実践演習Ⅱ</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報マネジメント実践演習</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報マネジメントゼミナール</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">アプリ開発実践</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期または後期、または両方</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">前期または後期、または両方</div>
DP1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">オペレーション・リサーチⅠ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">経営計算論</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">オペレーション・リサーチⅡ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">人間工学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生産管理論</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">オペレーション・リサーチⅢ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ゲーム理論</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">品質管理論</div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">プログラミングⅠ</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">プログラミングⅡ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">数理モデリング</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">確率システム入門</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">メディア科学Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">感性工学</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">人工知能</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">メディア科学Ⅱ</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">応用データサイエンス</div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報マネジメント実践演習Ⅰ</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報マネジメント実践演習Ⅱ</div>			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">卒業研究</div>				

								ソフトコンピューティング 応用データサイエンス 経営シミュレーション 金融工学	
C	情報マネジメント基礎演習Ⅰ キャリア・デザイン	情報マネジメント基礎演習Ⅱ ウェルネス基礎	グローバルデジタル概論 ウェルネス応用						
DP2				経営管理論 工業心理学 情報マネジメント実践演習 情報マネジメントゼミナール 自己成長と学び 仕事理解型実習			サイバー・マネジメント e-ビジネス論		卒業研究
D	情報マネジメント基礎演習Ⅰ 異文化理解 海外研修	情報マネジメント基礎演習Ⅱ 異文化理解 海外研修	情報マネジメント海外事情 中国の文化と言葉 韓国の文化と言葉					情報マネジメント海外事情	
E	情報マネジメント基礎演習Ⅰ 異文化理解 海外研修	情報マネジメント基礎演習Ⅱ 異文化理解 海外研修	情報マネジメント海外事情 中国の文化と言葉 韓国の文化と言葉					情報マネジメント海外事情	
F	地域創生論 地域創生PBL 現代倫理 Future Vision基礎	地域創生論 地域創生PBL 現代倫理 Future Vision基礎	情報マネジメント実践演習 産業デザイン					信頼性工学 マーケティング論 ソフトウェア開発	ハンチャータウン
DP3									
G	基礎数学Ⅰ 物理学Ⅰ	基礎数学Ⅱ 統計学への誘い 解析学 物理学Ⅱ	線形代数 微分方程式 情報数学Ⅰ 情報数学入門					離散数学Ⅱ	
DP4				社会論のためのデータサイエンス データ論とアルゴリズム アプリ開発実践			データサイエンス AIデータサイエンス実践		
H	情報マネジメント基礎演習Ⅰ Freshman English A Advanced English A	情報マネジメント基礎演習Ⅱ コミュニケーション・デザイン Freshman English B Advanced English B	日本語実践 Essential English A Communicative English A						

5 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

2→3年次	64 単位以上
3→4年次	104 単位以上。専門基礎科目と専門教育科目 62 単位以上を含む。
卒業単位	124 単位以上

→ § 3-5. 進級・卒業 P.51

II. 習熟度別クラス分け

■英語

→ § 3-2. 習熟度別クラス P.44

III. 資格取得

(1) 認定校として認可を得ている資格

・教諭免許：

高等学校教諭一種免許状（情報）

→ § 2-3. 教職課程 P.22

(2) 資格取得を支援している資格

■資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・ITパスポート…「情報技術演習Ⅰ」（認定科目）
- ・基本情報技術者…「情報技術演習Ⅱ」（認定科目）

[認定科目の単位認定方法]：

履修後に該当する国家資格を取得したものである場合は、当該科目の開講学期の学期末試験期間までに科目担当教員へ届け出ることにより単位を認定する。また、履修前に取得しているものについては、当該科目の単位認定時期に科目担当教員へ届け出ることにより単位を認定する。

なお、単位認定は当該科目の開講年次以降に

行う。

→ § 3-4. 単位認定 P.50

■資格取得支援講座（課外）がある資格 [情報工学部対象]

- ・基本情報技術者
- ・CCNA (Cisco Certified Network Associate)
- ・LinuC (Linux Professional Institute Certification)

※その他の資格取得支援講座は、社会連携センターに問い合わせ

§ 6

§ 6-1	社会環境学科	146
-------	--------	-----

Dept. of Socio-Environmental Studies

- ❶ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
- ❷ 年次別授業科目表
- ❸ 関与度一覧表
- ❹ カリキュラムフロー
- ❺ 履修上の注意

社会環境学部

Faculty of Socio-Environmental Studies

■社会環境学部ディプロマ・ポリシー （卒業認定・学位授与の方針）

社会環境学部では、学則および学部履修要項等に則して必要な単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、社会環境学分野に関する専門的知識を身につけ、大学の定めるディプロマ・ポリシーに対応する力を修得したと判断した場合に、学士の学位を授与します。なお、この方針に基づく「学科において修得すべき能力」は、学科で別に定めます。

■社会環境学部カリキュラム・ポリシー （教育課程編成・実施の方針）

社会環境学部は、福岡工業大学全学（学士課程）カリキュラム・ポリシーをもとに、社会環境学部のディプロマ・ポリシーを踏まえて教育課程を編成し、実施します。

§ 6-1. 社会環境学科 / Dept. of Socio-Environmental Studies

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

■教育研究上の目的

環境に関わる諸問題に関して主として社会科学の立場からアプローチし、社会の仕組みを理解した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

共通コンピテンシー (能力・資質)		定義	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー (編成方針)
DP1	A 幅広い教養	リベラルアーツを目指した知識と思考力	多様な学問領域からの知識を融合させ、持続可能な社会の理解に役立つ教養を得ることができる。	人文科学、社会科学、自然科学に関する基本的な概念や理論を、幅広く理解し、社会事象を多角的に理解するための科目を配置する。
	B 専門知識・技能	当該分野において必要とされる知識と技能	環境調和型社会実現に必要な専門知識と技能を修得し、現実の社会問題に応用することができる。	社会事象を多面的に理解する上で必要な専門知識を理論と実践を通じて修得するための科目を配置する。
DP2	C ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	社会の変化に合わせて自己実現に向けたキャリアを構想し、ライフスタイルを設計することができる。	主体的学習を通じて知識探求の重要性を認識し、学生生活やその後の人生についても洞察を深められるための科目を配置する。
	D メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	自己理解を深め、適性も見極めながら目標を設定し、自己調整学修を実践することができる。	関心分野を見極めると共に、学修目標に向けて創造的に課題を克服するための科目を配置する。
DP3	E グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	多様な価値観やバックグラウンドを持つ他者を尊重しながら問題解決に向けて協働できる。	国際社会の現状と課題を理解し、課題解決に向け多様な価値観を持つ人々との協働を可能にするための科目を配置する。
	F 未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	未来の社会を想像し、新たな価値を実現できる。	持続可能な未来に向けた新しい価値の創出に必要な思考力と創造性を構築するための科目を配置する。
DP4	G デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	数理や AI、データサイエンス、ICT の知識に基づいて、データを的確に分析し、状況を把握できる。	数理や AI、データサイエンス、ICT の基礎知識と応用能力を修得し、これを社会問題の解決に活用するための科目を配置する。
	H 発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力	効果的なコミュニケーション能力を養い、論理的に情報を伝えることができる。	論文作成や発表に必要な文章力と自己表現力を向上させるための科目を配置する。

■カリキュラム・ポリシー（実施方針）

【学修方法】

1	知識の修得と能動的な学習態度の涵養のために、講義形式を併用しながらそれぞれの科目の特色を生かしたアクティブ・ラーニングや実践形式を取り入れる。
2	目指す将来のキャリアに基づく自己の課題や目標を考え、自己調整学習の習慣化を図るため、ゼミナールにおける指導とともに学習ポートフォリオを活用した日常的な学習記録の蓄積と、学修成果の振り返りを行う制度を正課内外で運用する。
3	大学での学びと社会とのつながりを知る機会を取り入れるとともに、異なる背景や文化を持つ人々と協働して課題解決を行うプログラムを実施する。
4	学修活動全般において、データサイエンスの見方を身に付け、情報を的確に整理・分析する機会や、適切なデジタルツールを用いて自らの考えを発信する機会を確保する。

【学修成果の評価】

1	各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した適切な成績評価を行う。
2	ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、全学的な学生調査や卒業論文、卒業研究発表会等の成果物によって評価する。

■学修領域（教育分野）

- ①経営
- ②地域

2 年次別授業科目表

福岡工業大学社会環境学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔社会環境学部〕社会環境学科 | 教養力育成科目表

(科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目)

区分			1年次		2年次		3年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
コア群	教養力基盤	基礎	キャリア・デザイン ②	コミュニケーション・デザイン ②				
		ウェルネス基礎 ②						
		Freshman English A 2	Freshman English B 2	Essential English A 2	Essential English B 2			
	応用	Advanced English A 2	Advanced English B 2	Communicative English A 2	Communicative English B 2			

区分			1年次		2年次		3年次	
			前期または後期、または両方 [注4]		前期または後期、または両方 [注4]		前期または後期、または両方 [注4]	
展開群	多面的視座	基礎	ITリテラシー	2	自己成長と学び [注5]	2		
			AIデータサイエンス基礎	2	産業デザイン	2		
			生命と生態系	2	中国の文化と言葉	2		
			化学と生活	2	韓国の文化と言葉	2		
			科学史	2				
			地域創生論	2				
			市民生活と法	2				
			日本国憲法	2				
			心理学	2				
			文学	2				
			現代倫理	2				
			経済学	2				
			社会学	2				
			九州学	2				
			異文化理解	2				
	歴史学概論	2						
地理学概論	2							
実践知	応用		地域創生 PBL 2	ウェルネス応用	2			
			海外研修	2	日本語実践	2		
					仕事理解型実習	2		
						課題解決型インターンシップ	2	

[注1] コア群から14単位、展開群から12単位以上、合計26単位以上を取得しなければならない。

[注2] 「Freshman English A, B」、 「Advanced English A, B」、 「Essential English A, B」、 「Communicative English A, B」 については、習熟度別に指定されたどちらかの科目を受講するものとする。

[注3] 「Essential English A, B」 および 「Communicative English A, B」 は、該当する英語の資格を取得したのものについても、届け出により成績評価を行う。

[注4] 展開群の各科目は、前期のみ、後期のみ、または前期および後期に開講する。各年度の開講学期は授業時間割で示す。両学期で開講される科目については、年度内での履修はどちらかの学期のみとし、再履修は翌年度以降とする。

[注5] 「自己成長と学び」は通年開講とする。

[注6] 「AIデータサイエンス基礎」は主に遠隔授業を実施する。

〔社会環境学部〕社会環境学科 | 横断科目表

区分		1年次		2年次		3年次	
科目	横断	Future Vision 講座	1				
		Future Vision 実践	1				

[注1] 横断科目は、集中講義（前期、後期または夏休み中に短期間集中して開講）または、前期および後期に開講する。各年度の開講時期は授業時間割で示す。

[注2] 「Future Vision 講座」 および 「Future Vision 実践」 の各科目においては、原則として科目名に（ ）書きで主題を付し、個別の科目として開講し、複数履修することができる。

福岡工業大学社会環境学部履修要項

別表 年次別授業科目表

〔社会環境学部〕社会環境学科 | 専門教育科目表

■専門教育科目（経営コース）

（科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目、◎印はコア科目）

区分	1年次		2年次		3年次		4年次										
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
ゼミナール	基礎ゼミナール ④		ゼミナールⅠ ④		ゼミナールⅡ ④		ゼミナールⅢ ④										
経営コース	簿記論	2	会計学	(*) 2	財務会計論	2	経営分析論	2	環境会計論	2							
			経営学概論	* ②	マーケティング論Ⅰ	2	マーケティング論Ⅱ	2	環境経営論	2							
					企業論	(*) 2	経営戦略論Ⅰ	2	経営戦略論Ⅱ	2		人的資源管理論	2				
							経営情報論	2	経営組織論	2							
					環境政策Ⅰ	(*) 2	環境政策Ⅱ	2									
			マクロ経済学	* ②	ミクロ経済学	(*) 2											
							知的財産法Ⅰ	2	知的財産法Ⅱ	2							
			社会環境学Ⅰ（総論）	* ②			経済発展論	2	アジア経済論	2		国際貿易論	2	地域開発論	2	経済政策論	2
			社会環境学Ⅱ（経済と環境）	* ②			公共経済学	2	環境経済学	(*) 2		資源エネルギー政策論	2	国際環境協力論	2	環境分析論	2
			社会環境学Ⅲ（法学入門）	* ②	人権論	(*) 2	情報法	2									
			社会環境学Ⅳ（人間と環境）	* ②	政治学Ⅰ	(*) 2	政治学Ⅱ	2	行政学	2	地方自治論	2					
					国際関係史	2	国際法Ⅰ	2	国際法Ⅱ	2	環境法	2	法・政策の諸問題	2	国際環境法	2	
					民法Ⅰ	(*) 2	民法Ⅱ	2	民法Ⅲ	2	国際取引法	2					
			空間情報学Ⅰ	(*) 2	空間情報学Ⅱ	2	環境水文学	2	防災情報学	2	フィールドワーク		4				
							環境地理学	2			環境生態学	(*) 2	環境管理論	2			
											大気環境学	2	地域デザイン論	2	人間環境学	2	
							自然環境調査法	2			文化環境論	2	環境人類学	2			
							民俗学概論	2	環境民俗学	(*) 2							
			社会統計学	2	社会調査法	2											
				地域社会学	2	環境社会学	(*) 2										
								人間存在と環境	2	社会心理学	2						

[注1] 科目名の右側の*印は基礎科目、(*)印は基幹科目、無印は展開科目、科目名の下線はコース必修科目の区分を示す。

[注2] 専門教育科目は、基礎科目から12単位、基幹科目から6単位以上、基幹科目（前記6単位を除く）又は展開科目から46単位以上、ゼミナールから16単位、必修科目の全部を含め、合計80単位以上取得しなければならない。

■専門教育科目（地域コース）

（科目名の右側の数字は単位数、○印は必修科目、◎印はコア科目）

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
ゼミナール	基礎ゼミナール ◎		ゼミナールⅠ ◎		ゼミナールⅡ ◎		ゼミナールⅢ ◎	
地域コース	空間情報学Ⅰ	(*) 2	空間情報学Ⅱ	2	環境地理学	2	地域デザイン論	2
			社会統計学	2	社会調査法	2	環境民俗学	(*) 2
					地域社会学	2	環境社会学	(*) 2
					環境水文学	2	防災情報学	2
					自然環境調査法	2	大気環境学	2
					環境政策Ⅰ	(*) 2	環境政策Ⅱ	2
							環境生態学	(*) 2
							資源エネルギー政策論	2
							地方自治論	2
							地域開発論	2
					民俗学概論	2	文化環境論	2
					民俗学概論	2	環境人類学	2
					社会環境学Ⅱ (経済と環境)	(*) 2	マクロ経済学	(*) 2
					社会環境学Ⅲ (法学入門)	(*) 2	経済発展論	2
					社会環境学Ⅳ (人間と環境)	(*) 2	アジア経済論	2
							国際貿易論	2
							国際環境協力論	2
							環境分析論	2
					経営学概論	(*) 2	マーケティング論Ⅰ	2
					マーケティング論Ⅰ	2	マーケティング論Ⅱ	2
					企業論	(*) 2	経営戦略論Ⅰ	2
							環境経営論	2
							環境管理論	2
							経営戦略論Ⅱ	2
							人的資源管理論	2
							経営情報論	2
							経営組織論	2
					簿記論	2	会計学	(*) 2
						財務会計論	2	
						経営分析論	2	
						環境会計論	2	
						知的財産法Ⅱ	2	
						知的財産法Ⅰ	2	
						環境法	2	
						法・政策の諸問題	2	
						国際環境法	2	
						民法Ⅰ	(*) 2	
						民法Ⅱ	2	
						民法Ⅲ	2	
						国際取引法	2	
						政治学Ⅰ	(*) 2	
						政治学Ⅱ	2	
						行政学	2	
						人間存在と環境	2	
						社会心理学	2	
						人間環境学	2	

[注1] 科目名の右側の*印は基礎科目、(*)印は基幹科目、無印は展開科目、科目名の下線はコース必修科目の区分を示す。

[注2] 専門教育科目は、基礎科目から12単位、基幹科目から6単位以上、基幹科目（前記6単位を除く）又は展開科目から46単位以上、ゼミナールから16単位、必修科目の全部を含め、合計80単位以上取得しなければならない。

3 関与度一覧表

■教養力育成科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

					コンピテンシー	DP1		DP2		DP3		DP4	
						A	B	C	D	E	F	G	H
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
区分	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	相異なる解が想定される複雑な問題に対処する知識や多面的視座を得ることができる。	【教養力育成科目には該当せず】	社会の変化に合わせて自らのウェルネスを築くと共に、人生をデザインし、自己実現に向けて絶え間ない努力を重ねられる。	自己理解を深め、適性も見極めながら目標を設定し、実行とその振り返りを繰り返しつつ、実現へ向けた取り組みができる。	多様な価値観やバックグラウンドを持つ他者を尊重しながら問題解決に向けて協働できる。	人類社会が経験しなかった新たな問いに基づき立ち向かいながら、その解決に向けて歩める。	数学やAI、データサイエンス、ICTの知識に基づいて、データを的確に分析し、状況を把握できる。	日本語及び基礎的な英語で自らの考えを分かりやすく論理的に構築でき、またそれに基づいて背景や意見を異にする相手ともコミュニケーションが取れる。
コア群	教養力基盤	キャリア・デザイン	必修	1	前			10	60	10		10	10
		コミュニケーション・デザイン	必修	1	後			10		10	10		60
		ウェルネス基礎	必修	1	前			20	60	20			
		Freshman English A	選択	1	前			10		20	10		60
		Advanced English A	選択	1	前			10		20	10		60
		Freshman English B	選択	1	後			10		20	10		60
		Advanced English B	選択	1	後			10		20	10		60
		Essential English A	選択	2	前			10		20	10		60
		Communicative English A	選択	2	前			10		20	10		60
		Essential English B	選択	2	後			10		20	10		60
Communicative English B	選択	2	後			10		20	10		60		
展開群	多面的視座	自己成長と学び	選択	2	通年				20	60			20
		ITリテラシー	選択	1	前後			40				60	
		AI データサイエンス基礎	選択	1	前後			20			20	60	
		生命と生態系	選択	1	前後			60			20	20	
		化学と生活	選択	1	前後			60	20			20	
		科学史	選択	1	前後			60		20		20	
		産業デザイン	選択	2	前後			20				60	20
		地域創生論	選択	1	前後			30			10	60	
		市民生活と法	選択	1	前後			60	10		10	20	
		日本国憲法	選択	1	前後			60			20	20	
		心理学	選択	1	前後			60		20			20
		文学	選択	1	前後			60	20			20	
		現代倫理	選択	1	前後			20	20			60	
		経済学	選択	1	前後			60	10			20	10
		社会学	選択	1	前後			70	10			20	
		九州学	選択	1	前後			80				20	
		異文化理解	選択	1	前後			20				60	20
		中国の文化と言葉	選択	2	前後			20				60	20
		韓国の文化と言葉	選択	2	前後			20				60	20
		歴史学概論	選択	1	前後			80				20	
		地理学概論	選択	1	前後			80				20	
		ウェルネス応用	選択	2	前後			20	60	20			
		地域創生 PBL	選択	1	前後			20				70	10
		日本語実践	選択	2	前後			10	10			20	60
		仕事理解型実習	選択	2	集中				20	60	20		
		課題解決型インターンシップ	選択	3	集中					60	20	20	
海外研修	選択	1	集中			20			60		20		

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

■横断科目のディプロマ・ポリシーに対する関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

					コンピテンシー	DP1		DP2		DP3		DP4	
						A	B	C	D	E	F	G	H
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実現力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
	授業科目名	必/選	学年	学期	形態	リベラルアーツを指した知識と思考力	当該分野において必要とされる知識と技能	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	自らの考えを適切に伝えることができる力
	Future Vision 講座	選択	1	集中			10	10			20	60	
	Future Vision 実践	選択	1	集中						20	60		20

■社会環境学科の専門基礎及び専門教育科目の関与度一覧表【コンピテンシーと数値】

区分	授業科目名	必/選	学年	学期	コンピテンシー 形態	DP1		DP2		DP3		DP4	
						A	B	C	D	E	F	G	H
						幅広い教養	専門知識・技能	ライフデザイン力	メタ認知・実践力	グローバルマインド	未来構想力	デジタル力	発信力
基礎科目	社会環境学Ⅰ(総論)	必修	1	前	講義	80	20						
	社会環境学Ⅱ(経済と環境)	必修	1	前	講義	80	20						
	社会環境学Ⅲ(法学入門)	必修	1	前	講義	80	20						
	社会環境学Ⅳ(人間と環境)	必修	1	前	講義	70	30						
基幹科目	経営学概論	必修	1	後	講義		10	30	60				
	マクロ経済学	必修	1	後	講義	40	60						
	空間情報学Ⅰ	基幹	1	前	講義		60				40		
	政治学Ⅰ	基幹	1	後	講義	20	60					10	10
	人権論	基幹	1	後	講義	30	50						20
	会計学	基幹	1	後	講義	10	60					30	
	民法Ⅰ	基幹	1	後	講義	20	60	20					
	環境政策Ⅰ	基幹	2	前	講義	40	60						
	企業論	基幹	2	前	講義	10	60	10	5		15		
	ミクロ経済学	基幹	2	前	講義	40	60						
	環境社会学	基幹	2	後	講義	20	55		15			10	
	環境民俗学	基幹	2	後	講義	20	60			10			10
環境経済学	基幹	2	後	講義	20	80							
環境生態学	基幹	3	前	講義		55	5	10		15		15	
ゼミナール	基礎ゼミナール	必修	1	通年	演習			55	10	10	10	15	
	ゼミナールⅠ	必修	2	通年	演習			10	10	60		10	10
	ゼミナールⅡ	必修	3	通年	演習			10		20	60		10
	ゼミナールⅢ	必修	4	通年	演習				60			10	20
専門教育科目	簿記論	選択	1	前	講義	10	60					30	
	空間情報学Ⅱ	選択	1	後	講義		60				40		
	国際関係史	選択	1	後	講義	30	60			10			
	社会統計学	選択	1	後	講義		60					40	
	環境地理学	選択	2	前	講義	20	60		10			10	
	経済発展論	選択	2	前	講義	20	80						
	政治学Ⅱ	選択	2	前	講義	10	60					20	10
	情報法	選択	2	前	講義	30	50						20
	公共経済学	選択	2	前	講義	10	60						30
	国際法Ⅰ	選択	2	前	講義		60			20			20
	財務会計論	選択	2	前	講義		80					20	
	自然環境調査法	選択	2	前	講義		55		15		15	10	5
	環境水文学	選択	2	前	講義	10	60	10	10	10			
	地域社会学	選択	2	前	講義	20	55		15			10	
	マーケティング論Ⅰ	選択	2	前	講義		10	20	60	10			
	民俗学概論	選択	2	前	講義	20	60	10					10
	社会調査法	選択	2	前	講義		60		10			30	
	民法Ⅱ	選択	2	前	講義	20	60	20					
	アジア経済論	選択	2	後	講義	20	80						
	環境政策Ⅱ	選択	2	後	講義	60	40						
	行政学	選択	2	後	講義		70					20	10
	経営情報論	選択	2	後	講義			40	60				
	経営戦略論Ⅰ	選択	2	後	講義	10	60	10	5		15		
	経営分析論	選択	2	後	講義		60	20			10	10	
	国際法Ⅱ	選択	2	後	講義		60			20			20
	人間存在と環境	選択	2	後	講義	20					20	60	
	防災情報学	選択	2	後	講義		60	10	10	10		10	
	民法Ⅲ	選択	2	後	講義	20	60	20					
	知的財産法Ⅰ	選択	2	後	講義	30	50						20
	マーケティング論Ⅱ	選択	2	後	講義			40	60				
	環境会計論	選択	3	前	講義	10	60			20			10
	環境経営論	選択	3	前	講義		60	20	20				
環境法	選択	3	前	講義	30	60					10		
地方自治論	選択	3	前	講義	20	60					10	10	
経営組織論	選択	3	前	講義	10	60	10	5		15			
国際貿易論	選択	3	前	講義	20	80							
資源エネルギー政策論	選択	3	前	講義	10	80			10				
大気環境学	選択	3	前	講義	20	60	10	10					
文化環境論	選択	3	前	講義	40	50						10	
知的財産法Ⅱ	選択	3	前	講義	30	50						20	
国際取引法	選択	3	前	講義		60			40				
経営戦略論Ⅱ	選択	3	前	講義	10	60	10	5		15			
地域デザイン論	選択	3	後	講義	60			20			20		
環境管理論	選択	3	後	講義	100								
環境人類学	選択	3	後	講義	10	60			20			10	
法・政策の諸問題	選択	3	後	講義	30	50						20	
国際環境協力論	選択	3	後	講義	10	80							
人的資源管理論	選択	3	後	講義	10	60	10	5		15			
地域開発論	選択	3	後	講義	30	70							
社会心理学	選択	3	後	講義	100								
フィールドワーク	選択	3	通年	演習		60				15	15	10	
経済政策論	選択	4	前	講義	20	60				10		10	
国際環境法	選択	4	前	講義	60	40							
環境分析論	選択	4	前	講義	10	90							
人間環境学	選択	4	前	講義	60	10					10	10	

注記：表中の数値はコンピテンシーに対する関与の程度を表し、55以上が主関与科目、50～15が副関与科目、10～5が補関与科目を示す。

4 カリキュラムフロー

本フローは、コンピテンシーに対する科目のつながり（主に主関与）を示す。□で囲まれた科目については、前期のみ、後期のみ、または前期および後期に開講する。各年度の開講学期は授業時間割で示す。
 ※□は必修科目、■は副関与

DP	業 科 目 名			
	1年	2年	3年	4年
コンピテンシー	前期 前期または後期、または両方	前期 前期または後期、または両方	前期 前期または後期、または両方	前期 前期または後期、または両方
	後期 後期	後期 後期	後期 後期	後期 後期
A	<ul style="list-style-type: none"> 化学と生活 生命と生態系 科学史 日本国憲法 市民生活と法 経済学 心理学 文学 社会学 九州学 歴史学概論 地理学概論 	<ul style="list-style-type: none"> 経済発展論 民法Ⅱ 地域社会学 環境政策Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> アジア経済論 知的財産法Ⅰ 環境社会学 環境政策Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> 国際貿易論 知的財産法Ⅱ 文化環境論 大気環境学
	<ul style="list-style-type: none"> 社会環境学Ⅰ(総論) 社会環境学Ⅱ(経済と環境) 社会環境学Ⅲ(法学入門) 社会環境学Ⅳ(人間と環境) 	<ul style="list-style-type: none"> マクロ経済学 人権論 	<ul style="list-style-type: none"> 国際貿易論 知的財産法Ⅱ 文化環境論 大気環境学 	<ul style="list-style-type: none"> 法・政策の諸問題 社会心理学 環境管理論 地域デザイン論
DP1	<ul style="list-style-type: none"> 社会環境学Ⅱ(経済と環境) 	<ul style="list-style-type: none"> ミクロ経済学 経済発展論 公共経済学 企業論 	<ul style="list-style-type: none"> アジア経済論 経営戦略論Ⅰ 環境経済学 国際法Ⅱ 民法Ⅲ 環境政策Ⅰ 環境地理学 環境水文学 社会調査法 地域社会学 政治学Ⅱ 自然環境調査法 民俗学概論 財務会計論 	<ul style="list-style-type: none"> 国際貿易論 経営戦略論Ⅱ 経営組織論 資源エネルギー政策論 国際取引法 環境法 ファイナルワーク 大気環境学 環境生態学 環境社会学 行政学 環境民俗学 経営分析論
	<ul style="list-style-type: none"> 社会環境学Ⅲ(法学入門) 空間情報学Ⅰ 社会環境学Ⅳ(人間と環境) 	<ul style="list-style-type: none"> マクロ経済学 国際関係史 民法Ⅰ 空間情報学Ⅱ 社会統計学 政治学Ⅰ 会計学 	<ul style="list-style-type: none"> 経済政策論 人的資源管理論 国際環境協力論 法・政策の諸問題 	<ul style="list-style-type: none"> 環境分析論 国際環境法 環境人類学

(社会環境学部)

DP	授 業 科 目 名			
	1年	2年	3年	4年
コンピテンシー	前期 前期または後期、または両方	前期 前期または後期、または両方	前期 前期または後期、または両方	後期 後期
C	ウエルネス基礎 キャリア・デザイン 基礎ゼミナール 経営学概論 民法 I	ウエルネス応用 マーケティング論 I 民法 II 自己成長と学び 仕事理解型実習 マーケティング論 I 環境社会学 マーケティング論 II 経営情報論	環境経営論 マーケティング論 II 民法 III 課題解決型インターンシップ 環境経営論 国際取引法 環境人類学	前期または後期、または両方
DP2	経営学概論	経営学概論	環境経営論	ゼミナール III
E	異文化理解 海外研修	中国の文化と言葉 韓国の文化と言葉 ゼミナール I 国際法 I 国際法 II	国際取引法 環境会計論	環境人類学
DP3	地域創生論 地域創生PBL 現代倫理 Future Vision実践	産業デザイン	ゼミナール II フィールドワーク 経営戦略論 I 人間存在と環境 自然環境調査法	環境経営論 経営戦略論 II 環境生態学 経営組織論
F	ITリテラシー AIデータサイエンス基礎 Future Vision講座 基礎ゼミナール 空間情報学 I 簿記論	企業論 自然環境調査法	経営戦略論 I 人間存在と環境	環境経営論 経営戦略論 II 環境生態学 経営組織論
G	空間情報学 II 社会統計学 会計学	人間存在と環境 財務会計論 政治学 II	フィールドワーク 地域デザイン論	フィールドワーク 地域デザイン論
DP4	Freshman English A Advanced English A Freshman English B Advanced English B コミュニケーション・デザイン	日本語実践 Essential English A Communicative English A	Essential English B Communicative English B 公共経済学 国際法 I 国際法 II	環境生態学 国際法 II
H	Freshman English A Advanced English A Freshman English B Advanced English B コミュニケーション・デザイン	日本語実践 Essential English A Communicative English A	Essential English B Communicative English B 公共経済学 国際法 I 国際法 II	環境生態学 国際法 II

5 履修上の注意

I. 進級・卒業単位

1 → 2 年次	30 単位 [*] 以上、単年度の GPA1.2 以上
2 → 3 年次	62 単位 [*] 以上、単年度の GPA1.2 以上
3 → 4 年次	94 単位 [*] 以上、単年度の GPA1.2 以上
卒業単位	124 単位 [*] 以上

※コア科目を含む

※上記単位数には教職科目は含まない。

→ § 3-5. 進級・卒業 P.51

II. コース

経営 コース	経営コースは、現代社会の経営活動に求められるビジネススキルを総合的に学ぶコースである。具体的には、経営実務に必要とされるマーケティング、組織の財務・会計や法制度などを、社会環境の知識を前提にしてバランスよく学習する。コースを修了することによって、経営活動において環境の重要性を理解し、社会で活躍できる高いビジネススキルを備えた人材を育成する。
地域 コース	地域コースは、現代社会の地域活動に関連するスキルを総合的に学ぶコースである。具体的には、地域に関する政策や教育、地域と密接に関わる環境保全や経済活動、防災、組織の役割など、社会環境の知識を前提にフィールドワークや地理情報システム等を利用してバランスよく学習する。コースを修了することによって、地域活動に積極的に貢献できる人材を育成する。

→ § 9-6. 社会環境学科コース制教育プログラム要領 P.242

III. 習熟度別クラス分け

■英語

→ § 3-2. 5 習熟度別クラス P.44

IV. 資格取得

(1)認定校として認可を得ている資格

- ・教員免許：高等学校教諭一種免許状（公民）
中学校教諭一種免許状（社会）

→ § 2-3. 教職課程 P.22

(2)資格取得を支援している資格

■資格取得支援科目（正課）がある資格

- ・日商簿記検定（3級・2級）…「簿記論」
- ・MOS (Microsoft Office Specialist) …「IT リテラシー」

■資格取得支援講座（課外）がある資格

- ・日商簿記検定（3級・2級）
- ・MOS (Microsoft Office Specialist)

※その他の資格取得支援講座は、社会連携センターに問い合わせ

(3)認定校として科目認定を受けている資格

- ・GIS 学術士

下記の科目について全ての単位を取得し、GIS を使用した卒業論文の執筆と大学の卒業の条件を満たせば申請することができ、GIS 学術士認定委員会の審査を経て資格を取得できる。

[認定科目表]

科目種別	授業科目名
【A】 GIS に関連する情報処理を中心とする科目	IT リテラシー
【B】 GIS の基本的機能と空間データの講義を中心とする科目	環境地理学
【C】 GIS による地図作成・空間分析の実習を中心とする科目	空間情報学 I 空間情報学 II
【D】 GIS を利用した卒業論文を執筆する科目	ゼミナールⅢ

V. その他

■科目の区分

・専門教育科目

専門教育科目は、経営・地域の分野から構成されています。基礎から応用分野まで体系的に履修できるように、「基礎科目」、「基幹科目」、「展開科目」に段階的に構成されています。

・ゼミ

ゼミは、自らが課題を発見し、継続的に学修する環境を整えるために、1年次から3年次までコア科目として配置され、4年次では必修科目として配置され、卒業に向けて専門的な研究を行います。本学社会環境学部の特色といえるこのゼミでは、自己の関心領域に基づき、各年次で修得した教養や専門の知識を総合化し、環境問題の解決に向けて、修得した知識を活用できるようにするものです。

また、学修以外にも、少人数というゼミの特色を活かして、担当教員と研究上、生活上の悩みなど諸問題を話し合う場ともなりますので、豊かな教養と人間的素養を身に付けるよう努めて下さい。

■注意事項

1. 成績評価を受けるためには、原則、授業回数の2/3以上の出席が必要です。欠席が多くなると、成績評価を受けられなくなります。
2. 授業への出席登録は、原則としてICチップが内蔵された学生証を用いて行います。学生証を忘れた場合には、欠席扱いとなりますので注意して下さい。
3. 大学では単位制がしかれているので、学則第28条第3項別表2の授業科目表によって決められている年次で、各授業科目を履修しなければなりません。履修した科目の成績が不可(59点以下)の場合は不合格となり、単位は与えられません。

1年次から2年次へ進級する場合は、基礎ゼミナールを含む30単位以上を取得し、かつ当該年度に修得した科目において単年度GPA1.2以上の取得が必要です。2年次から3年次へ進級する場合はゼミナールⅠを含む62単位以上を取得し、かつ当該年度に修得した科目において単年度GPA1.2以上の取得が必要です。また、3年次から4年次へ進級する場合には、ゼミナールⅡを含む94単位以上を取得し、かつ当該年度に修得した科目において単年度GPA1.2以上の取得が必要です。卒業には124単位以上の取得が必要です。それぞれの条件に達しない場合は留年となり、もう一度同じ年次で学修することになります。

30単位、62単位又は94単位以上取得(コア科目を含む)して進級した場合でも、取得すべき単位(特に必修科目)を一部未取得のまま進級した場合には注意が必要です。特に、進級した年次に割り当てられた授業科目と、不合格(不)となった下の年次の授業科目(特に必修科目)が重なる場合には、どちらかの授業科目だけしか履修登録できなくなってしまいます。このような問題がおこらないように、各年次において単位を確実に取得していきましょう。

§ 7

学生生活

§ 7-1	各種証明書	158
	1 証明書発行 2 学籍情報の変更手続き	
§ 7-2	学納金・奨学金制度	159
	1 学納金 2 奨学金	
§ 7-3	課外活動	161
	1 クラブ・サークル 2 モノづくりセンタープロジェクト 3 社会貢献・自己啓発活動 4 施設・用具の使用 5 課外活動に関する手続き 6 アルバイト	
§ 7-4	国際交流	164
§ 7-5	進路	166
	1 就職・キャリア 2 大学院進学	
§ 7-6	学生生活支援	168
	1 学生表彰制度 2 学生懲戒 3 各種保険 4 同窓会 5 教育後援会 6 健康管理 7 ハラスメント相談 8 障がい学生支援	
§ 7-7	キャンパス美化	171
	1 環境保全 2 ごみの分別	

§ 7-1

各種証明書

§ 7-2

学納金・
奨学金制
度

§ 7-3

課外
活動

§ 7-4

国際
交流

§ 7-5

進
路

§ 7-6

学
生
生
活
支
援

§ 7-7

キ
ャ
ン
パ
ス
美
化

§ 7-1. 各種証明書

1 証明書発行

各種証明書は、証明書自動発行機または所轄課の窓口で発行されます。加えて、学外でもコンビニエンスストアでの発行手続きが可能です。

→利用時間は、§ 1-4. 2 学生対応窓口一覧 P.13

【証明書自動発行機】

- ・ 設置場所 学生サポートセンター内（E棟2F）
情報基盤センター前（B棟2F）

※証明書の厳封が必要な場合は、窓口申し出てください。

※発行に際しては学生証および所定の発行手数料が必要です。発行後の返金はできません。

※コンビニ発行には、発行手数料の他、システム手数料（150円）と印刷料金が必要です。

種別	自動発行機	窓口	発行手数料	備考
学業成績証明書（和文）	○	教務課	200円	
学業成績証明書（英文）	×		500円	
卒業見込証明書（和文）	○		200円	4年次生
卒業見込証明書（英文）	×		500円	4年次生
学業成績・卒業見込証明書	○		200円	4年次生
卒業証明書（和文）	×		200円	但し、卒業日から1週間に限り自動発行機より出力可
卒業証明書（英文）	×		500円	卒業生
学生証再発行申込書	○	情報基盤センター	500円	
仮学生証	○	学生課	200円	当日限り有効
在学証明書（和文）	○		200円	休学者は休学証明書を申請のこと
在学証明書（英文）	○		200円	
通学証明書	×		無料	通学定期券の購入に必要
JR学割証	○		無料	JRで片道100km超利用時に運賃2割引（コンビニ発行不可）
学生団体旅行申込書	×		無料	8名以上の学生が一緒に旅行する場合に利用可（出発日の2週間前まで）
健康診断書	○		200円	当年度に健康診断を受診した学生
推薦書	○	就職課	200円	（コンビニ発行不可）
単位取得証明書	×	教務課	500円	
その他の証明書・申請書	×		500円	

2 学籍情報の変更手続き

学生本人の改姓・改名、学生および連帯保証人（保護者）の連絡先（住所や携帯電話番号）、連帯保証人等が変わった場合は、直ちに myFIT「学籍情報変更申請」から手続きを行ってください。手続きを怠ると、大学からのお知らせができなくなります。

手続き方法は「学籍情報の変更申請マニュアル」をご参照ください。

※個人情報には厳正に管理し、大学から本人および連帯保証人（保護者）への連絡・通知や緊急時の対応を行うために使用し、それ以外の目的では使用しません。

※日本学生支援機構等の奨学金を受給している学生は、別途届け出が必要です。学生課窓口まで申し出て下さい。

§ 7-2. 学納金・奨学金制度

1 学納金

■年間納入額

学納金は原則として「入学した年度と同額を毎年納入する」こととしています（経済情勢その他の変動により改定されることがあります）。

(2025年度)

	工学部・情報工学部	社会環境学部
授業料	980,000円	764,000円
施設設備費	270,000円	170,000円
実験実習費	90,000円	—
図書費	10,000円	10,000円
学生厚生費	20,000円	20,000円
合計	1,370,000円	964,000円

※上記の他、入学手続時に入学金200,000円を納入

■納入方法・通知方法

入学後に金融機関口座の登録手続きを行い、学期ごとの口座振替方式（自動引落）による納入となります。

初年度は8月末までに後期分の納入額・内訳・口座振替日等を記載した通知文を登録住所へ郵送します。

以降は、毎年3月末までに次年度1年分の納入額・内訳・口座振替日等を記載した通知文を登録住所へ郵送します。

また、必要に応じ、myFITの掲示を通して一斉通知を行います。

<注意事項>

- ・奨学金採用などにより納入額が変更になる場合、対象の方には個別に通知のうえ調整します。
- ・国の修学支援新制度に採用されている方は、学期により支援額が変わる場合があるため、2年目以降も学期ごとに通知します。

■納入期限（口座振替日）

学期ごとの口座振替日は以下のとおりです。当日が土日祝日の場合は翌日となります。

	口座振替日	分納額	
		工学部・情報工学部	社会環境学部
前期 (4月1日～9月30日)	4月20日	685,000円	482,000円
後期 (10月1日～3月31日)	9月30日	685,000円	482,000円

※1年次の前期分は入学前の指定日までに納入

※修学支援新制度採用者の後期分口座振替は11月20日に調整

■納入相談

やむを得ない事情により納入期限（口座振替日）までの納入が困難な場合は、必ず事前に経理課に相談してください（学生本人による直接来訪が望ましい）。

個別に面談を行い、納入期限から起算して3か月以内での延納申請を受け付けます。面談時にお渡しする所定の申請用紙に本人・学費負担者連署のうえ、経理課へ提出してください。なお、状況によっては月々の分納にも対応します。

■納入期限後の対応

納入期限（口座振替日）を過ぎても入金・連絡がない場合、本人・学費負担者に対して督促を行います。未納期間が3か月以上になると除籍予告を経て、所定の手続きにより学期末をもって除籍されます。

(学則第26条)

2 奨学金

本学では、十分な学力や能力を有する学生や、勉学を継続するために経済援助を必要とする学生に対し奨学金制度を設けています。学内および学外奨学金の主なものは次の通りです。

(窓口：学業特別奨学金は教務課、それ以外は学生課)

[学内の奨学金]

■特別奨学金

	学業特別奨学金		特技特別奨学金
対象者	【2～4年次生】 学科から推薦された成績優秀者	【1年次生】入試 (3教科型、共通 テスト利用前期、 中期、共通テスト 併用型、学校推 薦型(併願制)) 上位合格者	スポーツ・音楽 の強化クラブから 推薦された者
採用人数	各学年30名程度	—	若干名
給付期間	1年間	4年間または 1年間	1年間 (最大4年間)
金額	授業料の半額 免除	授業料の全額 または半額免 除	授業料と施設設 備費の全額また は半額免除
返済	不要	不要	不要
備考		学業成績が一定に満たない場合 等は取消しとなる	
窓口	教務課		学生課

■独自奨学金

本学独自奨学金は、経済的に修学の継続が困難な学生について、学ぶ意欲をしっかりとサポートする制度です。

この奨学金は、2020年4月からスタートした国が実施する高等教育の修学支援新制度（授業料等減免）を補完する仕組みで、これまで支援の対象とならなかった所得層にまで経済的支援の範囲を拡大しています。最高減免額は授業料の半額です。

募集時期になりましたら、募集要項を全学生に my FIT にて案内しますので、詳細をご確認ください。

[学外の奨学金]

■高等教育の修学支援新制度

入学金及び授業料の減免と日本学生支援機構給付奨学金の2つの支援を受けることができます。原則として返還義務はありません。

■日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構の奨学金は、学生が自立して学ぶことを支援するために国が実施する貸与

型・給付型の奨学金です。貸与型奨学金は貸与終了後必ず返還しなければなりません。有効かつ計画的に利用しましょう。

■地方自治体奨学金

地方自治体および教育委員会において実施している奨学金制度です。募集がある場合、応募要項を my FIT に掲示し、大学ホームページにリンク先を掲載します。本学への情報提供がない場合もあるので、各自で地方自治体窓口、教育委員会等へ照会してください。

以下の大学ホームページをご覧ください。
地方公共団体・民間団体奨学金
https://www.fit.ac.jp/gakusei/gakuhi/syougakukin/kokyo_minkan



■民間団体奨学金

民間企業や財団法人が奨学金を貸与または給付するものです。募集がある場合、応募要項を my FIT に掲示します。

■私費外国人留学生に対する減免措置

対象者	経済的に就学が困難な私費外国人留学生で、一定の成績や出席状況を修めている者【2～4年次生】
給付期間	1年間
金額	授業料の半額免除
返済	不要
募集時期	4月
申請方法	留学生オリエンテーションにて説明
備考	協定校以外の留学生は2年次から対象となる

■外国人留学生奨学金

私費留学生に対し、各種団体から奨学金の募集がある場合、上位年次から成績上位順に大学推薦を行います。推薦者は直接本人へ電話にてお知らせします。

§ 7-3. 課外活動

1 クラブ・サークル

課外活動は、学生相互が切磋琢磨することで貴重な人間関係を学び、情操豊かな人間性を育む場です。本学では、全学生で構成される学生自治会があり、その自治会組織の中に体育会本部と学術文化会が所属し、各クラブ・サークル、同好会・愛好会、合わせて 53 団体が活動しています。(2024 年 12 月現在)

詳しくは各クラブ・サークルにお問い合わせください。また、クラブ・サークルの新設や相談については学生課で応じています。

■学生自治会

- 自治会執行部…自治会組織を統括し、学生総会の主催や学生の代表として大学行事などに参加。クラブハウス（サークル棟）やサークルの管理。
- 自治会実行局…新入生歓迎会・学園祭（立花祭）の企画、運営。
- 代議員会…サークルに関する審議、各サークルへの予算配付や支援など。
- 体育会本部…体育会所属のサークルを統括・管理。体育会独自の企画、運営（餅つき大会等）。
- 学術文化会…学術文化会所属のサークルを統括・管理。学文祭の企画、運営。

《2024 年 12 月現在》

アイスホッケー部	水泳競技部
弓道部	ソフトテニス愛好会
剣道部	卓球部
硬式テニス部	テコンドー部
硬式野球部※	軟式野球部
準硬式野球部	バスケットボール部
少林寺拳法部	バドミントン部
女子柔道部※	男子バレーボール部
e スポーツ愛好会	ラグビー部※
硬式テニス同好会	陸上競技部
相撲同好会	アクションサッカー同好会
サバイバルスポーツ同好会	ダンス同好会
シーズンスポーツ同好会	ハンドボール部
タッチラグビー同好会	フットサル FANTASIA 同好会

※印は強化クラブ

パワーリフティング同好会	音楽研究部
情報技術研究部	音響部
吹奏楽団※	環境サークルオアシス部
フォークソング研究部	茶道部
模型部	写真部
モダンアート部	競技麻雀部
ロック部	FIT-ICE 同好会
釣り愛好会	ジャズ研究会
ピオトープ愛好会	料理・スイーツ研究同好会
福工大アンプラグド部	防災サークル愛好会
映画サークル愛好会	Communication Library 愛好会
電波部愛好会	野外活動サークル愛好会
All Round Music 部	※印は強化クラブ

■立花祭（学園祭）

立花祭は毎年 11 月初旬（2 日・3 日）の 2 日間開催される課外活動最大の行事です。学生自治会が企画・運営に携り、各クラブ・サークルは模擬店を出すなど積極的に参加しています。

2 モノづくりセンタープロジェクト

モノづくりセンターでは、学科を問わず多くの学生がプロジェクトに参加しています。プロジェクトでは、自由にアイデアを形にし、創造的なモノづくりを楽しんでいます。

エネワンカー	超電導デモ
ロボコン	EV フォーミュラーカー
ロボット相撲	においロボットの作製
手作りアクセサリー	農業 DX
二足歩行ロボット	音楽機材
4 輪 2 輪メンテピット	高波を受けた船体の動的挙動に関する実験
i-STEAM 教育教材開発	制御工学チャレンジ
衛星コン	AI による電気設計の自動化
ロボットアーム	

プロジェクトのメンバー募集はモノづくりセンターで随時受け付けています。また、審査を通過すれば、新規にプロジェクトを立ち上げることもできます。年度末には合同で成果発表会を行うことで、プロジェクトチームと学生自身のさらなる成長へつなげています。

3 社会貢献・自己啓発活動

本学では、授業以外での人間形成やソーシャルスキル体得の場として、学外での社会貢献活動や学生の自発的な自己啓発活動を奨励しています。

■社会貢献活動

社会連携センターでは、福岡市、新宮町、古賀市、篠栗町、島原市など、大学と連携協定を締結している自治体と連携した社会貢献活動への参加を広く呼び掛けています。

- ・ 防災・減災関連事業やイベントの運営協力
- ・ 新宮町「夏休み寺子屋事業」「こども体験クラブ」での子ども見守り活動への参加
- ・ 新宮町「グリーン作戦」「楯の松原保全活動」など学外での清掃活動への参加
- ・ 小中学校での学習支援活動
- ・ 和白5校区「留学生による多文化共生講座」「秋まつり」などの校区イベントへの参加
- ・ 各種防犯、交通安全キャンペーンへの参加協力など
- ・ 東部地域大学連携「学生懇話会」「みんなの防犯会」などの行事への参加協力

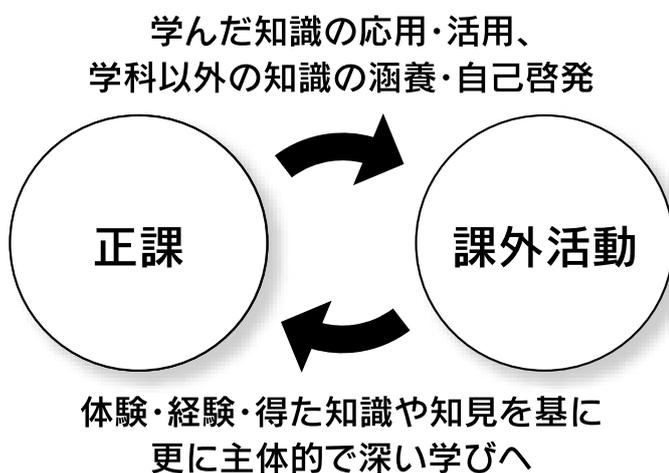
■自己啓発活動

社会連携センターでは、「福岡未来創造プラットフォーム」「東部地域大学連携」などを通じた自己啓発活動に取り組む学生、チーム、団体を支援しています。

- ・ 福岡未来創造プラットフォーム主催の自己啓発・学生交流活動への参加
- ・ 福岡未来創造プラットフォーム主催共同教育プログラムの受講

■FIT ポイント

大学が指定する社会貢献活動、自己啓発活動などに参加して、学んだことや課題に感じたことなどの振り返り登録を行うと、活動内容に応じたポイントが付与されます。蓄積したポイントが一定数を超えると、学内の指定された店舗で利用できる奨学チケットと交換可能です。詳しくはホームページ「FITポイント制度」をご覧ください。



4 施設・用具の使用

全ての学生は次の施設や用具を使用することができます。

■施設の使用

施設名	できること
FIT アリーナ (小体育室、トレーニングルーム)	バレーボール、バスケット、バドミントン、体操、ダンス、卓球、トレーニングなど
EAST コート FIT アリーナ WEST コート	バスケット (3on3)、サッカー (フットサル)、ハンドボール、バレーボール、ダンス、体操、トレーニングなど
新宮総合グラウンド (テニスコート)	テニス
塩浜総合グラウンド (フットサル場、多目的グラウンド)	フットサル、野球・ソフトボールなど

使用方法や予約については、学生課に問い合わせください。なお、クラブ・サークルの団体利用は学生課に申請が必要です。

→各施設の利用時間などについては、§ 8-1. 施設案内 P.174

■スポーツ用具の貸出

次の用具について、学生課にて貸出し(9:00~17:00)を行っています。使用の際は学生証が必要です。

- ・野球・ソフトボール用具
- ・バドミントン
- ・ボール (サッカー、バスケット、バレー)

5 課外活動に関する手続き

課外活動を行う場合、必要な手続きは事前に学生課で申請して下さい。

- ・イベント・集会の実施
- ・教室や施設の利用
- ・サークル・ゼミの合宿・遠征
- ・ポスター等の掲示・チラシ配布

※教室・施設の利用申請は、遅くとも1週間前までに提出願います。

6 アルバイト

本学では、奨学金による経済的支援を利用しても学業継続が困難な学生に対して、アルバイトを認めています。アルバイトをする場合は、学業に支障をきたさぬよう、またアルバイトでの経験を自己成長に役立て、学生生活を充実させてください。

※但し、深夜のアルバイトや長時間、重労働のアルバイト、または闇バイトが危険性があり、学業に支障をもたらす恐れがあるので注意してください。

■学内アルバイト

学内アルバイトの求人は、オープンキャンパス等で大学紹介するFIT 隊 (広報課) や、学生のPC・ネットワーク利用を支援するシステム相談員 (情報基盤センターシステム管理室) 等、各課で行っていますので、希望する場合は各課の窓口で問い合わせください。

■アルバイト斡旋

学外でのアルバイトについては、アドバンス (B棟 1F) にて求人情報を案内しています。

→ § 8-1. 施設案内 P.174

§ 7-4. 国際交流

■ Global Student Lounge (国際連携室併設：α棟2階)

グローバル化の加速に対応し、世界各地で積極的に活躍できる人材の育成を推進するために、本学では学内に国際交流拠点・Global Student Lounge (GSL) を設けています。ここでは、留学に関する情報提供や留学生との交流、協定校からの留学生支援などを行っています。また、ここに常駐する英語ネイティブ職員から、英会話レッスンや TOEIC 対策、英語論文添削、英語プレゼンの指導などを受けることが出来ます。その他、GSL 学生メンバーの活動拠点でもあり、メンバーが集まって GSL で開催する国際交流のイベントを計画しています。

■国際プログラム

本学の国際プログラムには、海外派遣プログラムや協定校への留学プログラムの他、オンラインで受講できるプログラムを各種揃えています。プログラムの中には、基準を満たす学生に対する補助金制度もあります。各プログラムの詳しい情報について知りたい方は、各学期に開催される募集説明会にご出席下さい。

(2024 年度実績)

	対象	内容	形態
Global Challenge Program	1 年生	入学時より総合的な国際対応力の形成を行い、キャリアビジョンの実現に繋げる 4 年間一貫したプログラムです。	ピアラーニング・オンライン・海外派遣
海外英語研修	全学年	カナダの協定校にて 3 週間、現地の留学生と共に英語を学びます。レベル別にクラスが分けられます。	海外派遣
タイ短期派遣研修	全学生	協定校の学生とバンコクの日系企業でインターンシップに参加する他、協定校教員による講義の受講やタイ文化を体験する 2 週間のプログラムです。	海外派遣
VALE Program	全学生	アメリカの大学生とのオンラインによる言語・文化交流プログラムです。母国の夏の祭りや、習慣、歴史などについてプレゼンテーションや質疑応答をパートナーの学生と相互に行います。	オンライン
オンライン英会話	全学生	空き時間を利用して自宅や大学からいつでも学べるオンライン英会話です。期間は 1 か月です。修了した学生には補助金が支給されます。	オンライン
CPILS オンライン留学	全学生	Center for Premier International Language Studies (CPILS/フィリピン・セブ島) が提供する 4 週間の英語集中プログラムです。レベルに応じた英語力の強化を行うことができます。	オンライン
Brighture オンライン留学	全学生	Brighture English Academy (フィリピン・セブ島) が提供する 3 週間の英語集中プログラムです。レベルに応じて自己の英語力の弱点強化を行うことができます。	オンライン
長期派遣留学	全学生	協定校への海外長期派遣プログラムです。本学が提携する協定校へ半年～1 年間学ぶことが出来ます。(過去の派遣実績：中国・韓国・タイ・米国)	海外派遣
長期留学支援制度	全学生	協定校または私費で 6 か月間以上留学をする学生を対象に、最大 12 万円の留学支援を行います。(定員 10 名)	海外派遣

※海外派遣については、諸事情により派遣中止または内容変更となる場合があります。

■協定校

本学では、学術交流と国際相互理解を深める目的のもと、14か国・地域の大学・機関と学術・学生交流協定を締結しています。

<アメリカ>

- ・ハワイ大学マノア校
- ・カリフォルニア州立大学
イーストベイ校
- ・セントメアリーズカレッジ
- ・サンノゼ州立大学
- ・フットヒルカレッジ
- ・サンフランシスコ州立大学

<カナダ>

- ・センテニアルカレッジ
- ・ブリティッシュ・コロンビア大学

<韓国>

- ・亜洲大学校
- ・慶星大学校
- ・啓明大学校
- ・国立釜慶大学校
- ・東亜大学校
- ・国立昌原大学校
- ・東國大学校 WISE

<中国>

- ・大連理工大学
- ・青島科技大学
- ・南京理工大学
- ・北華大学
- ・魯東大学
- ・蘇州大学

<タイ>

- ・キングモンクット工科大学
ラカバン校
- ・キングモンクット工科大学
トンブリ校
- ・チュラロンコン大学
- ・泰日工業大学

<台湾>

- ・国立高雄科技大学
- ・元智大学
- ・国立東華大学
- ・国立宜蘭大学
- ・明新科技大学
- ・国立雲林科技大学

<インド>

- ・デリー準州教育委員会

<マレーシア>

- ・マラ工科大学

<ベトナム>

- ・ダナン工科大学
- ・ハノイ工科大学
- ・ホーチミン市工科大学
- ・国立郵政通信技術学院

<インドネシア>

- ・マラン大学

<オーストラリア>

- ・フェデレーション大学

<アルバニア>

- ・ティラナ工科大学

<イタリア>

- ・ナポリ・フェデリコ2世大学

<シンガポール>

- ・テマセク・ポリテクニク
計42大学・機関

■ネイティブ職員によるレッスン

Global Student Lounge (α棟2階) では、ネイティブ職員による英語レッスンとサポートを行っています。English Café や Let's Chat, Lounge Hour は事前予約不要です。ぜひお気軽にお越しください。

レッスン・サポート内容	
English Café	毎週月曜 16:30 ~ 17:30 に開催している初心者向けの英会話の時間です。ゲームやパズルなど、アクティビティも盛り沢山。
Let's Chat	毎週金曜 16:30 ~ 17:30 に様々なテーマについて、英語で楽しくお喋りしましょう。英語で自分の意見を伝える力が鍛えられます。
FIT Writes	自分の考えや物語を英文で表すコンテストです。ネイティブ職員が丁寧に添削しますので、英作文力のスキルアップが期待できます。
FIT Talks	英語でのプレゼンテーションを通して日頃の学修成果を発表する場です。レベル別でエントリーでき、事前に個別指導も行います。
英語論文の添削	研究論文を提出する前に、ネイティブ職員の英語チェックをはじめ、必要に応じた支援を受けることができます。
プライベートレッスン	TOEIC や英語プレゼンテーション、英語インタビューなどの個人的な目標に応じてプライベートレッスンを受けることができます。

■GSL 学生メンバー

GSL では国際交流イベントを計画する学生メンバーを募集しています。在学期間中に、国際交流を通じて留学生と一緒に異文化理解力を養いませんか？詳しくは、国際連携室情報サイトをご覧ください。

■国際連携室情報サイト

この情報サイトでは、国際プログラムとネイティブ職員によるレッスンの詳細に加えて、留学体験など国際交流に関する最新情報を発信しています。各プログラムやレッスンのお申込みは、こちらからアクセスしてください。【国際連携室情報サイト】 <https://www.intl.fit.ac.jp/>



サイト QR コード

■その他 お問い合わせ

いつでも国際連携室 (α棟2F) までお越し下さい。

§ 7-5. 進 路

1 就職・キャリア

本学では、就職やキャリア形成をサポートするため、継続的・段階的な支援を行っています。

■就職支援スケジュール

年次	期	月	学内企業研究会・説明会	ガイダンス	対策講座・セミナー	実践講座・受検会	
3 年次	前 期	4月		就職ガイダンス			
		5月		インターンシップフェア 事前ガイダンス	自己分析・自己PR 対策講座 生成 AI を活用したガクチカ・ 強みの言語化講座		
		6月	インターンシップフェア		面接対策講座 就活マナー講座	SPI 受検会	
		7月					
		8月					
		9月		学科別就職ガイダンス			
	後 期	10月		学科別就職ガイダンス			★予約制 模擬面接
		11月		公務員希望者ガイダンス 業界研究フェア事前ガイダンス			
		12月	業界研究フェア			WEB 模擬テスト受検会	
		1月		学内合同企業セミナー 事前ガイダンス			
		2月	学内合同企業セミナー		採用選考対策講座		
		3月	学内単独企業説明会 (3月～)				
4 年次	前 期	4月	学内合同企業説明会				
		5月					
		6月	学内合同企業説明会				
		7月					
		8月					
		9月	学内合同企業説明会				

■就職支援体制

就職課の専任スタッフが個別相談に応じます。また、希望者には応募書類の添削や、模擬面接などの支援も実施しています。

→ § 1-4. 2 学生対応窓口一覧 P.13

■就職活動のための交通費支援

福岡県外の企業の採用試験、2日間以上のオープン・カンパニーやインターンシップに参加する学生に対して、受験地までの往復交通費を支援します。(利用回数は3回まで。利用金額に上限があります。)

■就職試験対策

就職課及び社会連携センターにて就職試験対策講座(SPI、公務員試験)を開講しています。

■プラスワンプロジェクト

本学卒業生に対し、卒業後1年を目処に無料で就職活動を支援します。

の学会発表等、活発な研究活動を行っています。

- ・大学院生の経済面での不安を軽減し、研究に専念できるよう、各種奨学金をはじめ、学会旅費補助など、各種支援制度を設けています。
- ・大学院の学費は学部の6割と低額です。さらに、本学大学院へ内部進学する場合、入学金が免除されます。
- ・学部4年次に大学院の授業科目を履修できる制度があります。
- ・育児や介護等の事情に応じた長期履修制度や、職業を有する学生のための、昼夜開講制のカリキュラム編成があります。

■入学試験

- ・一般入試(一次、二次)や学内推薦入試の他、社会人入試、ならびに外国人留学生入試を実施しています。
- ・学内推薦入試は筆記試験が免除され、面接と出願書類で選考されます。所属学科で成績上位3分の1(学部3年次の前期または後期時点)の学生に受験資格があります。

■進学説明会

- ・年に2回大学院の進学説明会を実施しています。在学年次に関係なく参加できますので進路選択の参考にしてください。
 詳細については、大学院事務室(E棟2F)へお気軽にご相談ください。

2 大学院進学

本学大学院は、3学部9学科すべてに対応する大学院2研究科9専攻を擁しており、高度技術者・研究者の養成を行っています。

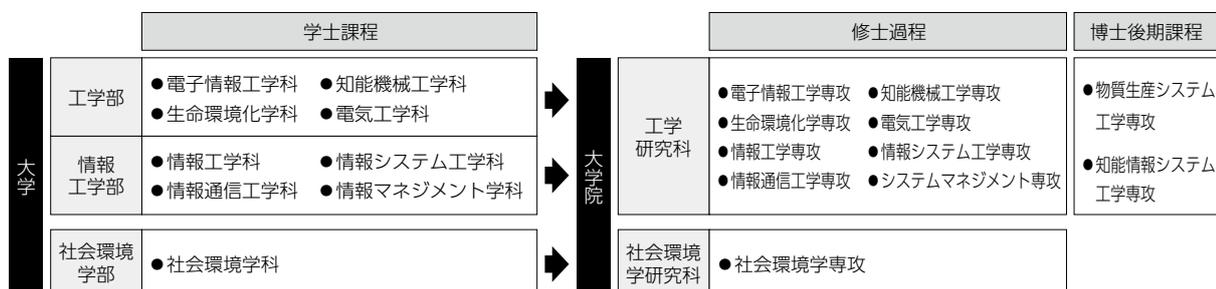
学部4年間で培った実践力に加え、大学院修士課程への進学により高度な研究力・専門性と開発力を有する技術者として、学部卒よりもワンランク上の就職が実現します。

■特色

- ・本学修士課程の学生は、在学中に平均3.5回

専攻一覧

本学では、3学部9学科すべてに対応する大学院2研究科9専攻を擁しています。



§ 7-6. 学生生活支援

1 学生表彰制度

学業成績が特に優秀な学生を卒業時に表彰するほか、学術研究や課外活動、社会活動において国際的、全国的に顕著な業績が認められた学生やクラブ・サークルに対して、学長より表彰されます。

また、学部毎に学業や難関資格取得に取り組む学生を表彰します。

2 学生懲戒

学生の皆さんが本学の規則に違反し、又は学生としての本文に反した場合等、大学として教育的指導の観点から、本学学則に基づき、懲戒処分が科される可能性があります。対象となる行為は、別途定める懲戒規定に掲げていますので、どのようなことが懲戒にあたるのか確認し、日頃から節度ある行動を心がけてください。

3 各種保険

■学生教育研究災害傷害保険（学研災）

教育研究活動中や課外活動中での事故に備えて、事故によって傷害を被った場合は、学生課に届け出てください。学生課より保険会社へ保険金請求の手続きを行います。本学では、全学生を対象とした学生教育研究災害傷害保険（学研災）に加入しています。

担保範囲	死亡保険金	後遺障害保険金	医療保険金	入院加算金 (180日を限度)
正課中、 学校行事中	2,000万円	程度に応じて 120万円～ 3,000万円	治療日数 1日以上が 対象3千円～ 30万円	1日につき 4,000円
学校施設内 外を問わず、 課外活動(ク ラブ活動) を行っている 間	1,000万円	程度に応じて 60万円～ 1,500万円	治療日数 14日以上が 対象3千円～ 30万円	
学校施設内 にいる間(課 外活動(ク ラブ活動)中 を除く)・通 学特約加入 者の通学中 ・学校施設 等相互間の 移動中	1,000万円	程度に応じて 60万円～ 1,500万円	治療日数 4日以上が 対象6千円～ 30万円	

※学外での課外活動中の傷害については、事前の届け出がないと保険の対象となりません。ゼミやサークルの合宿等、学外で活動するときは必ず学生課に届け出てください。

※インターンシップや教育実習に参加する場合は、学研災付帯賠償保険（付帯賠償）に別途加入して下さい。

→ § 7-3. 5 課外活動に関する手続き P.163

■学生生活補償制度

<学研災付帯学生生活総合保険（付帯学総）>

付帯学総は、生活全般の事故を幅広く補償するもので、任意で加入（団体割引適用）することができます。新入生に対して入学前に案内しています。また、在学生についても途中加入が可能ですので、詳しくは学生課に問い合わせてください。

4 同窓会

同窓会は、一般社団法人雄飛会として活動し、現在、国内に24支部あります。本学卒業生・短期大学部卒業生および大学院修了生により構成され、在学時は学生会員とし、卒業と同時に正会員となります。在学生に対しては次のような活動を行っています。

修学支援	・論文誌・学会発表支援 資格取得支援 ・100円朝食支援
就職支援	就職活動への交通費支援
課外活動支援	全国大会等出場支援

5 教育後援会

教育後援会は、本学と学生の保護者との連携を密にし、学生の修学を支援することを目的として、次のような活動を行っています。

教育懇談会の開催	毎年夏季休暇中に各県・各地区ごとに開催。教職員が本学の概況、学生の修学・就職状況を報告し、保護者からの要望や相談の場に対応
就職支援	・就職活動の旅費交通費支援 ・同窓会との就職連携支援 ・企業ネットワークの構築
学術・文化・スポーツ振興	大会の参加費・交通費の補助
留学生支援	留学生交流会の補助

6 健康管理

■保健室

学生の健康を維持し、増進させていくことを目的としています。健康的な学校生活を送るために、保健知識の提供、現症のある学生の面談、身体的な悩みの相談に応じます。

また、保健室では、身長、体重、握力、血圧の測定ができます。希望する方は気軽に利用して下さい。

■定期健康診断

本学では、全学生を対象に定期健康診断を実施します。この健康診断は学校保健安全法に基づくもので、学生は必ず受診しなければなりません。未受診者については、教育実習、就職・進学時において必要な健康診断書の発行ができません。なお、治療や再検査が必要な学生については、本人に連絡します。

■応急処置

学内において発病やケガをした場合は保健室で応急処置をします。また、治療が必要な場合は医療機関を紹介します。

※親元から離れて暮らしている場合は、保険証または遠隔地用被保険者証を所持していないと、医療機関において保険診療を受けることができません。

※留学生の場合、つねに、期限が有効である「国民健康保険証」を所持しなければなりません。

■学生相談室

健康面から日常のことまで、気軽に相談してください。臨床心理士が相談に応じるほか、定期的に精神科医による「心の健康相談」も行っています。一人でも、友達同士、保護者同伴での来談もできます。また、電話（092-606-7251）でも問い合わせや予約ができます。相談内容についての秘密は厳守されますので安心してご相談ください。以下の本学WEBサイトからも予約できます。

<https://www.fit.ac.jp/news/archives/3978>



7 ハラスメント相談

■ハラスメント相談窓口について

本学では、安心できる教育・研究環境を保障するために、学生向けのハラスメント相談窓口を設置しています。

学校生活を送る中で、「何かおかしい、ハラスメントかもしれない・・・」という困りごとがあれば、相談窓口担当の教職員とお話ができます。

どんな小さなことでも大丈夫ですので、まずはご相談ください。

ハラスメントに関することや、具体的な相談窓口については、以下の本学 Web サイトをご覧ください。

<https://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/compliance/harassment>



■学校で起こりうる、主なハラスメントの例

<セクシュアルハラスメント>

- ・研究室やクラブ、サークルなどで、周りのことを気にせずに性的な冗談話をする。
- ・食事やデートに執拗に誘ったり、住居まで付け回す。
- ・身体への不必要な接触をする。
- ・わいせつな写真や文章等をわざと見せたり、学内のパソコン上にわいせつな画像を表示する。

<アカデミックハラスメント>

- ・学習意欲があるにもかかわらず、必要な研究指導やアドバイスをしない。
- ・「お前はバカだ」等と、個人の能力や性格について不適切な発言をする。
- ・正当な理由なく不当に低い評価をつける。
- ・個人指導を理由に、不必要に自宅へ呼んだ

り、休日に呼び出したりする。

8 障がい学生支援

本学では身体等の機能に障がいのある学生へ修学に関する配慮や支援を実施しています。

1. 対象

修学において障がいや疾病などにより相当な制限があり、本人が支援を受けることを希望し、かつ、本学において配慮や支援の必要性が認められた学生を対象とします。

※高等学校等まで配慮や支援を受けていなかった学生も申請することができます。

※申請する際は本学 HP に掲載している「障がい学生支援に関する規程」を必ずご確認ください。

2. 申請方法

学生課・保健室・学生相談室へ申請してください。

§ 7-7. キャンパス美化

1 環境保全

■環境への取り組み

本学では環境に配慮したエコキャンパスへの取り組みを行っています。

- ・省エネルギー、省資源の取り組みの推進
- ・ゴミの分別とゴミの削減
- ・ペットボトルキャップのリサイクルを行い、ポリオワクチンを寄付する運動に参加
- ・環境に配慮した建物の設計や施設設備の導入
- ・学内全面禁煙を実施し、健康や環境に対し配慮

- ・ゴミはできるだけ出さず、ゴミは必ずゴミ箱へ。キャンパスの美化に努めましょう。
- ・資源リサイクルのために、ゴミの分別を行いましょう。
- ・教室を最後に出る時には、電気やエアコンを消して、省エネルギーに協力しましょう。

2 ごみの分別

内 訳	分 別	備 考
可燃物	「燃えるごみ」へ	紙屑、弁当容器、紙パック飲料等
不燃物	「その他のごみ」へ	金属類、陶器類、プラスチック・ゴム類
古紙	古紙回収ボックスへ	新聞紙、書籍・雑誌、コピー用紙、雑紙
ビン・缶	「かん・びん」へ	スチール缶とアルミ缶の分別
ペットボトル	「ペットボトル」へ	ラベルとキャップは外して「燃えるごみ」へ
紙コップ	紙コップ回収ボックスへ	
電池類	乾電池回収ボックスへ	
プラスチック類・発泡スチロール	廃プラスチック類置場(A棟南ストックヤード)へ	

※機密文書の溶解処理、蛍光灯、PC・プリンターの回収は管財課へ連絡

[実験系廃棄物]

内 訳	分 別	備 考
実験廃液・廃薬品	指定の容器にて回収	無機系廃液、有機系廃液、廃油、廃薬品
実験排水(A棟)		排水基準値を超えないこと

§ 7-1

各種証明書

§ 7-2

奨学金制度

§ 7-3

課外活動

§ 7-4

国際交流

§ 7-5

進路

§ 7-6

学生生活支援

§ 7-7

キャンパス美化

§ 8

§ 8-1	施設案内	174
-------	------	-----

§ 8-2	設備案内	177
-------	------	-----

§ 8-3	キャンパス案内	178
-------	---------	-----

- キャンパスマップ
- 校舎配置図
- 教室配置図

§ 8-1

施設案内

§ 8-2

設備案内

§ 8-3

キャンパス案内

施設・キャンパス

§ 8-1. 施設案内

■教育施設

施設名	利用時間	休館・閉室日	場所・連絡先
FIT Link (附属図書館)  図書館Webサイト	平日 9:00~20:00 土曜 9:00~17:00	日曜、祝日、一斉休暇期間	本部棟3F~5F 事務室4F 092-606-0691
	<ul style="list-style-type: none"> ●自習およびグループ学習・リモート活動のためのスペースを設けています。 ●開館日・開館時間・利用方法など詳細は、図書館Webサイト (https://www.lib.fit.ac.jp) で確認して下さい。 ●図書館WebサイトのMy Library (個人専用ページ) で貸出状況・予約状況の確認、図書購入リクエスト、文献複写依頼、施設予約、図書館利用のための質問受付 (レファレンスサービス) などができます。 		
PC室 ITコモンズ クリエイティブ・ラボ	平日 9:00~20:00 土曜 9:00~18:00 <small>※講義が行われていない時間帯は自由に利用可能。</small>	日曜、祝日、一斉休暇期間	B棟2F 情報基盤センター 092-606-0692
モノづくりセンター	平日 9:00~21:00* <small>※夏季・春季休業期間中は17:00まで</small>	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	α棟1F 092-606-7042
	<ul style="list-style-type: none"> ●3Dモデラー、3Dプリンタ、レーザー加工機、カッティングマシンなどのデジタルファブリケーション機器の利用 ●電気系・機械系の技術講習会、モノづくりのための実践講座 開催 <small>※大型工作機械の操作には、技術講習会の受講が必要。</small> ●パーツショップ、大型プリンタ印刷、工具・電動工具貸出 → § 7-3. モノづくりセンタープロジェクト P.161		
社会連携センター	平日 9:00~17:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	本部棟1F 092-606-7089
学習支援センター	平日 9:00~18:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	E棟3F 092-606-7459
	<ul style="list-style-type: none"> ●学習相談 (FIT-inサポート) および基礎講座を実施 → § 2-6. 学修支援 P.34		
Global Student Lounge 国際連携室	平日 9:00~17:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	α棟2F 092-606-8070
<ul style="list-style-type: none"> ●留学、語学に興味のある学生のための学修スペース → § 7-4. 国際交流 P.164			

■共同教育研究施設

施設名	概要	場所
総合研究機構		
エレクトロニクス研究所	電子回路応用・電子デバイス及び生産工学等の研究	E棟1F
集積回路製作センター(クリーンルーム)	半導体デバイス等の実証研究	A棟8F
センシング技術研究センター	画像技術とレーザ技術を融合した津波計測及び防災・減災システムの研究	B棟6F
物質・エネルギーデバイス研究センター	新素材の開発による革新的エネルギーデバイスの実現に関する研究	
食品農医薬品研究センター	食品、農産物、医薬品、バイオ等の研究	E棟1F
情報科学研究所	知能メディア・システム科学・情報応用分野の研究	
電磁波計測センター	電磁波を利用する技術の高度化に資する研究	
数理・データサイエンス・AI研究センター	数理・データサイエンス・AIに関する研究の推進と高度情報人材の育成	
環境科学研究所	環境保全技術・環境社会学に関する研究	
環境・防災・まちづくり研究センター	環境計測、環境保全、防災、まちづくりに関する研究	
ウェルネス研究センター	主体的なウェルネスの実現を後押しする社会づくりへの参画と貢献	
地理空間情報研究センター	地理空間情報を活用した研究の発展・高度化と社会・地域貢献の推進	
<small>※エレクトロニクス研究所の付属施設「計測センター」には、最新鋭の EPMA(電子線マイクロアナライザ)、三次元光学プロファイラー、FE-SEM(電界放出形走査電子顕微鏡)、FTIR(フーリエ変換赤外分光光度計)、顕微ラマン分光装置、ICP(誘導結合プラズマ発光分光分析装置) など、高性能分析機器を揃えています。学生は教員の指導の下、分析機器を利用することができます。また、情報科学研究所にはモーションキャプチャー、生体情報計測装置等の機器も設置されています。</small>		
情報基盤センター	共同利用ICT設備 (学内ネットワークを含む) の運用・管理	B棟2F
工作センター	工作機械、溶接機、プラズマ切断機等工作設備での実習	D棟1F

■スポーツ施設

施設名	利用時間	場所	備考
FITアリーナ・小体育室 トレーニングルーム	平日 9:00~16:10 平日 9:00~20:00 休講中 9:00~16:45	FITアリーナ	●クラブ・サークルで使用する場合は FITアリーナ管理人へ申請のこと ●体育館シューズを着用のこと
FITアリーナWESTコート	平日 9:00~16:10	FITアリーナ隣	●クラブ・サークルで使用する時は、 FITアリーナ管理人へ申請のこと
EASTコート	全日 9:00~20:00 ※16:30以降は体育会クラブ・サークル が利用する場合があります。	A棟隣	●クラブ・サークルで使用する時は、 事前に学生課（E棟2F）へ申請の こと
テニスコート		新宮総合グラウンド	
フットサルコート		塩浜総合グラウンド	
多目的グラウンド			
アイスホッケーリンク			

●スポーツ施設および用具の利用については、学生課で申し込みを行います。 → § 7-3. 4施設・用具の利用 P.163

■学内厚生施設

施設名	利用時間	場所	備考
FIT BBQ	9:00~21:00	E棟南側	●かまど一基（最大10名）2,000円で 利用できます。予約・問い合わせは 管財課（本部棟2F）にて受付 092-606-0631

■学外研修施設

施設名	休館日	場所	備考
FITセミナーハウス	毎月第1水曜日	大分県由布市 湯布院町	●学生は3,000円（1泊2食付）で 利用できます。予約・問い合わせ はアドバンス（B棟1F）にて受付

■学生相談

施設名	利用時間	閉室日	場所・連絡先
保健室	平日 9:00~18:00 (第4火曜 健康相談)	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	B棟B1F 092-606-7293
	●AED（自動体外式除細動器）を、保健室前に設置しています。		
学生相談室	平日 9:00~17:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	B棟B1F 092-606-7251
	●悩み事・心のケア・学生生活全般について臨床心理士が担当します。		
	●相談したい時は直接来室、電話または、学生相談室のホームページから予約してください。		
留学生談話室	平日 9:00~18:00	土・日曜、祝日	B棟B1F ※鍵の貸し出しは 学生課へ

■学生食堂

施設名	利用時間	休業日	場所・連絡先
レストラン OASIS	平日10:30~15:00		B棟1F
FIT CAFE	平日 8:30~16:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	B棟1F
A&S Learning Cafe	平日10:30~15:30		C棟1F

■生活施設

施設名	利用時間	休業日	場所・連絡先
A棟売店	平日 8:30~17:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	A棟1F 092-710-8911
セブンイレブン	平日 8:30~20:00 土曜 9:00~16:00	日曜、祝日、年末年始	B棟1F 092-605-6363
紀伊國屋書店	平日 9:30~17:00 (講義期間外は短縮営業)	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	C棟1F 092-608-5080
PCインフォスクエア (パソコンサポート& サービスカウンター)	平日 9:00~17:00 (講義期間外は短縮営業)	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	B棟2F 092-605-0557
	●大学ライセンスソフトウェアに関する相談 ●大学推奨ノートPCに関する相談		
ラド観光 (情報プラザ)	平日 9:30~17:30	土・日曜、祝日、年末年始 一斉休暇期間	B棟B1F 092-605-7050
アドバンス (アルバイト・アパート・下宿紹介・ FITセミナーハウス予約受付)	9:30~17:00	日曜、祝日 (10月~3月は年末年始を 除き無休)	B棟1F 092-605-6620
Hair make +plusα (理容室)	月~金曜 10:00~18:00	土曜は予約のみ 日曜、祝日、一斉休暇期間	B棟B1F
ATM (キャッシュコーナー)	ゆうちょ銀行 平日 9:00~17:00 土曜 9:00~12:00 福岡銀行・西日本シティ銀行 平日 9:00~18:00 土曜 9:00~14:00	日曜、祝日、一斉休暇期間	C棟1F
セブン銀行	平日 8:00~20:00 土曜 9:00~17:00	日曜、祝日、一斉休暇期間	B棟1F
雄飛会事務局 (同窓会)	平日 10:00~16:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	B棟B1F 092-608-5982
教育後援会	平日 9:00~17:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	C棟2F 092-608-2037
コピー機	平日 9:00~17:00 ITコモンズ 平日 9:00~20:00 土曜 9:00~18:00 図書館 平日 9:00~20:00 土曜 9:00~17:00	土・日曜、祝日、 一斉休暇期間	A棟1F・セブンイレブン B棟2F・ITコモンズ 本部棟・3F 図書館 (図書のコピーは不可)

■郵便ポスト

回収時間	場所・連絡先	備考
平日 12:29頃、15:14頃 土曜 12:55頃、15:30頃 日曜 10:20頃、12:55頃	本部棟前	●切手はA棟売店、 セブンイレブンにて販売

§ 8-2. 設備案内

■情報基盤センター設備と学内ネットワークの利用

アカウント (ユーザー ID・パスワード)	myFIT および PC 室・IT コモンズ (B 棟2F) の利用に必要な PC 室アカウント情報は、入学時に全学生に付与され、在学期間中有効です。
電子メール (WebMail)	各自のメールアドレスは、在学中および卒業後 1 年間利用できます。 ・メールアドレス：ユーザー ID@bene.fit.ac.jp
情報基盤センター PC 室	PC 室 (大小7教室)、IT コモンズ、クリエイティブ・ラボ及びラーニングコーナーに合計609台の PC が設置されています。授業時間以外は、自由に利用することができます。利用可能な時間は myFIT の PC 室予定表ページおよび情報基盤センターシステム管理室前のインフォメーションボードで確認できます。
IT コモンズ	IT コモンズ (B 棟 2 階) は、高性能 PC45 台とプリンター 2 台及び可動式ホワイトボードを備え、ICT を活用しつつ、個人やグループによる自学修のための開放感ある学修フリースペースです。開館時間内に自由に入出入りしてご利用可能です。
学内ライセンス ソフトウェア	情報基盤センターではマイクロソフトをはじめ教育・研究活動に資する各種ソフトウェアをライセンス契約しています。 詳細は情報基盤センターホームページ (https://itc.fit.ac.jp) よりご確認ください。
学内総合情報ネットワーク (FITNeS)	LAN 接続端子と電源を併設した情報コンセントと多数の無線 LAN スポットを各棟に設置しており、インターネット利用も可能です。また、学外からも VPN (Virtual Private Network) 接続を介して、学内限定ネットワークサービスを利用することができます。
授業支援システム	PC 室は、教材の配布・回収機能やレポート提出機能による授業の双方向コミュニケーションを実現しています。
サポート	PC・ネットワークに関することは、情報基盤センター (B 棟2F) にてお尋ねください。17 時以降はシステム相談員が対応します。ただし、授業や課題に関する問合せは、科目担当教員に直接確認してください。 大学推奨ノート PC の保証・修理申し込み、ライセンスソフトウェア導入、印刷用紙などの購入は、PC インフォスクエア (B 棟2F) にて行えます。

※ ID・パスワードは紛失しないよう管理し、パスワードは他人に推測されないものへ適切に設定してください。他の利用サービスと類似または使いまわしは絶対に行わないようにしてください。

※学内ネットワークおよび情報基盤センター施設・設備におけるゲーム利用やビデオ視聴、有害サイト閲覧およびファイル共有ソフトウェア利用を固く禁止します。

※ネットワークを介したコミュニケーションサービス (電子メール、掲示板、ブログのコメント、ソーシャルメディアなど) を用いて個人や組織に対し、不快や損害を与える行為および助長など、あらゆるハラスメント行為を固く禁止します。また、気軽な書き込みが社会への反響や個人情報の開示を招くことに注意しましょう。

■ AED (自動体外式除細動器)

電極のついたパッドを裸の胸の上に貼ると、自動的に心臓の状態を判断し、心臓が細かくふるえて血液を全身に送ることができないようであれば、電気ショックを与えて心臓を正常に戻す機器で、以下の場所に設置しています。



〈大学・短大〉

守衛室・FIT アリーナ (1 F 玄関)・A 棟 1 F エレベータホール・B 棟地下 1 F (保健室前)・B 棟 5 F (短大事務室前)・E 棟 1 F (総合研究機構)・本部棟 3 F (図書館自動扉横)・コスモス寮 (事務室)

〈高校〉

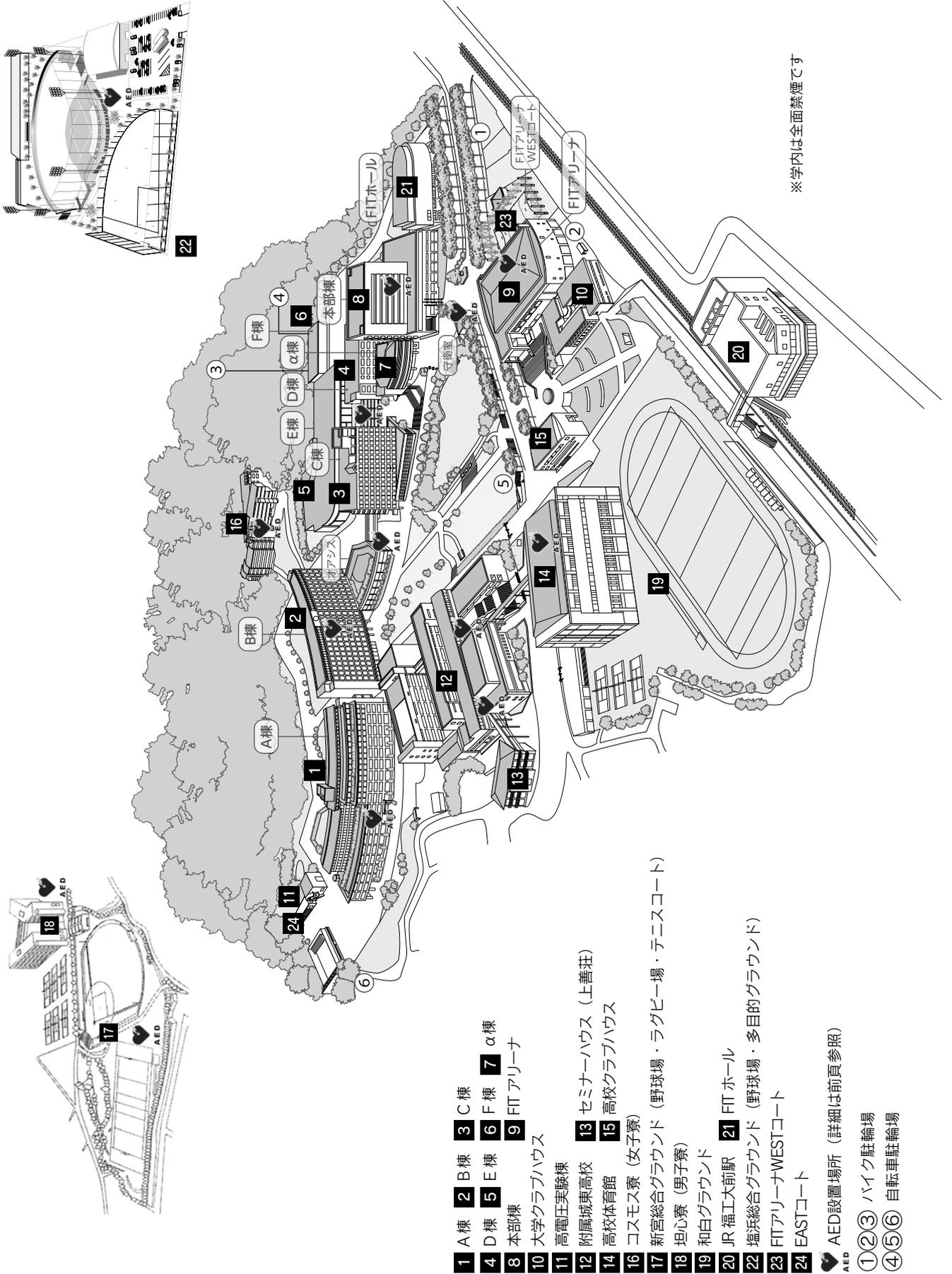
城東高校 (高校事務室前、保健室前、体育館 1 F)

〈学外〉

坦心寮・新宮グラウンドラグビー場 (スタッフルーム)・塩浜総合グラウンド (硬式野球部事務室内)

§ 8-3. キャンパス案内

1 キャンパスマップ

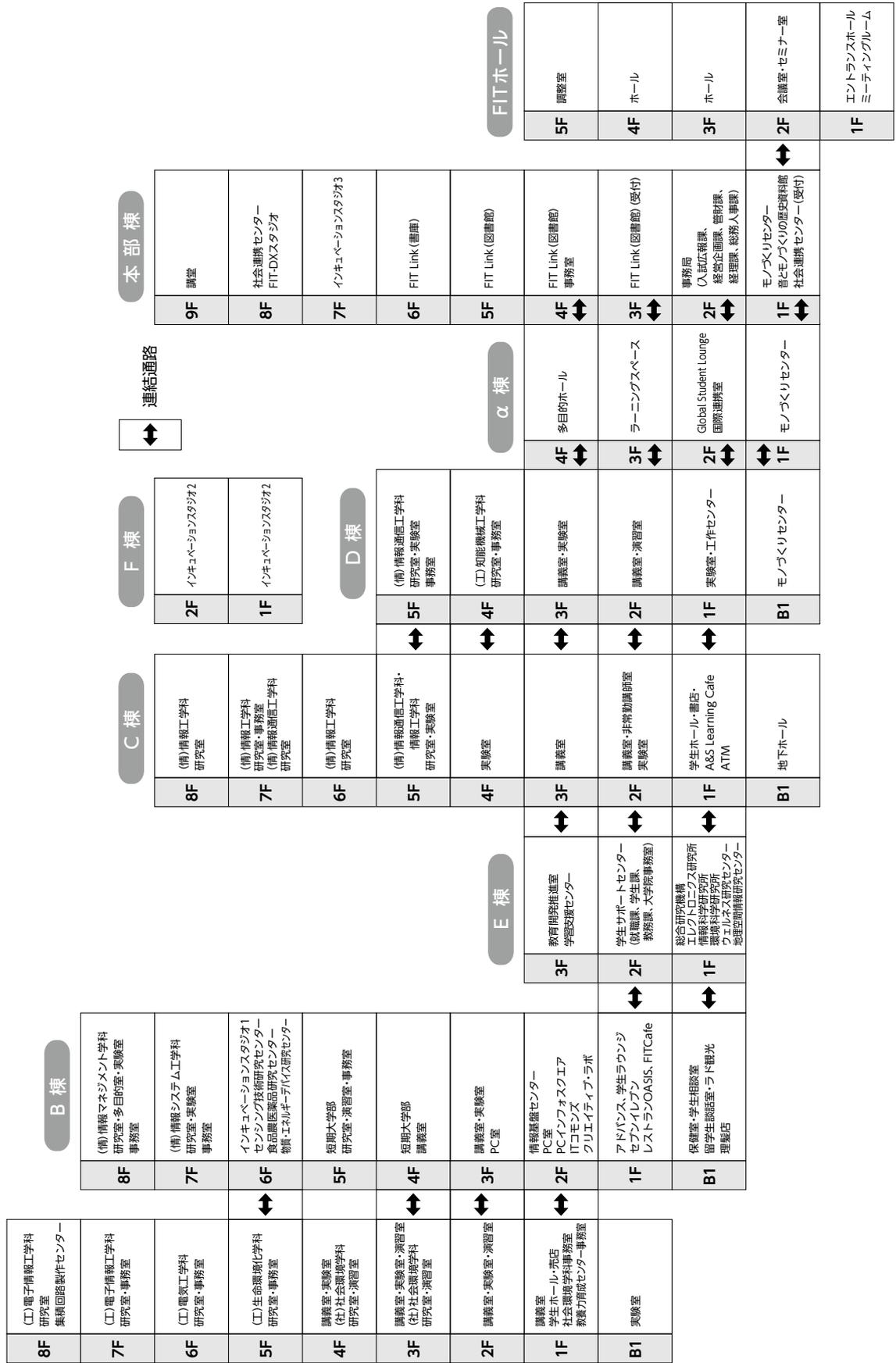


- 1 A棟
- 2 B棟
- 3 C棟
- 4 D棟
- 5 E棟
- 6 F棟
- 7 α棟
- 8 本部棟
- 9 FITアリーナ
- 10 大学クラブハウス
- 11 高電任実験棟
- 12 附属城東高校
- 13 セミナーハウス (上善荘)
- 14 高校体育館
- 15 高校クラブハウス
- 16 コスモス寮 (女子寮)
- 17 新宮総合グラウンド (野球場・ラグビー場・テニスコート)
- 18 坦心寮 (男子寮)
- 19 和白グラウンド
- 20 JR 福工大前駅
- 21 FIT ホール
- 22 塩浜総合グラウンド (野球場・多目的グラウンド)
- 23 FITアリーナWESTコート
- 24 EASTコート

📍 AED設置場所 (詳細は前頁参照)

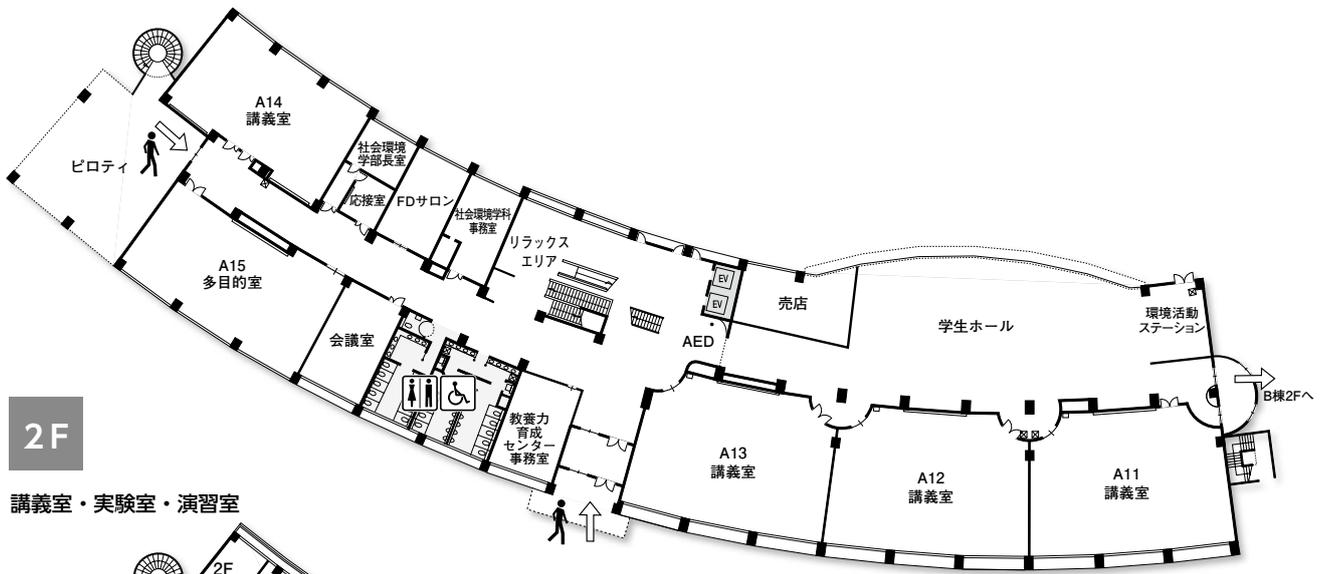
- ①②③ バイク駐輪場
- ④⑤⑥ 自転車駐輪場

2 校舎配置図

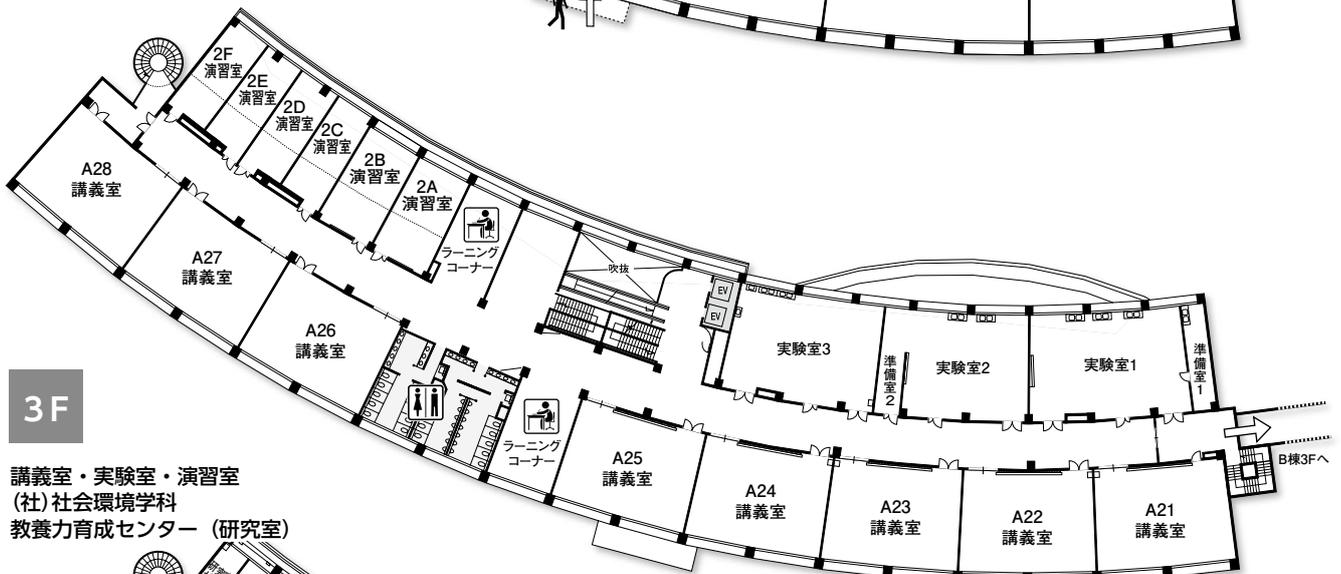


3 教室配置図 | A棟

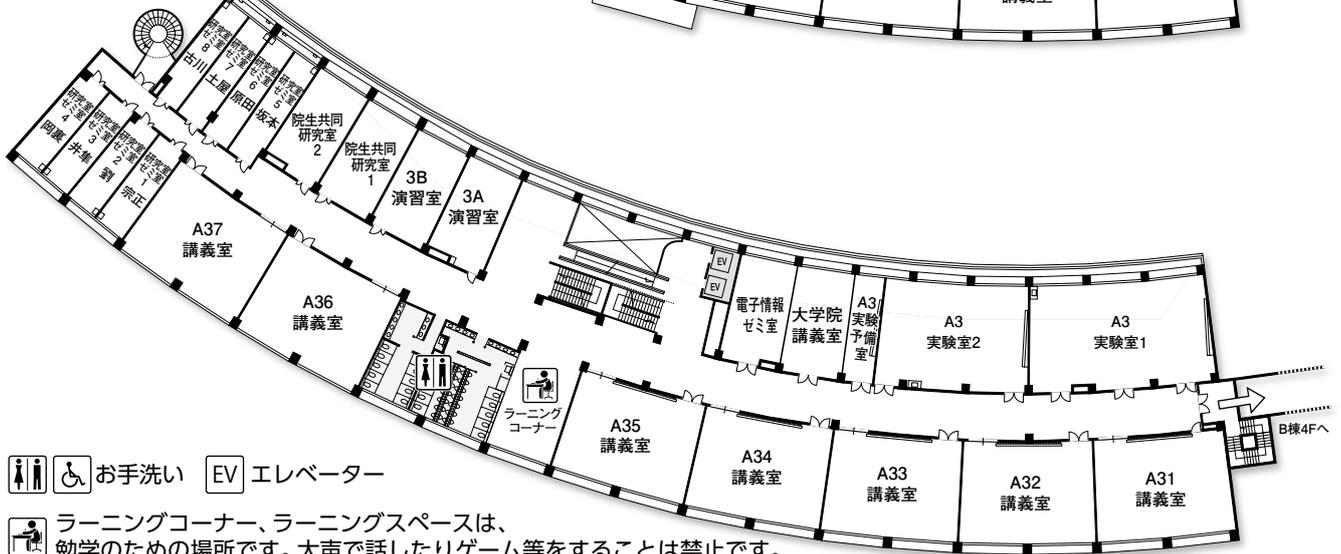
1F 講義室・学生ホール
売店・社会環境学科事務室



2F 講義室・実験室・演習室



3F 講義室・実験室・演習室
(社)社会環境学科
教養力育成センター (研究室)

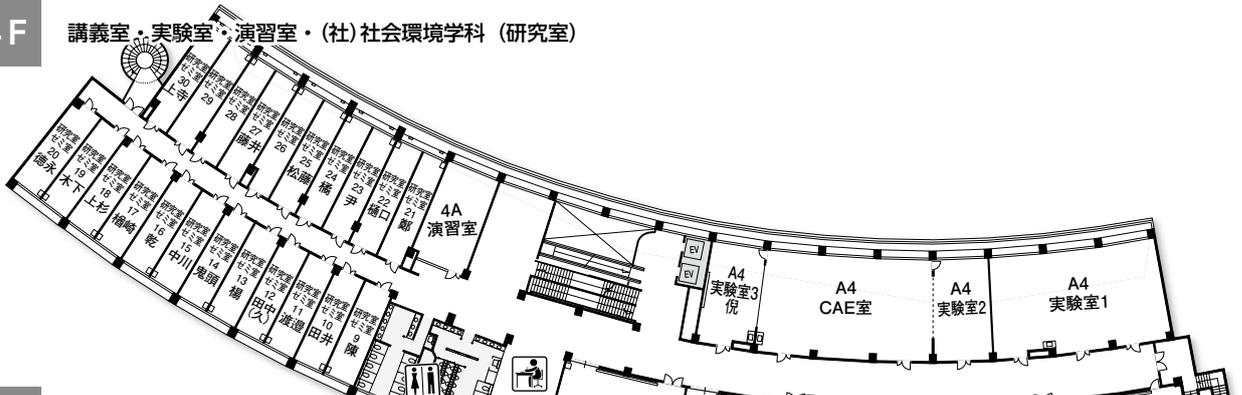


お手洗い エレベーター

ラーニングコーナー、ラーニングスペースは、
勉学のための場所です。大声で話したりゲーム等をすることは禁止です。

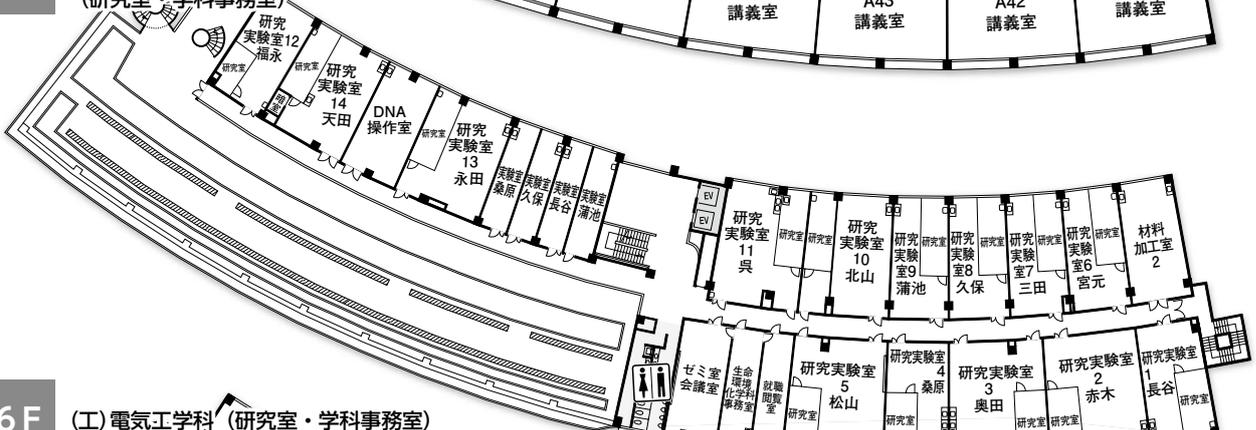
4F

講義室・実験室・演習室・(社)社会環境学科(研究室)



5F

(工)生命環境化学科(研究室・学科事務室)



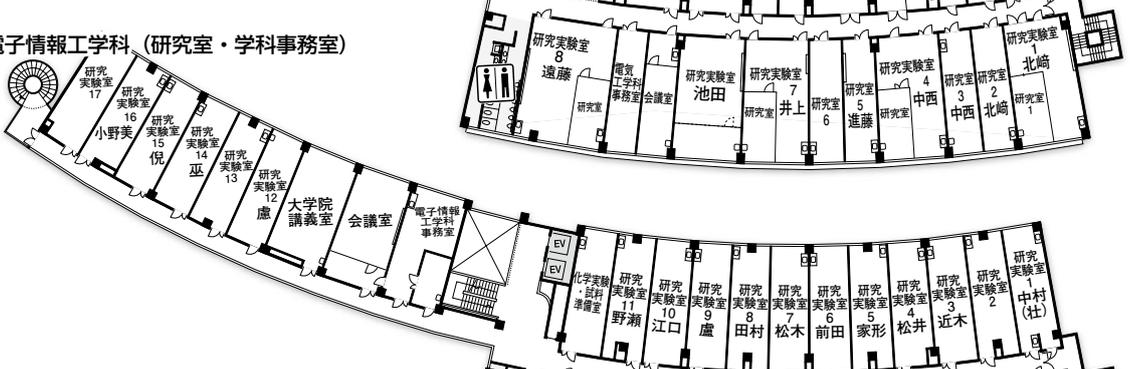
6F

(工)電気工学科(研究室・学科事務室)



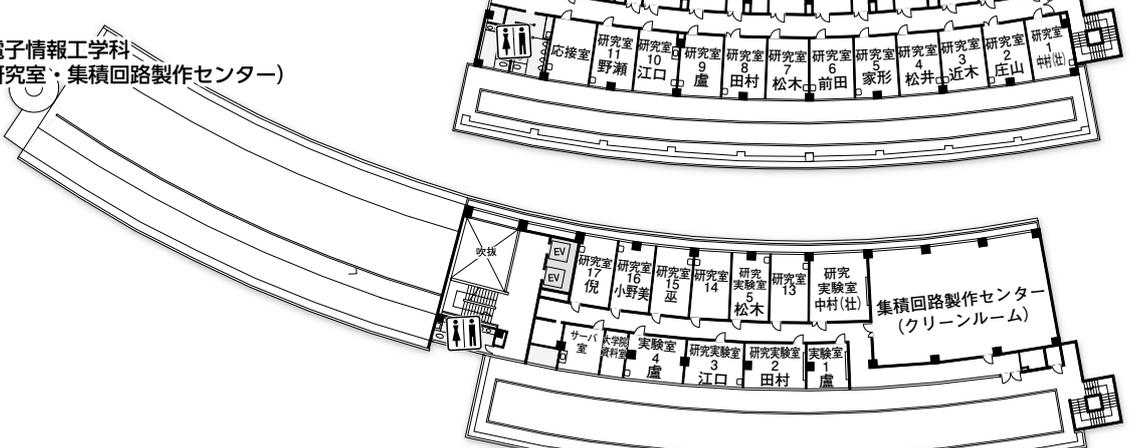
7F

(工)電子情報工学科(研究室・学科事務室)



8F

(工)電子情報工学科(研究室・集積回路製作センター)



§ 8-1
施設案内

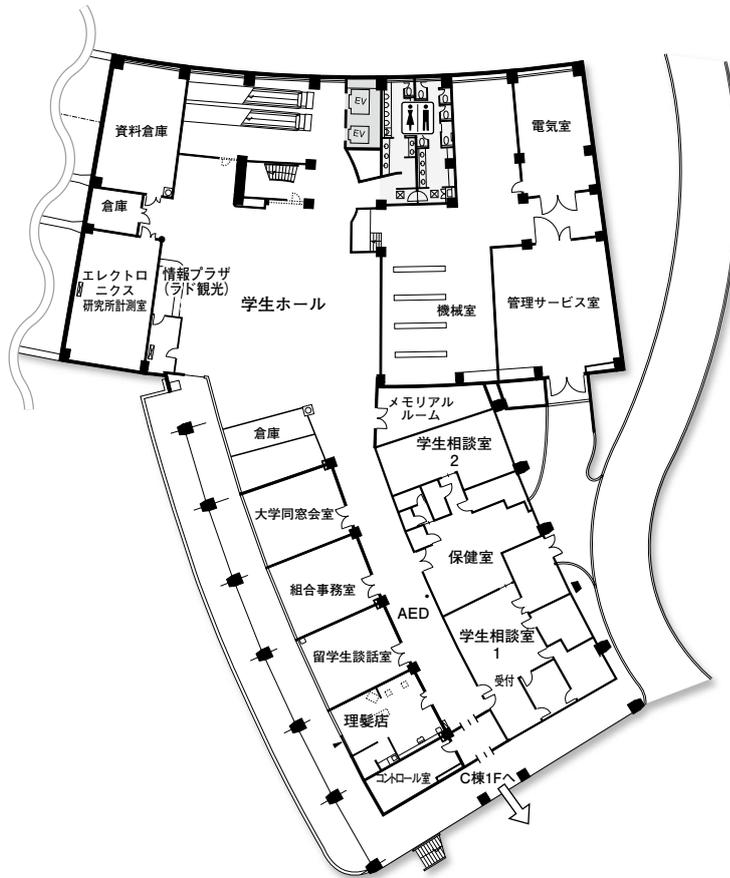
§ 8-2
設備案内

§ 8-3
キャンパス案内

教室配置図 | B棟

B1F

保健室
 学生相談室
 留学生談話室
 ラド観光
 理髪店

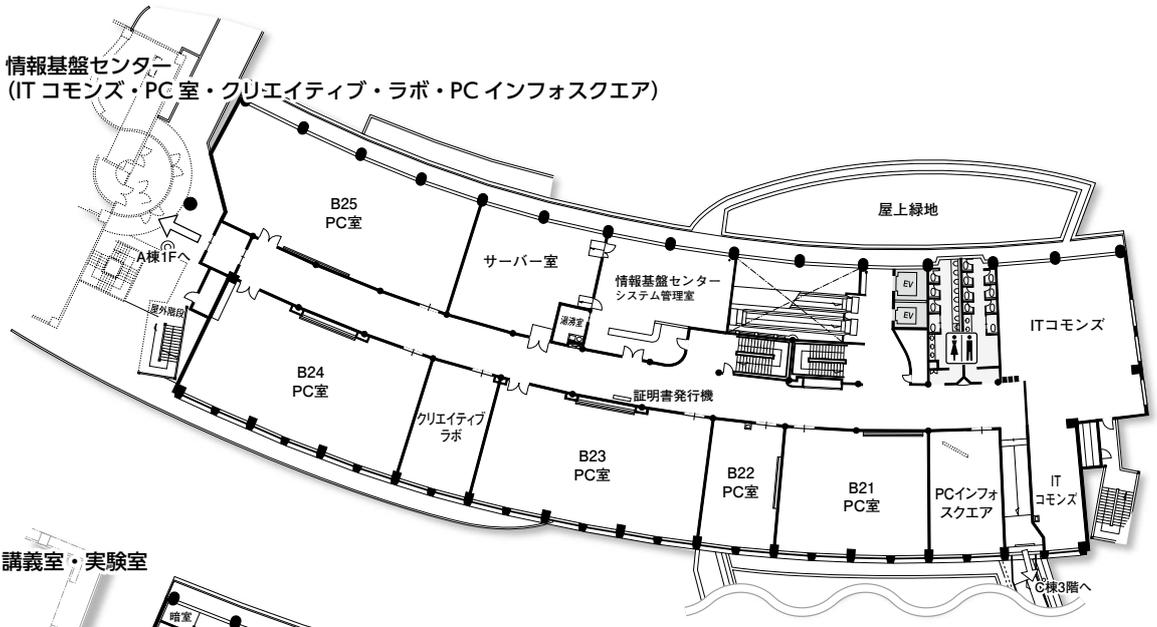


1F 学生ラウンジ (セブンイレブン)
 アドバンス
 レストランOASIS、FITCafe

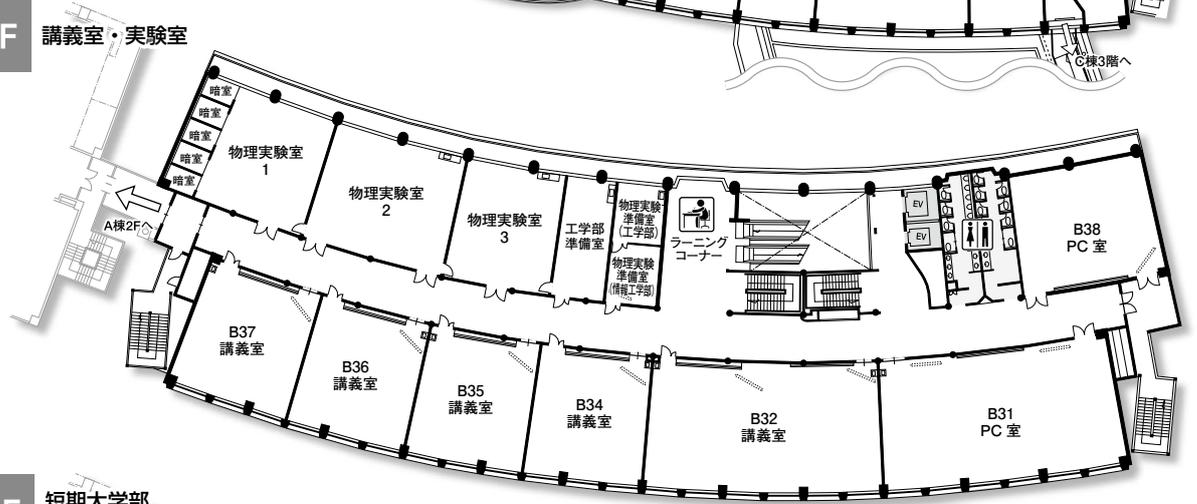
♿️ お手洗い EV エレベーター

🚶 ラーニングコーナー、ラーニングスペースは、
 勉強のための場所です。大声で話したりゲーム等をすることは禁止です。

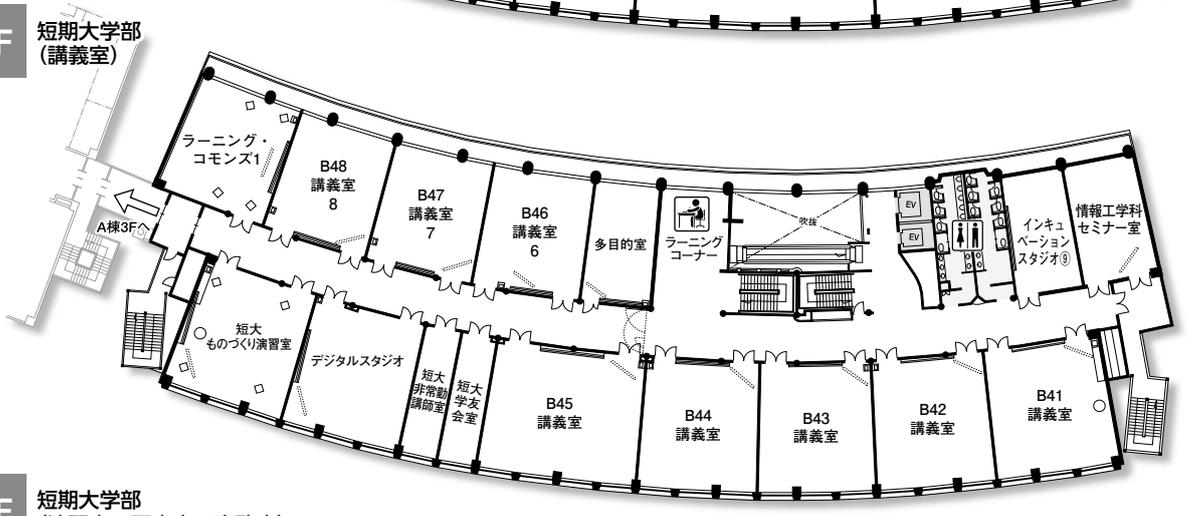
2F 情報基盤センター
(IT コモンズ・PC 室・クリエイティブ・ラボ・PC インフォスクエア)



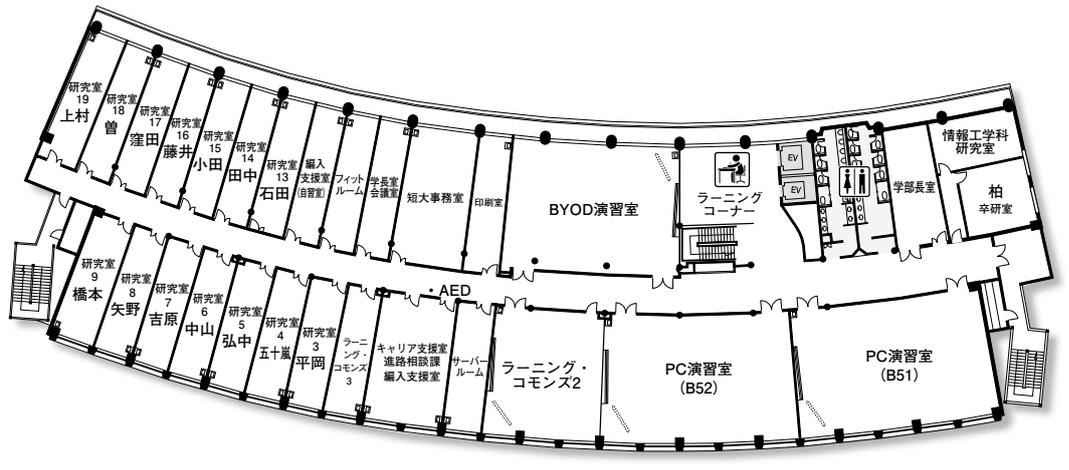
3F 講義室・実験室



4F 短期大学部
(講義室)

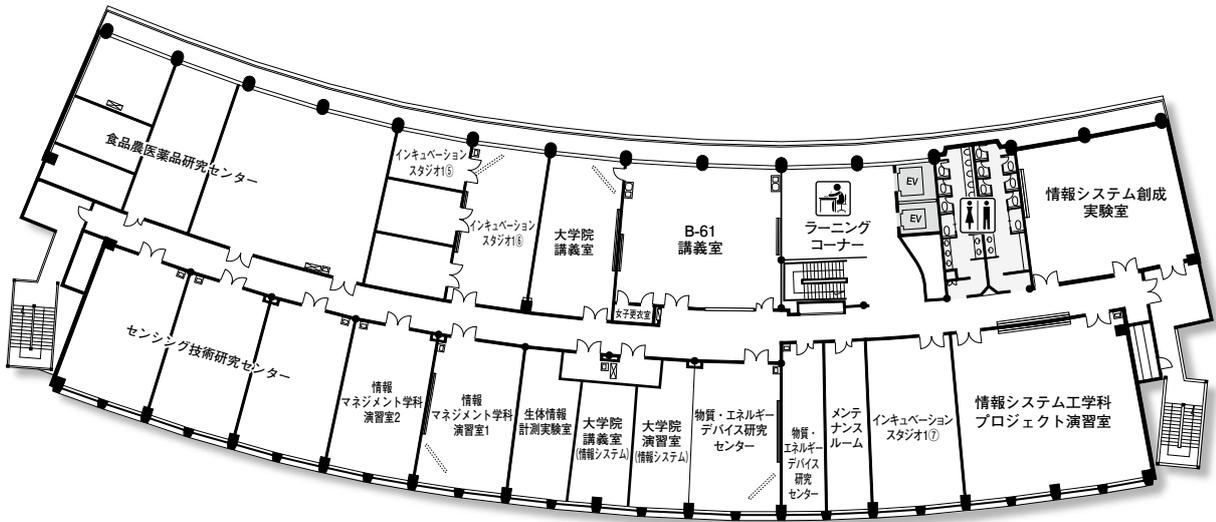


5F 短期大学部
(演習室・研究室・事務室)

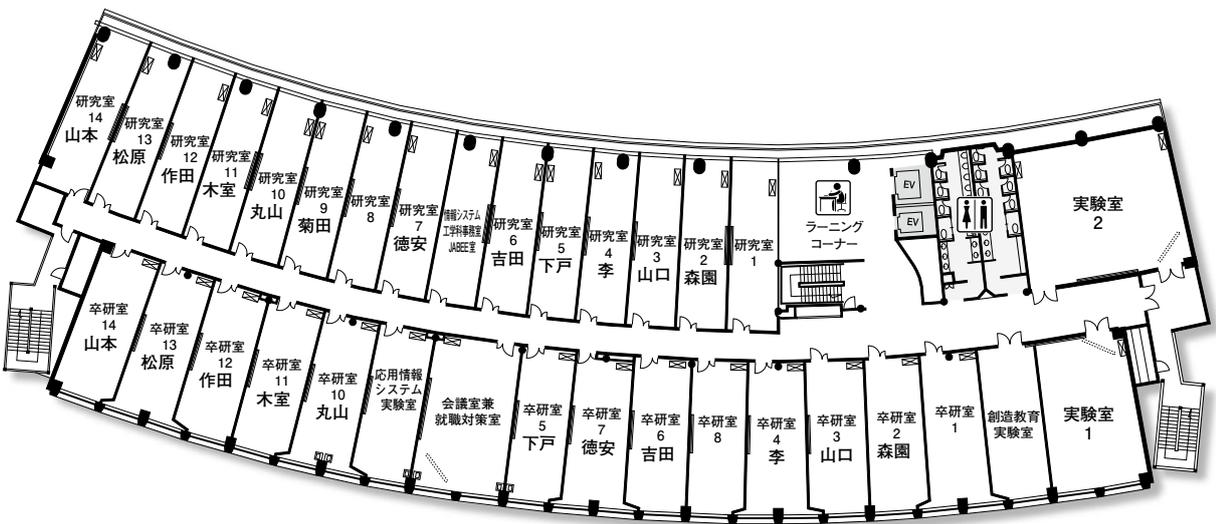


- § 8-1 施設案内
- § 8-2 設備案内
- § 8-3 キャンパス案内

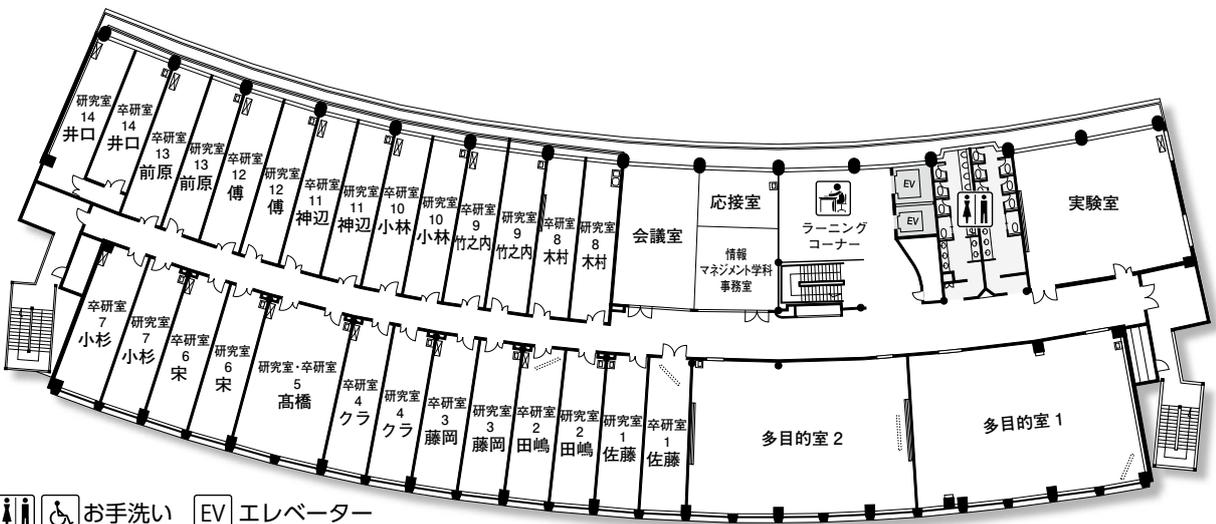
6F インキュベーションスタジオ 1、センシング技術研究センター、食品農医薬品研究センター、物質・エネルギーデバイス研究センター



7F (情) 情報システム工学科 (研究室・実験室・学科事務室)



8F (情) 情報マネジメント学科 (研究室・演習室・実験室・学科事務室)



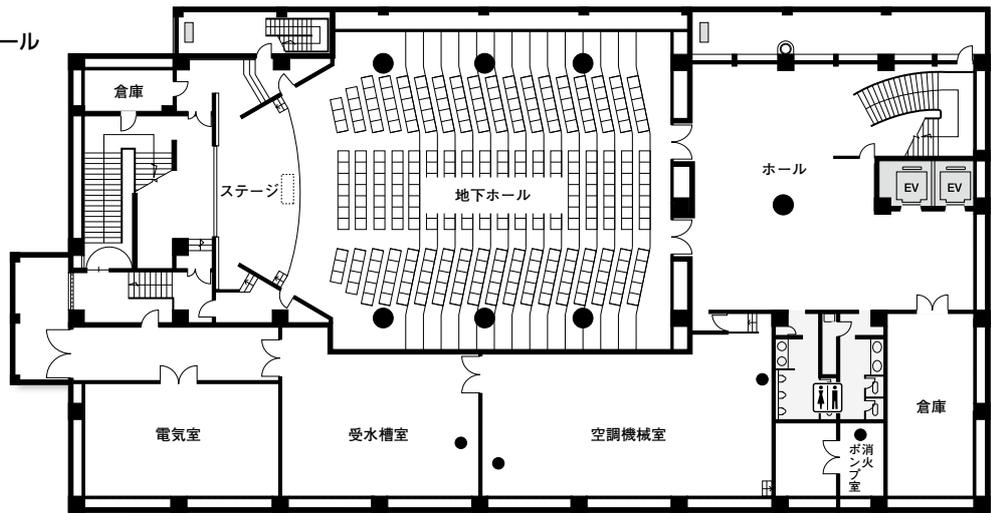
お手洗い EV エレベーター

ラーニングコーナー、ラーニングスペースは、勉学のための場所です。大声で話したりゲーム等をすることは禁止です。

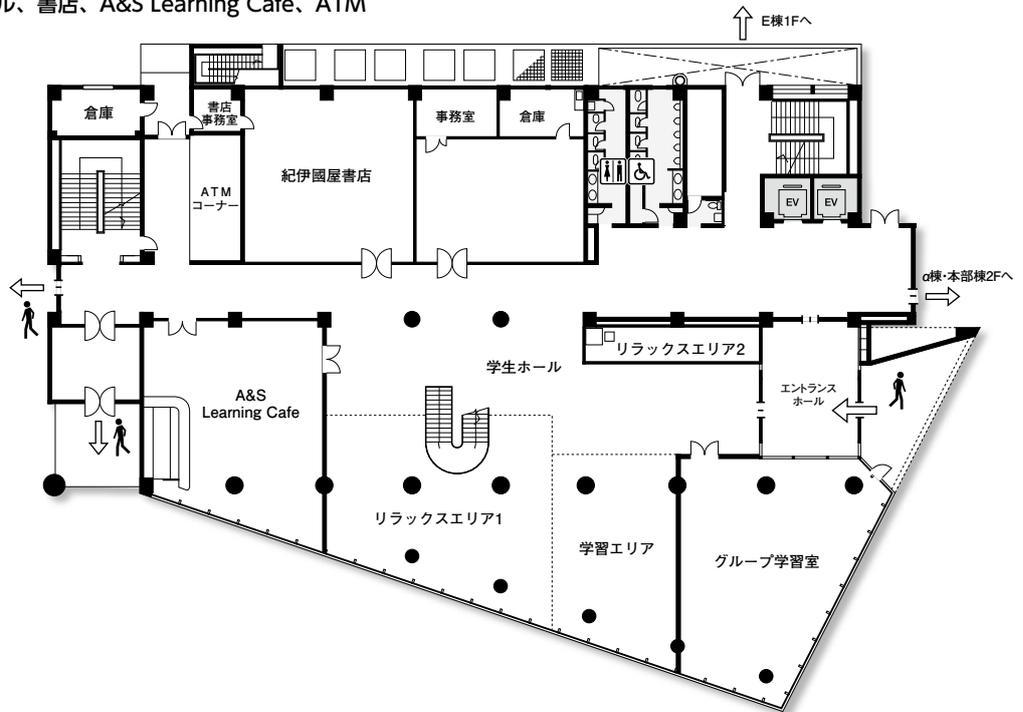
教室配置図 | C棟

§ 8-1	施設案内
§ 8-2	設備案内
§ 8-3	キャンパス案内

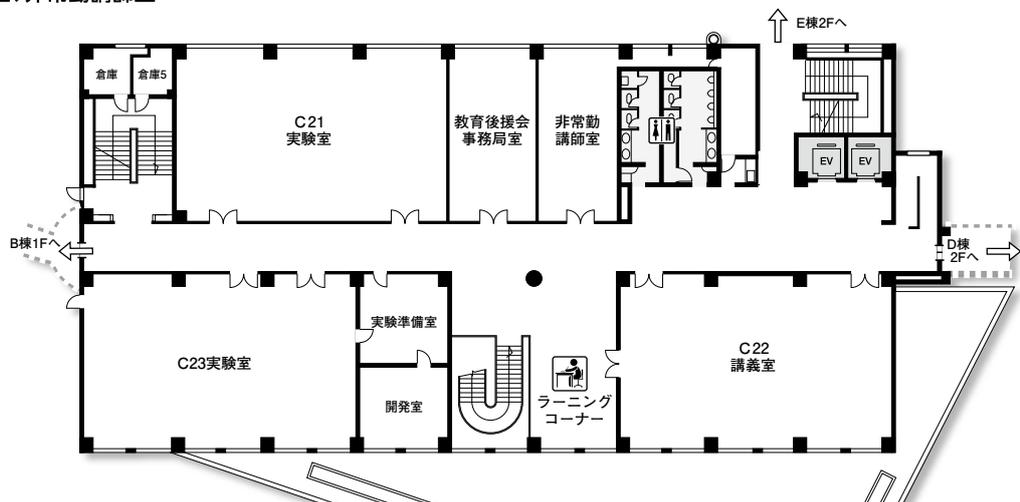
B1F 地下ホール



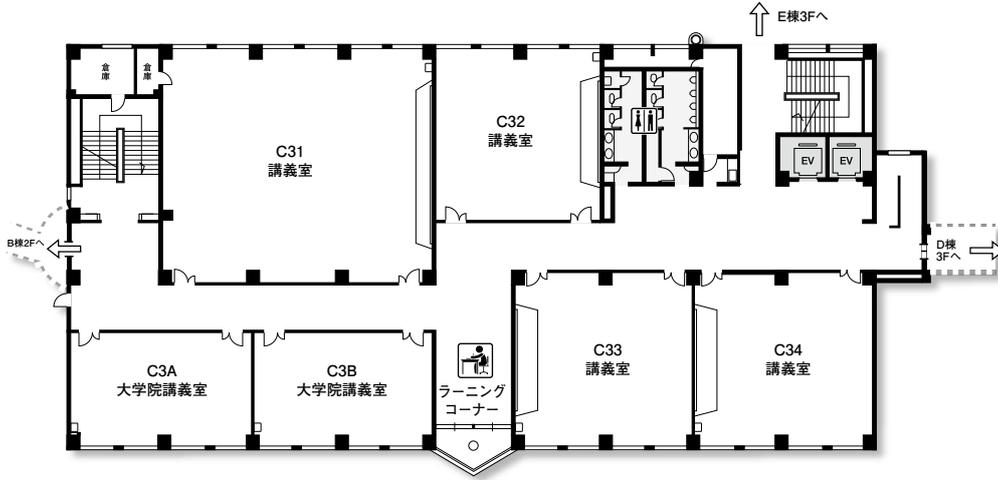
1F 学生ホール、書店、A&S Learning Cafe、ATM



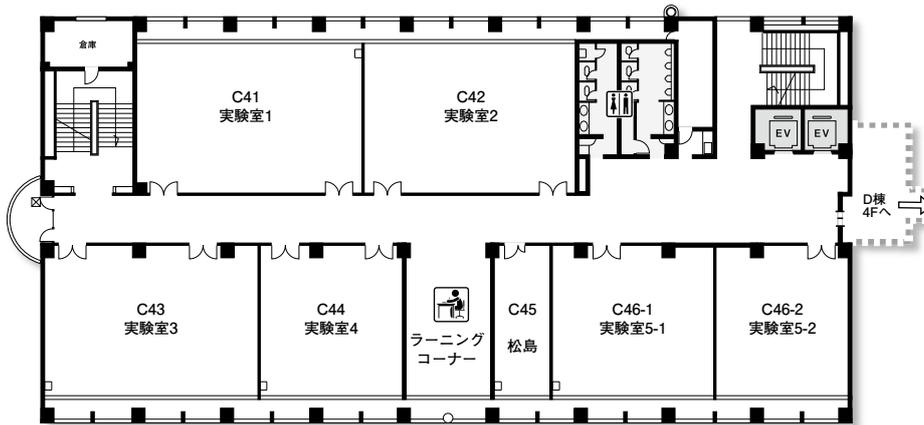
2F 講義室、非常勤講師室



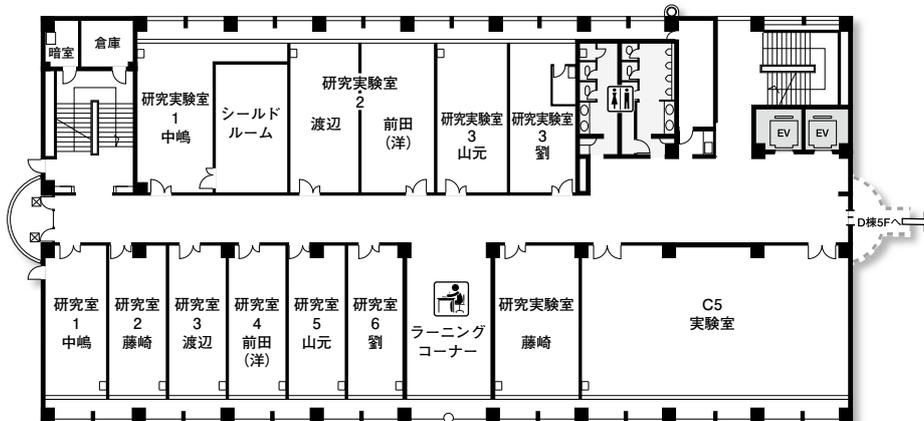
3F 講義室



4F 実験室



5F (情)情報通信工学科(研究室・実験室)

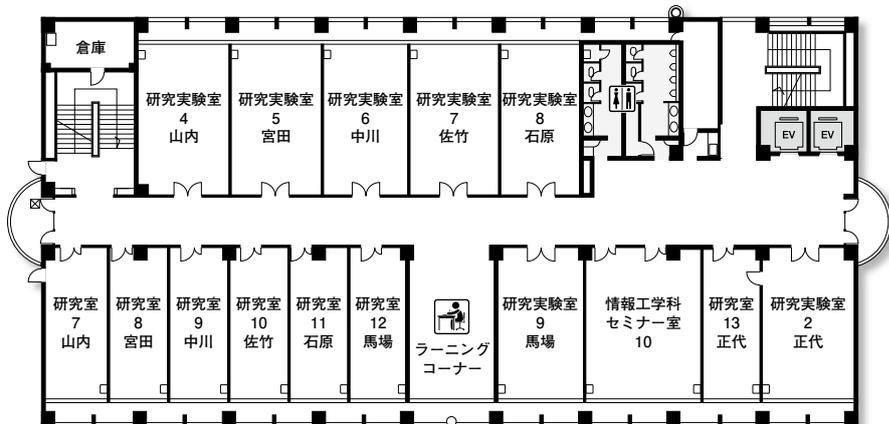




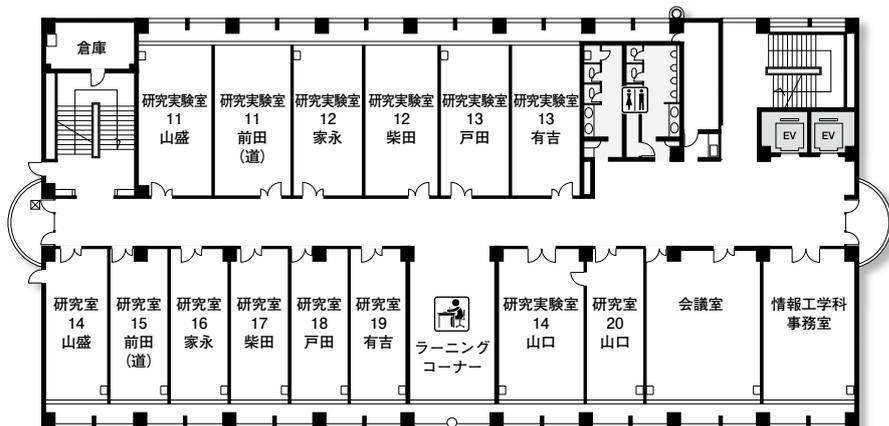
 お手洗い
 
 エレベーター


 ラーニングコーナー、ラーニングスペースは、
 勉学のための場所です。大声で話したりゲーム等を行うことは禁止です。

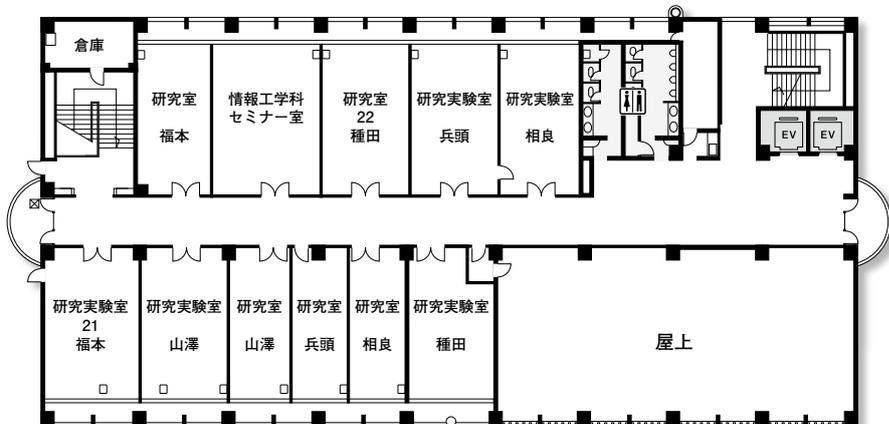
6F (情) 情報工学科(研究室)



7F (情) 情報工学科(研究室・学科事務室)

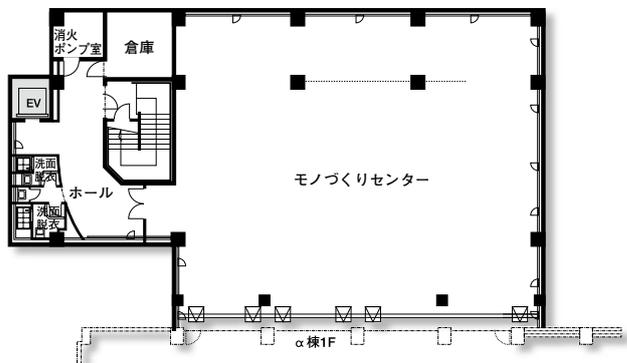


8F (情) 情報工学科(研究室)

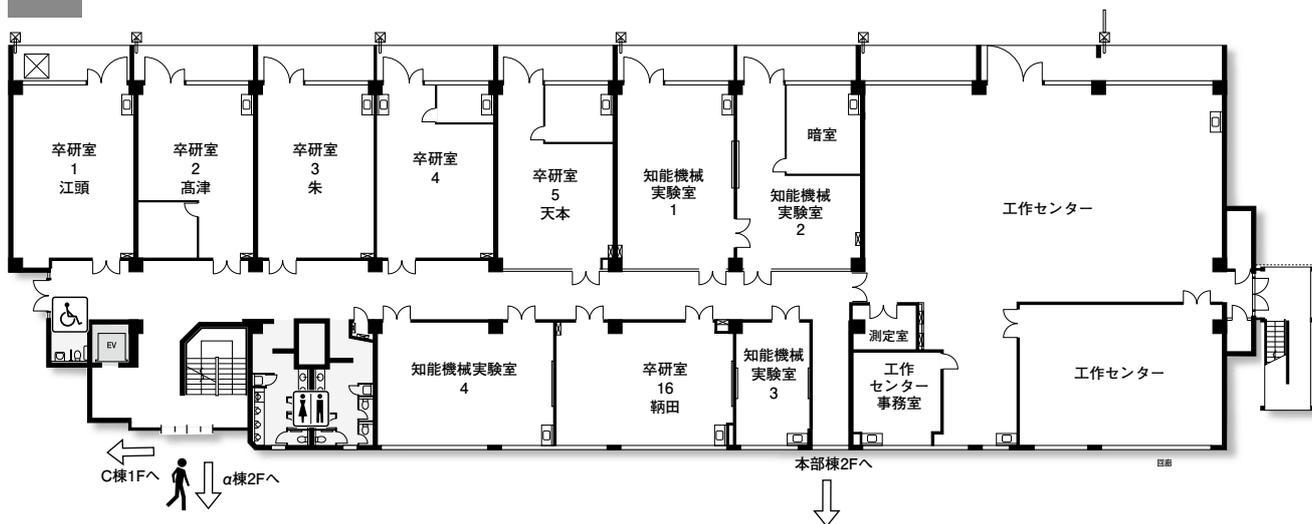


教室配置図 | D棟

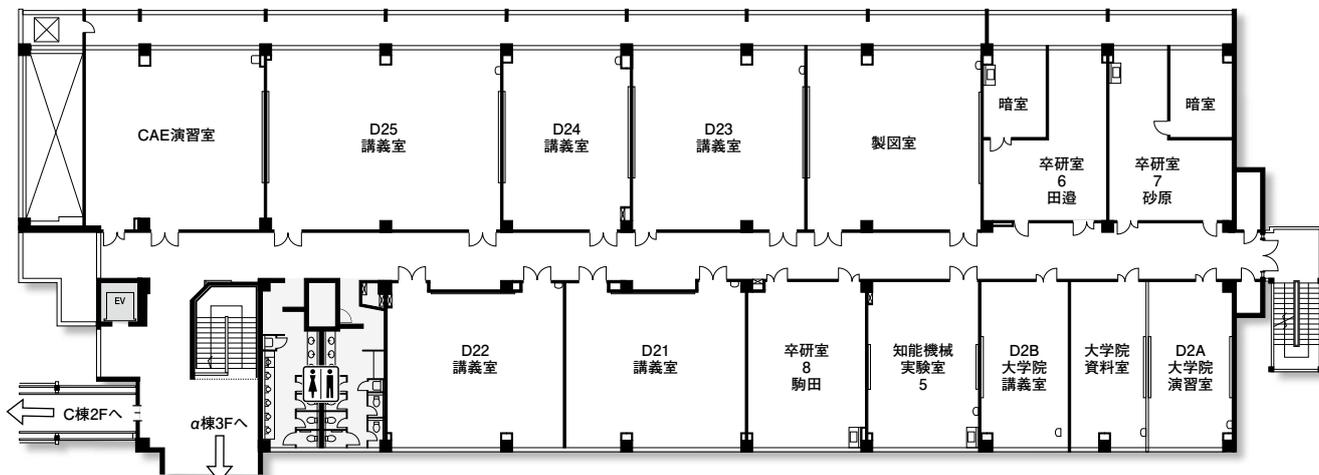
B1F モノづくりセンター



1F 実験室、工作センター



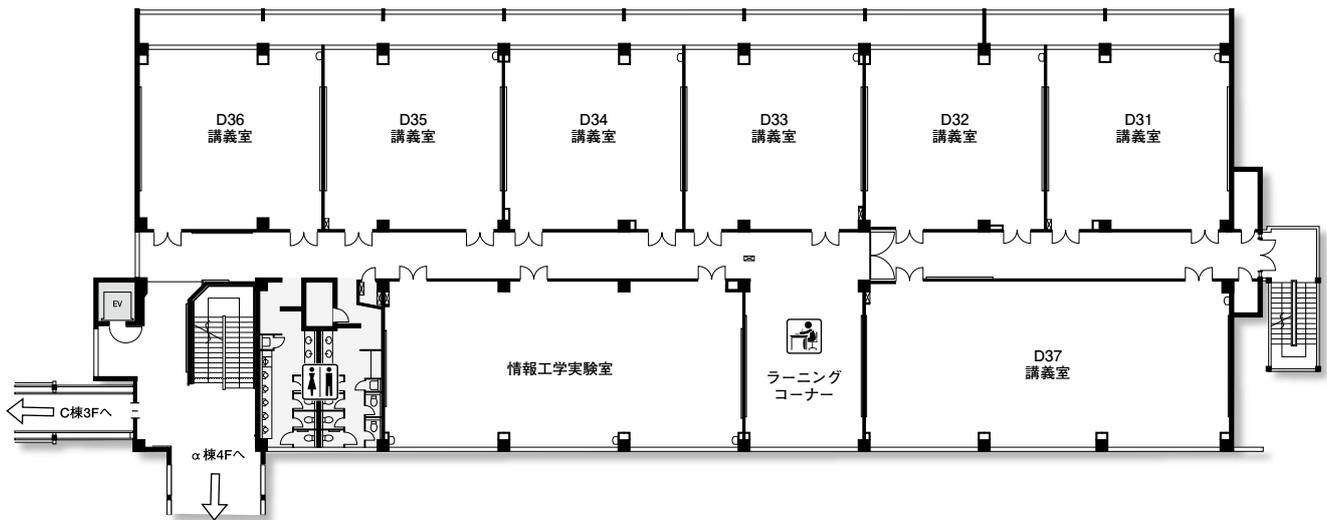
2F 講義室・演習室



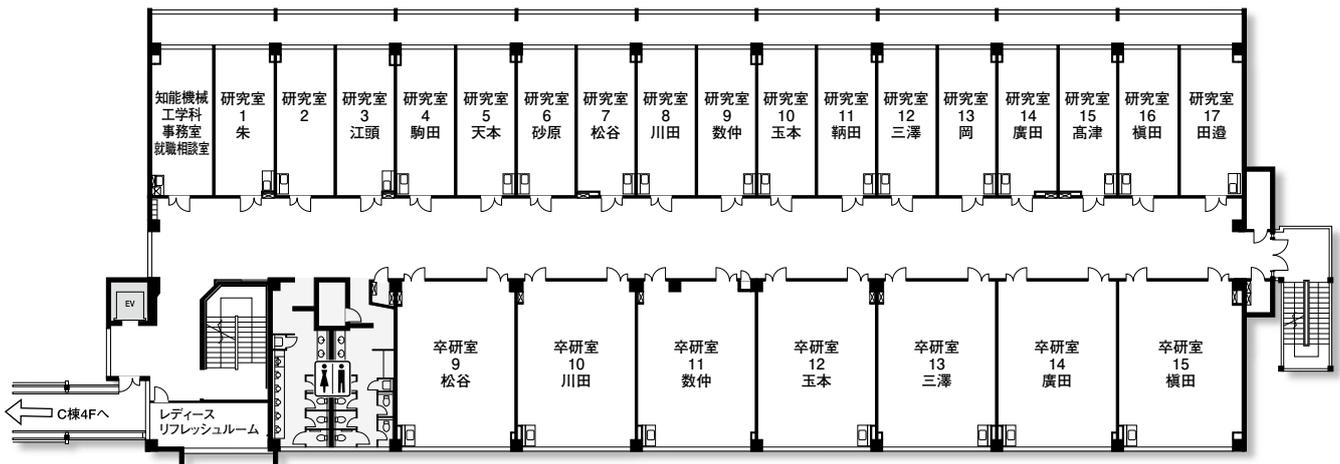
お手洗い
 EV エレベーター

ラーニングコーナー、ラーニングスペースは、
 勉強のための場所です。大声で話したりゲーム等を
 することは禁止です。

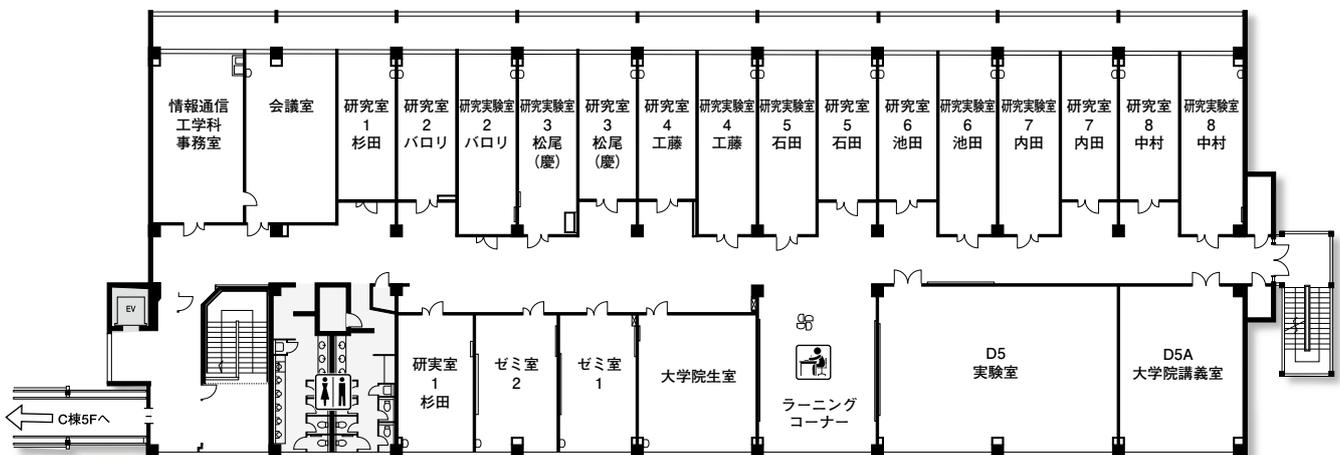
3F 講義室・実験室



4F (工) 知能機械工学科
(学科事務室・研究室)

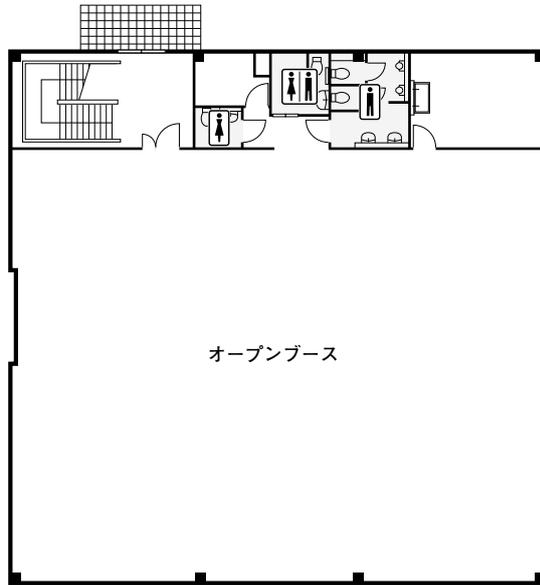


5F (情) 情報通信工学科
(学科事務室・研究室・実験室)

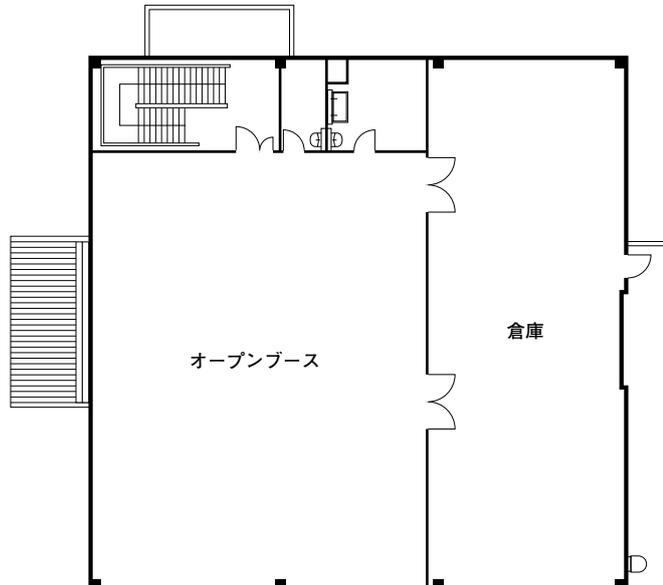


教室配置図 | F棟

1F インキュベーションスタジオ 2



2F インキュベーションスタジオ 2



§ 8-1
施設案内

§ 8-2
設備案内

§ 8-3
キャンパス案内

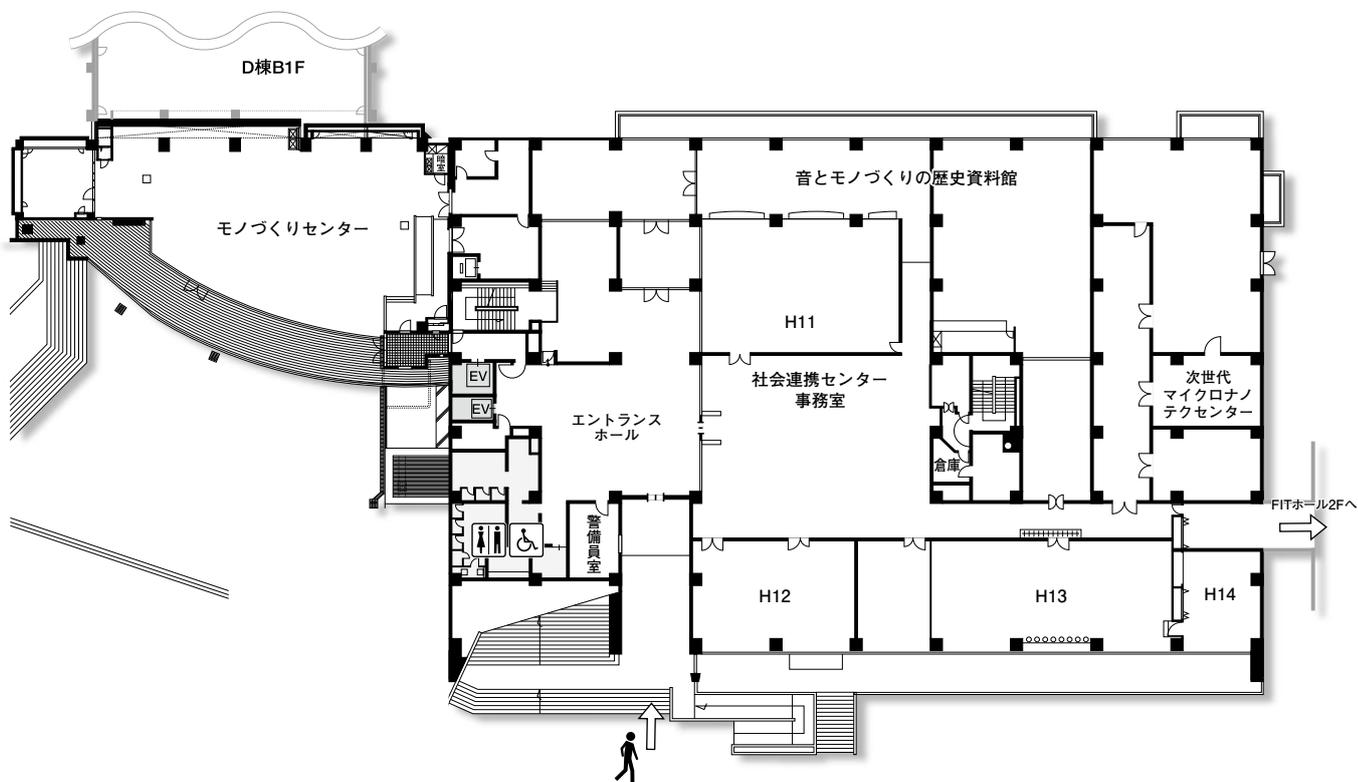
教室配置図 | 本部棟・α棟

α棟1F

モノづくりセンター

本部棟1F

社会連携センター
音とモノづくりの歴史資料館

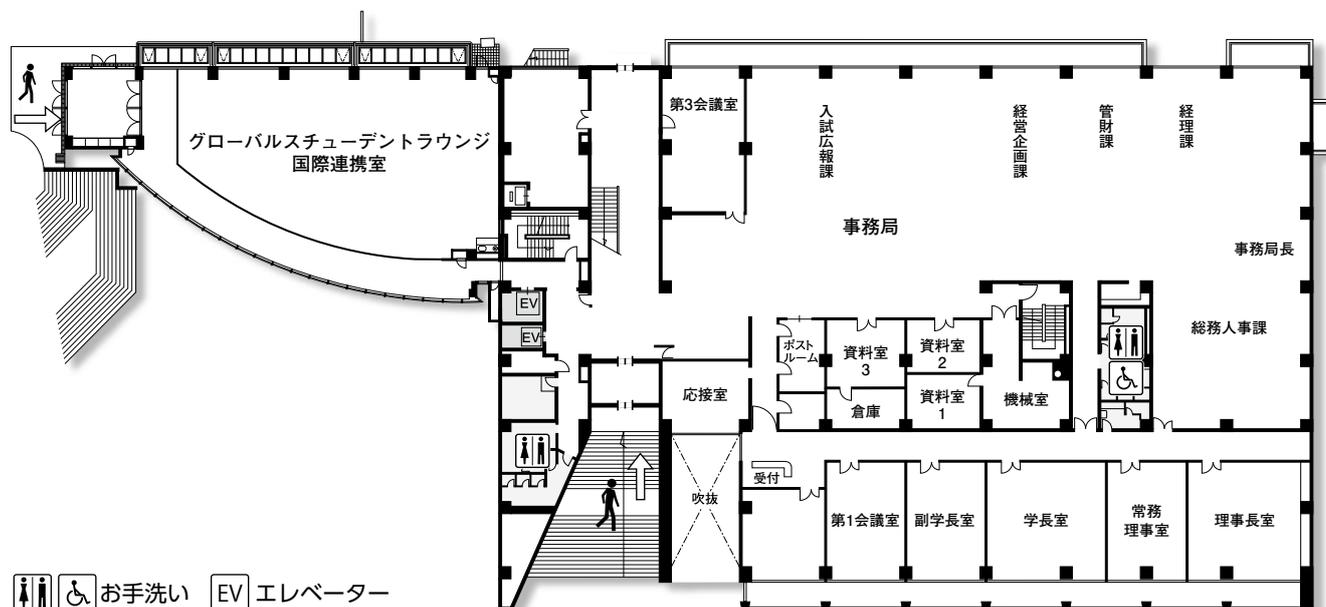


α棟2F

グローバルスチューデントラウンジ
(国際連携室)

本部棟2F

事務局



♿️ お手洗い EV エレベーター

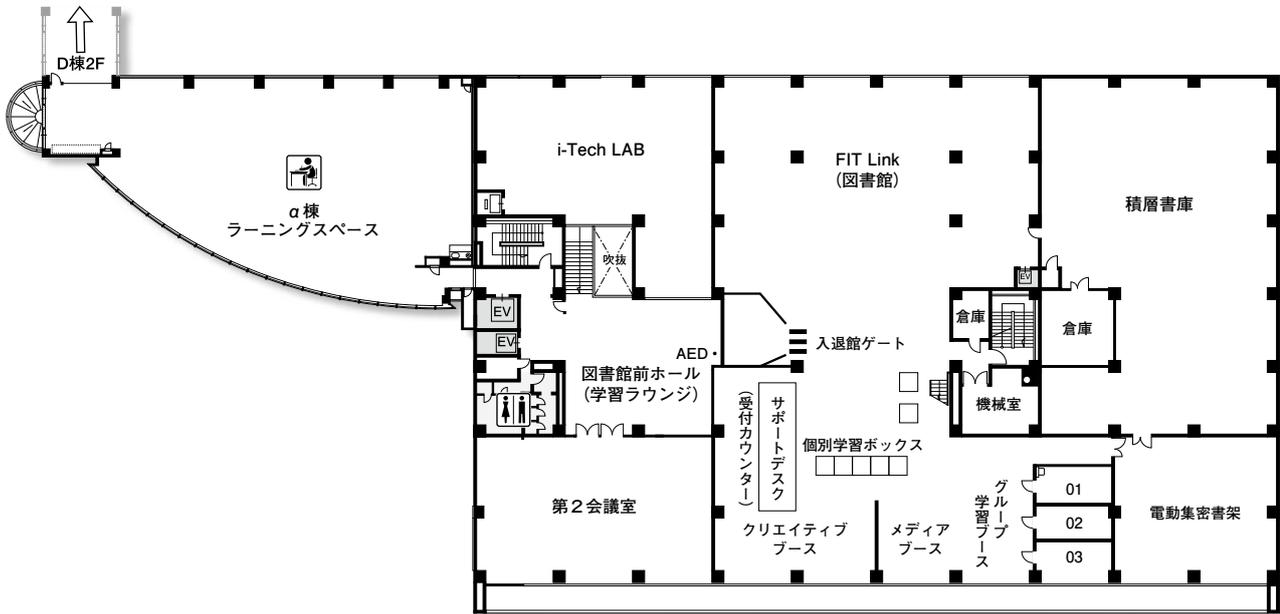
ラーニングコーナー、ラーニングスペースは、
勉強のための場所です。大声で話したりゲーム等をすることは禁止です。

α棟 3F

ラーニングスペース

本部棟 3F

FIT Link (図書館 (3F入口))
Active Floor

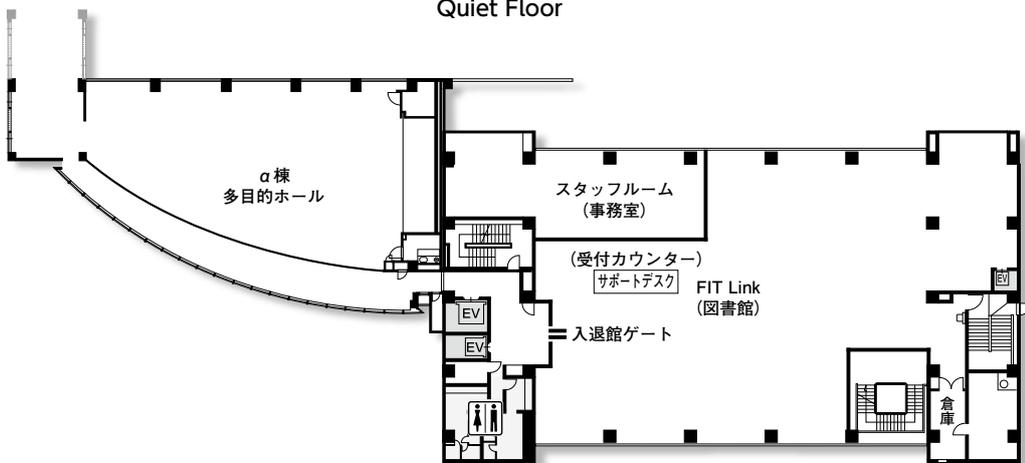


α棟 4F

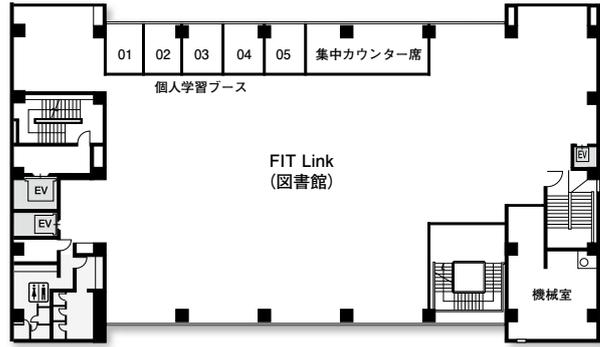
多目的ホール

本部棟 4F

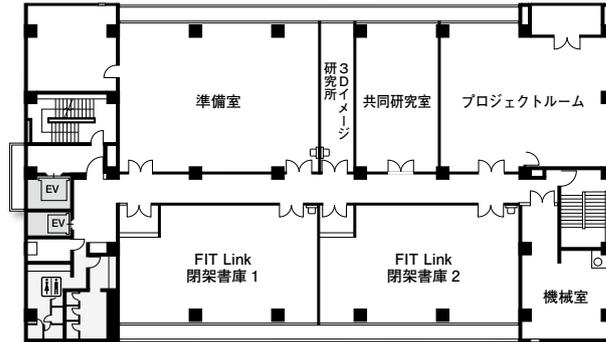
FIT Link (図書館 (4F入口))
事務室
Quiet Floor



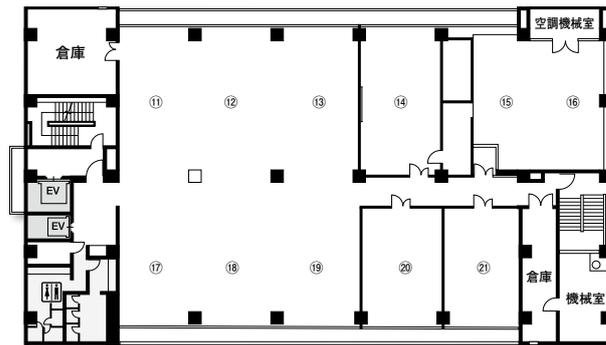
5F FIT Link
(図書館)
Silent Floor



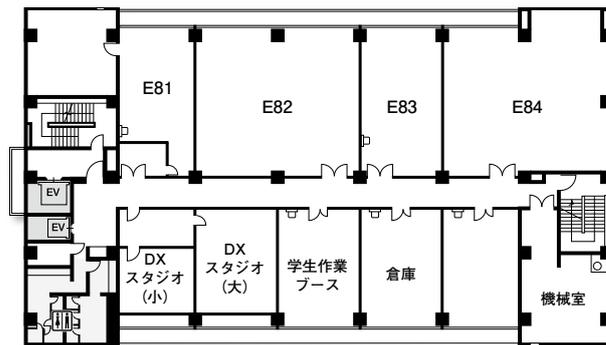
6F FIT Link
(書庫 1・2)



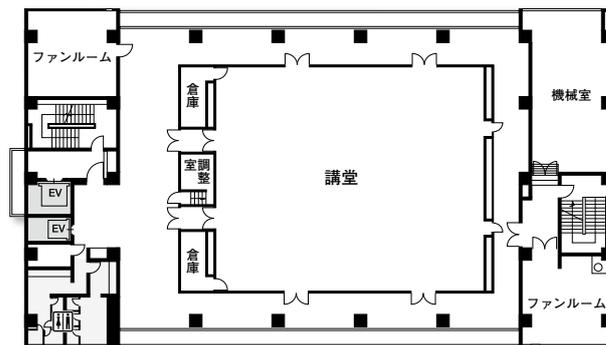
7F インキュベーションスタジオ 3
(①~⑳)



8F 社会連携センター
FIT-DX スタジオ



9F 講堂



お手洗い エレベーター

教室配置図 | FITホール

§ 8-1

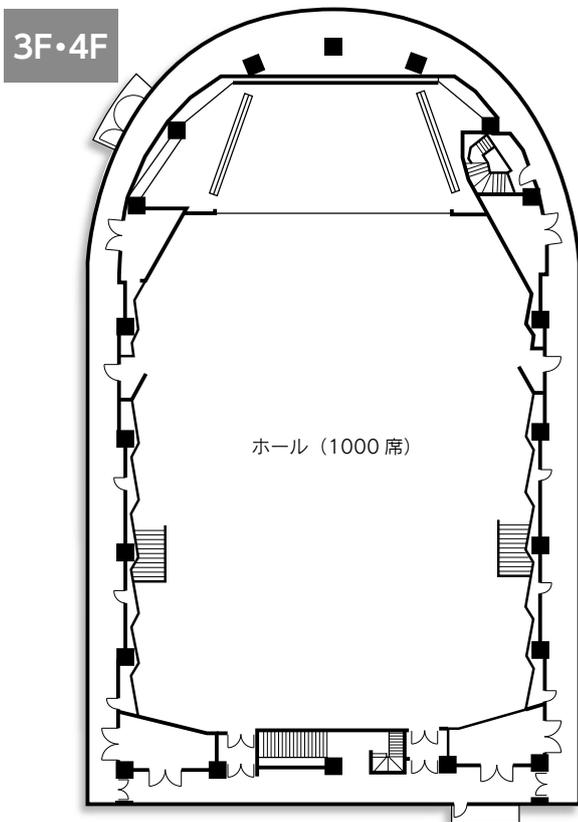
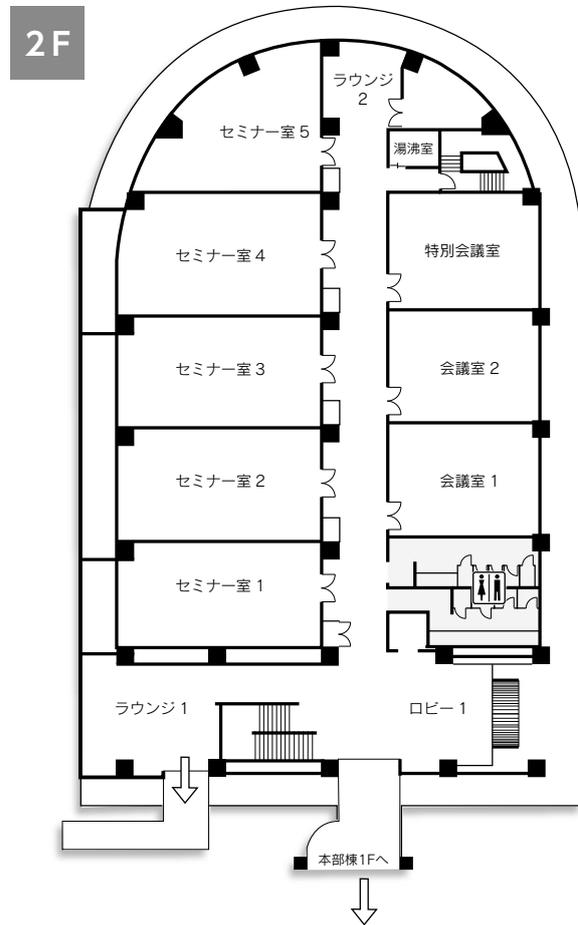
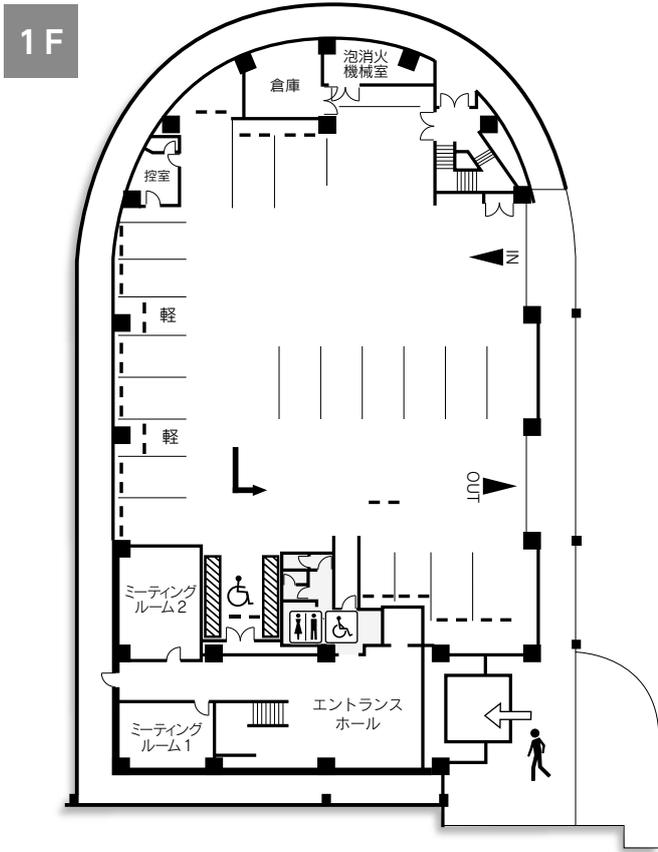
施設案内

§ 8-2

設備案内

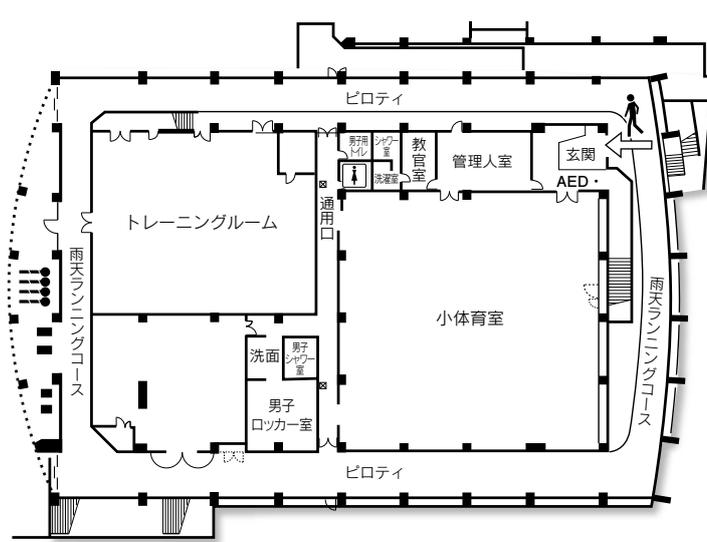
§ 8-3

キャンパス案内

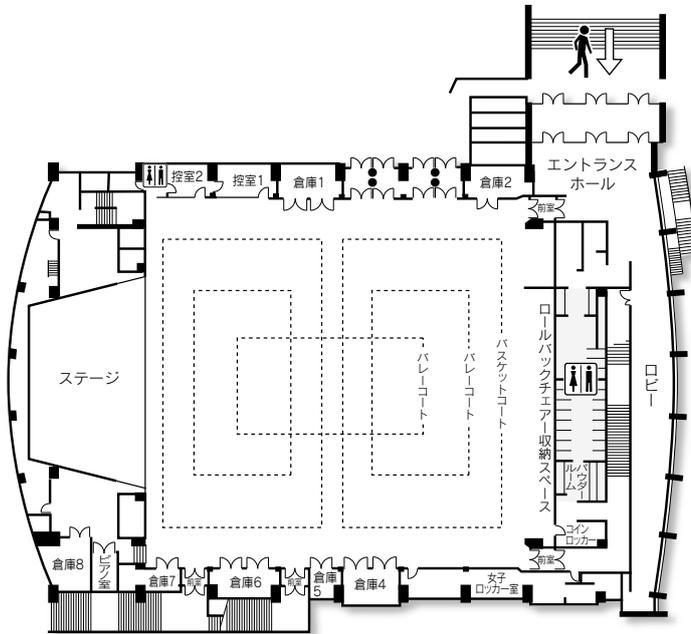


教室配置図 | FITアリーナ

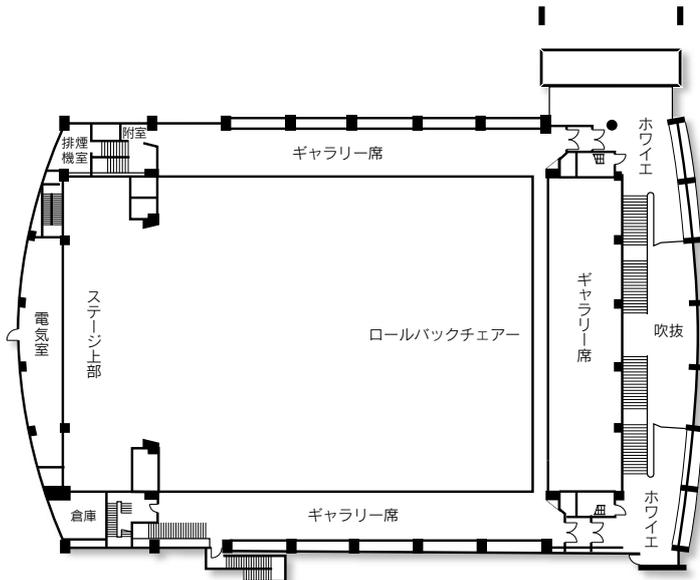
1F



2F



3F



お手洗い

EV エレベーター

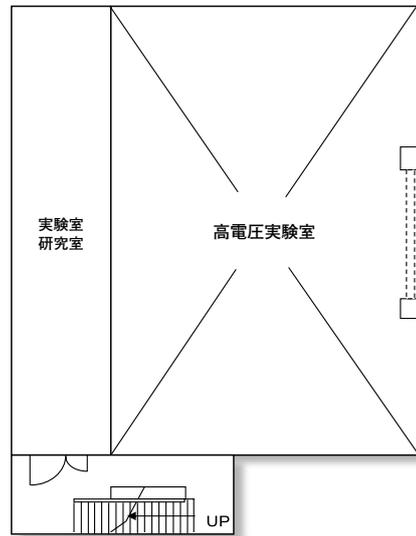
§8 施設・キャンパス

教室配置図 | 高電圧実験棟

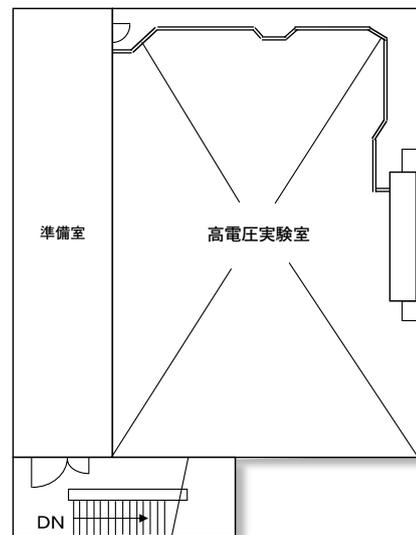
1F



2F



3F



§ 8-1	施設案内
§ 8-2	設備案内
§ 8-3	キャンパス案内

§ 9

諸規程

§ 9-1	学則	200
§ 9-2	学位規程	226
§ 9-3	履修要項	227
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 工学部 ■ 情報工学部 ■ 社会環境学部 	
§ 9-4	技術者教育プログラム要領	236
	<ul style="list-style-type: none"> ■ (工学部) 電子情報工学科 ■ (工学部) 知能機械工学科 ■ (情報工学部) 情報通信工学科 	
§ 9-5	数理・データサイエンス・AI教育プログラム要領	238
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 工学部 ■ 情報工学部 	
§ 9-6	社会環境学科コース制教育プログラム要領	242
§ 9-7	6年一貫教育「FIT-Techプログラム」要領	243
§ 9-8	その他	244
	<ul style="list-style-type: none"> ■ (工学部) 生命環境化学科 食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程要領 	

§ 9-1	学則
§ 9-2	学位規程
§ 9-3	履修要項
§ 9-4	技術者教育プログラム要領
§ 9-5	数理・データサイエンス・AI教育プログラム要領
§ 9-6	社会環境学科コース制教育プログラム要領
§ 9-7	6年一貫教育「FIT-Techプログラム」要領
§ 9-8	その他

§ 9-1. 学則

福岡工業大学学則

第1章 総則

第1節 目的

(目的)

第1条 本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、建学の綱領及び教育理念に基づき、工業及び環境に関する専門の学術を研究、教授し、もって科学の進歩向上に寄与することを目的とする。

(自己評価等)

第1条の2 教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

2 実施方法については、別に定める。

第2節 組織

(学部、学科及び学生定員)

第2条 本学に、次の学部を置く。

(1) 工学部

(2) 情報工学部

(3) 社会環境学部

2 工学部に置く学科及びその収容定員は、次のとおりとする。

学 科	入学定員	収容定員
電子情報工学科	90人	360人
生命環境化学科	90人	360人
知能機械工学科	110人	440人
電気工学科	90人	360人
計	380人	1,520人

3 情報工学部に置く学科及びその収容定員は、次のとおりとする。

学 科	入学定員	収容定員
情報工学科	130人	520人
情報通信工学科	90人	360人
情報システム工学科	90人	360人
情報マネジメント学科	90人	360人
計	400人	1,600人

4 社会環境学部に置く学科及びその収容定員は、次のとおりとする。

学 科	入学定員	編入学定員	収容定員
社会環境学科	160人	30人	700人

(教育研究上の目的)

第2条の2 前条に定める各学部及び各学科並びに第39条に定める教職課程の教育研究上の目的は、別表1のとおりとする。

(大学院)

第2条の3 本学に、大学院を置く。

2 大学院に関し必要な事項は、別に定める。

(教養力育成センター)

第2条の4 本学に、教養力育成センターを置く。

2 教養力育成センターに関し必要な事項は、別に定める。

(留学生別科)

第2条の5 本学に、留学生別科を置く。

2 留学生別科に関する規程は、別に定める。

(附属図書館)

第3条 本学に、附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する規程は、別に定める。

(学内共同教育研究施設)

第4条 本学に、次の学内共同教育研究施設を置く。

名 称	目 的	
総合研究機構	エレクトロニクス研究所	エレクトロニクス並びに関連する分野の研究・教育を行うと共に、学内における研究の奨励・援助を図り、併せて地域の産業の発展に協力する。
	情報科学研究所	情報科学並びに関連する分野の研究・教育を行うと共に、本学の情報関連分野の研究の奨励・援助を図り、併せて地域産業の発展に協力する。
	環境科学研究所	環境並びに関連する分野の研究・教育を行うと共に、学内における研究の奨励・援助を図り、併せて環境管理の側面より地域産業の発展に協力する。
工作センター	工作機械装置等を管理運用し、研究及び教育の用に供すると共に、加工・工作技術の向上開発を図り、併せて科学技術の発展に資する。	
学習支援センター	本学学生の自律的な学びを実現するため、正課内外と連動した学修支援を図り、併せて学修コミュニティの形成に資する。	

(教育開発推進機構)

第4条の2 本学に、教育開発推進機構を置く。

2 教育開発推進機構に関し必要な事項は、別に定める。

(総務人事部・経営管理部・入試広報部・教務部・学生部・就職部)

第5条 本学に、総務人事部、経営管理部、入試広報部、教務部、学生部及び就職部を置く。

第3節 職員の種類

(職員の種類)

第6条 本学に、学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、事務職員を置く。

2 教育研究の円滑な実施に必要な業務を行うために、助手を置くことができる。

第4節 教授会

(教授会)

第7条 本学に教授会を置く。

2 教授会は、専任の教授、准教授、講師及び助教で

構成する。

3 教授会は学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
- (2) 学位の授与
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、学長が教授会の意見を聴くことが必要であると認めるもの

4 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下この項において「学長等」という）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。

5 教授会の運営に関し、必要な事項は福岡工業大学教授会規程により定める。

(センター教授会)

第8条 教養力育成センターに教授会（以下「センター教授会」という。）を置く。

2 センター教授会の構成、審議事項並びに運営については、別に定める。

第5節 学年、学期及び休業日

(学年)

第9条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第10条 学年を次の2期に分ける。

前期 4月1日より9月30日まで

後期 10月1日より翌年3月31日まで

(休業日)

第11条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
 - (3) 本学の開学記念日 11月5日
 - (4) 春季休業 3月21日から4月10日まで
 - (5) 夏季休業 8月1日から9月30日まで
 - (6) 冬季休業 12月25日から翌年1月9日まで
- 2 必要がある場合は、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。
- 3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第2章 学部

第1節 修業年限等

(修業年限)

第12条 学部の修業年限は、4年とする。

(在学年限)

第13条 学生は、8年を超えて在学することができない。ただし、第19条第1項の規定により入学した学生は、同19条第2項により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第2節 入学

(入学の時期)

第14条 入学の時期は、学年の始めとする。

- 2 特別の必要があり、教育上支障がないときは、入学の時期を学期の始めとすることができる。

(入学の資格)

第15条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
 - (2) 通常の課程により12年の学校教育を修了した者
 - (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - (5) 文部科学大臣の指定した者
 - (6) 文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
 - (7) その他本学において、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- 2 前項に掲げる者のほか、高等学校に在学し校長が推薦する者は、科目等履修生として入学を認めることがある。

(入学の出願)

第16条 本学に入学を志願する者は、入学願書に所定の検定料及び別に定める書類を添えて、指定の期日までに願出しなければならない。

(入学者の選考)

第17条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、教授会の議を経て選考を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第18条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、指定の期日までに所定の書類を提出するとともに、所定の入学金を納付しなければならない。

- 2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(転入学、編入学)

第19条 次の各号の一に該当する者で、本学への入学を志願する者があるときは、別に定めるところにより選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

- (1) 大学を卒業した者又は退学した者
 - (2) 短期大学又は高等専門学校等を卒業した者
- 2 前項の規定により、入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て、学長が決定する。

第3節 休学、復学、転学、転学部、転学科、留学、退学、除籍及び再入学

(休学)

第20条 疾病その他やむを得ない理由により、4ヶ月以

§ 9-1	学則
§ 9-2	学位規程
§ 9-3	履修要項
§ 9-4	技術教育プログラム要領
§ 9-5	数値・データサイエンス・AI教育プログラム要領
§ 9-6	社会環境学科コース制教育プログラム要領
§ 9-7	6年制教育プログラム要領
§ 9-8	その他

上進学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

(休学期間)

第21条 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して2年を超えることができない。

3 休学期間は、第13条の在学期間に算入しない。

(復学)

第22条 休学期間中に、その理由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第23条 他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。ただし、在学期間1年未満の学生が新たに大学を受験しようとするときは、退学しなければならない。

(転学部及び転学科)

第23条の2 転学部及び転学科は、志願する学生本人の願い出により、教授会の議を経て学長がこれを許可する。

2 転学部及び転学科に関して必要な事項は、別に定める。

(留学)

第24条 外国の大学又は短期大学で学修することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、1年を限度として第37条に定める在学期間を含めることができる。

(退学)

第25条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第26条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

(1) 授業料その他の納付金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

(2) 第13条に定める在学年限を超えた者

(3) 第21条に定める休学期間を超えて、なお修学できない者

(4) 死亡又は長期にわたり行方不明の者

(再入学)

第27条 第25条及び第26条第1号の規定により退学し、又は除籍された者については、本人の願い出により、教授会の議を経て、学長がこれを許可する。

第4節 教育課程及び履修方法等

(授業科目及び単位)

第28条 授業科目は、教養育成科目、横断科目、専門基礎科目、及び専門教育科目に分ける。但し、社会環境学部については専門基礎科目の区分を設けない。

2 授業科目は、必修科目及び選択科目に分ける。

3 授業科目の種類、必修、選択科目及び単位数等は、別表2のとおりとする。

4 第1項の横断科目に関し、必要な事項は別に定める。

(授業の方法)

第28条の2 授業は講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第2項の授業を実施する授業科目については、別に定める。

(単位の算出方法)

第29条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、第28条の2に規定する授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位として単位数を計算するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究、課題研究等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(1年間の授業時間)

第30条 1年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。

(履修年次及び方法)

第31条 学生は、別に定める履修要項に従い履修しなければならない。

(単位の授与)

第32条 授業科目を履修した学生に対しては、試験その他の大学が定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えるものとする。

(他大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第33条 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（以下この項において「他大学等」という。）との協議に基づき、学生に当該他大学等の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により修得した授業科目の単位については、30単位を超えないものとし、教授会の議を経て、卒業の要件となる単位として認めることができる。

3 前2項の規定は、学生が外国の大学又は外国の短期大学に留学する場合に準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第34条 教育上有益と認めるときは、短期大学の専攻科又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、教授会の議を経て、単位を与えることができる。

2 前項の規定により卒業の要件となる単位として

§ 9-1	学則
§ 9-2	学位規程
§ 9-3	履修要項
§ 9-4	技術者教育プログラム要領
§ 9-5	数値・データサイエンス・AI教育プログラム要領
§ 9-6	社会環境学科コース制教育プログラム要領
§ 9-7	6年制教育プログラム要領
§ 9-8	その他

認めることができる単位数は、第33条第2項の単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第35条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目及び修得した単位（第43条の規定により履修した授業科目及び修得した単位を含む。）については、教授会の議を経て、卒業の要件となる授業科目及び単位として認定することができる。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、教授会の議を経て卒業の要件となる単位を与えることができる。

3 前2項の規定により認める単位は、編入学、転入学等の場合を除き、30単位を超えないものとする。

(学修の評価)

第36条 授業科目の試験等の評価は、優、良、可及び不可の四段階をもって表示し、可以上または認定を合格とする。但し、教育上有益と認めるときは、優の上位に秀を設けることができる。

また、上記評価に該当しない場合についても一定の要件を満たすことで授業科目の単位認定をすることができる。

(試験等における不正行為の成績評価措置)

第36条の2 成績評価に関わる試験等の不正行為の措置に関して、必要事項は別に定める。

第5節 卒業及び学位授与

(卒業)

第37条 本学の学部に4年（第19条第1項及び第27条の規定により入学した者については、それぞれ定められた在学すべき年数）以上在学し、第28条第3項別表2に定める所定の授業科目を履修し、卒業に必要な単位を修得した学生については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

(1) 工学部

イ 教養力育成科目は、コア群から14単位、展開群から12単位以上、合計26単位以上。

ロ 専門基礎科目と専門教育科目は、必修科目の全部を含め、92単位以上。

ハ 教養力育成科目、横断科目、専門基礎科目及び専門教育科目から14単位以上。

ニ 総計 132単位以上。

(2) 情報工学部

イ 教養力育成科目は、コア群から14単位、展開群から10単位以上、合計24単位以上。

ロ 専門基礎科目と専門教育科目は、必修科目の全部を含め、84単位以上。

ハ 教養力育成科目、横断科目、専門基礎科目、及び専門教育科目から16単位以上。

ニ 総計 124単位以上。

(3) 社会環境学部

イ 教養力育成科目は、コア群から14単位、展開群から12単位以上、合計26単位以上。

ロ 専門教育科目は、基礎科目から12単位、基幹科目から6単位、基幹科目（前記6単位を除く）又は展開科目から46単位以上、ゼミナールから16単位、必修科目の全部を含め、80単位以上。

ハ 教養力育成科目、横断科目及び専門教育科目から18単位以上。

ニ 総計 124単位以上。

2 技術者教育を目的とする教育プログラムの修了認定を希望する学生の卒業に関する必要な事項は、別に定める。

(学位授与)

第38条 前条で卒業を認定した者については、教授会の議を経て、学長が学士の学位を授与し「卒業証書・学位記」を交付する。

2 学位授与に関し必要な事項は、別に定める。

第6節 教員の免許

(教員の免許状取得のための所要資格)

第39条 教育職員免許法の定めるところにより、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を得ようとする者は、第37条に規定する科目のほか、別表3に規定する科目の単位を修得しなければならない。

2 前項の所要条件を満たし、取得できる教員の免許状の種類は次のとおりとする。

学部	学 科	免許状の種類 (免許教科)
工 学 部	電子情報工学科 生命環境化学科 知能機械工学科 電気工学科	高等学校教諭一種 (工業) 免許状
	生命環境化学科	中学校教諭一種 (理科) 免許状 高等学校教諭一種 (理科) 免許状
情 報 工 学 部	情報工学科 情報通信工学科 情報システム工学科	中学校教諭一種 (数学) 免許状 高等学校教諭一種 (数学) 免許状
	情報工学科 情報通信工学科 情報システム工学科 情報マネジメント学科	高等学校教諭一種 (情報) 免許状
社会環境学部	社会環境学科	中学校教諭一種 (社会) 免許状 高等学校教諭一種 (公民) 免許状

第3章 通則

第1節 賞罰

(表彰)

第40条 表彰に値する行為があった学生は、学長が表彰することができる。

(懲戒)

第41条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

- 2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
- 3 懲戒に関し必要な事項は、別途これを定める。

第2節 厚生施設

(学生寮)

第42条 本学に学生寮を置く。

- 2 学生寮に関し必要な事項は、別に定める。

第3節 科目等履修生、研究生及び

外国人留学生

(科目等履修生)

第43条 本学において、1又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学の教育に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可し、単位を授与することができる。

- 2 科目等履修生に関し、必要な事項は、別に定める。

(研究生)

第44条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

- 2 研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第45条 外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として1年次に入学、2年次、3年次に編入学、又は科目等履修生若しくは研究生として入学を許可することができる。

- 2 外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第4節 検定料、入学金及び授業料等

(授業料等)

第46条 学生は、授業料等（以下この節において、授業料、施設設備費、実験実習費、図書費及び学生厚生費を含む。）を納入しなければならない。

(検定料、入学金及び授業料等の額)

第47条 本学の検定料、入学金及び授業料等の額は別表4のとおりとする。

(授業料等の徴収)

第48条 授業料等は、年額の2分の1ずつを次の2期に分けて徴収する。

区分	納期
第1期 (4月1日から9月30日まで)	4月20日まで
第2期 (10月1日から翌年3月31日まで)	9月30日まで

(休学期間中の授業料等)

第49条 休学を許可された者の授業料等は、休学した月の翌月から復学した月の前月までの額を免除する。

(退学、除籍及び停学の場合の授業料等)

第50条 1期又は2期途中で退学し、又は除籍された者の授業料等は、当該期分を徴収する。

- 2 停学期間中の授業料等は、徴収する。

(授業料等の免除及び徴収の猶予)

第51条 経済的理由によって納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合又はその他やむを得ない事情があると認められる場合は、授業料等の全部若しくは一部を免除し、又は徴収を猶予することがある。

- 2 奨学生制度については、別に定める。

(科目等履修生、研究生等の検定料、入学金及び授業料等)

第52条 科目等履修生、研究生及び外国人留学生の科目等履修生、同研究生の検定料、入学金及び授業料等については、別に定める。

(納付した授業料等)

第53条 納付された検定料、入学金及び授業料等は返付しない。

第5節 公開講座

(公開講座)

第54条 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することがある。

第6節 その他

第55条 この学則の改正は、教授会の議を経なければならない。

附則

(省略)

47 この学則は、令和7年4月1日から施行する。

別表 1 学則第 2 条の 2 に係る各学部及び各学科並びに教職課程の教育研究上の目的

学 科	教育研究上の目的
工学部	工学分野の基盤となる知識と技術ならびにグローバルな視点を有し、かつそれらを社会の安全・安心な発展のために用いる倫理観と問題解決能力、主体性を備えた実践型人材の育成を目的とする。
電子情報工学科	現代社会において、科学技術者は、科学技術への貢献はもとより、社会人として自立し、広い視野に立ち柔軟な発想を行えることが求められている。本学科は、電子技術と情報技術が融合した技術分野において、このような要請に応えることができる実践型の人材の養成を目的とする。
生命環境化学科	地球の様々な環境問題が深刻化する今日、環境の管理、保全、改善と修復の基本理念を理解し、物理・化学的、及び生物的アプローチ等の多様な先端技術を用いて、問題を解決する能力を持つ自立した技術者の人材の養成を目的とする。
知能機械工学科	情報技術と生産技術を融合した知能機械が主流となった機械分野において、基礎及び専門技術に関する知識と応用力を身につけるとともに、それらを駆使したデザイン能力とコミュニケーション能力を有し、技術者倫理をもってグローバルな活躍ができる人材の養成を目的とする。
電気工学科	日々進歩する電気・電子・情報工学の技術を理解し、習得するための素養と専門知識及び技術を身につけ、国際感覚と倫理観を有するとともに、地域産業のニーズも理解し、地域的また国際的連携の両方を意識して活躍できるグローバルな技術人材の養成を目的とする。
情報工学部	情報工学およびコンピュータ利用技術に関して、数理系の専門基礎から情報工学の幅広い応用に関する専門分野までを教授研究し、グローバル化・高度情報化が進展する社会において、修得した知識や技術を活用し、主体的に課題解決ができる実践型人材の育成を目的とする。
情報工学科	コンピュータのソフトウェア・ハードウェアの基礎及び応用を教授研究し、プログラミングに習熟させるとともに、インターネットや人工知能、知能ロボット、自然言語処理、画像処理、データベース、マルチメディア、CG、システム LSI などの最先端のコンピュータ技術・応用技術を持つ専門的職業人及び教育研究者の人材の養成を目的とする。
情報通信工学科	今日の情報通信関連技術は、あらゆる産業分野における基幹技術としての影響力を持つようになり、社会生活の中に深く関係している。このように情報通信工学の裾野が限りなく広がり、技術的な可能性が満ち溢れる世界で、独創性を発揮し、多様化する先端技術を開拓できる技術者及び情報通信関連分野の研究能力を有する人材の養成を目的とする。
情報システム工学科	今日まで発展を遂げてきた情報技術が社会的基盤となり、人々の暮らしを支える情報システムのサービス形態は、変化・適用・深化を繰り返しながらこれからも発展し続けていくことが予想される。本学科では、情報技術、ロボット制御、生体システムを柱とする実践的教育を展開し、技術者倫理、コミュニケーション能力、エンジニアリングデザイン能力を身につけることで、社会の持続的発展に不可欠な情報システムの設計・開発・運用に携わる技術者の養成を目的とする。
情報マネジメント学科	IT スキルやデータサイエンスに関する知識と技術及び経営工学に関する知識の修得とともに、情報の活用による組織の価値を高めるためのマネジメント手法を修得させる教育を行い、情報処理と情報分析に関する理論や手法を組織活動の場面に適用することができる行動力をもって、組織の知力の向上や組織の価値の創造に貢献できる人材の養成を目的とする。
社会環境学部	環境に関わる諸問題に関して主として社会科学の立場からアプローチし、社会の仕組みを理解した上で、グローバルな視点から持続可能な社会実現に主体的・自律的に貢献することのできる実践型人材の育成を目的とする。
社会環境学科	環境に関わる諸問題に関して主として社会科学の立場からアプローチし、社会の仕組みを理解した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成を目的とする。
教職課程	教職の意義、教育の原理及び人間の発達を理解し、将来の教育者としての専門的知識、方法技術さらに実践的能力を高めるとともに、使命感及び倫理観と教育的愛情を育む人材の養成を目的とする。

§ 9-1	学則
§ 9-2	学位規程
§ 9-3	履修要項
§ 9-4	技術教育 プログラム要領
§ 9-5	数値・データサイエンス ・AI 教育プログラム要領
§ 9-6	社会環境学科コース制 教育プログラム要領
§ 9-7	6 年一貫教育プログラム要領
§ 9-8	その他

別表2 学則第28条第3項に係る授業科目の種類、必修、選択科目及び単位数等について

1. 工学部

(1) 教養力育成科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考	
		1年	2年	3年	4年	計		
コア群	キャリア・デザイン	2				2	必修	英語科目は、習熟度により①②③④からそれぞれ1科目を受講。
	コミュニケーション・デザイン	2				2	必修	
	ウェルネス基礎	2				2	必修	
	Freshman English A	} ①	2			2	選 / 必	
	Advanced English A		2			2	選 / 必	
	Freshman English B	} ②	2			2	選 / 必	
	Advanced English B		2			2	選 / 必	
	Essential English A	} ③		2		2	選 / 必	
	Communicative English A			2		2	選 / 必	
	Essential English B	} ④		2		2	選 / 必	
Communicative English B			2		2	選 / 必		
展開群	自己成長と学び		2			2	選択	ITリテラシーは、生命環境化学科、電気工学科では必修。電子情報工学科、知能機械工学科では選択。
	ITリテラシー	2				2	選 / 必	
	AIデータサイエンス基礎	2				2	選択	
	生命と生態系	2				2	選択	
	化学と生活	2				2	選択	
	科学史	2				2	選択	
	産業デザイン		2			2	選択	
	地域創生論	2				2	選択	
	市民生活と法	2				2	選択	
	日本国憲法	2				2	選択	
	心理学	2				2	選択	
	文学	2				2	選択	
	現代倫理	2				2	選択	
	経済学	2				2	選択	
	社会学	2				2	選択	
	九州学	2				2	選択	
	異文化理解	2				2	選択	
	中国の文化と言葉		2			2	選択	
	韓国の文化と言葉		2			2	選択	
	実践知	ウェルネス応用		2			2	
地域創生PBL		2				2	選択	
日本語実践			2			2	選択	
仕事理解型実習			2			2	選択	
課題解決型インターンシップ				2		2	選択	
海外研修		2				2	選択	

(2) 横断科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
横断科目	AIデータサイエンス実践			1		1	選択
	Future Vision講座	1				1	選択
	Future Vision実践	1				1	選択

「Future Vision講座」および「Future Vision実践」の各科目においては、原則として科目名に（ ）書きで主題を付し、個別の科目として開講し、複数履修し、取得することができる。

§ 9-1 学則

§ 9-2 学位規程

§ 9-3 履修要項

§ 9-4 技術者教育プログラム要領

§ 9-5 数値・データサイエンス・AI教育プログラム要領

§ 9-6 社会環境学科コース制教育プログラム要領

§ 9-7 6年一貫教育プログラム要領

§ 9-8 その他

(3) 専門基礎科目及び専門教育科目

(ア) 電子情報工学科

A. 専門基礎科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
専門基礎科目	電子情報基礎数学	4				4	必修
	電子情報数学	4				4	必修
	線形代数Ⅰ		2			2	必修
	線形代数Ⅱ		2			2	選択
	微分方程式		2			2	必修
	初等統計学		2			2	選択
	物理概論	2				2	必修
	物理学Ⅰ	2				2	必修
物理学Ⅱ		2			2	必修	

B. 専門教育科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
電子情報基礎科目	電子工学基礎	2				2	必修
	論理回路	2				2	必修
	電磁気学Ⅰ	2				2	必修
	電磁気学Ⅱ		2			2	必修
	電子計測		2			2	必修
	制御基礎			2		2	必修
	制御工学			2		2	選択
デバイス系科目	電子物性		2			2	必修
	電子デバイスⅠ			2		2	必修
	電子デバイスⅡ			2		2	必修
	光エレクトロニクス			2		2	選択
	先端デバイス工学			2		2	選択
回路系科目	電気回路Ⅰ	2				2	必修
	電気回路Ⅱ		2			2	必修
	電気回路Ⅲ		2			2	必修
	電子回路Ⅰ		2			2	必修
	電子回路Ⅱ		2			2	必修
	電子回路応用			2		2	必修
	電気電子回路実習			2		2	選択
情報処理系科目	プログラミング基礎	4				4	必修
	プログラミング演習		2			2	必修
	応用プログラミング		2			2	必修
	デジタル信号処理			2		2	必修
	人工知能基礎と演習			2		2	必修
	情報ネットワーク基礎と演習			2		2	選択
	応用デジタル信号処理			2		2	必修

共通科目	技術者倫理		2			2	選択
	技術英語			2		2	選択
	プレゼンテーション			2		2	選択
	情報技術資格		2			2	選択
	無線技術資格		2			2	選択
	電子情報工学入門	2				2	必修
	物理・電子情報基礎実験	2				2	必修
	電子情報実験Ⅰ		2			2	必修
	電子情報実験Ⅱ		2			2	必修
	電子情報実験Ⅲ			2		2	必修
	創成実験			2		2	必修
	コンピュータシステムⅠ	2				2	必修
	コンピュータシステムⅡ		2			2	必修
	IoT基礎と演習			2		2	選択
	電子情報工学総合			2		2	必修
	卒業研究				6	6	必修
工学概論		2			2	選択	
国際工学実習			2		2	選択	

(イ) 生命環境化学科
A. 専門基礎科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
自然科学科目	線形代数	2				2	必修
	基礎数学	2				2	選択
	解析Ⅰ	2				2	必修
	解析Ⅱ	2				2	必修
	応用数学		2			2	必修
	統計解析		2			2	選択
	基礎物理学	2				2	必修
	物理学		2			2	選択
	物理学実験			2		2	選択
	化学	2				2	必修
	生物学	2				2	必修
	コンピューター言語		2			2	選択

B. 専門教育科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
基盤化学科目	生命環境化学概論	1				1	必修
	生命環境化学ゼミナールⅠ			1		1	選択
	生命環境化学ゼミナールⅡ			1		1	選択
	化学実験	2				2	必修
	物理化学Ⅰ	2				2	必修
	物理化学Ⅱ		2			2	必修
	物理化学Ⅲ			2		2	選択
	物理化学Ⅰ演習	1				1	必修
	物理化学Ⅱ演習		1			1	必修
分析化学		2			2	必修	

基礎化学科目	機器分析化学		2		2	必修	
	環境分析化学		2		2	選択	
	機器分析化学実験		2		2	選択	
	有機化学Ⅰ	2			2	必修	
	有機化学Ⅱ		2		2	必修	
	無機化学Ⅰ		2		2	必修	
	無機化学Ⅱ			2		2	選択
物質化学分野	固体物質工学			2	2	選択	
	化学工学Ⅰ			2	2	選択	
	化学工学Ⅱ			2	2	選択	
	電気化学			2	2	選択	
	ナノマテリアル化学			2	2	選択	
	高分子化学			2	2	選択	
	環境物質工学実験			2	2	選択	
エネルギー・環境分野	環境科学総論	2			2	必修	
	環境科学Ⅰ		2		2	選択	
	環境科学Ⅱ		2		2	選択	
	資源循環工学			2	2	選択	
	環境浄化工学			2	2	選択	
	地球科学		2		2	選択	
	地球科学実験			2	2	選択	
生命科学分野	生命科学基礎	2			2	必修	
	生物化学Ⅰ	2			2	必修	
	生物化学Ⅱ		2		2	選択	
	生物化学実験		2		2	必修	
	微生物学		2		2	選択	
	応用微生物学			2	2	選択	
	分子生物学		2		2	選択	
	遺伝子工学			2	2	選択	
	細胞生物学			2	2	選択	
	生命科学実験			2	2	選択	
食品分野	食品学ゼミナール		1		1	選択	
	食品化学		2		2	選択	
	食品物性学実験		2		2	選択	
	香粧品科学			2	2	選択	
	栄養化学		2		2	選択	
	栄養生理学			2	2	選択	
	生体成分分析実験			2	2	選択	
	食品微生物発酵学		2		2	選択	
	食品分析学			2	2	選択	
	食品分析学実験			2	2	選択	
	食品衛生学			2	2	選択	
	毒性学			2	2	選択	
	食品環境衛生学			2	2	選択	
健康食品概論			2	2	選択		
研究 卒業	卒業研究				6	6	必修
科目 共通	工学概論		2			2	選択

§ 9-1

学則

§ 9-2

学位規程

§ 9-3

履修要項

§ 9-4

技術者教育
プログラム要領

§ 9-5

数値・データサイエンス
AI教育プログラム要領

§ 9-6

社会環境学科コース制
教育プログラム要領

§ 9-7

6年一貫教育プログラム要領

§ 9-8

その他

(ウ) 知能機械工学科
A. 専門基礎科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
専門基礎科目	数学基礎演習	2				2	必修
	線形代数Ⅰ	2				2	必修
	解析Ⅰ及び演習	4				4	必修
	線形代数Ⅱ	2				2	必修
	解析Ⅱ		2			2	必修
	微分方程式		2			2	必修
	解析Ⅲ			2		2	選択
	確率と統計		2			2	選択
	物理基礎演習	2				2	必修
	物理学Ⅰ及び演習	4				4	必修
	機械物理学実験	2				2	必修
物理学Ⅱ		2			2	必修	

B. 専門教育科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
機械基礎学	ものづくり基礎実習	4				4	必修
	熱力学Ⅰ		2			2	必修
	熱力学Ⅱ			2		2	必修
	伝熱工学			2		2	選択
	流体力学Ⅰ		2			2	必修
	流体力学Ⅱ			2		2	必修
	機械力学Ⅰ		2			2	必修
	機械力学Ⅱ			2		2	必修
	材料力学Ⅰ		2			2	必修
	材料力学Ⅱ			2		2	必修
	エネルギー・環境工学			2		2	選択
知能機械設計学	基礎製図Ⅰ	2				2	必修
	基礎製図Ⅱ	2				2	必修
	知能機械設計Ⅰ		4			4	必修
	知能機械設計Ⅱ			4		4	必修
	CADシステム		2			2	必修
	トライボロジー			2		2	選択
工学 知能生産学	機械材料		2			2	必修
	機械工作法Ⅰ		2			2	必修
	機械工作法Ⅱ			2		2	選択
	デジタルエンジニアリング		2			2	選択
工学 知能計測制御工学	電気基礎学		2			2	必修
	知能機械制御工学			2		2	必修
	ロボット工学			2		2	選択
	計測工学			2		2	選択
	人工知能概論			2		2	選択

共通科目	知能機械基礎実験Ⅰ		2		2	必修	
	知能機械基礎実験Ⅱ		2		2	必修	
	工業技術史	2			2	必修	
	技術者倫理		2		2	必修	
	知能機械制御言語及び演習		2		2	選択	
	先端知能機械工学概論及び実習			2	2	選択	
	数値解析			2	2	選択	
	工学概論		2		2	選択	
	国際工学実習			2	2	選択	
	知能機械創成実験			2	2	必修	
研究 卒業	卒業研究				6	6	必修

(工) 電気工学科

A. 専門基礎科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
専門基礎科目	電気基礎数学	2				2	必修
	解析Ⅰ	2				2	必修
	解析Ⅱ	2				2	必修
	線形代数Ⅰ	2				2	必修
	線形代数Ⅱ		2			2	選択
	解析Ⅲ		2			2	必修
	解析Ⅳ		2			2	選択
	電気基礎物理学	2				2	必修
	力学Ⅰ	2				2	必修
	力学Ⅱ		2			2	必修
熱力学		2			2	選択	

B. 専門教育科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
電気基礎学	電磁気学Ⅰ	2				2	必修
	電磁気学Ⅱ	2				2	必修
	電磁気学Ⅲ		2			2	必修
	電気回路Ⅰ	2				2	必修
	電気回路Ⅱ	2				2	必修
	電気回路Ⅲ		2			2	必修
	電気回路Ⅳ		2			2	必修
	電気計測		2			2	必修
	基礎物質工学	2				2	必修
	半導体工学		2			2	必修
	電気基礎学概論			2		2	選択

§ 9-1

学則

§ 9-2

学位規程

§ 9-3

履修要項

§ 9-4

技術者教育プログラム要領

§ 9-5

数値・データサイエンス・AI教育プログラム要領

§ 9-6

社会環境学科コース制教育プログラム要領

§ 9-7

6年一貫教育プログラム要領

§ 9-8

その他

電気エネルギーシステム工学	電気エネルギーシステム工学Ⅰ		2		2	必修
	電気エネルギーシステム工学Ⅱ		2		2	必修
	電気エネルギーシステム工学Ⅲ			2	2	選択
	電気エネルギーシステム工学Ⅳ			2	2	選択
	電気法規及び施設管理			2	2	選択
	交流電力伝送の基礎		2		2	必修
	高電圧工学			2	2	選択
	電気応用		2		2	必修
情報制御工学	論理表現	2			2	必修
	電気工学フレッシュマン演習	2			2	必修
	プログラミング言語		2		2	必修
	システム制御工学Ⅰ		2		2	必修
	システム制御工学Ⅱ			2	2	選択
	現代制御			2	2	選択
	メカトロニクスⅠ		2		2	必修
	メカトロニクスⅡ			2	2	選択
	デジタル制御			2	2	選択
	ロボット工学			2	2	選択
技術者倫理		2		2	必修	
電気機器・パワーエレクトロニクス工学	電気工学概論	2			2	必修
	電気機器Ⅰ	2			2	必修
	電気機器Ⅱ		2		2	必修
	電気機器Ⅲ		2		2	必修
	パワーエレクトロニクス			2	2	必修
	電気機器設計・製図			2	2	選択
	電子回路Ⅰ	2			2	必修
	電子回路Ⅱ		2		2	選択
	デジタル回路			2	2	選択
	エンジニアリングデザインⅠ		2		2	必修
	エンジニアリングデザインⅡ			4	4	選択
実習科目 実験・	電気基礎学実験		2		2	必修
	電気工学実験Ⅰ			2	2	必修
	電気工学実験Ⅱ			2	2	必修
	卒業研究				6	6
電験・総合科目	電験理論	2			2	選択
	電験電力		2		2	選択
	電験法規		2		2	選択
	電験機械			2	2	選択
	電気工学総合			2	2	必修
関連科目	機械工学概論			2	2	選択
	通信工学概論			2	2	選択
	工学概論		2		2	選択
	国際工学実習			2	2	選択

§ 9-1	学則
§ 9-2	学位規程
§ 9-3	履修要項
§ 9-4	技術者教育プログラム要領
§ 9-5	数値・データサイエンス・AI教育プログラム要領
§ 9-6	社会環境学科コース制教育プログラム要領
§ 9-7	6年一貫教育プログラム要領
§ 9-8	その他

2. 情報工学部

(1) 教養力育成科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考	
		1年	2年	3年	4年	計		
コア群 教養力基盤	キャリア・デザイン	2				2	必修	英語科目は、習熟度により①②③④からそれぞれ1科目を受講。
	コミュニケーション・デザイン	2				2	必修	
	ウェルネス基礎	2				2	必修	
	Freshman English A	2				2	選/必	
	Advanced English A	2				2	選/必	
	Freshman English B	2				2	選/必	
	Advanced English B	2				2	選/必	
	Essential English A		2			2	選/必	
	Communicative English A		2			2	選/必	
	Essential English B		2			2	選/必	
Communicative English B		2			2	選/必		
展開群 多面的視座	自己成長と学び		2			2	選択	
	AIデータサイエンス基礎	2				2	選択	
	生命と生態系	2				2	選択	
	化学と生活	2				2	選択	
	科学史	2				2	選択	
	産業デザイン		2			2	選択	
	地域創生論	2				2	選択	
	市民生活と法	2				2	選択	
	日本国憲法	2				2	選択	
	心理学	2				2	選択	
	文学	2				2	選択	
	現代倫理	2				2	選択	
	経済学	2				2	選択	
	社会学	2				2	選択	
	九州学	2				2	選択	
	異文化理解	2				2	選択	
	中国の文化と言葉		2			2	選択	
	韓国の文化と言葉		2			2	選択	
実践知	ウェルネス応用		2			2	選択	
	地域創生PBL	2				2	選択	
	日本語実践		2			2	選択	
	仕事理解型実習		2			2	選択	
	課題解決型インターンシップ			2		2	選択	
	海外研修	2				2	選択	

(2) 横断科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
横断科目	AIデータサイエンス実践			1		1	選択
	アプリ開発実践		2			2	選択
	Future Vision講座	1				1	選択
	Future Vision実践	1				1	選択

「Future Vision講座」および「Future Vision実践」の各科目においては、原則として科目名に（ ）書きで主題を付し、個別の科目として開講し、複数履修し、取得することができます。

(3) 専門基礎科目及び専門教育科目

(ア) 情報工学科

A. 専門基礎科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
専門基礎科目	線形代数Ⅰ	2				2	必修
	線形代数Ⅱ	2				2	選択
	線形代数Ⅲ		2			2	選択
	解析Ⅰ	2				2	必修
	解析Ⅱ	2				2	選択
	基礎物理学	2				2	選択
	物理学Ⅰ	2				2	必修
	物理学Ⅱ		2			2	選択
	幾何学とマルチメディア			2		2	選択
	解析Ⅲ		2			2	選択
	基礎電磁気学		2			2	選択
	幾何学的情報数学		2			2	選択
	微分方程式		2			2	選択
	代数学と暗号			2		2	選択
	複素関数論			2		2	選択
	情報物理学			2		2	選択
応用幾何学				2	2	選択	
代数学と符号化				2	2	選択	

B. 専門教育科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
情報基礎学	情報基礎ゼミナール	2				2	必修
	コンピュータリテラシー	2				2	必修
	コンピュータ科学	2				2	必修
	離散数学	2				2	必修
	確率統計論	2				2	必修
	オートマトンと形式言語		2			2	必修
	情報工学特別講義			2		2	必修
	情報理論			2		2	選択
	数値計算		2			2	選択
	情報技術者倫理			2		2	必修
	プログラミング言語論			2		2	選択
ソフトウェア工学 コンピュータ	CプログラミングⅠ	2				2	必修
	CプログラミングⅡ	2				2	必修
	オペレーティングシステム		2			2	必修
	データ構造とアルゴリズム		2			2	必修
	データエンジニアリング		2			2	選択
	人工知能プログラミング		2			2	選択
	ソフトウェア工学Ⅰ			2		2	選択
	ソフトウェア工学Ⅱ			2		2	選択
	JAVAプログラミングⅠ		2			2	必修
	情報工学実験Ⅲ			2		2	必修
	ネットワークプログラミング			2		2	選択
	JAVAプログラミングⅡ		2			2	選択
	HCIプログラミング			2		2	選択
情報工学実験Ⅳ			2		2	必修	

コンピュータハードウェア工学	電気電子回路Ⅰ	2			2	必修
	電気電子回路Ⅱ	2			2	選択
	コンピュータアーキテクチャⅠ	2			2	必修
	論理回路		2		2	必修
	コンピュータアーキテクチャⅡ		2		2	選択
	情報工学実験Ⅰ		2		2	必修
	論理設計		2		2	選択
	情報工学実験Ⅱ		2		2	必修
	情報ネットワーク		2		2	必修
	デジタルシステム設計			2	2	選択
	システムLSI			2	2	選択
	システム工学とプロジェクト管理			2	2	選択
知能情報メディア工学	マルチメディア工学	2			2	選択
	データベース		2		2	選択
	人工知能基礎	2			2	選択
	自然言語処理		2		2	選択
	コンピュータグラフィックス		2		2	選択
	人工知能応用		2		2	選択
	デジタル信号処理			2	2	選択
	ロボティクス			2	2	選択
	ヒューマンコンピュータ・インタラクション			2	2	必修
	情報セキュリティ			2	2	選択
	音情報処理			2	2	選択
画像情報処理			2	2	選択	
パターン認識			2	2	選択	
共通	プロジェクト型演習Ⅰ		2		2	選択
	プロジェクト型演習Ⅱ			2	2	選択
	情報技術資格Ⅰ		2		2	選択
	情報技術資格Ⅱ			2	2	選択
	卒業研究				6	6

(イ) 情報通信工学科

A. 専門基礎科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
数学・物理学	微分積分Ⅰ	2				2	必修
	微分積分Ⅱ	2				2	必修
	微分方程式とベクトル解析		2			2	選択
	幾何学とマルチメディア			2		2	選択
	応用幾何学				2	2	選択
	線形代数Ⅰ	2				2	必修
	線形代数Ⅱ	2				2	必修
	確率・統計		2			2	選択
	複素関数論			2		2	選択
	代数学と暗号			2		2	選択
	代数学と符号化				2	2	選択
	基礎物理学	2				2	必修
	物理学Ⅰ	2				2	選択
	物理学Ⅱ		2			2	選択
	現代物理学入門			2		2	選択
	光と物質			2		2	選択

§ 9-1

学則

§ 9-2

学位規程

§ 9-3

履修要項

§ 9-4

技術者教育
プログラム要領

§ 9-5

数値・データサイエンス
・AI教育プログラム要領

§ 9-6

社会環境学科コース制
教育プログラム要領

§ 9-7

6年一貫教育プログラム要領

§ 9-8

その他

B. 専門教育科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
情報工学	コンピュータ工学	2				2	必修
	データ構造とアルゴリズム		2			2	選択
	情報セキュリティⅠ			2		2	選択
	情報セキュリティⅡ			2		2	選択
	情報理論		2			2	必修
	デジタル信号処理Ⅰ			2		2	選択
	デジタル信号処理Ⅱ			2		2	選択
プログラミング	プログラミング基礎Ⅰ	2				2	必修
	プログラミング基礎Ⅱ	2				2	必修
	オブジェクト指向プログラミングⅠ		2			2	必修
	オブジェクト指向プログラミングⅡ		2			2	選択
	スクリプト言語プログラミングⅠ			2		2	選択
	スクリプト言語プログラミングⅡ			2		2	選択
	Webデザイン	2				2	必修
	バーチャルデザイン		2			2	選択
	Webデータベース			2		2	選択
Webプログラミング			2		2	選択	
情報ネットワーク工学	情報ネットワークⅠ	2				2	必修
	情報ネットワークⅡ		2			2	必修
	情報ネットワークⅢ		2			2	選択
	ネットワークシステムⅠ		2			2	必修
	ネットワークシステムⅡ		2			2	選択
	ネットワークシミュレーション			2		2	選択
	ネットワークプログラミング			2		2	選択
通信基礎	電気回路Ⅰ	2				2	必修
	電気回路Ⅱ	2				2	必修
	電気回路Ⅲ		2			2	選択
	計測工学Ⅰ		2			2	選択
	計測工学Ⅱ			2		2	選択
	電子回路Ⅰ	2				2	必修
	電子回路Ⅱ		2			2	選択
	デジタル回路Ⅰ		2			2	選択
デジタル回路Ⅱ		2			2	選択	
無線工学	電磁気学Ⅰ	2				2	選択
	電磁気学Ⅱ		2			2	選択
	電磁波伝搬		2			2	選択
	アンテナ工学			2		2	選択
	電磁波応用技術			2		2	選択
	モバイルコミュニケーション工学				2	2	選択
情報伝送工学	情報通信工学Ⅰ		2			2	必修
	情報通信工学Ⅱ		2			2	必修
	情報伝送工学			2		2	選択
	情報交換システム			2		2	選択
実験・研究	コンピュータソフトウェア実験	2				2	必修
	計測・回路実験	2				2	必修
	情報通信基礎実験		4			4	必修
	情報通信応用実験			4		4	必修
	卒業研究				6	6	必修
科目 得支援 資格取	情報技術資格		2			2	選択
	通信法規			2		2	選択
科目 共通	技術者倫理		2			2	選択

§ 9-1 学則

§ 9-2 学位規程

§ 9-3 履修要項

§ 9-4 技術者教育プログラム要領

§ 9-5 数値・データサイエンス・AI教育プログラム要領

§ 9-6 社会環境学科コース制教育プログラム要領

§ 9-7 6年一貫教育プログラム要領

§ 9-8 その他

(ウ) 情報システム工学科
A. 専門基礎科目

区分	授 業 科 目	履修年次及び単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	計	
専門基礎科目	線形代数Ⅰ	2				2	必修
	線形代数Ⅱ	2				2	必修
	数学演習	2				2	必修
	解析Ⅰ	2				2	必修
	解析Ⅱ	2				2	必修
	解析Ⅲ		2			2	選択
	微分方程式		2			2	選択
	幾何学とマルチメディア			2		2	選択
	代数学と暗号			2		2	選択
	応用幾何学				2	2	選択
	代数学と符号化				2	2	選択
	物理学Ⅰ	2				2	必修
	物理学Ⅱ	2				2	選択
	情報物理実験	2				2	必修
複素関数論			2		2	選択	

B. 専門教育科目

区分	授 業 科 目	履修年次及び単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	計	
情報基礎工学	技術基礎数学	2				2	必修
	情報技術史		2			2	選択
	電気工学基礎	2				2	必修
	論理回路		2			2	必修
	電子工学基礎	2				2	必修
	確率統計		2			2	必修
	情報解析学		2			2	必修
	情報技術者倫理		2			2	選択
	テクニカルライティング			2		2	必修
	アカデミックプレゼンテーション			2		2	必修
	フューチャープランニング		2			2	必修
	情報工学	CプログラミングⅠ	2				2
CプログラミングⅡ		2				2	必修
データ構造とアルゴリズム			2			2	選択
計算機工学Ⅰ		2				2	必修
計算機工学Ⅱ			2			2	選択
応用プログラミングⅠ			2			2	選択
マルチメディアWeb技術				2		2	選択
応用プログラミングⅡ				2		2	選択
情報ネットワークシステム			2			2	選択
コンピュータグラフィックス				2		2	選択
画像処理工学				2		2	選択
人工知能				2		2	選択

システム工学	ロボット設計	2				2	必修
	生体情報計測学		2			2	必修
	センサ情報処理		2			2	選択
	生体システム論			2		2	選択
	機械システム論			2		2	選択
	システム制御工学Ⅰ		2			2	必修
	システム制御工学Ⅱ			2		2	選択
	デジタル制御工学			2		2	選択
	基礎ロボット工学		2			2	必修
	知能ロボット工学			2		2	選択
	メカトロアクチュエータ			2		2	選択
	ロボットシミュレーション			2		2	選択
	組込みシステム			2		2	選択
システム開発応用			2		2	選択	
共通	情報リテラシー	2				2	必修
	情報技術資格Ⅰ		2			2	選択
	情報技術資格Ⅱ			2		2	選択
	フレッシュマンプログラム	2				2	必修
	情報システム工学実験Ⅰ		2			2	必修
	情報システム工学実験Ⅱ		2			2	必修
	情報システム工学概論		2			2	必修
	情報システム工学実験Ⅲ			2		2	必修
	情報システム工学実験Ⅳ			2		2	必修
卒業研究					6	6	必修

(工) 情報マネジメント学科

A. 専門基礎科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
専門基礎科目	基礎数学Ⅰ	3				3	必修
	基礎数学Ⅱ	3				3	必修
	物理学Ⅰ	2				2	選択
	物理学Ⅱ	2				2	選択
	統計学への誘い	2				2	必修
	解析学	2				2	選択
	線形代数		2			2	選択
	微分方程式		2			2	選択
	情報数理入門		2			2	選択
	離散数学Ⅰ		2			2	選択
	離散数学Ⅱ			2		2	選択

§ 9-1 学則

§ 9-2 学位規程

§ 9-3 履修要項

§ 9-4 技術者教育プログラム要領

§ 9-5 数値・データサイエンス・AI教育プログラム要領

§ 9-6 社会環境学科コース制教育プログラム要領

§ 9-7 6年一貫教育プログラム要領

§ 9-8 その他

B. 専門教育科目

区分	授 業 科 目	履修年次及び単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	計	
経営工学	経営システム論	2				2	必修
	インダストリアル・エンジニアリング	2				2	必修
	オペレーションズ・リサーチI		2			2	必修
	オペレーションズ・リサーチII		2			2	必修
	経営管理論		2			2	必修
	工業心理学		2			2	選択
	経営計算論		2			2	選択
	生産管理論		2			2	必修
	人間工学		2			2	選択
	オペレーションズ・リサーチIII			2		2	選択
	ゲーム理論			2		2	選択
	サプライチェーン・マネジメント			2		2	選択
	信頼性工学			2		2	選択
	マーケティング論			2		2	選択
	品質管理論			2		2	選択
	e-ビジネス論			2		2	選択
ベンチャービジネス論			2		2	選択	
データサイエンス	コンピュータ基礎学	2				2	選択
	WEBデザイン	2				2	選択
	プログラミング入門	2				2	必修
	データベース	2				2	必修
	プログラミングI		2			2	必修
	プログラミングII		2			2	選択
	社会調査のためのデータサイエンス		2			2	必修
	科学分析のためのデータサイエンス		2			2	選択
	数理モデリング		2			2	必修
	メディア科学I		2			2	選択
	感性工学		2			2	選択
	確率システム入門		2			2	選択
	ソフトウェア開発			2		2	選択
	データビジュアライゼーション			2		2	選択
	人工知能			2		2	選択
	メディア科学II			2		2	選択
	ソフトコンピューティング			2		2	選択
	応用データサイエンス			2		2	選択
	経営シミュレーション			2		2	選択
	金融工学			2		2	選択
共通	情報リテラシー	2				2	必修
	情報マネジメント基礎演習 I	2				2	必修
	情報マネジメント基礎演習 II	2				2	必修
	データ構造とアルゴリズム		2			2	選択
	グローバルデジタル概論		2			2	必修
	情報倫理		2			2	必修
	情報マネジメント実践演習		4			4	選択
	情報マネジメント海外事情		2			2	必修
	知的所有権と法			2		2	選択
	情報技術演習 I	2				2	選択
	情報技術演習 II			2		2	選択
卒研ゼミ	情報マネジメントゼミナール		4			4	必修
	情報マネジメントプロジェクト演習			4		4	必修
	卒業研究				6	6	必修

[注] 共通科目「情報マネジメント海外事情」は2年または3年のいずれかの学年で履修可能。

3. 社会環境学部

社会環境学科

(1) 教養力育成科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考	
		1年	2年	3年	4年	計		
コア群	キャリア・デザイン	2				2	必修	英語科目は、習熟度により①②③④からそれぞれ1科目を受講。
	コミュニケーション・デザイン	2				2	必修	
	ウェルネス基礎	2				2	必修	
	Freshman English A	} ①	2			2	選/必	
	Advanced English A		2			2	選/必	
	Freshman English B	} ②	2			2	選/必	
	Advanced English B		2			2	選/必	
	Essential English A	} ③		2		2	選/必	
	Communicative English A			2		2	選/必	
	Essential English B	} ④		2		2	選/必	
Communicative English B			2		2	選/必		
展開群	自己成長と学び		2			2	選択	
	ITリテラシー	2				2	選択	
	AIデータサイエンス基礎	2				2	選択	
	生命と生態系	2				2	選択	
	化学と生活	2				2	選択	
	科学史	2				2	選択	
	産業デザイン		2			2	選択	
	地域創生論	2				2	選択	
	市民生活と法	2				2	選択	
	日本国憲法	2				2	選択	
	心理学	2				2	選択	
	文学	2				2	選択	
	現代倫理	2				2	選択	
	経済学	2				2	選択	
	社会学	2				2	選択	
	九州学	2				2	選択	
	異文化理解	2				2	選択	
	中国の文化と言葉		2			2	選択	
	韓国の文化と言葉		2			2	選択	
	歴史学概論	2				2	選択	
地理学概論	2				2	選択		
実践知	ウェルネス応用		2			2	選択	
	地域創生PBL	2				2	選択	
	日本語実践		2			2	選択	
	仕事理解型実習		2			2	選択	
	課題解決型インターンシップ			2		2	選択	
	海外研修	2				2	選択	

(2) 横断科目

区分	授業科目	履修年次及び単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	計	
横断科目	Future Vision講座	1				1	選択
	Future Vision実践	1				1	選択

「Future Vision講座」および「Future Vision実践」の各科目においては、原則として科目名に（ ）書きで主題を付し、個別の科目として開講し、複数履修し、取得することができる。

§ 9-1 学則

§ 9-2 学位規程

§ 9-3 履修要項

§ 9-4 技術者教育プログラム要領

§ 9-5 数値・データサイエンス・AI教育プログラム要領

§ 9-6 社会環境学科コース制教育プログラム要領

§ 9-7 6年一貫教育プログラム要領

§ 9-8 その他

(3) 専門教育科目

社会環境学科

区分	授 業 科 目	履修年次及び単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	計	
基礎科目	社会環境学Ⅰ（総論）	2				2	必修
	社会環境学Ⅱ（経済と環境）	2				2	必修
	社会環境学Ⅲ（法学入門）	2				2	必修
	社会環境学Ⅳ（人間と環境）	2				2	必修
	経営学概論	2				2	必修
	マクロ経済学	2				2	必修
基幹科目	空間情報学Ⅰ	2				2	選択
	政治学Ⅰ	2				2	選択
	人権論	2				2	選択
	会計学	2				2	選択
	民法Ⅰ	2				2	選択
	環境政策Ⅰ		2			2	選択
	企業論		2			2	選択
	ミクロ経済学		2			2	選択
	環境社会学		2			2	選択
	環境民俗学		2			2	選択
	環境経済学		2			2	選択
環境生態学			2		2	選択	
ナゼミ	基礎ゼミナール	4				4	必修
	ゼミナールⅠ		4			4	必修
	ゼミナールⅡ			4		4	必修
	ゼミナールⅢ				4	4	必修

[注] 基幹科目より6単位以上修得すること。

展開科目	簿記論	2				2	選択
	空間情報学Ⅱ	2				2	選択
	国際関係史	2				2	選択
	社会統計学	2				2	選択
	環境地理学		2			2	選択
	経済発展論		2			2	選択
	政治学Ⅱ		2			2	選択
	情報法		2			2	選択
	公共経済学		2			2	選択
	国際法Ⅰ		2			2	選択
	財務会計論		2			2	選択
	自然環境調査法		2			2	選択
	環境水文学		2			2	選択
	地域社会学		2			2	選択
	マーケティング論Ⅰ		2			2	選択
	民俗学概論		2			2	選択
	社会調査法		2			2	選択
	民法Ⅱ		2			2	選択
	アジア経済論		2			2	選択
	環境政策Ⅱ		2			2	選択

展開科目	行政学		2		2	選択
	経営情報論		2		2	選択
	経営戦略論Ⅰ		2		2	選択
	経営分析論		2		2	選択
	国際法Ⅱ		2		2	選択
	人間存在と環境		2		2	選択
	防災情報学		2		2	選択
	民法Ⅲ		2		2	選択
	知的財産法Ⅰ		2		2	選択
	マーケティング論Ⅱ		2		2	選択
	環境会計論			2	2	選択
	環境経営論			2	2	選択
	環境法			2	2	選択
	地方自治論			2	2	選択
	経営組織論			2	2	選択
	国際貿易論			2	2	選択
	資源エネルギー政策論			2	2	選択
	大気環境学			2	2	選択
	文化環境論			2	2	選択
	知的財産法Ⅱ			2	2	選択
	国際取引法			2	2	選択
	経営戦略論Ⅱ			2	2	選択
	地域デザイン論			2	2	選択
	環境管理論			2	2	選択
	環境人類学			2	2	選択
	法・政策の諸問題			2	2	選択
	国際環境協力論			2	2	選択
	人的資源管理論			2	2	選択
	地域開発論			2	2	選択
	社会心理学			2	2	選択
	フィールドワーク			4	4	選択
	経済政策論				2	2
国際環境法				2	2	選択
環境分析論				2	2	選択
人間環境学				2	2	選択

§ 9-1

学則

§ 9-2

学位規程

§ 9-3

履修要項

§ 9-4

技術者教育
プログラム要領

§ 9-5

数値・データサイエンス
・AI教育プログラム要領

§ 9-6

社会環境学科コース制
教育プログラム要領

§ 9-7

6年一貫教育プログラム要領

§ 9-8

その他

別表3 学則39条第1項に係る教職課程に関する科目及び単位数

1. 工学部／電子情報工学科・生命環境化学科・
知能機械工学科・電気工学科
(高等学校工業)

(1) 教育の基礎的理解に関する科目等については、
次より23単位を修得するものとする。

- 教師論 2
- 教育原理 2
- 教育心理学 2
- 教育行政学 2
- 教育の方法と ICT 活用 2
- 特別支援教育論 2
- 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2
- 生徒・進路指導論 2
- 教育相談の基礎 2
- 教職実践演習(中・高) 2
- 教育実習Ⅰ 3

(2) 教科及び教科の指導法に関する科目については、
次より36単位を修得するものとする。なお、教科
に関する科目及び配当単位数は履修要項に定める。

- イ 教科に関する科目
 - 工業の関係科目
 - 職業指導
- 教科の指導法に関する科目
 - 工業科教育法Ⅰ 2
 - 工業科教育法Ⅱ 2

2. 工学部／生命環境化学科
(中学校理科、高等学校理科)

(1) 教育の基礎的理解に関する科目等については、
次より中学校教諭一種免許状は27単位、高等学校
教諭一種免許状は23単位を修得するものとする。

- 教師論 2
- 教育原理 2
- 教育心理学 2
- 教育行政学 2
- 道德教育論 2
- 教育の方法と ICT 活用 2
- 特別支援教育論 2
- 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2
- 生徒・進路指導論 2
- 教育相談の基礎 2
- 教職実践演習(中・高) 2
- 教育実習Ⅰ 3 又は教育実習Ⅱ 5

(2) 教科及び教科の指導法に関する科目につい
ては、次より中学校教諭一種免許状は32単位、高
等学校教諭一種免許状は36単位を修得するもの
とする。なお、教科に関する科目及び配当単位数
は履修要項に定める。

- イ 教科に関する科目
 - (イ) 中学校理科
 - 物理学
 - 化学
 - 生物学
 - 地学
 - 物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実
験
 - (ロ) 高等学校理科
 - 物理学
 - 化学

生物学
地学
〔物理学実験、化学実験、生物学実験、地学
実験〕

- 教科の指導法に関する科目
 - 理科教育法Ⅰ 2
 - 理科教育法Ⅱ 2
 - 理科教育法Ⅲ 2
 - 理科教育法Ⅳ 2

3. 情報工学部(中学校数学、高等学校数学)

(1) 教育の基礎的理解に関する科目等については、
次より中学校教諭一種免許状は27単位、高等学校
教諭一種免許状は23単位を修得するものとする。

- 教師論 2
- 教育原理 2
- 教育心理学 2
- 教育行政学 2
- 道德教育論 2
- 教育の方法と ICT 活用 2
- 特別支援教育論 2
- 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2
- 生徒・進路指導論 2
- 教育相談の基礎 2
- 教職実践演習(中・高) 2
- 教育実習Ⅰ 3 又は教育実習Ⅱ 5

(2) 教科及び教科の指導法に関する科目につい
ては、次より中学校教諭一種免許状は32単位、高
等学校教諭一種免許状は36単位を修得するもの
とする。なお、教科に関する科目及び配当単位数
は履修要項に定める。

- イ 教科に関する科目
 - 代数学
 - 幾何学
 - 解析学
 - 〔確率論、統計学〕
 - コンピュータ
- 教科の指導法に関する科目
 - 数学科教育法Ⅰ 2
 - 数学科教育法Ⅱ 2
 - 数学科教育法Ⅲ 2
 - 数学科教育法Ⅳ 2

4. 情報工学部(高等学校情報)

(1) 教育の基礎的理解に関する科目等については、
次より23単位を修得するものとする。

- 教師論 2
- 教育原理 2
- 教育心理学 2
- 教育行政学 2
- 教育の方法と ICT 活用 2
- 特別支援教育論 2
- 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2
- 生徒・進路指導論 2
- 教育相談の基礎 2
- 教職実践演習(中・高) 2
- 教育実習Ⅰ 3

(2) 教科及び教科の指導法に関する科目につい
ては、次より36単位を修得するものとする。なお、教科

に関する科目及び配当単位数は履修要項に定める。

イ 教科に関する科目

情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理

コンピュータ・情報処理

情報システム

情報通信ネットワーク

マルチメディア表現・マルチメディア技術

ロ 教科の指導法に関する科目

情報科教育法Ⅰ 2

情報科教育法Ⅱ 2

5. 社会環境学部（中学校社会、高等学校公民）

(1) 教育の基礎的理解に関する科目等については、次より中学校教諭一種免許状は27単位、高等学校教諭一種免許状は23単位を修得するものとする。

教師論 2

教育原理 2

教育心理学 2

教育行政学 2

道徳教育論 2

教育の方法とICT活用 2

特別支援教育論 2

特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2

生徒・進路指導論 2

教育相談の基礎 2

教職実践演習（中・高） 2

教育実習Ⅰ 3 又は教育実習Ⅱ 5

(2) 教科及び教科の指導法に関する科目については、次より中学校教諭一種免許状は32単位、高等学校教諭一種免許状は36単位を修得するものとする。なお、教科に関する科目及び配当単位数は履修要項に定める。

イ 教科に関する科目

(イ) 中学校社会

日本史・外国史

地理学（地誌を含む。）

〔法律学、政治学〕

〔社会学、経済学〕

〔哲学、倫理学、宗教学〕

(ロ) 高等学校公民

〔法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）〕

〔社会学、経済学（国際経済を含む。）〕

〔哲学、倫理学、宗教学、心理学〕

ロ 教科の指導法に関する科目

社会科教育法Ⅰ 2

社会科教育法Ⅱ 2

社会科・公民科教育法Ⅰ 2

社会科・公民科教育法Ⅱ 2

別表4

学則第47条に係る検定料、
入学金および授業料等（単位：円）

1-1 検定料

検定料	共通テスト利用 選抜検定料	共通テスト併用型 選抜検定料
30,000	15,000	5,000

1-2 検定料併願割引

3教科型選抜を2日間とも受験する場合の検定料	3教科型選抜を1日と共通テスト利用選抜（前期）を受験する検定料	3教科型選抜を2日間と共通テスト利用選抜（前期）を受験する検定料
40,000	35,000	50,000

共通テスト利用選抜は、4学科併願までは定額。5学科目の併願から1学科追加併願ごとに5,000円の検定料とする。併願割引は、同時出願の場合にのみ適用する。

2

	工学部・情報工学部	社会環境学部
入 学 金	200,000	200,000
授 業 料	980,000	764,000
施設設備費	270,000	170,000
実験実習費	90,000	—
図 書 費	10,000	10,000
学生厚生費	20,000	20,000

§ 9-1

学則

§ 9-2

学位規程

§ 9-3

履修要項

§ 9-4

技術教育
プログラム要領

§ 9-5

数値・データサイエンス
AI教育プログラム要領

§ 9-6

社会環境学科コース制
教育プログラム要領

§ 9-7

6年一貫教育プログラム要領

§ 9-8

その他

§ 9-2. 学位規程

福岡工業大学学位（学士）規程

(目的)

第1条 この規程は、学則第38条の規定に基づき、福岡工業大学（以下「本学」という。）が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、次のとおりとする。

学 部	学 科	学位の種 類
工学部	電子情報工学科 生命環境化学科 知能機械工学科 電気工学科	学士 (工学)
情報工学部	情報工学科 情報通信工学科 情報システム工学科 情報マネジメント学科	学士 (情報工学)
社会環境学部	社会環境学科	学士 (社会環境学)

(学位授与の要件)

第3条 前条による学位は、学則第37条の定めにより卒業を認定された者に授与する。

(学位の授与)

第4条 学位の授与は、当該学部教授会の議を経て、学長が行う。

2 学位記様式は、別表のとおりとする。

附 則

(省略)

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

別表

第 号	卒業証書・学位記
大学印	(学 生 氏 名) 年 月 日生
本学所定の課程を修めて本学を卒業したことを認め 学士 (☆) の学位を授与する 年 月 日	
福岡工業大学 学長 (氏 名)	学長印

(備考) ☆印の個所は、工学部は工学、情報工学部は情報工学、社会環境学部は社会環境学の名称を記入する。

§ 9-3. 履修要項

1 工学部

福岡工業大学工学部 履修要項

第1章 総則

第1条 学生が卒業資格を得るための履修は、福岡工業大学学則（以下学則という。）第28条から第37条までの規定及びこの履修要項の定めるところによる。

第2章 科目の履修

第2条 教育課程の授業科目は次のように分類する。

- (1) 授業科目は、教養力育成科目、横断科目、専門基礎科目及び専門教育科目に分ける。
- (2) 上記の授業科目は、必修科目及び選択科目からなる。
- (3) 必修科目のうち、各学科が特に重視する科目をコア科目として指定する。
- (4) 第1号の横断科目に関し、必要な事項は別に定める。

第3条 学生が4年以上在学し卒業資格を得るためには、次の単位を取得しなければならない。

- (1) 教養力育成科目

コア群	7科目 14単位
展開群	6科目 12単位以上
	合計26単位以上
- (2) 専門基礎科目及び専門教育科目
92単位以上
- (3) 教養力育成科目、横断科目、専門基礎科目及び専門教育科目から
14単位以上
総計132単位以上

第4条 技術者教育を目的とする教育プログラムの修了認定を希望する学生が、卒業資格を得るためには、4年以上在学し、別に定める当該学科の指定する卒業要件を満足しなければならない。

第5条 各授業科目の単位算定の基準は、学則第29条により次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習は、毎週1時間、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、製図、体育実技については、毎週2時間、30時間の授業をもって1単位とする。

第6条 各年次の学生が履修する科目及びその単位は別表に定める授業科目表のとおりとする。

第7条 学生は1年以上在学し、前条の規定による1年次の科目を電子情報工学科は32単位以上、生命環境化学科は32単位以上、知能機械工学科は32単位以上、電気工学科は30単位以上取得しなければならない。ただし、コア科目が設定されている学科については、2年次の進級条件に指定されたコア科目の全

単位を含むものとする。

第8条 学生は2年以上在学し、第6条の規定による1年次、2年次の科目を電子情報工学科は72単位以上、生命環境化学科は70単位以上、知能機械工学科は68単位以上、電気工学科は64単位以上取得しなければ3年次の科目を履修することはできない。ただし、コア科目が設定されている学科については、3年次の進級条件に指定されたコア科目の全単位を含むものとする。

第9条 学生は3年以上在学し、第6条の規定による1年次、2年次、3年次の科目を、電子情報工学科は専門基礎科目と専門教育科目86単位以上（うち必修科目74単位以上）を含み114単位以上、生命環境化学科、知能機械工学科、電気工学科は専門基礎科目と専門教育科目62単位以上を含みそれぞれ112単位以上、114単位以上、104単位以上取得しなければ、4年次の科目を履修することはできない。ただし、コア科目が設定されている学科については、コア科目の全単位を含むものとする。

第10条 卒業研究は、指導教員の同意を得て届け出た題目について研究し、定められた期日までに報告書を提出しなければならない。

第3章 受講

第11条 科目を履修するためには、その科目の講義（実験、実習、実技、演習、製図含む。以下同様）を受講しなければならない。

第12条 講義は、その開講期間によって次の6種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 後期開講、次年度前期完結講義
- (5) 集中講義
- (6) 臨時講義

第13条 選択科目は、年次により開講しないことがある。開講した講義でも受講人員が10人に満たない場合には、開講を取り止めることがある。

第14条 各講義は、その内容、講義室の都合により受講人員を制限する。

第15条 同一科目につき2つ以上の講義が開講されているときは、選択して受講することができる。ただし、授業の都合上、受講を特に指定しているときは、この限りでない。

第16条 受講のためには、履修届を所定の期間に教務課へ提出し、指示を受けねばならない。

- 2 正当な理由がなくて前項の期間中に履修届を提出しない者は、受講することはできない。また、一旦提出した履修届は、正当な理由なしに変更することはできない。

第17条 1年間に履修登録できる単位数は、卒業単位に含まない科目、認定科目及び外国人留学生科目を

§ 9-1

学則

§ 9-2

学位規程

§ 9-3

履修要項

§ 9-4

技術者教育プログラム要項

§ 9-5

数値・データサイエンス・AI教育プログラム要項

§ 9-6

社会環境学科コース制教育プログラム要項

§ 9-7

6年制教育プログラム要項

§ 9-8

その他

除き最大49単位とする。ただし、教育的配慮から例外を認めることがある。

第18条 受講の修正等は、所定の手続きにより教務課に届け出ることによって認められる場合がある。

第19条 他学部又は他学科の科目を履修しようとする者は、あらかじめその授業科目を教務課に届け出て許可を受けなければならない。

2 他学部又は他学科で履修できる科目は、当該学科が指定する科目及び教職課程の教科に関する科目のうち、当該学科のカリキュラムに設定されていない科目とする。但し、教職課程の教科に関する科目については、当該学科の卒業単位に含まないものとする。

3 当該学科のカリキュラムに設定されていない科目を、他学部又は他学科で履修する場合、12単位を上限とし、当該学科の卒業単位に含まないものとする。但し、特定の教育プログラムに対応する科目において、当該学科のカリキュラムに設定されていない科目を他学部又は他学科で履修する場合、上記上限単位数には含まれず、学則第37条第1項第1号ハの14単位に含まれるものとする。対象となる教育プログラムについては、別に定める。

第4章 試験及び成績評価

第20条 科目の試験は、講義期間内または各学期末に行う。

第21条 科目の成績評価は、原則として試験にて行う。ただし、試験は口頭試問、研究報告や論文などにかえることができる。

第22条 次の各号いずれかに該当する場合には、試験を受けることができない。

- (1) 試験を受けようとする科目をその学期において履修していないとき。
- (2) 授業料その他の納付金を完納していないとき。
- (3) 受験に際して有効な学生証を携帯していないとき。
- (4) 試験開始20分以上遅刻したとき。

第23条 削除

第24条 成績は、最高100点、最低0点の点数をもって評価する。

第25条 学則第36条所定の成績評価は、次の基準による。

- (1) 秀 100点より90点まで
- (2) 優 89点より80点まで
- (3) 良 79点より70点まで
- (4) 可 69点より60点まで
- (5) 不可 59点以下

成績表示「秀」「優」「良」及び「可」を合格とし、所定の単位を与え、「不可」を不合格とする。

第26条 試験において不正行為を行なった者に対しては、その学期の全履修科目の評点を0点とする。

第27条 病気その他止むを得ない事由により学期末の試験を受けることができない者に対しては、本人の願い出により追試験を行なうことがある。願い出に際しては、試験を受けられなかった事由を証明する文書を提出しなければならない。

第28条 前項の願い出は、当該科目の試験前日までになされねばならない。ただし、やむを得ない事情の場合はこの限りではない。

第29条 追試験の成績は、その得点の8割とする。ただし、情状によりこの率を緩和することがある。

第30条 追試験は、1科目につき1回限りとする。

第31条 可否に関わらず、当年度に履修した科目を翌年度以降に再履修することができる。

第32条 削除

第33条 削除

第34条 削除

第5章 教職課程

第35条 学則第39条に基づき、高等学校教諭一種免許状（工業）を得ようとする者は、本要項第3条に定める卒業に必要な単位のほか次の科目の単位を取得しなければならない。

(1) 教養力育成科目

日本国憲法	
日本国憲法	2単位
体育	
ウェルネス基礎	2単位
外国語コミュニケーション	
コア群の英語科目からいずれか1科目	2単位
情報機器の操作	
ITリテラシー	2単位

(2) 教育の基礎的理解に関する科目等

教師論	2単位（1年）
教育原理	2単位（2年）
教育心理学	2単位（2年）
教育行政学	2単位（2年）
特別支援教育論	2単位（3年）
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2単位（3年）
教育の方法とICT活用	2単位（2年）
生徒・進路指導論	2単位（3年）
教育相談の基礎	2単位（2年）
教職実践演習（中・高）	2単位（4年）
教育実習Ⅰ	3単位（4年）

(3) 教科及び教科の指導法に関する科目（教職課程必修科目を含むこと。）

専門教育科目	30単位（教職別表1に記載、卒業単位を含む。ただし工学概論を除く。）
職業指導	2単位（3年）
工業科教育法Ⅰ	2単位（3年）
工業科教育法Ⅱ	2単位（3年）

第36条 学則第39条に基づき、高等学校教諭一種免許状（理科）及び中学校教諭一種免許状（理科）を得ようとする者は、本要項第3条に定める卒業に必要な単位のほか次の科目の単位を取得しなければならない。

(1) 教養力育成科目（卒業単位に含む）

- 日本国憲法
- 日本国憲法 2単位
- 体 育
- ウェルネス基礎 2単位
- 外国語コミュニケーション
- コア群の英語科目からいずれか 1科目 2単位
- 情報機器の操作
- IT リテラシー 2単位

(2) 教育の基礎的理解に関する科目等

高等学校教諭一種免許状取得に必要な科目

- 教 師 論 2単位（1年）
- 教 育 原 理 2単位（2年）
- 教 育 心 理 学 2単位（2年）
- 教 育 行 政 学 2単位（2年）
- 特別支援教育論 2単位（3年）
- 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2単位（3年）
- 教育の方法と ICT 活用 2単位（2年）
- 生徒・進路指導論 2単位（3年）
- 教育相談の基礎 2単位（2年）
- 教職実践演習（中・高） 2単位（4年）
- 教 育 実 習 I 3単位（4年）

中学校教諭一種免許状取得に必要な科目*

- 教 師 論 2単位（1年）
- 教 育 原 理 2単位（2年）
- 教 育 心 理 学 2単位（2年）
- 教 育 行 政 学 2単位（2年）
- 特別支援教育論 2単位（3年）
- 道 徳 教 育 論 2単位（2年）
- 特別活動・総合的な学習の時間の指導法 2単位（3年）
- 教育の方法と ICT 活用 2単位（2年）
- 生徒・進路指導論 2単位（3年）
- 教育相談の基礎 2単位（2年）
- 教職実践演習（中・高） 2単位（4年）
- 教 育 実 習 II 5単位（4年）

* 中学・高校両教諭一種免許状取得に必要な科目は中学校教諭一種免許状取得に必要な科目と同一である。

(3) 教科及び教科の指導法に関する科目（うち専門教育科目は卒業単位に含む）

次の科目の中から、教職課程必修科目を含み、中学校教諭一種免許状は32単位、高等学校教諭一種免許状は36単位を取得しなければならない。

また、理科教育法Ⅰ～Ⅳのうち、高等学校教諭一種免許状は理科教育法Ⅰ～Ⅱの4単位、

中学校教諭一種免許状は理科教育法Ⅰ～Ⅳの8単位を取得しなければならない。

教職別表2に記載の科目

- 理科教育法Ⅰ 2単位（3年）
- 理科教育法Ⅱ 2単位（3年）
- 理科教育法Ⅲ 2単位（3年）
- 理科教育法Ⅳ 2単位（3年）

第6章 放送大学の科目履修

第37条 放送大学との単位互換協定に基づき、下記に指定する放送大学の科目の単位を修得した場合、学則第33条に基づき、本学の卒業単位として加算できるものとする。

放送大学との単位互換に伴う授業科目

本学科目分類	放送大学科目名	単位数
教養力育成科目	展開群 基盤科目	1科目2単位 (オンライン授業の1単位科目あり) *履修要項第3条(1)の展開群の単位として加算できる。

附 則

(省略)

27 この要項は、2025年4月1日から施行する。

※別表は、§ 4-1～§ 4-4各学科の2年次別授業科目表にそれぞれ記載

※教職別表1、教職別表2は、§ 2-3. 教職課程に記載

§ 9-1	学 則
§ 9-2	学 位 規 程
§ 9-3	履 修 要 項
§ 9-4	技術者教育 プログラム要領
§ 9-5	数 理 ・ デ ー タ サ イ エ ンス ・ AI 教 育 プ ロ グ ラ ム 要 領
§ 9-6	社 会 環 境 学 科 コ ー ス 制 教 育 プ ロ グ ラ ム 要 領
§ 9-7	6 年 一 貫 教 育 コ ー ス 制 プ ロ グ ラ ム 要 領
§ 9-8	そ の 他

2 情報工学部

福岡工業大学情報工学部 履修要項

第1章 総則

第1条 学生が卒業資格を得るための履修は、福岡工業大学学則（以下学則という。）第28条から第37条までの規定及びこの履修要項の定めるところによる。

第2章 科目の履修

第2条 教育課程の授業科目は次のように分類する。

- (1) 授業科目は、教養力育成科目、横断科目、専門基礎科目及び専門教育科目に分ける。
- (2) 上記の授業科目は、必修科目及び選択科目からなる。
- (3) 必修科目のうち、各学科が特に重視する科目をコア科目として指定する。
- (4) 第1号の横断科目に関し、必要な事項は別に定める。

第3条 学生が4年以上在学し卒業資格を得るためには、次の単位を取得しなければならない。

- (1) 教養力育成科目
コア群 7科目 14単位
展開群 5科目 10単位以上
合計24単位以上
- (2) 専門基礎科目及び専門教育科目
84単位以上
- (3) 教養力育成科目、横断科目、専門基礎科目及び専門教育科目から16単位以上
総計124単位以上

第4条 技術者教育を目的とする教育プログラムの修了認定を希望する学生が、卒業資格を得るためには、4年以上在学し、別に定める当該学科の指定する卒業要件を満足しなければならない。

第5条 各授業科目の単位算定の基準は、学則第29条により次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習は、毎週1時間、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、製図、体育実技については、毎週2時間、30時間の授業をもって1単位とする。

第6条 各年次の学生が履修する科目及びその単位は別表に定める授業科目表のとおりとする。

第7条 学生は1年以上在学しなければ、2年次の科目を履修することはできない。

第8条 学生は2年以上在学し、第6条の規定による1年次、2年次の科目64単位以上を取得しなければ3年次の科目を履修することはできない。

第9条 学生は3年以上在学し、専門基礎科目と専門教育科目62単位以上を含み、教養力育成科目の単

位と合わせて104単位以上を取得しなければ、4年次の科目を履修することはできない。

第10条 卒業研究は、指導教員の同意を得て届け出た題目について研究し、定められた期日までに報告書を提出しなければならない。

第3章 受講

第11条 科目を履修するためには、その科目の講義（実験、実習、実技、演習、製図含む。以下同様）を受講しなければならない。

第12条 講義は、その開講期間によって次の6種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 後期開講、次年度前期完結講義
- (5) 集中講義
- (6) 臨時講義

第13条 選択科目は、年次により開講しないことがある。開講した講義でも受講人員が10人に満たない場合には、開講を取り止めることがある。

第14条 各講義は、その内容、講義室の都合により受講人員を制限する。

第15条 同一科目につき2つ以上の講義が開講されているときは、選択して受講することができる。ただし、授業の都合上、受講を特に指定しているときは、この限りでない。

第16条 受講するためには、履修届を所定の期間に教務課へ提出し、指示を受けねばならない。

- 2 正当な理由がなくて前項の期間中に履修届を提出しない者は、受講することはできない。また、一旦提出した履修届は、正当な理由なしに変更することはできない。

第17条 1年間に履修登録できる単位数は、卒業単位に含まない科目、認定科目及び外国人留学生科目を除き最大49単位とする。ただし、教育的配慮から例外を認めることがある。

第18条 受講の修正等は、所定の手続きにより教務課に届け出ること認められる場合がある。

第19条 他学部又は他学科の科目を履修しようとする者は、あらかじめその授業科目を教務課に届け出て許可を受けなければならない。

- 2 他学部又は他学科で履修できる科目は、当該学科が指定する科目及び教職課程の教科に関する科目のうち、当該学科のカリキュラムに設定されていない科目とする。但し、教職課程の教科に関する科目については、当該学科の卒業単位に含まないものとする。

- 3 当該学科のカリキュラムに設定されていない科目を、他学部又は他学科で履修する場合、12単位を上限とし、当該学科の卒業単位に含まないものとする。但し、特定の教育プログラムに対応する科目において、当該学科のカリキュラムに設定

されていない科目を他学部又は他学科で履修する場合、上記上限単位数には含まれず、学則第37条第1項第2号ハの16単位に含まれるものとする。対象となる教育プログラムについては、別に定める。

第4章 試験及び成績評価

第20条 科目の試験は、講義期間内または各学期末に行う。

第21条 科目の成績評価は、原則として試験にて行う。ただし、試験は口頭試問、研究報告や論文などにかえることができる。

第22条 次の各号いずれかに該当する場合には、試験を受けることができない。

- (1) 試験を受けようとする科目をその学期において履修していないとき。
- (2) 授業料その他の納付金を完納していないとき。
- (3) 受験に際して有効な学生証を携帯していないとき。
- (4) 試験開始20分以上遅刻したとき。

第23条 削除

第24条 成績は、最高100点、最低0点の点数をもって評価する。

第25条 学則第36条所定の成績評価は、次の基準による。

- (1) 秀 100点より90点まで
- (2) 優 89点より80点まで
- (3) 良 79点より70点まで
- (4) 可 69点より60点まで
- (5) 不可 59点以下

成績表示「秀」「優」「良」及び「可」を合格とし、所定の単位を与え、「不可」を不合格とする。

第26条 試験において不正行為を行なった者に対しては、その学期の全履修科目の評点を0点とする。

第27条 病気その他止むを得ない事由により学期末の試験を受けることができない者に対しては、本人の願い出により追試験を行なうことがある。願い出に際しては、試験を受けられなかった事由を証明する文書を提出しなければならない。

第28条 前項の願い出は、当該科目の試験前日までになされねばならない。ただし、やむを得ない事情の場合はこの限りではない。

第29条 追試験の成績は、その得点の8割とする。ただし、情状によりこの率を緩和することがある。

第30条 追試験は、1科目につき1回限りとする。

第31条 可否に関わらず、当年度に履修した科目を翌年度以降に再履修することができる。

第32条 削除

第33条 削除

第34条 削除

第5章 教職課程

第35条 学則第39条に基づき、高等学校教諭一種免許状（数学）及び中学校教諭一種免許状（数学）を得ようとする者は、本要項第3条に定める卒業に必要な単位のほか次の科目の単位を取得しなければならない。

(1) 教養力育成科目（卒業単位に含む）

日本国憲法	
日本国憲法	2単位
体育	
ウェルネス基礎	2単位
外国語コミュニケーション	
コア群の英語科目からいずれか1科目	2単位

(2) 情報機器の操作に関する専門教育科目（卒業単位に含む）

情報工学科	
コンピュータリテラシー	2単位
情報通信工学科	
コンピュータソフトウェア実験	2単位
情報システム工学科	
情報リテラシー	2単位

(3) 教育の基礎的理解に関する科目等

高等学校教諭一種免許状取得に必要な科目	
教師論	2単位（1年）
教育原理	2単位（2年）
教育心理学	2単位（2年）
教育行政学	2単位（2年）
特別支援教育論	2単位（3年）
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2単位（3年）
教育の方法とICT活用	2単位（2年）
生徒・進路指導論	2単位（3年）
教育相談の基礎	2単位（2年）
教職実践演習（中・高）	2単位（4年）
教育実習Ⅰ	3単位（4年）
中学校教諭一種免許状取得に必要な科目*	
教師論	2単位（1年）
教育原理	2単位（2年）
教育心理学	2単位（2年）
教育行政学	2単位（2年）
特別支援教育論	2単位（3年）
道徳教育論	2単位（2年）
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2単位（3年）
教育の方法とICT活用	2単位（2年）
生徒・進路指導論	2単位（3年）
教育相談の基礎	2単位（2年）
教職実践演習（中・高）	2単位（4年）
教育実習Ⅱ	5単位（4年）

* 中学・高校両教諭一種免許状取得に必要な科目は、中学校教諭一種免許状取得に必要な科目と同一である。

(4) 教科及び教科の指導法に関する科目（うち専

§ 9-1	学則
§ 9-2	学位規程
§ 9-3	履修要項
§ 9-4	技術者教育プログラム要領
§ 9-5	数値・データサイエンス・AI教育プログラム要領
§ 9-6	社会環境学科コース制教育プログラム要領
§ 9-7	6年一貫教育プログラム要領
§ 9-8	その他

門教育科目は卒業単位に含む)
次の科目の中から、教職課程必修科目を含み、中学校教諭一種免許状は32単位、高等学校教諭一種免許状は36単位を取得しなければならない。

また、数学科教育法Ⅰ～Ⅳのうち、高等学校教諭一種免許状は、数学科教育法Ⅰ～Ⅱの4単位、中学校教諭一種免許状は、数学科教育法Ⅰ～Ⅳの8単位を取得しなければならない。

教職別表1に記載の科目

数学科教育法Ⅰ 2単位(3年)

数学科教育法Ⅱ 2単位(3年)

数学科教育法Ⅲ 2単位(3年)

数学科教育法Ⅳ 2単位(3年)

第36条 学則第39条に基づき、高等学校教諭一種免許状(情報)を得ようとする者は、本要項第3条に定める卒業に必要な単位のほか次の科目の単位を取得しなければならない。

(1) 教養力育成科目(卒業単位に含む)

日本国憲法

日本国憲法 2単位

体育

ウェルネス基礎 2単位

外国語コミュニケーション

コア群の英語科目からいずれか1科目
2単位

(2) 情報機器の操作に関する専門科目(卒業単位に含む)

情報工学科

コンピュータリテラシー 2単位

情報通信工学科

コンピュータソフトウェア実験 2単位

情報システム工学科

情報リテラシー 2単位

情報マネジメント学科

情報リテラシー 2単位

(3) 教育の基礎的理解に関する科目等

教師論 2単位(1年)

教育原理 2単位(2年)

教育心理学 2単位(2年)

教育行政学 2単位(2年)

特別支援教育論 2単位(3年)

特別活動・総合的な学習の時間の指導法
2単位(3年)

教育の方法とICT活用 2単位(2年)

生徒・進路指導論 2単位(3年)

教育相談の基礎 2単位(2年)

教職実践演習(中・高) 2単位(4年)

教育実習Ⅰ 3単位(4年)

(4) 教科及び教科の指導法に関する科目(教職必修科目を含むこと。)

専門教育科目 30単位(教職別表2に記載、卒業単位に含む)

情報職業論 2単位(3年生)

情報科教育法Ⅰ 2単位(3年)

情報科教育法Ⅱ 2単位(3年)

第6章 放送大学の科目履修

第37条 放送大学との単位互換協定に基づき、下記に指定する放送大学の科目の単位を修得した場合、学則第33条に基づき、本学の卒業単位として加算できるものとする。

放送大学との単位互換に伴う授業科目

本学科目分類	放送大学科目名	単位数
教養力育成科目 展開群	基盤科目	1科目2単位 (オンライン授業の1単位科目あり) *履修要項第3条(1)の展開群の単位として加算できる。

附 則

(省略)

27 この要項は、2025年4月1日から施行する。

※別表は、§5-1～§5-4各学科の2年次別授業科目表にそれぞれ記載

※教職別表1、教職別表2は、§2-3. 教職課程に記載

§ 9-1	学則
§ 9-2	学位規程
§ 9-3	履修要項
§ 9-4	技術教育プログラム要領
§ 9-5	数値・データサイエンス・AI教育プログラム要領
§ 9-6	社会環境学科コース制教育プログラム要領
§ 9-7	6年制教育プログラム要領
§ 9-8	その他

3 社会環境学部

福岡工業大学社会環境学部 履修要項

第1章 総則

第1条 学生が卒業資格を得るための履修は、福岡工業大学学則（以下学則という。）第28条から第37条までの規程及びこの履修要項の定めるところによる。

第2章 科目の履修

第2条 教育課程の授業科目は次のように分類する。

- (1) 授業科目は、教養力育成科目、横断科目及び専門教育科目に分ける。
- (2) 上記の授業科目は、必修科目及び選択科目からなる。
- (3) 必修科目のうち、学科が特に重視する科目をコア科目として指定する。
- (4) 第1号の横断科目に関し、必要な事項は別に定める。

第3条 学生が4年以上在学し卒業資格を得るためには、次の単位を取得しなければならない。

- (1) 教養力育成科目

コア群	7科目 14単位
展開群	6科目 12単位以上
	合計26単位以上
- (2) 専門教育科目

基礎科目から	12単位
基幹科目から	6単位以上
基幹科目（前記6単位を除く）又は展開科目から	46単位以上
ゼミナールから	16単位
	合計 80単位以上
- (3) 教養力育成科目、横断科目及び専門教育科目から

	18単位以上
	総計124単位以上

第4条 コース修了認定を希望する学生が修了認定を得るために必要な事項は、別に定める。

第5条 各授業科目の単位算定の基準は、学則第29条により次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習は、毎週1時間、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、体育実技等については、毎週2時間、30時間の授業をもって1単位とする。

第6条 各年次の学生が履修する科目及びその単位は別表に定める授業科目表のとおりとする。

第7条 学生は1年以上在学し、基礎ゼミナールを含む30単位以上を取得し、かつ当該年度に修得した科目において単年度 GPA1.2以上を取らなければ、次年度に2年次の科目を履修することはできない。

第8条 学生は2年以上在学し、ゼミナールⅠを含む62単位以上を取得し、かつ当該年度に修得した科目において単年度 GPA1.2以上を取らなければ、次年度に3年次の科目を履修することはできない。

第9条 学生は3年以上在学し、ゼミナールⅡを含む94単位以上を取得し、かつ当該年度に修得した科目において単年度 GPA1.2以上を取らなければ、次年度4年次の科目を履修することはできない。

第3章 受講

第10条 科目を履修するためには、その科目の講義（実験、実習、実技、演習等を含む。以下同様）を受講しなければならない。

第11条 講義は、その開講期間によって次の6種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 後期開講、次年度前期完結講義
- (5) 集中講義
- (6) 臨時講義

第12条 選択科目は、年次により開講しないことがある。開講した講義でも受講人員が10人に満たない場合には、開講を取り止めることがある。

第13条 各講義は、その内容、講義室の都合により受講人員を制限する。

第14条 同一科目につき2つ以上の講義が開講されているときは、選択して受講することができる。ただし、授業の都合上、受講を特に指定しているときは、この限りでない。

第15条 受講のためには、履修届を所定の期間に教務課へ提出し、指示を受けねばならない。

- 2 正当な理由がなくて前項の期間中に履修届を提出しない者は、受講することはできない。また、一旦提出した履修届は、正当な理由なしに変更することはできない。

第16条 1年間に履修登録できる単位数は、卒業単位に含まない科目、認定科目及び外国人留学生科目を除き最大44単位とする。ただし、教育的配慮から例外を認めることがある。

第17条 受講の修正等は、所定の手続きにより教務課に届け出ること認められる場合がある。

第18条 他学部又は他学科の科目を履修しようとする者は、あらかじめその授業科目を教務課に届け出て許可を受けなければならない。

- 2 他学部又は他学科で履修できる科目は、当該学科が指定する科目及び教職課程の教科に関する科目のうち、当該学科のカリキュラムに設定されていない科目とする。但し、教職課程の教科に関する科目については、当該学科の卒業単位に含まないものとする。

- 3 当該学科のカリキュラムに設定されていない科目を、他学部又は他学科で履修する場合、12単位を上限とする。但し、当該学科の卒業単位に含まないものとする。

第4章 試験及び成績評価

第19条 科目の試験は、講義期間内または各学期末に行う。

第20条 科目の成績評価は、原則として試験にて行う。ただし、試験は口頭試問、研究報告や論文などにかえることができる。

第21条 次の各号いずれかに該当する場合には、試験を受けることができない。

- (1) 試験を受けようとする科目をその学期において履修していないとき。
- (2) 授業料その他の納付金を完納していないとき。
- (3) 受験に際して有効な学生証を携帯していないとき。
- (4) 試験開始20分以上遅刻したとき。

第22条 試験の成績は、最高100点、最低0点の点数をもって評価する。

第23条 学則第36条所定の成績評価は、次の基準による。

- (1) 秀 100点より90点まで
- (2) 優 89点より80点まで
- (3) 良 79点より70点まで
- (4) 可 69点より60点まで
- (5) 不可 59点以下

成績表示「秀」「優」「良」及び「可」を合格とし、所定の単位を与え、「不可」を不合格とする。

2 GPA (Grade Point Average) は、個々の科目の成績評価に基づき、履修した全科目における1単位当たりの成績評価の平均値を表すものである。学修到達度を測定することを目的に、次の計算式により算出する。

$$GPA = \frac{(\text{科目の単位数}) \times (\text{科目で得た最新のGP}) \text{の総和}}{\text{履修総単位数}}$$

※履修総単位数について、同一科目は重複カウントしない。

GPの換算

評価	秀	優	良	可	認定	不可
評点	100~90	89~80	79~70	69~60	-	59~0
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	-	0

第24条 試験において不正行為を行なった者に対しては、その学期の全履修科目の評点を0点とする。

第25条 病気その他止むを得ない事由により学期末の試験を受けることができない者に対しては、本人の願い出により追試験を行なうことがある。願い出に際しては、試験を受けられなかった事由を証明

する文書を提出しなければならない。

第26条 前項の願い出は、当該科目の試験前日までになされねばならない。ただし、やむを得ない事情の場合はこの限りではない。

第27条 追試験の成績は、その得点の8割とする。ただし、情状によりこの率を緩和することがある。

第28条 追試験は、1科目につき1回限りとする。

第29条 可否に関わらず、当年度に履修した科目を翌年度以降に再履修することができる。

第30条 削除

第31条 削除

第32条 削除

第5章 教職課程

第33条 学則第39条により教育職員免許法の定めるところにより高等学校教諭一種免許状（公民）及び中学校教諭一種免許状（社会）を得ようとする者は、本要項第3条に定める卒業に必要な単位のほか次の科目の単位を取得しなければならない。

(1) 教養力育成科目

日本国憲法	2単位
日本国憲法	2単位
体育	2単位
ウェルネス基礎	2単位
外国語コミュニケーション	2単位
コア群の英語科目からいずれか	1科目
情報機器の操作	2単位
ITリテラシー	2単位

(2) 教育の基礎的理解に関する科目等

高等学校教諭一種免許状取得に必要な科目	
教師論	2単位（1年）
教育原理	2単位（2年）
教育心理学	2単位（2年）
教育行政学	2単位（2年）
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2単位（3年）
教育の方法とICT活用	2単位（2年）
特別支援教育論	2単位（3年）
生徒・進路指導論	2単位（3年）
教育相談の基礎	2単位（2年）
教職実践演習（中・高）	2単位（4年）
教育実習Ⅰ	3単位（4年）
中学校教諭一種免許状取得に必要な科目*	
教師論	2単位（1年）
教育原理	2単位（2年）
教育心理学	2単位（2年）
教育行政学	2単位（2年）
道徳教育論	2単位（2年）
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2単位（3年）
教育の方法とICT活用	2単位（2年）
特別支援教育論	2単位（3年）

- 生徒・進路指導論 2単位 (3年)
- 教育相談の基礎 2単位 (2年)
- 教職実践演習 (中・高) 2単位 (4年)
- 教育実習Ⅱ 5単位 (4年)

* 中学・高校両教諭一種免許状取得に必要な科目は、中学校教諭一種免許状取得に必要な科目と同一である。

(3) 教科及び教科の指導法に関する科目 (教職必修科目を含むこと。)

高等学校教諭一種免許状取得に必要な科目
教職別表記載の科目 32単位 (卒業単位を含む)

- 社会科・公民科教育法Ⅰ 2単位 (3年)
- 社会科・公民科教育法Ⅱ 2単位 (3年)

中学校教諭一種免許状取得に必要な科目
教職別表記載の科目 24単位 (卒業単位を含む)

- 社会科教育法Ⅰ 2単位 (3年)
- 社会科教育法Ⅱ 2単位 (3年)
- 社会科・公民科教育法Ⅰ 2単位 (3年)
- 社会科・公民科教育法Ⅱ 2単位 (3年)

第6章 放送大学の科目履修

第34条 放送大学との単位互換協定に基づき、下記に指定する放送大学の科目の単位を修得した場合、学則第33条に基づき、本学の卒業単位として加算できるものとする。

放送大学との単位互換に伴う授業科目

本学科目分類	放送大学科目名	単位数
教養力育成科目 展開群	基盤科目	1科目2単位 (オンライン授業の1単位科目あり) *履修要項第3条(1)の展開群単位として加算できる。

附 則
(省略)

17 この要項は、2025年4月1日から施行する。

※別表は、§ 6-1社会環境学科の2年次別授業科目表に記載

※教職別表は、§ 2-3. 教職課程に記載

§ 9-1	学則
§ 9-2	学位規程
§ 9-3	履修要項
§ 9-4	技術者教育プログラム要領
§ 9-5	数値・データサイエンス・AI教育プログラム要領
§ 9-6	社会環境学科コース制教育プログラム要領
§ 9-7	6年一貫教育プログラム要領
§ 9-8	その他

§ 9-4. 技術者教育プログラム要領

1 (工学部) 電子情報工学科

電子情報工学科 技術者教育プログラム要領

(目的)

第1条 学則第37条第2項及び工学部履修要項第4条に基づき、技術者教育を目的とする教育プログラム(以下、技術者教育プログラムという。)として、教育プログラム「電子情報工学科」を電子情報工学科に設ける。この要領により、この技術者教育プログラムの履修及び卒業要件について定める。

(履修)

第2条 電子情報工学科への入学生全員が技術者教育プログラムの履修者となる。

第3条 2年次進級時、3年次進級時、4年次進級時に、それぞれ工学部履修要項第7条、第8条、第9条に定める単位を取得していなければならない。

(卒業)

第4条 次の卒業要件を全て満たし総計132単位以上を取得することにより、技術者教育プログラムが修了したものと認定される。

1. 工学部履修要項第3条の要件を満たしていなければならない。
2. 必修科目の全ての単位を取得すること。

附 則

この要領は、平成30年度入学生から適用する。

2 (工学部) 知能機械工学科

知能機械工学科 技術者教育プログラム要領

(目的)

第1条 学則第37条第2項及び工学部履修要項第4条に基づき、技術者教育を目的とする教育プログラム(以下、技術者教育プログラムという。)[知能機械工学科]を知能機械工学科に設ける。この要領により、この技術者教育プログラムの履修及び卒業要件について定める。

(履修)

第2条 知能機械工学科への入学生全員がプログラム履修者となる。

第3条 工学部履修要項第7条、第8条、第9条の定める2年次進級時に32単位以上を、3年次進級時に68単位以上を、4年次進級時に114単位以上、かつ各年次進級時に指定されたコア科目の全てを取得していなければならない。

(卒業)

第4条 次の卒業要件を全て満たし総計132単位以上を取得することにより、技術者教育プログラムが修

了したものと認定される。

- (1) 工学部履修要項第3条の要件を満たしていなければならない。
- (2) 必修科目の全ての単位を取得すること。

附 則

この要領は、平成28年度入学生から適用する。

3 (情報工学部) 情報通信工学科

情報通信工学科 技術者教育プログラム要領

(目的)

第1条 学則第37条第2項及び情報工学部履修要項第4条に基づき、技術者教育を目的とする教育プログラム(以下、技術者教育プログラムという)として、情報通信工学科に「無線通信技術者教育プログラム」、「電気通信技術者教育プログラム」、「ネットワークエンジニア教育プログラム」、「システムエンジニア教育プログラム」、「情報通信基盤技術者教育プログラム」を設ける。本要領により、これらの技術者教育プログラムの履修及び卒業要件について定める。

(履修)

第2条 情報通信工学科の学生は、技術者教育プログラムで定められた科目を履修し、1つ以上の技術者教育プログラムを修了しなければならない。

(無線通信技術者教育プログラム)

第3条 無線通信技術者教育プログラムでは、学則の第28条の定める選択科目のうち、次のものをプログラム必修科目とする。

- (1) 「電磁気学Ⅰ」、「電磁気学Ⅱ」、「電磁波伝搬」、「アンテナ工学」、「通信法規」、「情報伝送工学」、「電波応用技術」、「計測工学Ⅰ」、「計測工学Ⅱ」、「微分方程式とベクトル解析」

(電気通信技術者教育プログラム)

第4条 電気通信技術者教育プログラムでは、学則の第28条の定める選択科目のうち、第3条で定められた無線通信技術者教育プログラムのプログラム必修科目、および次のものをプログラム必修科目とする。

- (1) 「電子回路Ⅱ」、「デジタル回路Ⅰ」、「デジタル回路Ⅱ」、「情報交換システム」、「微分方程式とベクトル解析」、「確率・統計」
- (2) 「複素関数論」、「幾何学とマルチメディア」、「代数学と暗号」、「応用幾何学」、「代数学と符号化」のうちから2科目

- (3) 「物理学Ⅰ」、「物理学Ⅱ」、「現代物理学入門」、「光と物質」のうちから3科目

(ネットワークエンジニア教育プログラム)

第5条 ネットワークエンジニア教育プログラムでは、

学則の第28条の定める選択科目のうち、次のものをプログラム必修科目とする。

- (1) 「確率・統計」、「情報ネットワークⅢ」、「情報セキュリティⅠ」、「情報セキュリティⅡ」、「データ構造とアルゴリズム」
- (2) 「ネットワークシステムⅡ」、「ネットワークシミュレーション」、「ネットワークプログラミング」のうちから2科目

(システムエンジニア教育プログラム)

第6条 システムエンジニア教育プログラムでは、学則の第28条の定める選択科目のうち、次のものをプログラム必修科目とする。

- (1) 「確率・統計」、「データ構造とアルゴリズム」
- (2) 「ネットワークシステムⅡ」、「情報セキュリティⅠ」、「情報セキュリティⅡ」のうちから2科目
- (3) 「オブジェクト指向プログラミングⅡ」、「スクリプト言語プログラミングⅠ」、「スクリプト言語プログラミングⅡ」、「バーチャルデザイン」、「Web データベース」、「Web プログラミング」のうちから3科目

(情報通信基盤技術者教育プログラム)

第7条 情報通信基盤技術者教育プログラムでは、学則の第28条の定める選択科目のうち、次のものをプログラム必修科目とする。

- (1) 「デジタル回路Ⅰ」、「デジタル回路Ⅱ」、「情報交換システム」、「情報セキュリティⅠ」、「情報セキュリティⅡ」、「デジタル信号処理Ⅰ」、「デジタル信号処理Ⅱ」
- (2) 「電子回路Ⅱ」、「電気回路Ⅲ」、「モバイルコミュニケーション工学」のうちから2科目

(卒業)

第8条 各技術者教育プログラムの修了認定を希望する学生の卒業要件は、情報工学部履修要項第3条を満たし、かつ少なくとも1つの技術者教育プログラムのプログラム必修科目の単位を全て取得することである。

附 則

この要領は、令和6年度入学生から適用する。

§ 9-1	学則
§ 9-2	学位規程
§ 9-3	履修要項
§ 9-4	技術者教育プログラム要領
§ 9-5	・AI教育プログラム要領 ・数値・データサイエンス
§ 9-6	社会環境学科コース制 教育プログラム要領
§ 9-7	6年一貫教育プログラム要領
§ 9-8	その他

§ 9-5. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム要領

1 工学部

工学部 数理・データサイエンス・AI 応用基礎教育プログラム要領

(目的)

第1条 工学部履修要項第19条3項に基づき、数理的な素養に基づき、様々なデータを適切に収集・分析・可視化するスキルを身に付け、工学分野において数理・データサイエンス・AIを応用するための視点を持つことができる教育プログラムとして、工学部に「数理・データサイエンス・AI 応用基礎教育プログラム (以下、データサイエンス教育プログラムという)」を設ける。この要領により、この教育プログラムの履修及び修了要件について定める。

(学修項目と授業科目)

第2条 データサイエンス教育プログラムは、別表1のとおり、「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」「Ⅱ. AI データサイエンス基礎」「Ⅲ. AI データサイ

エンス実践」の学修項目に対応した授業科目で構成する。

(履修)

第3条 データサイエンス教育プログラムの修了を希望する工学部の学生は、工学部の各学科でそれぞれ指定された別表2の科目のすべての単位を修得しなければならない。

2 別表2で指定された他学科の科目を履修する場合、工学部履修要項第19条3項に基づき、学則第37条第1項第1号ハの14単位に含まれる。

(修了)

第4条 別表2の科目のすべての単位を修得することにより、別表1により定められた学修項目を網羅するデータサイエンス教育プログラムが修了したものと認定され、修了証が授与される。

附則

この要領は、令和5年度入学生から適用する。

(別表1) 学修項目と授業科目の対応

学修項目		教育プログラムを構成する授業科目			
		電子情報工学科	生命環境化学科	知能機械工学科	電気工学科
Ⅰ. データ表現とアルゴリズム	1-6 数学基礎	初等統計学 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 電子情報基礎数学 電子情報数学	応用数学 統計解析 線形代数 解析Ⅰ 解析Ⅱ	計測工学 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 数学基礎演習 解析Ⅰ及び演習 解析Ⅱ	線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 電気基礎数学 解析Ⅰ 解析Ⅱ
	1-7 アルゴリズム	プログラミング演習	※他学科履修	知能機械制御言語及び演習 数値解析	※他学科履修
	2-2 データ表現	デジタル信号処理 応用デジタル信号処理	※他学科履修	知能機械制御言語及び演習	※他学科履修
	2-7 プログラミング基礎	応用プログラミング	コンピューター言語	知能機械制御言語及び演習 数値解析	プログラミング言語
Ⅱ. AIデータサイエンス基礎	1-1 データ駆動型社会とデータサイエンス		※他学科履修	知能機械制御言語及び演習	
	1-2 分析設計	初等統計学	統計解析	確率と統計★ 知能機械基礎実験Ⅰ★ 知能機械基礎実験Ⅱ★	
	2-1 ビッグデータとデータエンジニアリング	IoT 基礎と演習		知能機械制御言語及び演習	※他学科履修
	3-1 AIの歴史と応用分野	人工知能基礎と演習 応用デジタル信号処理	※他学科履修	人工知能概論 知能機械制御言語及び演習	
	3-2 AIと社会				
	3-3 機械学習の基礎と展望				
3-4 深層学習の基礎と展望					
3-9 AIの構築と運用					
Ⅲ. AIデータサイエンス実践	AI データサイエンスに関わる演習	AI データサイエンス実践	AI データサイエンス実践	AI データサイエンス実践	AI データサイエンス実践

★他学科履修不可科目

(別表2) データサイエンス教育プログラムを構成する科目

学部	学科	授業科目	年次
工学部	共通	AI データサイエンス実践	3
	電子情報工学科	初等統計学	2
		線形代数 I	2
		線形代数 II	2
		電子情報基礎数学	1
		電子情報数学	1
		プログラミング演習	2
		IoT 基礎と演習	3
		デジタル信号処理	3
		応用デジタル信号処理	3
		応用プログラミング	2
		人工知能基礎と演習	3
	生命環境化学科	統計解析	2
		線形代数	1
		応用数学	2
		解析 I	1
		解析 II	1
	知能機械工学科	コンピュータ言語	2
		知能機械制御言語及び演習	2
		確率と統計	2
		知能機械基礎実験 I	2
		知能機械基礎実験 II	2
		計測工学	3
		線形代数 I	1
		線形代数 II	1
		数学基礎演習	1
		解析 I 及び演習	1
		解析 II	2
		数値解析	3
	人工知能概論	3	
	電気工学科	線形代数 I	1
		線形代数 II	2
		電気基礎数学	1
解析 I		1	
解析 II		1	
プログラミング言語	2		

※生命環境化学科及び電気工学科は、自学科の科目の他、(別表1)における「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の学修項目1-7、2-2、および「Ⅱ. AI データサイエンス基礎」の学修項目のうち、生命環境化学科は1-2以外の項目、電気工学科はすべての項目に対応する他学科の各科目を、下記のとおり履修する必要がある。

【生命環境化学科】

	授業科目	年次
電子情報工学科	初等統計学	2
	プログラミング演習	2
	IoT 基礎と演習	3
	応用デジタル信号処理	3
	人工知能基礎と演習	3

または

	授業科目	年次
知能機械工学科	知能機械制御言語及び演習	2
	人工知能概論	3

【電気工学科】

	授業科目	年次
電子情報工学科	初等統計学	2
	プログラミング演習	2
	IoT 基礎と演習	3
	応用デジタル信号処理	3
	人工知能基礎と演習	3

または

	授業科目	年次
電子情報工学科	初等統計学	2
知能機械工学科	知能機械制御言語及び演習	2
	人工知能概論	3

§ 9-1

学則

§ 9-2

学位規程

§ 9-3

履修要項

§ 9-4

技術者教育プログラム要領

§ 9-5

数値・データサイエンス・AI 教育プログラム要領

§ 9-6

社会環境学科コース制教育プログラム要領

§ 9-7

6年一貫教育プログラム要領

§ 9-8

その他

2 情報工学部

情報工学部

数理・データサイエンス・AI 応用基礎教育プログラム要領

(目的)

第1条 情報工学部履修要項第19条3項に基づき、数理的な考え方にに基づき、様々なデータを適切に収集・分析・可視化するスキルを学修し、実践の体験を通して、数理・データサイエンス・AI 活用の一連のプロセスと実践力を身に付けることができる教育プログラムとして、情報工学部に「数理・データサイエンス・AI 応用基礎教育プログラム（以下、データサイエンス教育プログラムという）」を設ける。この要領により、この教育プログラムの履修及び修了要件について定める。

(学修項目と授業科目)

第2条 データサイエンス教育プログラムは、別表1のとおり、「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」「Ⅱ. AI データサイエンス基礎」「Ⅲ. AI データサイ

エンス実践」の学修項目に対応した授業科目で構成する。

(履修)

第3条 データサイエンス教育プログラムの修了を希望する情報工学部の学生は、情報工学部の各学科でそれぞれ指定された別表2の科目のすべての単位を修得しなければならない。

2 別表2で指定された他学科の科目を履修する場合、情報工学部履修要項第19条3項に基づき、学則第37条第1項第2号ハの16単位に含まれる。

(修了)

第4条 別表2の科目のすべての単位を修得することにより、別表1により定められた学修項目を網羅するデータサイエンス教育プログラムが修了したものと認定され、修了証が授与される。

附則

この要領は、令和5年度入学生から適用する。

(別表1) 学修項目と授業科目の対応

学修項目		教育プログラムを構成する授業科目			
		情報工学科	情報通信工学科	情報システム工学科	情報マネジメント学科
Ⅰ. データ表現とアルゴリズム	1-6 数学基礎	確率統計論 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 線形代数Ⅲ 解析Ⅰ 解析Ⅱ 解析Ⅲ	確率・統計 線形代数Ⅰ 微分積分Ⅰ	確率統計 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 解析Ⅰ 解析Ⅱ	離散数学Ⅰ 社会調査のためのデータサイエンス 線形代数 基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ 解析学
	1-7 アルゴリズム	データ構造とアルゴリズム	データ構造とアルゴリズム	データ構造とアルゴリズム	データ構造とアルゴリズム
	2-2 データ表現	データエンジニアリング	Web プログラミング	確率統計 情報技術史 画像処理工学	メディア科学Ⅰ 離散数学Ⅰ 離散数学Ⅱ
	2-7 プログラミング基礎	C プログラミングⅠ C プログラミングⅡ	プログラミング基礎Ⅰ プログラミング基礎Ⅱ	C プログラミングⅠ C プログラミングⅡ	プログラミング入門 プログラミングⅠ
Ⅱ. AI データサイエンス基礎	1-1 データ駆動型社会とデータサイエンス	データエンジニアリング	※他学科履修	確率統計	オペレーションズ・リサーチⅠ 統計学への誘い
	1-2 分析設計			確率統計 情報技術史	統計学への誘い
	2-1 ビッグデータとデータエンジニアリング	人工知能基礎	※他学科履修	人工知能	人工知能
	3-1 AI の歴史と応用分野				
	3-2 AI と社会				
	3-3 機械学習の基礎と展望			スクリプト言語プログラミングⅡ	
	3-4 深層学習の基礎と展望			※他学科履修	
3-9 AI の構築と運用	※他学科履修	人工知能			
Ⅲ. AI データサイエンス実践	AI データサイエンスに関わる演習	AI データサイエンス実践	AI データサイエンス実践	AI データサイエンス実践	AI データサイエンス実践

(別表2) データサイエンス教育プログラムを構成する科目

学部	学科	授業科目	年次
情報工学部	共通	AI データサイエンス実践	3
	情報工学科	人工知能基礎	1
		確率統計論	1
		線形代数 I	1
		線形代数 II	1
		線形代数 III	2
		解析 I	1
		解析 II	1
		解析 III	2
		データ構造とアルゴリズム	2
		C プログラミング I	1
		C プログラミング II	1
		データエンジニアリング	2
		情報通信工学科	確率・統計
	線形代数 I		1
	微分積分 I		1
	データ構造とアルゴリズム		2
	Web プログラミング		3
	プログラミング基礎 I		1
	プログラミング基礎 II		1
	スクリプト言語プログラミング II		3
	情報システム工学科	確率統計	2
		線形代数 I	1
		線形代数 II	1
		解析 I	1
		解析 II	1
		データ構造とアルゴリズム	2
		情報技術史	2
		画像処理工学	3
		C プログラミング I	1
		C プログラミング II	1
		人工知能	3
	情報マネジメント学科	統計学への誘い	1
		プログラミング I	2
		社会調査のためのデータサイエンス	2
		離散数学 I	2
		離散数学 II	3
		プログラミング入門	1
		線形代数	2
		基礎数学 I	1
		基礎数学 II	1
		解析学	1
オペレーションズ・リサーチ I		2	
データ構造とアルゴリズム		2	
メディア科学 I		2	
人工知能		3	

※情報通信工学科は、自学科の科目の他、(別表1)における「II. AI データサイエンス基礎」の学修項目 1-1、1-2、2-1、3-1、3-2、3-4、3-9に対応する他学科の各科目を履修する必要がある。

3 社会環境学部

数理・データサイエンス・AI 応用基礎教育プログラム要領

(目的)

第1条 数理的な素養に基づき、様々なデータを適切に収集・分析・可視化するスキルを身に付け、社会環境学分野において数理・データサイエンス・AIを応用するための視点を持つことができる教育プログラムとして、社会環境学部「数理・データサイエンス・AI 応用基礎教育プログラム (以下、データサイエンス教育プログラムという)」を設ける。この要領により、データサイエンス教育プログラムの履修及び修了要件について定める。

(授業科目)

第2条 データサイエンス教育プログラムは、別表1の授業科目で構成する。

(履修)

第3条 データサイエンス教育プログラムの修了を希望する社会環境学部の学生は、別表1の科目のすべての単位を修得しなければならない。

(修了)

第4条 別表1の科目のすべての単位を修得することにより、データサイエンス教育プログラムが修了したものと認定され、修了証が授与される。

附 則

この要領は、令和7年度入学生から適用する。

(別表1) データサイエンス教育プログラムを構成する科目

学科・センター	授業科目	年次
社会環境学科	社会統計学	1
	社会調査法	2
教養力育成センター	AI データサイエンス基礎	1

§ 9-1

学則

§ 9-2

学位規程

§ 9-3

履修要項

§ 9-4

技術者教育プログラム要領

§ 9-5

数値・データサイエンス・AI教育プログラム要領

§ 9-6

社会環境学科コース制教育プログラム要領

§ 9-7

6年一貫教育プログラム要領

§ 9-8

その他

§ 9-6. 社会環境学科コース制教育プログラム要領

(目的)

第1条 社会環境学部履修要項第4条に基づき、指定コース制の履修目標とする教育プログラム（以下、コース制教育プログラム）として、社会環境学科に「経営コース」と「地域コース」を設ける。この要領により、これらのコース制教育プログラムの履修及び修了について定める。

第2条 社会環境の知識を前提に「経営コース」は、現代社会の経営活動に求められるビジネススキルを総合的に学ぶコースである。「地域コース」は現代社会の地域活動に関連するスキルを総合的に学ぶコースである。

(履修)

第3条 社会環境学科の学生は、1年次に「経営コース」と「地域コース」のいずれかを仮選択しなければならない。

第4条 社会環境学科の学生は、2年次進級時に「経営コース」と「地域コース」のいずれかを選択しなければならない。

第5条 2年次進級時に選択したコースの変更は原則として認めない。ただし、特別の理由があれば、3年次進級時に認める場合がある。

(コース修了)

第6条 「経営コース」及び「地域コース」の修了認定を希望する学生がコース修了資格を得るためには、(別表) 社会環境学科「経営コース」及び「地域コース」指定科目のうち、コース必修10単位、コース選択科目から14単位以上を取得し、累積GPA2.5以上を要件とする。

第7条 前条の修了要件を満たす学生に「経営コース修了書」または「地域コース修了書」を授与する。

(転入学、編入学、転学部及び転学科)

第8条 社会環境学科に転入学、編入学、転学部及び転学科を希望する学生のコース分けについては、別に定める。

附 則

- 1 この要領は、平成30年度入学生から施行する。
- 2 この要領は、令和2年度入学生から施行する。
- 3 この要領は、令和4年度入学生から施行する。

(別表) 社会環境学科「経営コース」及び「地域コース」指定科目

	経営コース	単位	地域コース	単位
1年次 コース 科目	○経営学概論	2	○空間情報学Ⅰ	2
	○マクロ経済学	2	空間情報学Ⅱ	2
	○会計学	2	社会統計学	2
	簿記論	2		
2年次 コース 科目	○経営戦略論Ⅰ	2	環境水文学	2
	企業論	2	○自然環境調査法	2
	ミクロ経済学	2	社会調査法	2
	経営情報論	2	環境政策Ⅰ	2
	環境政策Ⅰ	2	環境政策Ⅱ	2
	環境政策Ⅱ	2	地域社会学	2
	財務会計論	2	○防災情報学	2
	経営分析論	2	環境地理学	2
	○マーケティング論Ⅰ	2	環境社会学	2
	マーケティング論Ⅱ	2	環境民俗学	2
	知的財産法Ⅰ	2		
3年次 コース 科目	経営戦略論Ⅱ	2	○フィールドワーク	4
	環境経営論	2	地域開発論	2
	知的財産法Ⅱ	2	資源エネルギー政策論	2
	環境会計論	2	環境生態学	2
	経営組織論	2	大気環境学	2
	人的資源管理論	2	地域デザイン論	2
		地方自治論	2	
合計単位数		42		42

注) ○印はコース必修科目

§ 9-7. 6年一貫教育「FIT-Techプログラム」要領

§ 9-1

学則

§ 9-2

学位規程

§ 9-3

履修要項

§ 9-4

技術者教育プログラム要領

§ 9-5

数値・データサイエンス・AI教育プログラム要領

§ 9-6

社会環境学科コース制教育プログラム要領

§ 9-7

6年一貫教育「FIT-Techプログラム」要領

§ 9-8

その他

(目的)

第1条 学部の教育課程（学士課程）および大学院修士課程における一貫教育を通じて、技術者として高度な専門的研究能力と同時に、分野横断・学際領域の推進を見据えることができる幅広い知識・俯瞰的視野を養う教育プログラムとして、各学部および各研究科に跨る「6年一貫教育プログラム（以下、「Top Engineer Challenge Program」(FIT-Techプログラム)という)を設ける。うち、学士課程におけるプログラム受講生の活動について本要領に定める。

(参加資格)

第2条 本学に在籍する学部2年次以上の学生のうち、①学部の成績が優秀である者（前年度の学業成績が学科の上位3分の1以上）ないし②学科教員の推薦を受けた者のうち、FIT-Techプログラム参加を希望する者の中から学科毎に選抜する。

(活動時期)

第3条 原則として学部2年次前期および3年次前期に募集し、学生はそれぞれ後期から活動を開始する。なお、プログラム受講生としての活動はFIT-Techプログラムの活動状況および学業成績を踏まえ、各学期末で終えることができる。

(早期配属と選抜方法)

第4条 プログラム受講生は、遅くとも学部3年次後期から研究室に配属される。配属については、学科毎に選考し指導教員を決定する。研究室毎の上限人数は原則として4名/学年とする。なお、学部3年次後期から修士課程までの計3.5年間の研究活動を行う上で、進級あるいは進学時に研究室を変更してもFIT-Techプログラムの活動を妨げない。

(活動内容)

第5条 学部3年次の早期配属による研究基礎活動に先行して、学部2年次後期および3年次前期に、研究体験活動として、学科毎に指定された授業科目の履修や課外活動を行う。

- 2 学部4年次に、原則として大学院の学内推薦入試を受験し、修士課程での活動準備を進める。さらに、大学院での履修に先行して、大学院科目等履修の他、実践インターンシップやTOEIC受験などに取り組むものとする。

(活動の支援策)

第6条 学部3年次後期に研究室配属されたプログラム受講生の研究活動の費用は補助（4万円/名）される。

- 2 学部2年次後期から4年次後期に学会参加（発表・聴講）する際の学会出張旅費は補助（上限5万円/名、2回まで）される。ただし、教員が引率する学会または学会発表する大学院生が引率する学会に限る。
- 3 学部4年次の課外活動である実践インターンシップ参加ならびにTOEIC受験などについての費用補助は、大学院生と同じ取扱いとする。

- 4 原則として学部2年次からのプログラム受講生のうち、大学院の学内推薦入試を受験し合格した者は、大学院学業特別奨学生（A特待、各専攻1名）の候補者となる。その選考は別途定める基準により、学内推薦入試の合否判定の際にあわせて行われる。また、A特待の選考に漏れたプログラム受講生は、他の学内推薦入試あるいは一般入試を受験し合格した者と同様に、大学院学業特別奨学生（B・C特待）の候補者となる。

(改廃)

第7条 本要領の改廃については、学士課程教育及びその履修に関する事項として、教務委員会および教授会の議を経るものとする。

附 則

(省略)

この要領は、令和6年10月1日から施行する。

§ 9-8. その他

1 (工学部) 生命環境化学科

生命環境化学科食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程要領

(目的)

第1条 生命環境化学科の学生で、食品衛生法（昭和22年法律第233号）に定める食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格取得を希望する学生が修得しなければならない授業科目を食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程と総称し、食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程の履修要件について本要領に定める。

(履修)

第2条 食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程での履修方法は、次のとおりとする。

第1項 別表1に示す課程必修科目（計30単位）をすべて履修しなければならない。

第2項 別表2に示す課程選択科目の中から10単位以上を履修しなければならない。

(養成施設内での履修)

第3条 第2条の履修は、厚生労働大臣の指定する養成施設として認められた生命環境化学科に在籍した場合に限り食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程の修了者とみなす。ただし、転学部、転学科、編入学した者が、修得済科目を本課程の該当科目に読替えることは認めない。

(課程修了)

第4条 生命環境化学科の卒業要件を満たし、本要領が定める食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程に必要な単位数を修得した者は、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格を取得することができる。また、別途定める手続きにより単位取得証明書（食品衛生関連資格用）の発行を受けることができる。

附 則

本要領は、平成25年4月1日より施行し、平成25年度入学生から適用する。

本要領は、平成30年4月1日より施行し、平成30年度入学生から適用する。

本要領は、令和2年6月17日より施行し、令和2年度入学生から適用する。

本要領は、令和5年4月1日より施行し、令和5年度入学生から適用する。

別表1 食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程必修科目

授業科目名	食品衛生法施行規則に指定された科目との対応	単位数	年次	学期
化学実験	化学(A群) 分析化学	2	1	後期
分析化学	化学(A群) 分析化学	2	2	前期
有機化学Ⅰ	化学(A群) 有機化学	2	1	後期
有機化学Ⅱ	化学(A群) 有機化学	2	2	前期
無機化学Ⅰ	化学(A群) 無機化学	2	2	後期
生物化学Ⅰ	生物化学(B群) 生物化学	2	1	後期
生物化学Ⅱ	生物化学(B群) 生物化学	2	2	前期
生物化学実験	生物化学(B群) 生物化学	2	2	前期
食品化学	生物化学(B群) 食品化学	2	2	前期
食品分析学	生物化学(B群) 食品分析学	2	3	前期
毒性学	生物化学(B群) 毒性学	2	3	後期
微生物学	微生物学(C群) 微生物学	2	2	後期
食品微生物発酵学	微生物学(C群) 食品微生物学	2	2	後期
食品衛生学	公衆衛生学(D群) 食品衛生学	2	3	前期
機器分析化学	(E群) 環境汚染物質分析学	2	2	後期

別表2 食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程選択科目

授業科目名	食品衛生法施行規則に指定された科目との対応	単位数	年次	学期
栄養生理学	生物化学(B群) 生理学	2	3	後期
食品環境衛生学	公衆衛生学(D群) 環境衛生学	2	3	後期
化粧品科学	(E群) 乳化学	2	3	前期
高分子化学	(E群) 高分子化学	2	3	前期
環境分析化学	(E群) 環境汚染物質分析学	2	2	後期
機器分析化学実験	(E群) 環境汚染物質分析学	2	2	後期
応用微生物学	(E群) 応用微生物学	2	3	前期
栄養化学	(E群) 栄養化学	2	2	後期
食品物性学実験	(E群) 食品学	2	2	後期
食品分析学実験	(E群) 食品学	2	3	前期
遺伝子工学	(E群) 遺伝学	2	3	後期

§ 10

教員名簿

福岡工業大学教員名簿

学 長

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
ムラヤマ 村山 理一	学 長	博 士 (工学)	非破壊評価、センサ工学		本部棟 2F 学長室

副学長

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
ニイ 俣 宝栄	副学長	博 士 (工学)	電子・電気材料工学	国際工学実習	A棟 8F nee
マエダ 前田 洋	副学長	博 士 (工学)	光通信工学、電磁波工学	技術者論理	C棟 5F hiroshi

【工学部】電子情報工学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
エグチ 江口 啓	教 授	博 士 (工学)	回路システム、教育工学	電子工学基礎、電子情報工学入門、創成実験、国際工学実習	A棟 7F eguti
オノミ 小野美 武	教 授	博 士 (工学)	電子デバイス、回路工学	論理回路、電気回路Ⅲ、電子情報実験Ⅰ・Ⅱ	A棟 8F onomi
コギ 近木 祐一郎	教 授	博 士 (工学)	計測工学	電気回路Ⅰ・Ⅱ、電子情報実験Ⅰ、無線技術資格、電子計測、電子情報工学総合	A棟 7F kogi
タムラ 田村 瞳	教 授	博 士 (情報工学)	計算機システム、ネットワーク	コンピュータシステムⅠ、電子情報実験Ⅲ、IoT基礎と演習、電子情報工学総合、情報ネットワーク基礎と演習	A棟 7F h-tamura
ニイ 俣 宝栄	教 授	博 士 (工学)	電子・電気材料工学	国際工学実習	A棟 8F nee
マエダ 前田 文彦	教 授	博 士 (理学)	ナノカーボン材料成長	物理概論、物理学Ⅰ・Ⅱ、物理・電子情報基礎実験	A棟 7F f-maeda
マツイ 松井 義弘	教 授	博 士 (工学)	制御・システム工学	電子情報基礎数学、電子情報数学、制御基礎、制御工学、電子情報実験Ⅲ、技術者倫理	A棟 7F matsui
マツキ 松木 裕二	教 授	博 士 (工学)	社会システム工学、安全システム	プログラミング基礎、プログラミング演習、電子情報工学総合、応用プログラミング	A棟 7F matsuki
ロ 盧 存偉	教 授	博 士 (工学)	3D画像計測、知能ロボティクス	デジタル信号処理、応用デジタル信号処理、電子情報実験Ⅲ、電子情報工学総合	A棟 7F lu
ウ 巫 霄	准教授	博 士 (工学)	センシングデバイス、感性計測評価	コンピュータシステムⅡ、電子情報工学入門、人工知能基礎と演習、創成実験	A棟 8F xiao
ナカムラ 中村 壮智	准教授	博 士 (理学)	量子デバイス、超伝導	電子デバイスⅠ、電子デバイスⅡ、先端デバイス工学、プレゼンテーション、電子情報実験Ⅲ、創成実験	A棟 7F tk-nakamura
ノセ 野瀬 敏洋	准教授	博 士 (数理学)	関数論	電子情報数学、線形代数Ⅰ・Ⅱ、初等統計学、微分方程式、電子情報基礎数学	A棟 7F nose
ヤカタ 家形 諭	助 教	博 士 (工学)	スピントロニクス	電子情報実験Ⅲ、電子回路応用、電気電子回路実習、創成実験	A棟 7F yakata
ショウヤマ 庄山 正仁	特 任 (教 授)	博 士 (工学)	パワーエレクトロニクス	電子回路Ⅰ・Ⅱ、電子情報実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	A棟 7F jshoyama

生命環境化学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
アカギ 赤木 紀之	教 授	博 士 (医学)	分子細胞生物学、幹細胞生物学	生物化学Ⅰ・Ⅱ、細胞生物学、生命科学実験	A棟 5F t-akagi
カマチ 蒲池 高志	教 授	博 士 (理学)	計算化学	物理学、物理化学Ⅰ、コンピュータ言語	A棟 5F kamachi
キタヤマ 北山 幹人	教 授	Ph.D	機能物質化学	物理化学Ⅱ、物理化学Ⅱ演習、無機化学Ⅰ・Ⅱ	A棟 5F kitayama
クワハラ 桑原 順子	教 授	博 士 (工学)	生体高分子化学、環境材料化学	香粧品科学、食品化学、食品物性学実験	A棟 5F j-kuwahara
コウ 呉 行正	教 授	博 士 (工学)	分析化学	分析化学、環境分析化学、機器分析化学実験	A棟 5F wu
ナガタ 永田 純一	教 授	博 士 (農学)	食品免疫学、食品機能性学	食品衛生学、毒性学、食品分析学実験	A棟 5F j-nagata
マツヤマ 松山 清	教 授	博 士 (工学)	化学工学、高圧化学、材料工学	化学工学Ⅰ・Ⅱ、機器分析化学	A棟 5F matsuyama
ミタ 三田 肇	教 授	博 士 (理学)	有機地球科学、アストロバイオロジー	化学、化学実験、有機化学Ⅱ、地球科学実験	A棟 5F mita
アマダ 天田 啓	准教授	博 士 (理学)	遺伝子工学、応用微生物学	分子生物学、遺伝子工学、生命科学実験	A棟 5F amada
オクダ 奥田 賢一	准教授	博 士 (農学)	細菌学、微生物制御学	微生物学、応用微生物学、生物化学実験	A棟 5F okuda
クボ 久保 裕也	准教授	博 士 (環境科学)	環境工学、リサイクル工学、金属製錬工学	環境科学Ⅰ・Ⅱ、資源循環工学、環境浄化工学	A棟 5F kubo
ハセ 長谷(田丸) 静香	准教授	博 士 (農学)	食品栄養学	栄養化学、栄養生理学、生体成分分析実験	A棟 5F tamaru
フクナガ 福永 知則	准教授	博 士 (理学)	幾何学	解析Ⅰ・Ⅱ、線形代数、基礎数学、応用数学	A棟 5F fukunaga
ミヤモト 宮元 展義	准教授	博 士 (工学)	機能物質化学、無機ナノシート、液晶	有機化学Ⅰ、化学実験、高分子化学、ナノマテリアル化学	A棟 5F miyamoto

知能機械工学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
江頭 竜	教授	博士 (工学)	流体工学	流体力学Ⅰ・Ⅱ、知能機械基礎実験Ⅰ	D棟 4F egashira
川田 昌克	教授	博士 (工学)	制御工学	物理基礎演習、知能機械基礎実験Ⅱ、知能機械制御工学	D棟 4F m-kawata
朱 世杰	教授	工学博士	機械材料、材料力学	材料力学Ⅰ・Ⅱ、解析Ⅰ及び演習	D棟 4F zhu
数仲 馬恋典	教授	博士 (工学)	機械要素、トライボロジー	知能機械設計Ⅰ・Ⅱ、エネルギー・環境工学	D棟 4F suci
高津 康幸	教授	博士 (工学)	熱工学	熱力学Ⅰ・Ⅱ、知能機械基礎実験Ⅰ、伝熱工学	D棟 4F takatsu
田邊 里枝	教授	博士 (工学)	生産工学、加工学	物理基礎演習、線形代数Ⅰ、機械物理学実験、機械工作法Ⅰ	D棟 4F tanabe
廣田 健治	教授	博士 (工学)	生産工学、塑性加工	機械材料、機械物理学実験	D棟 4F k-hirota
天本 祥文	准教授	博士 (工学)	生産工学、加工学	デジタルエンジニアリング、知能機械基礎実験Ⅰ	D棟 4F y-amamoto
駒田 佳介	准教授	博士 (工学)	熱流体工学、混相流、 流体計測	物理学Ⅰ及び演習、知能機械基礎実験Ⅱ	D棟 4F komada
砂原 賢治	准教授	博士 (工学)	機械設計、トライボロジー	知能機械基礎実験Ⅱ、基礎製図Ⅱ、トライボロジー	D棟 4F sunahara
榎田 諭	准教授	博士 (工学)	知能ロボティクス、 スポーツ科学	計測工学、電気基礎学、人工知能概論	D棟 4F makita
松谷 祐希	准教授	博士 (工学)	制御工学	知能機械制御言語及び演習、知能機械設計Ⅰ	D棟 4F matsutani
三澤 賢明	准教授	博士 (理学)	材料物性、計算物理学	物理学Ⅰ及び演習、物理学Ⅱ、機械物理学実験	D棟 4F m-misawa
岡 大将	助教	博士 (理学)	関数解析	解析Ⅰ及び演習、解析Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱ、微分方程式	D棟 4F t-oka
玉本 拓巳	助教	博士 (工学)	ロボット工学、機構学	ロボット工学、基礎製図Ⅰ、ものづくり実習	D棟 4F t-tamamoto
鞆田 顕章	助教	博士 (工学)	機械力学、振動工学	機械力学Ⅰ・Ⅱ、数値解析、解析Ⅱ、線形代数Ⅱ、物理基礎演習	D棟 4F tomoda

電気工学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
李 鍾昊	教授	博士 (学術)	情報制御工学	電気工学概論、システム制御工学Ⅰ・Ⅱ、電気工学実験Ⅱ	A棟 6F jongho
井上 昌睦	教授	博士 (工学)	電気エネルギー工学	電気工学概論、電気エネルギーシステム工学Ⅰ・Ⅲ、 電気工学実験Ⅰ、電気工学総合	A棟 6F ms-inoue
大山 和宏	教授	博士 (工学)	電気機器、パワーエレクト ロニクス	電気工学概論、エンジニアリングデザインⅠ・Ⅱ、 電気機器Ⅰ・Ⅱ	A棟 6F ohyama
梶原 寿了	教授	工学博士	電力工学	電気工学概論、交流電力伝送の基礎、電気エネルギーシステム工学Ⅱ、 高電圧工学、電気工学総合、電気工学実験Ⅱ	A棟 6F kajiwara
北川 二郎	教授	博士 (理学)	磁性・超伝導材料	電気工学概論、電磁気学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、電気基礎学実験、 電気基礎学概論	A棟 6F j-kitagawa
鈴木 恭一	教授	博士 (工学)	量子電子物性、半導体工学	電気工学概論、基礎物質工学、半導体工学、電気基礎学実験、 電気基礎学概論、電気工学総合	A棟 6F k-suzuki
田島 大輔	教授	博士 (工学)	物質エネルギー工学	電気工学概論、電気応用、電験電力、電気工学実験Ⅱ、電験理論	A棟 6F tashima
松尾 敬二	教授	工学博士	核融合学	電気工学概論、エンジニアリングデザインⅠ・Ⅱ、 電子回路Ⅰ・Ⅱ、デジタル回路	A棟 6F k-matsuo
北崎 訓	准教授	博士 (工学)	プラズマ	電気工学概論、電気回路Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、電気基礎学実験、 電気基礎学概論	A棟 6F kitazaki
辻野 太郎	准教授	博士 (工学)	制御工学	電気工学概論、電気工学フレッシュマン演習、メカトロニクスⅠ、 電気工学実験Ⅱ、現代制御、メカトロニクスⅡ	A棟 6F tsujino
池田 風花	助教	博士 (工学)	電気機器、パワーエレクト ロニクス	電気工学概論、電気機器Ⅲ、パワーエレクトロニクス、 電気工学実験Ⅰ	A棟 6F i-ikeda
遠藤 文人	助教	博士 (工学)	制御工学	電気工学概論、論理表現、プログラミング言語、 メカトロニクスⅠ、ロボット工学、電気工学フレッシュマン演習	A棟 6F endo
進藤 久和	助教	博士 (理学)	関数解析学	電気工学概論、解析Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	A棟 6F shindoh
中西 真大	助教	博士 (理学)	化学物理、生物物理	電気工学概論、電気基礎物理学、電気基礎数学、力学Ⅰ・Ⅱ、 電気基礎学実験	A棟 6F m-nakanishi

【情報工学部】情報工学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
石原 真紀夫	教授	博士 (工学)	ユーザーインターフェース、 デザイン、HCI	JAVAプログラミングⅠ・Ⅱ、HCIプログラミング、 情報工学実験Ⅰ、プロジェクト型演習Ⅰ・Ⅱ	C棟 6F m-ishihara
種田 和正	教授	博士 (情報学)	ネットワーク、セキュリティ	ネットワークプログラミング、情報セキュリティ、 情報工学実験Ⅲ	C棟 8F oida
柏 浩司	教授	博士 (理学)	量子力学	基礎物理学、物理学Ⅰ・Ⅱ、基礎電磁気学、情報物理学	B棟 5F kashiwa
正代 隆義	教授	博士 (理学)	離散構造	離散数学、オートマトンと形式言語、情報工学実験Ⅳ、 プロジェクト型演習Ⅰ・Ⅱ	C棟 6F shodai
馬場 謙介	教授	博士 (理学)	データサイエンス	データベース、データ構造とアルゴリズム、情報工学実験Ⅳ、 データエンジニアリング	C棟 6F k-baba
福本 誠	教授	博士 (工学)	音楽情報処理・感性工学	音情報処理、ヒューマンコンピュータ・インタラクション、 情報技術者倫理、情報工学実験Ⅰ、プロジェクト型演習Ⅰ・Ⅱ	C棟 8F fukumoto
前田 道治	教授	博士 (工学)	人工知能、 ナチュラリコンピューティング	情報理論、情報工学実験Ⅱ	C棟 7F maeda
山内 寛行	教授	博士 (工学)	知能集積システム工学	論理設計、システムLSI、情報工学実験Ⅲ	C棟 6F yamauchi
山澤 一誠	教授	博士 (工学)	画像メディア、 コンピュータビジョン、CG	人工知能基礎、コンピュータグラフィックス、情報工学実験Ⅲ、 人工知能プログラミング、画像情報処理	C棟 8F yamazawa
有吉 哲也	准教授	博士 (工学)	ハードウェア工学	電気電子回路Ⅰ・Ⅱ、情報工学実験Ⅰ	C棟 7F ariyoshi
家永 真史	准教授	博士 (工学)	ユーザーインターフェース、 福祉工学	マルチメディア工学、情報工学実験Ⅰ、 プロジェクト型演習Ⅰ・Ⅱ	C棟 7F ienaga
佐竹 純二	准教授	博士 (工学)	動画処理	デジタル信号処理、論理回路、情報工学実験Ⅲ	C棟 6F satake
柴田 望洋	准教授	工学博士	ソフトウェア	コンピュータリテラシー、オペレーティングシステム、 ソフトウェア工学Ⅰ・Ⅱ、情報工学実験Ⅳ	C棟 7F shibata
戸田 航史	准教授	博士 (工学)	ソフトウェア工学	確率統計論、コンピュータアーキテクチャⅠ、情報工学実験Ⅲ、 プロジェクト型演習Ⅰ・Ⅱ、システム工学とプロジェクト管理	C棟 7F toda
中川 正基	准教授	博士 (理学)	ソフトコンピューティング、 カオス	パターン認識、コンピュータアーキテクチャⅡ、 情報工学実験Ⅳ	C棟 6F m-nakagawa
宮田 考史	准教授	博士 (工学)	計算科学	コンピュータ科学、数値計算、情報工学実験Ⅱ	C棟 6F miyata
山口 裕	准教授	博士 (理学)	人工知能	人工知能応用、自然言語処理、情報工学実験Ⅳ	C棟 7F y-yamaguchi
山盛 厚伺	准教授	博士 (数理学)	多変数関数論	線形代数Ⅰ・Ⅱ、解析Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	C棟 7F yamamori
相良 哲生	講師	博士 (工学)	計算機システム、 ネットワーク	コンピュータリテラシー、CプログラミングⅠ・Ⅱ、 情報ネットワーク、情報工学実験Ⅲ	C棟 8F sagara
兵頭 和幸	助教	博士 (システム情報科学)	ロボティクス、 知能制御	ロボティクス、情報工学実験Ⅳ、プロジェクト型演習Ⅰ・Ⅱ、 プログラミング言語論、デジタルシステム設計	C棟 8F hyodo

情報通信工学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
池田 誠	教授	博士 (工学)	通信・ネットワーク工学	計測・回路実験、ネットワークシミュレーション、 ネットワークシステムⅠ・Ⅱ、ネットワークプログラミング	D棟 5F m-ikedada
石田 智行	教授	博士 (ソフトウェア工学)	バーチャルリアリティ、 拡張現実、自然災害科学	データ構造とアルゴリズム、Webデザイン、バーチャルデザイン、 Webデータベース、Webプログラミング、情報通信応用実験	D棟 5F t-ishida
内田 法彦	教授	博士 (ソフトウェア工学)	情報通信	情報ネットワークⅢ、情報伝送工学、情報交換システム、 モバイルコミュニケーション工学、コンピュータソフトウェア実験	D棟 5F n-uchida
杉田 薫	教授	博士 (ソフトウェア工学)	ソフトウェア工学	情報通信基礎実験、コンピュータ工学、 オブジェクト指向プログラミングⅠ・Ⅱ	D棟 5F sugita
中嶋 徳正	教授	博士 (工学)	無線電力伝送	電気回路Ⅱ、計測工学Ⅰ・Ⅱ、情報通信応用実験	C棟 5F n-nakashima
中村 龍史	教授	博士 (理学)	高エネルギー密度科学、 高強度場科学	基礎物理学、電磁気学Ⅰ、物理学Ⅰ・Ⅱ、現代物理学入門、 光と物質	D棟 5F t-nakamura
Barolli, Leonard	教授	博士 (工学)	計算機システム、 ネットワーク	ディジタル回路Ⅰ・Ⅱ、情報ネットワークⅡ、情報通信基礎実験	D棟 5F barolli
藤崎 清孝	教授	博士 (工学)	通信工学	情報通信基礎実験、計測・回路実験、電磁波伝搬、アンテナ工学	C棟 5F fujisaki
前田 洋	教授	博士 (工学)	光通信工学、電磁波工学	技術者倫理	C棟 5F hiroshi
松尾 慶太	教授	博士 (工学)	情報ネットワーク工学	情報理論、電子回路Ⅰ・Ⅱ、情報ネットワークⅠ、 コンピュータソフトウェア実験	D棟 5F kt-matsuo
山元 規靖	教授	博士 (工学)	コンピュータ工学、 ソフトウェア工学	情報セキュリティⅠ・Ⅱ、情報通信応用実験、 スクリプト言語プログラミングⅠ・Ⅱ	C棟 5F nori@bene
渡辺 仰基	教授	博士 (工学)	電磁界解析理論	情報通信基礎実験、情報通信工学Ⅰ・Ⅱ、ディジタル信号処理Ⅰ	C棟 5F koki
工藤 桃成	准教授	博士 (機数理学)	代数幾何・計算代数、 暗号数理	線形代数Ⅰ・Ⅱ、微分積分Ⅰ・Ⅱ、幾何学とマルチメディア、 代数学と暗号	D棟 5F m-kudo
劉 怡	准教授	博士 (工学)	P2Pネットワーク	プログラミング基礎Ⅰ・Ⅱ、ディジタル信号処理Ⅱ、 計測回路実験	C棟 5F liuyi
松島 草	特任 (教授)	博士 (工学)	電磁界理論	電気回路Ⅰ・Ⅲ、電磁気学Ⅱ、情報通信応用実験、 電磁波応用技術、通信法規	C棟 4F a-matsushima

情報システム工学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
キムロ 義彦	教授	博士 (工学)	知能ロボティクス	技術基礎数学、論理回路、知能ロボット工学、デジタル制御工学、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F kimuro
トクヤス 達士	教授	博士 (情報工学)	医用システム、人工知能	情報解析学、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F tokuyasu
モリゾノ 哲也	教授	博士 (工学)	知能機械学	基礎ロボット工学、メカトロアクチュエータ、ロボットシミュレーション、情報システム工学概論、情報物理実験、情報システム工学実験Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F morizono
ヤマグチ 明宏	教授	博士 (理学)	カオス、脳型情報処理	情報ネットワークシステム、応用プログラミングⅡ、情報システム工学概論、情報物理実験、情報システム工学実験Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F aki
ヨシダ 耕一	教授	博士 (工学)	システム制御工学	電子工学基礎、情報技術史、システム制御工学Ⅰ・Ⅱ、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F k-yoshida
キクダ 俊幸	准教授	博士 (理学)	整数論	線形代数Ⅰ・Ⅱ、数学演習、解析Ⅰ・Ⅱ、微分方程式、情報システム工学概論	B棟 7F kikuta
サクダ 誠	准教授	博士 (工学)	人工知能、情報工学	計算機工学Ⅱ、応用プログラミングⅠ、人工知能、マルチメディア Web 技術、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F sakuta
シモト 健	准教授	博士 (工学)	生体医工学、教育工学	フレッシュマンプログラム、確率統計、組み込みシステム、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F simoto
マルヤマ 勳	准教授	博士 (理学)	計算物性物理、量子力学	物理学Ⅰ・Ⅱ、情報システム工学概論、情報物理実験、情報システム工学実験Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F i-maryama
マツハラ 裕之	講師	博士 (情報科学)	システム LSI、教育工学	計算機工学Ⅰ、情報技術者倫理、システム開発応用、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F t-matsubara
ヤマモト 貴弘	講師	博士 (工学)	画像処理	C プログラミングⅠ・Ⅱ、画像処理工学、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F t.yama
リ 知炯	助教	博士 (工学)	生体システム工学	電気工学基礎、生体情報計測学、センサ情報処理、情報システム工学概論、情報システム工学実験Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ	B棟 7F j.lee

情報マネジメント学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
イノクチ 修一	教授	博士 (理学)	情報数学	基礎数学Ⅰ・Ⅱ、情報マネジメント基礎演習Ⅰ、データ構造とアルゴリズム、情報数理入門	B棟 8F inokuchi
コバヤシ 稔	教授	博士 (工学)	経営工学	情報リテラシー、経営管理論、生産管理論、情報マネジメント実践演習	B棟 8F kobayashi
サトウ 大輔	教授	博士 (情報科学)	オペレーションズ・リサーチ	情報マネジメント基礎演習Ⅱ、数理モデリング、信頼性工学、ソフトコンピューティング、経営シミュレーション	B棟 8F d-sato
ソウ 宇	教授	博士 (経済学)	オペレーションズ・リサーチ	オペレーションズ・リサーチⅠ・Ⅲ、情報マネジメント実践演習、e-ビジネス論	B棟 8F song
タジマ 拓也	教授	博士 (工学)	経営工学	統計学への誘い、インダストリアル・エンジニアリング、経営計算論、情報マネジメント実践演習	B棟 8F t-tajima
フジオカ 寛之	教授	博士 (工学)	知覚情報処理、知能ロボティクス	情報マネジメント基礎演習Ⅰ、統計学への誘い、グローバルデジタル概論、科学分析のためのデータサイエンス、情報マネジメント海外事情、人工知能、AIデータサイエンス実践	B棟 8F fujioaka
マエハラ 秀明	教授	博士 (工学)	画像処理、計測工学	経営システム論、情報マネジメント基礎演習Ⅱ、メディア科学Ⅰ・Ⅱ	B棟 8F h-maehara
キムラ 富也	准教授	博士 (システム工学)	生産管理、サプライチェーンマネジメント	情報マネジメント基礎演習Ⅱ、工業心理学、サプライチェーン・マネジメント、ベンチャービジネス論、品質管理論	B棟 8F kimura
クラ エリス	准教授	博士 (工学)	知的アルゴリズム、情報ネットワーク、IoT	プログラミング入門、データベース、プログラミングⅠ、情報マネジメント実践演習	B棟 8F kulla
コスギ 卓裕	准教授	博士 (理学)	偏微分方程式論	基礎数学Ⅰ・Ⅱ、解析学、情報マネジメント基礎演習Ⅰ、微分方程式	B棟 8F kosugi
タカハシ 啓	准教授	博士 (工学)	データ・サイエンス、マーケティング・サイエンス	情報マネジメント基礎演習Ⅱ、社会調査のためのデータサイエンス、確率システム入門、マーケティング論、応用データサイエンス	B棟 8F takahashi
フ 靖	准教授	博士 (工学)	ゲーム理論	情報マネジメント実践演習、情報マネジメント海外事情、オペレーションズ・リサーチⅡ、ゲーム理論	B棟 8F j.fu
シンベ 圭一	助教	博士 (学術)	データサイエンス	プログラミング入門、プログラミングⅠ、情報マネジメント実践演習、データビジュアライゼーション	B棟 8F shinbe
タケノウチ 宏	助教	博士 (工学)	感性情報処理	情報リテラシー、WEB デザイン、情報マネジメント基礎演習Ⅰ、感性工学、プログラミングⅡ、ソフトウェア開発	B棟 8F h-takenouchi

【社会環境学部】社会環境学科

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
イヌイ 乾 リウウテイ 隆帝	教授	博士 (農学)	水圏環境生態学	社会環境学Ⅳ、自然環境調査法、環境生態学、フィールドワーク	A棟 4F inui
タイ 田井 明 アキラ 明	教授	博士 (工学)	防災工学・環境水理学	環境水文学、防災情報学、フィールドワーク、大気環境学	A棟 4F tai
チョン 鄭 雨宗 ウジョン 雨宗	教授	博士 (商学)	応用経済学	環境経済学、資源エネルギー政策論、国際環境協力論、環境分析論	A棟 4F jung
ナカガワ 中川 智治 トモハル 智治	教授	博士 (法学)	国際法学	国際法Ⅰ・国際法Ⅱ、社会環境学Ⅲ、国際関係史	A棟 4F t-nakagawa
フジイ 藤井 洋次 ヨウジ 洋次	教授	博士 (経済学)	国際貿易論	社会環境学Ⅱ、経済発展論、アジア経済論、国際貿易論	A棟 4F y-fujii
マツフジ 松藤 賢二郎 ケンジロウ 賢二郎	教授	博士 (経営学)	経営学	経営学概論、マーケティング論Ⅰ、マーケティング論Ⅱ、環境経営論、経営情報論	A棟 4F matsufuji
コン 尹 諒重 サンジョン 諒重	教授	博士 (商学)	経営学	経営学概論、経営戦略論Ⅰ、経営戦略論Ⅱ、経営組織論	A棟 4F yun
ワタナベ 渡邊 智明 トモアキ 智明	教授	博士 (法学)	環境学	環境法、環境政策Ⅰ、環境政策Ⅱ	A棟 4F t-watanabe
ウエスギ 上杉 昌也 マサヤ 昌也	准教授	博士 (工学)	地理学	空間情報学Ⅰ、空間情報学Ⅱ、環境地理学、地域デザイン論、フィールドワーク	A棟 4F uesugi
キノシタ 木下 健 ケン 健	准教授	博士 (政策科学)	政治学	政治学Ⅰ、政治学Ⅱ、行政学、地方自治論、法・政策の諸問題	A棟 4F kinoshita
タチバナ 橋 雄介 ユウスケ 雄介	准教授	博士 (法学)	法学	人権論、情報法、知的財産法Ⅰ・知的財産法Ⅱ	A棟 4F y-tachibana
タナカ 田中 久美子 クミコ 久美子	准教授	博士 (文学)	民俗学	民俗学概論、環境民俗学、文化環境論、環境人類学、フィールドワーク	A棟 4F ku-tanaka
チン 陳 艶艶 エンエン 艶艶	准教授	博士 (文化情報学)	社会学	社会統計学、環境社会学、社会調査法、地域社会学、Future Vision 実践 (SDGs 探求)	A棟 4F chen
ヨウ 楊 迪耕 テイケン 迪耕	准教授	博士 (法学)	民法学	民法Ⅰ、民法Ⅱ、民法Ⅲ、国際取引法	A棟 4F t-yang
キトウ 鬼頭 みなみ ミナミ みなみ	助教	博士 (経済学)	環境経済学・経済統計	マクロ経済学、ミクロ経済学、環境会計論、経済政策論	A棟 4F kito

【教養力育成センター】

氏名	職名	学位	研究分野	主な担当科目	研究室 E-mail (~@fit.ac.jp)
オカウラ 岡裏 佳幸 ヨシユキ 佳幸	教授		応用言語学	英語科目、海外研修	A棟 3F okaura
カミデラ 上寺 康司 コウジ 康司	教授		教育学、教育行政学	人間存在と環境、現代倫理、教師論、教育原理、生徒・進路指導論、教育行政学、道徳教育論、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習	A棟 4F kamidera
ツチヤ 土屋 麻衣子 マイコ 麻衣子	教授	博士 (教育学)	英語教育学	英語科目、海外研修、自己成長と学び	A棟 3F tutiya
トクナガ 徳永 光展 ミツヒロ 光展	教授	博士 (文学)	日本文学	文学、日本語実践	A棟 4F tokunaga
ナカノ 中野 美香 ミカ 美香	教授	博士 (比較社会文化)	コミュニケーション学、教育心理学、認知科学	キャリア・デザイン、コミュニケーション・デザイン、心理学	E棟 3F nakano
ナラザキ 檜崎 兼司 ケンジ 兼司	教授	博士 (人間環境学)	運動疫学	ウェルネス基礎、ウェルネス応用	A棟 4F narazaki
ハラダ 原田 寛子 ヒロコ 寛子	教授	博士 (文学)	英文学	英語科目	A棟 3F harada
ヒグチ 樋口 貴俊 タカトシ 貴俊	教授	博士 (スポーツ科学)	スポーツバイオメカニクス	ウェルネス基礎、ウェルネス応用	A棟 4F higuchi
フルカワ 古川 武史 タケシ 武史	教授		英語学	英語科目、Future Vision 実践 (SDGs 探求)	A棟 3F fukurawa
ムネマサ 正宗 佳啓 ヨシヒロ 佳啓	教授	博士 (文学)	英語学、言語学	英語科目	A棟 3F munemasa
イハヤ 井隼 経子 ケイコ 経子	准教授	博士 (心理学)	教育心理学	キャリア・デザイン、心理学、教育心理学、教育相談の基礎、情報職業論、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習	A棟 3F ihaya
シラスカ 白坂 正太 ショウタ 正太	准教授	博士 (教育学)	教育社会学	教育の方法とICT活用、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習、社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ、社会科教育法Ⅰ・Ⅱ、仕事理解型実習、AIデータサイエンス基礎	E棟 3F shirasaka
サカモト 坂本 文子 フミコ 文子	助教	博士 (学術)	社会学、多文化共生論	地域創生論、地域創生PBL、社会学、課題解決型インターンシップ	A棟 3F f-sakamoto
リュウ 劉 沙 サ 沙	助教	博士 (文学)	英語学	英語科目	A棟 3F liu

索引

あ行

アクティブ・ラーニング (AL)	35
悪天候時の授業実施	8
アドバンス	174
アルバイト	11・163
遺失物・拾得物	8
遠隔地用被保険者証	169
オフィスアワー	34

か行

課外活動に関する手続き	163
学位規程	226
学業特別奨学生	50・159
学習支援センター	34・174・190
学習ポートフォリオ (FIT-AIM)	35
学術文化会	161
学生課	13・190
学生教育研究災害傷害保険	168
学生自治会	161
学生証	7
学生授業サポート制度	34
学生生活補償制度	168
学生相談室	169・175・182
学生対応窓口一覧	13
学生表彰制度	168
学籍情報の変更手続き	158
学籍番号	7
学則	200
学納金	159
学期末試験	45
科目等履修生	54
環境への取り組み	171
技術者教育プログラム要領	236
紀伊國屋書店	176・185
キャンパスでのマナー	8
キャンパスマップ	178
休学	53
休講	40
教育後援会	169・176・185
教育実習	23
教員名簿	245
教職課程	22
教職課程に関する授業科目および単位数	24
教務課	13・190
組担任	6
クラブ・サークル	11・161
クリエイティブ・ラボ	174・177・183

経理課	13・192
下宿	11
建学の綱領	2
協定校	55
研究生	12・54
健康管理	169
工作センター	174・188
校舎配置図	179
高電圧実験棟	178・197
国際交流	55・164
国際連携室	13・164・174・192
コピー機	176
ごみの分別	171

さ行

在学年限	53
再入学	54
再履修	41
資格取得	56
資格取得支援科目	57
試験上の注意	45
施設案内	174
施設・用具の利用	163
社会環境学科	146
社会貢献・自己啓発活動	162
社会連携センター	174・179・192
修業年限	53
習熟度別クラス	44
就職課	13・190
就職・キャリア	166
集中講義	38・43
授業アンケート	15
授業科目	38
授業時間	40
出席・欠席	40
奨学金	159・160
情報基盤センター	13・174・177・183
情報基盤センター情報企画課	13
情報工学科	104
情報システム工学科	126
情報通信工学科	114
情報マネジメント学科	136
証明書発行	158
除籍	53
シラバス	38・39
進級条件	51
数理・データサイエンス・AI 教育プログラム	31

スポーツ施設	175
成績発表	47
成績評価	47
生命環境化学科	70
セブンイレブン	176・182
ゼミ	41
全面禁煙	8
総合研究機構	174・190
総合研究機構事務局	190
卒業研究	41
卒業要件	51

た行

退学	53
大学院事務局	13・190
大学院進学	12・167
立花祭	161
単位互換	50・55
単位認定	50
知能機械工学科	82
追試験	46
定期健康診断	169
転学部・転学科	10・54
電気工学科	92
電子情報工学科	60
転入学・編入学	50
同窓会	169・176・182
他クラス・他学科科目	43

な行

入試広報課	13・192
認定科目	38・50
年間行事予定	14

は行

バイク・自転車での通学	8
ハラスメント相談	170
復学	10・53
不正行為	46
保健室	169・175・182
補講	40
本部棟	179・192
放送大学	55

ま行

窓口一覧	9
モノづくりセンター	174・179・192
モノづくりセンタープロジェクト	161

や行

雄飛会事務局 同窓会	176
郵便ポスト	176

ら行

ラド観光	176・182
履修登録	42
履修要項 工学部	227
履修要項 社会環境学部	233
履修要項 情報工学部	230
留学	164
留学生談話室	175・179・182
留年	52
理容室	176
レストラン OASIS	175・179・182

A～Z

AL (アクティブ・ラーニング)	35
ATM	176・185
A&S Learning Cafe	175・179・185
A棟	180
A棟売店	176
B棟	182
CAP (履修登録上限)	42・43
C棟	185
D棟	188
E棟	190
FIT BBQ	12・175
FIT CAFE	175・182
FIT-in サポート	34
FIT Link (附属図書館)	174・193・194
FITアリーナ	196
FIT セミナーハウス	12・175
FIT ホール	195
F棟	191
GPA	47
IT コモンズ	174・177・179・183
myFIT (学修支援システム)	15
PC インフォスクエア	176・183
TA・SA、CS	34
α棟	192

学生便覧 2025年度

2025年4月1日発行

編集・発行 福岡工業大学 教務課

〒811-0295 福岡市東区和白東3丁目30番1号

学籍番号	
氏名	

